

多治見市
男女共同参画に関する市民意識調査
【結果報告書】

平成 28 年 12 月

多治見市

は じ め に

多治見市においては、平成 10 年に「たじみ男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざして、総合的かつ計画的な取組を開始しました。平成 17 年には「多治見市男女共同参画推進条例」を制定し、施策を進めていく法的な基盤も整備しました。現在は、平成 25 年度に策定した「第 2 次たじみ男女共同参画プラン後期計画」に沿って、より豊かで元気な多治見市に向けて、様々な施策に取り組んでいます。

男女共同参画社会の実現は、女性も男性も全ての人が、互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できることであり、我が国の最重要課題です。国においては、平成 11 年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、様々な取り組みが展開されてきました。また昨年、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）や「第 4 次男女共同参画基本計画」が閣議決定され、女性のさらなる活躍推進に向け、大きく前進しています。

しかしながら、少子高齢化の急速な進展、人口減少社会の到来、急激に変化する社会情勢に対する新たな課題にも取り組まなければなりません。

本調査は、男女の平等感、ドメスティック・バイオレンス（DV）、施策の現状、今後の施策、新たな課題として女性の活躍推進や貧困の連鎖等について、市民の皆様の意識や状況を把握し、プラン策定と推進の基礎資料とするために実施したものです。調査にご協力いただきました方々の貴重なご意見・調査結果を、積極的に活用させていただきます。関係機関をはじめ市民の皆様にもご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、この調査を実施するにあたりご協力いただきました市民の皆様、ご尽力いただきました多治見市男女共同参画推進審議会委員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 12 月

多治見市長 古 川 雅 典

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査の概要	1
3	報告書の見方	2
II	総括	3
1	調査結果の総括	3
III	調査結果	7
1	あなた自身について	7
2	男女の地位の平等に対する意識について	9
3	仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス）について	41
4	職業について	74
5	地域活動について	81
6	DV等「女性の人権」について	85
7	子ども・子育てについて	104
8	男女平等の施策について	110
9	その他「経済状況」について	122
IV	経年比較	124
V	その他回答・自由回答	137
VI	アンケート調査票	145

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、男女共同参画に関する意識を把握し、「第3次たじみ男女共同参画プラン」の策定及び今後の男女共同参画社会推進に関する施策の検討資料とするために実施しました。

2 調査の概要

調査地域	多治見市全域
調査対象者	階層別 18才以上の男女（男女比率5：5）1,000人 階 層：18～29才、30代、40代、50代、60代、70代以上
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	平成28年8月18日～8月31日
調査方法	郵送配布・回収

※比較分析に利用した調査について

比較分析において利用した調査名は次の通りです。

- ・多治見市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成8年度、平成13年度、平成18年度、平成23年度実施
- ・内閣府 「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年度実施
（調査対象：全国20才以上の男女 5,000人）
- ・岐阜県 「男女共同参画に関する県民意識調査」平成24年度実施
（調査対象：県内に居住する満20才以上70才未満の男女 各1,000人 計2,000人）

■配布回収数

配布数 (A)	回収数 (=C+D)	有効回収数 (C)	無効回収数 (D)	有効回収率 (=C/A)
1,000	446	440	6	44.0%

3 報告書の見方

- (1) 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれ回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の読み取り文、グラフ、表においても反映しています。
- (2) 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- (3) 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- (4) 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- (5) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。
- (6) 職業別の「自由業者」については、サンプル数が少ないため傾向は分析から除いています。

Ⅱ 総括

1 調査結果の総括

① 男女の地位の平等に対する意識について

◆男女の平等感は改善されつつあるものの、すべての項目で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』と感じており、依然として男女共同参画社会の実現には至っていない。特に男女を取り巻くさまざまな「社会通念・慣習・しきたり」などを改めることが求められている。

○「社会通念・慣習・しきたり」「政治の場」「社会全体」などで『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの）と感じている割合が高く6割を超えています。一方で、「学校教育の場」では約4割の人が平等と感じています。また、性別でみると、男女の平等感は改善されつつあるものの、すべての項目で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』と感じており、依然として男女共同参画社会の実現には至っていないことがうかがえます。

○「社会全体」で『男性優遇』と感じる主な理由については、男女ともに「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」との回答が最も多くなっています。

○男女があらゆる分野で平等になるために重要なことについては、男女ともに「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること」との回答が最も多くなっています。これは、先の問1で「社会通念・慣習・しきたり」が8つの分野で『男性優遇』が約7割を占め最も高かったことから見とれます。

○男性が家庭における男女の役割で「つらい」と感じることについては、つらいと感じる男性の回答は、全体の12.4%となっています。理由については、「仕事が忙しく、家庭の時間が作れない」との回答が最も多くなっています。

○「男性は仕事、女性は家庭」という考え方は、「そう思う」は男女間で差はないものの、「そうは思わない」とする否定的な考え方は男性に比べ女性で多くなっています。また、否定的な考え方は18～29才や30代など比較的若い年齢層で多くなっています。

○「女性が職業を持ち続けること」「男性がもっと地域社会活動等に参加すること」「介護をしている人の大部分が女性であること」などについては、「好ましい」「そう思う」「男性も女性とともに介護すべきである」と回答する割合は女性の方が男性より20ポイント以上高くなっています。

② 仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス）について

◆仕事と家庭を両立するにあたっては、制度を利用しやすい職場づくりや多様な働き方を選べる制度づくりが求められていることがうかがえる。

○家庭での男女の役割については、いずれの場面でも、『女性が担っている』（「すべて女性が担っている」「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせたもの）との回答が多くなっています。

○平均的な1日の生活時間の過ごし方については、平日の「仕事・学業」において、女性の平均時間が4時間28分に対して、男性の平均時間が7時間19分となっており、男女間で約3時間の差がみられます。「家事・子育て・介護・看護」は、女性の平均時間が平日・休日ともに4時間を上回っているのに対し、男性では1時間程度となっています。

○取得できる休暇・休業については、「育児休業」を除く「子の看護休暇」「介護休業」「介護休暇」で「知らない」との回答が最も多くなっており、制度が十分に浸透していないことがうかがえます。また、いずれの休暇・休業についても、取得した人はごくわずかにとどまっています。

○男女がともに「仕事と家庭を両立」するために必要な条件については、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が最も多く、次いで「育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務）」となっています。

③ 職業について

◆職場においては、『平等』と感じている人が多いものの、女性に比べ男性の方が優遇されていると感じている人が多い。

○職場における男女平等については、ほぼすべての項目で「平等である」と回答する割合が最も高くなっていますが、「人事配置や昇進」では『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせたもの）との回答が37.6%と最も高くなっています。

④ 地域活動について

◆企画や方針決定過程への女性参画が少ない理由としては、「男性優位の組織運営」が最も多くなっており、これまでの慣習が阻害要因となっていると考える人が多くみられる。

○企画や方針決定過程への女性参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」との回答が男女ともに最も多くなっています。

○女性の社会進出があまり進んでいない分野への女性の進出を進めていくために必要なことについては、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取り組みを進める」との回答が男女ともに最も多く、次いで「国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業に助成する」との回答が多くなっています。また、「女性の進学が少ない大学の学部への進学を促すための取組を進める」は男性の割合の方が女性より10ポイント以上高くなっています。

⑤ DV（ドメスティック・バイオレンス）等「女性の人権」について

◆全体の約4割（35.7%）が過去に配偶者・パートナーから何らかの暴力を受けており、中でも「大声で怒鳴る」「何を言っても無視する」など精神的暴力が多い。被害体験者のうち、「相談した人」は男性では2.1%、女性では22.1%となっており、相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思った」が最も多い。

○女性の人権が尊重されていないと感じることについては、男女とも「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」との回答が最も多く、次いで「職場での賃金格差や昇格の差など」が多くなっています。年齢別では「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」との回答が最も多く、18～29才、40代、50代などで全体平均を上回っています。

○DV経験については、いずれも「経験はない」との回答が最も多くなっています。一方、過去に配偶者・パートナーから何らかの暴力を受けたことがある人は、全体の約4割を占めています。（全体のうち、問15の12項目の中で「1. されたことがある」に1つでも○を付けた人の割合）また、受けた内容としては、「大声で怒鳴る」との回答が24.5%、「何を言っても無視する」が14.3%となっています。

○DV経験についての相談の状況については、「相談した」との回答が男性で2.1%、女性で22.1%となっています。

○相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」との回答が男女ともに最も多くなっています。

○男女間における暴力の防止に必要なことについては、男性で「学校や大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」との回答が、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も多くなっています。

○「経済的にみて、あなたの世帯の生活の程度はどうか」という設問とDVの関連性については、経済的に余裕がない（「余裕がない」と「あまり余裕がない」を合わせたもの）と回答した人が余裕がある（「余裕がある」と「まあまあ余裕がある」を合わせたもの）と回答した人に比べてDVを受けている割合がやや高いものの、いずれもその差はわずかとなっています。

⑥ 子ども・子育てについて

◆安心して子どもを生み育てるために必要なこととしては、出産・子育てに対する経済的支援を望む声が多い。

○子どもに将来望む生き方については、「男の子」「女の子」ともに「心豊かな生活をする」と回答する人が最も多くなっています。また、「男の子」で「社会的な信用や信頼を得る」と回答する人が33.0%と、「女の子」の12.5%と比較して高くなっており、男の子と女の子の希望する生き方に違いがみられます。

○安心して子どもを生み育てるために必要なことについては、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」と回答する人が男女ともに最も多くなっています。また、「ファミリーサポートセンター事業など、地域の子育て支援の充実」と回答する女性の割合が男性に比べ高くなっているのに対し、「母子家庭、父子家庭への支援」と回答する男性の割合が10ポイント近く高くなっています。

○男女平等意識を育てるために学校教育の場で力を入れるべきことについては、男女とも「男女平等の意識を育てる授業をする」と回答する人が最も多く、次いで「男女にとらわれない教育を実施し、合わせて保護者に対する啓発をする」の順となっています。

⑦ 男女平等の施策について

◆男女共同参画に関する用語の認知は、「男女雇用機会均等法」や「DV 防止法」など男女平等を守る法律や制度の認知度は高い一方で、市独自の取り組みの認知度は低く、特に若年層ほど認知度は低くなっている。

○男女共同参画に関する用語の認知については、「男女雇用機会均等法」が最も高く、次いで「DV 防止法」となっています。男女間では男性に比べ女性の方が認知度が高くなっています。年齢別では「男女雇用機会均等法」は、18～40代で、「DV 防止法」は40～60代で認知度が9割前後を占めるなど高くなっています。一方で、「多治見市男女共同参画推進条例」「たじみ男女共同参画プラン」「男女共同参画サロン『ほっと』」など、市独自の取り組みについての認知度は3割程度と低くなっており、特に若い年齢層ほど認知度は低くなっています。

○男女平等実現のための市の施策に望むことについては、「学校で男女平等教育をすすめる」と回答する人が男女ともに最も多く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」が多くなっています。また、女性では「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」と回答する人も多くなっています。

⑧ 経済的状況について

◆経済的に余裕がない世帯は、全体の半数を超える。特に子育て世帯、職業的には自営主や派遣・パートタイマーなど不安定な働き方で高い。

○経済的にみた世帯の状況については、『経済的に余裕がない』（「余裕がない」「あまり余裕がない」を合わせたもの）と感じている人の割合が高く5割を超えています。一方で、『経済的に余裕がある』（「余裕がある」「まあまあ余裕がある」を合わせたもの）と感じている人の割合は約3割となっています。また、経済的に余裕がない世帯の特徴としては、年代は30代以上、婚姻状態は既婚者、子どもがいる世帯、職業的には自営主、派遣・パートタイマー・アルバイト、家事専業者などで高くなっています。

Ⅲ 調査結果

1 あなた自身について

(A) 性別【単数回答】

男性	186 人 (42.3%)	
女性	250 人 (56.8%)	
不明・無回答	4 人 (0.9%)	合計 440 人

(B) 年齢【単数回答】

18～29 才	78 人 (17.7%)	
30～39 才	65 人 (14.8%)	
40～49 才	59 人 (13.4%)	
50～59 才	90 人 (20.5%)	
60～69 才	82 人 (18.6%)	
70 才以上	65 人 (14.8%)	
不明・無回答	1 人 (0.2%)	合計 440 人

(C) 結婚別【単数回答】

未婚	188 人 (42.7%)	
既婚	196 人 (44.5%)	
離別	17 人 (3.9%)	
死別	35 人 (8.0%)	
不明・無回答	4 人 (0.9%)	合計 440 人

(D) 子どもの有無【単数回答】

男女ともいる	106 人 (24.1%)	
男の子のみいる	59 人 (13.4%)	
女の子のみいる	59 人 (13.4%)	
いない	212 人 (48.2%)	
不明・無回答	4 人 (0.9%)	合計 440 人

(E) お子さんの就学状況【複数回答】

未就学児	5 人 (2.2%)	
小学生	17 人 (7.6%)	
中学生以上の学生	23 人 (10.3%)	
その他	189 人 (84.4%)	
不明・無回答	5 人 (2.2%)	合計 224 人

(F) 家族構成【単数回答】

一人世帯	65 人 (14.8%)	
夫婦のみの世帯	75 人 (17.0%)	
夫婦と子どもの世帯	137 人 (31.1%)	
三世代同居世帯	59 人 (13.4%)	
その他の世帯	98 人 (22.3%)	
不明・無回答	6 人 (1.4%)	合計 440 人

(G) 職業別【単数回答】

自営主（商業、サービス業、製造業等）	35 人 (8.0%)	
自営業の家族従業者 （商業、サービス業、製造業等）	14 人 (3.2%)	
自由業者（医師、弁護士、芸術家等）	2 人 (0.5%)	
正規社員・職員（民間会社、団体等）	146 人 (33.2%)	
公務員・教員	21 人 (4.8%)	
派遣・パートタイマー・アルバイト	75 人 (17.0%)	
家事専業者	25 人 (5.7%)	
学生	18 人 (4.1%)	
無職	97 人 (22.0%)	
その他	4 人 (0.9%)	
不明・無回答	3 人 (0.7%)	合計 440 人

(H) 既婚者の共働き別【単数回答】

している	92 人 (46.9%)	
していない	95 人 (48.5%)	
不明・無回答	9 人 (4.6%)	合計 196 人

(I) 生活の程度【単数回答】

余裕がある	13 人 (3.0%)	
まあまあ余裕がある	122 人 (27.7%)	
あまり余裕がない	149 人 (33.9%)	
余裕がない	84 人 (19.1%)	
わからない	33 人 (7.5%)	
不明・無回答	39 人 (8.9%)	合計 440 人

2 男女の地位の平等に対する意識について

【問1】

あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(1)～(7)のそれぞれについてお答えください。

(1) 家庭生活では

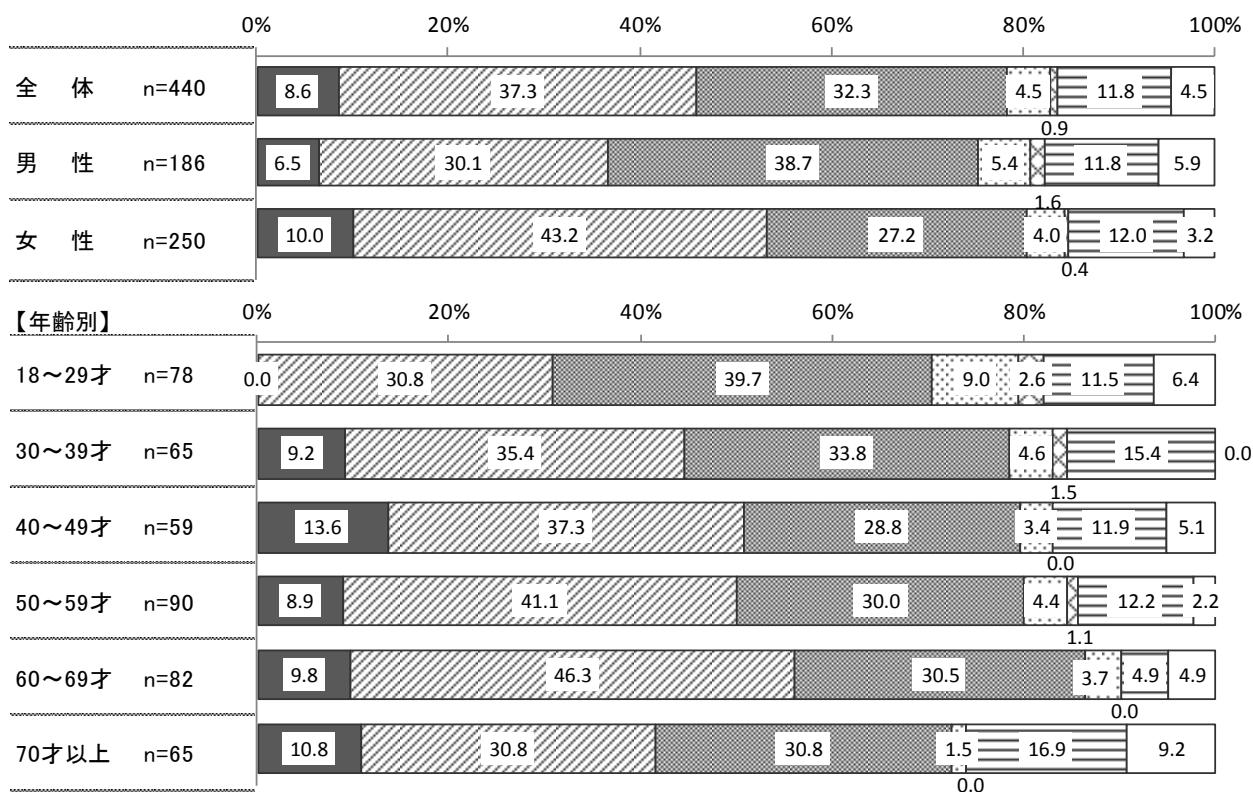
『男性優遇』45.9%＞『平等』32.3%＞『女性優遇』5.4%

【単数回答】

家庭生活での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が45.9%と最も高く、次いで「平等である」が32.3%となっています。

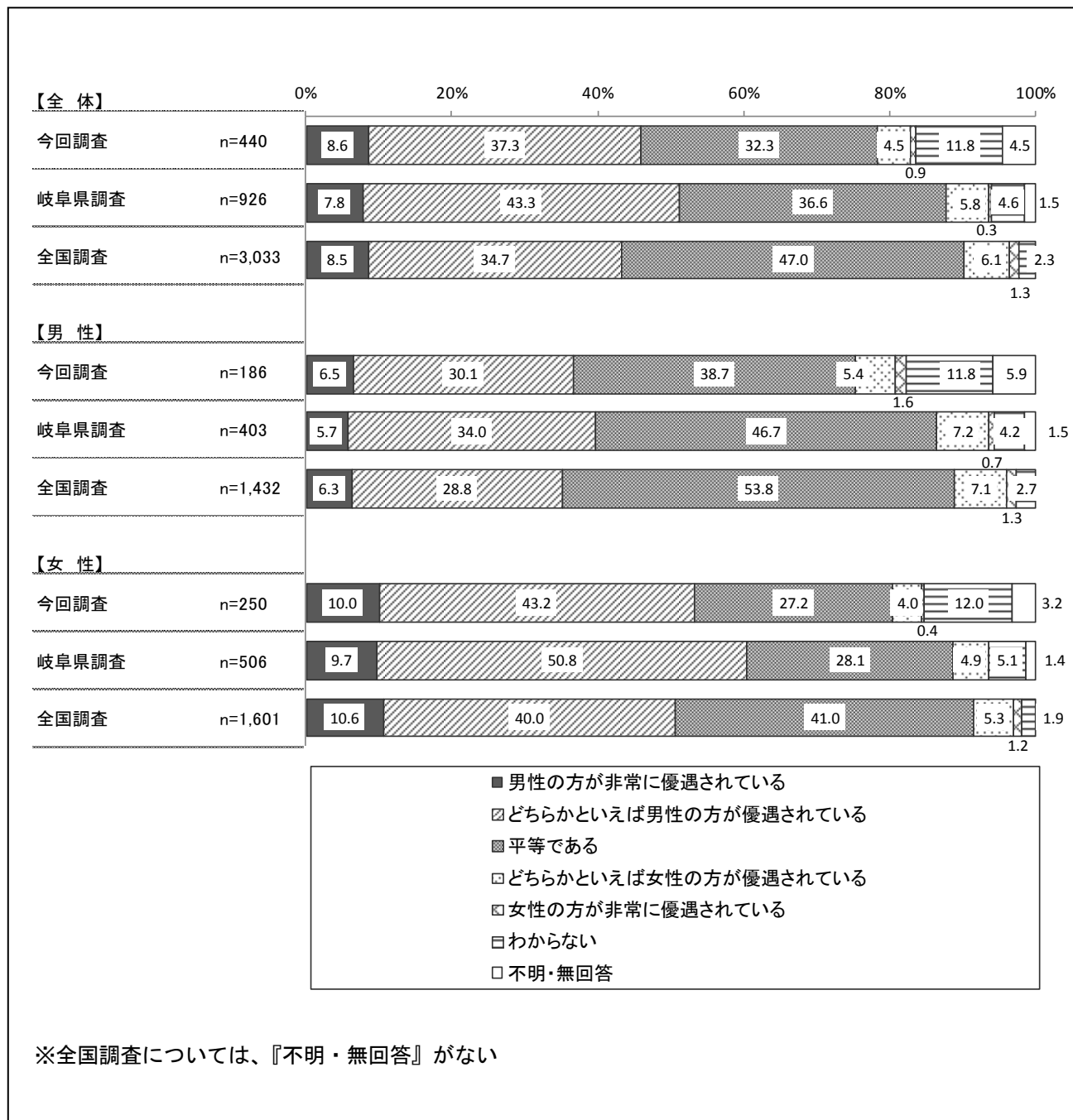
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で36.6%、女性で53.2%と女性が16.6ポイント上回っています。

年齢別では、18～29才で「平等である」との回答が39.7%と、他の年代と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（家庭生活における平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。

(2) 職場では

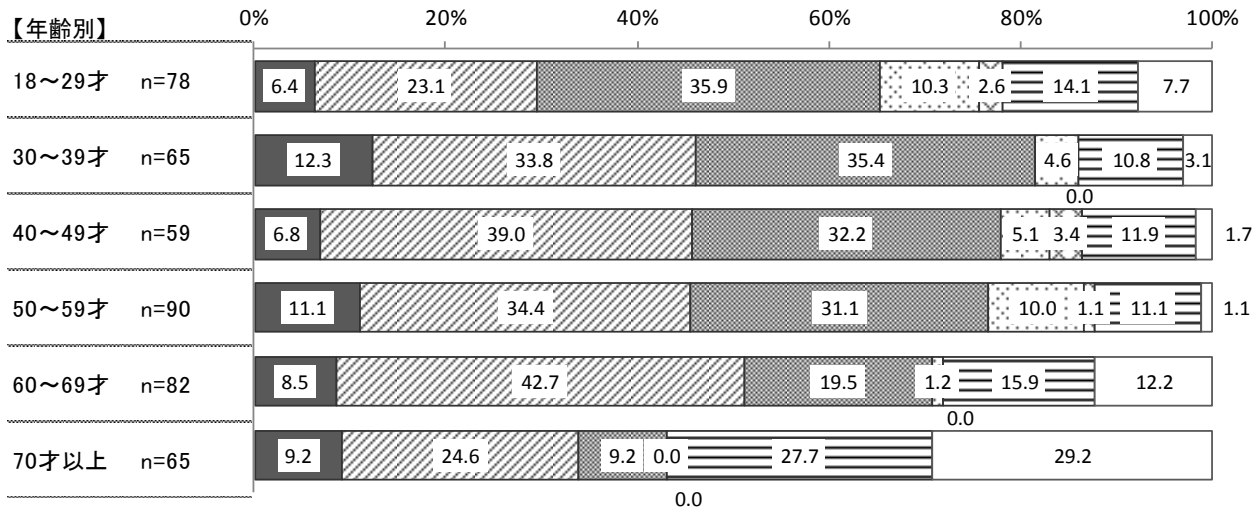
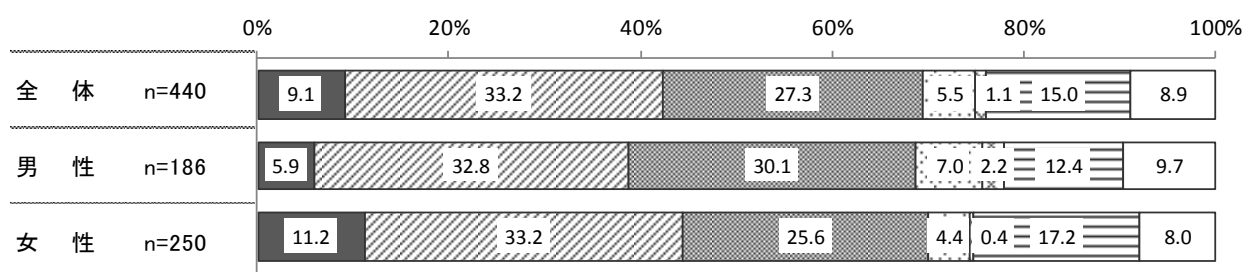
『男性優遇』42.3%＞『平等』27.3%＞『女性優遇』6.6%

【単数回答】

職場での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が 42.3%と最も高く、次いで「平等である」が 27.3%となっています。

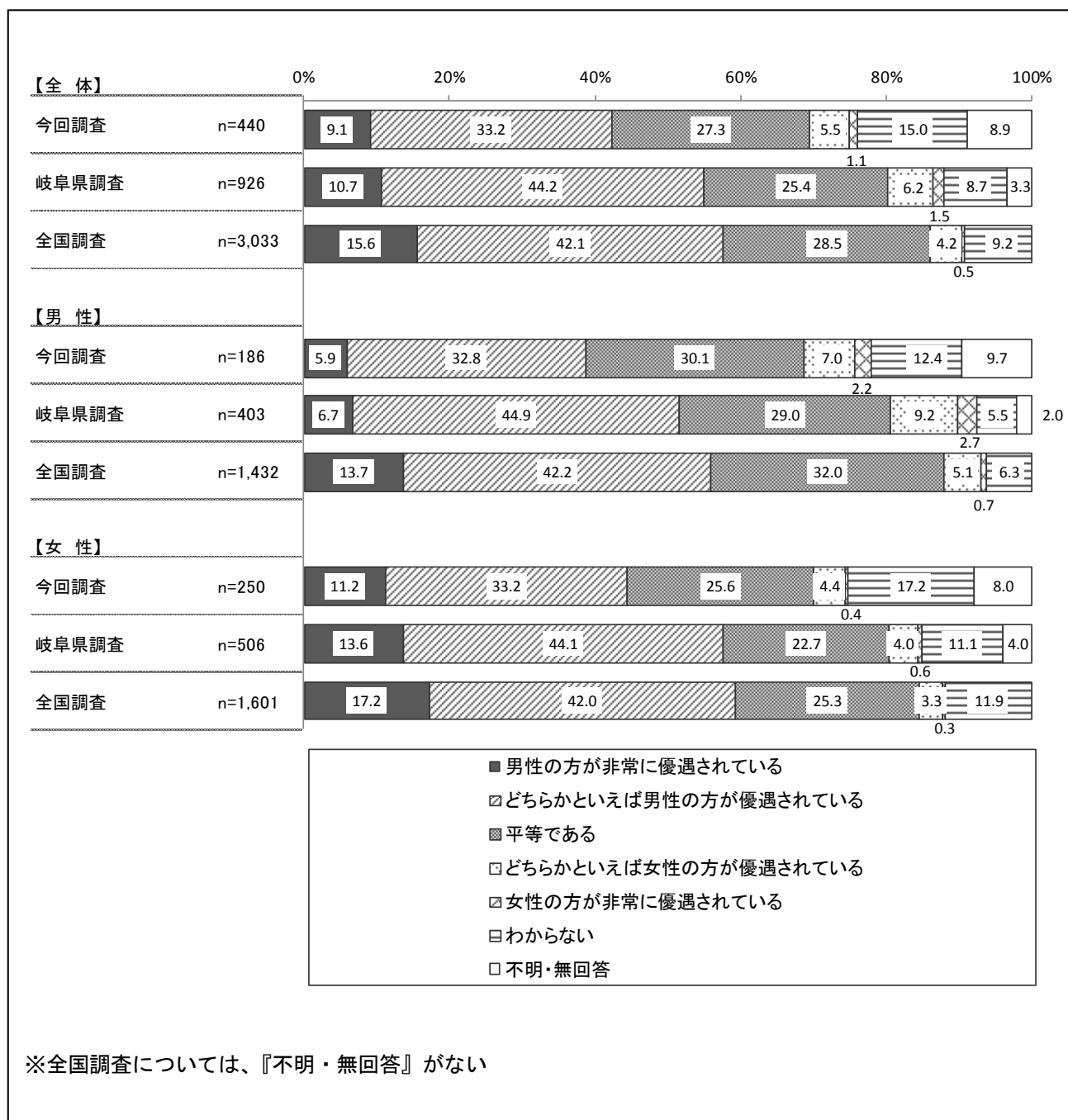
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で 38.7%、女性で 44.4%と女性が 5.7 ポイント上回っています。

年齢別では、30 代から 60 代で『男性優遇』との回答が 5 割前後を占め高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（職場における平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。
 全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

(3) 地域活動の場では

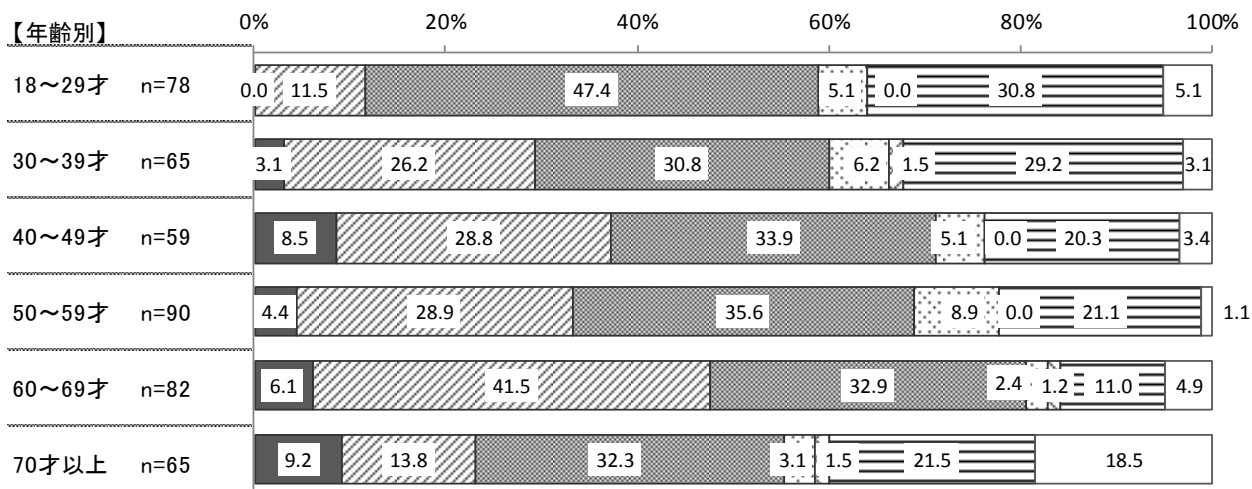
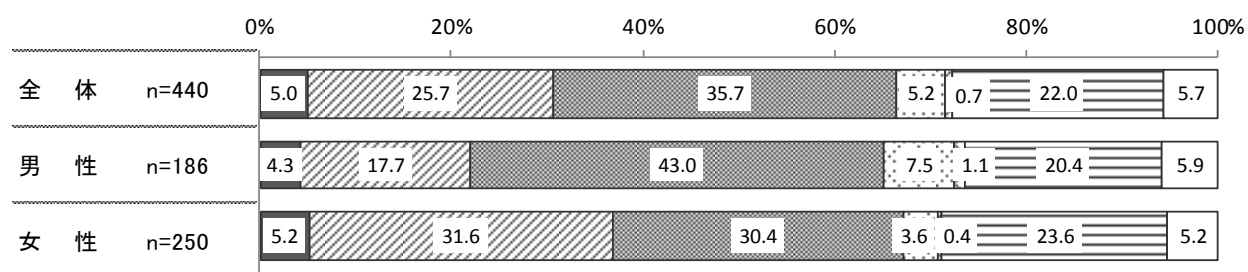
『平等』35.7%＞『男性優遇』30.7%＞『女性優遇』5.9%

【単数回答】

地域活動での地位については、「平等である」との回答が35.7%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が30.7%となっています。

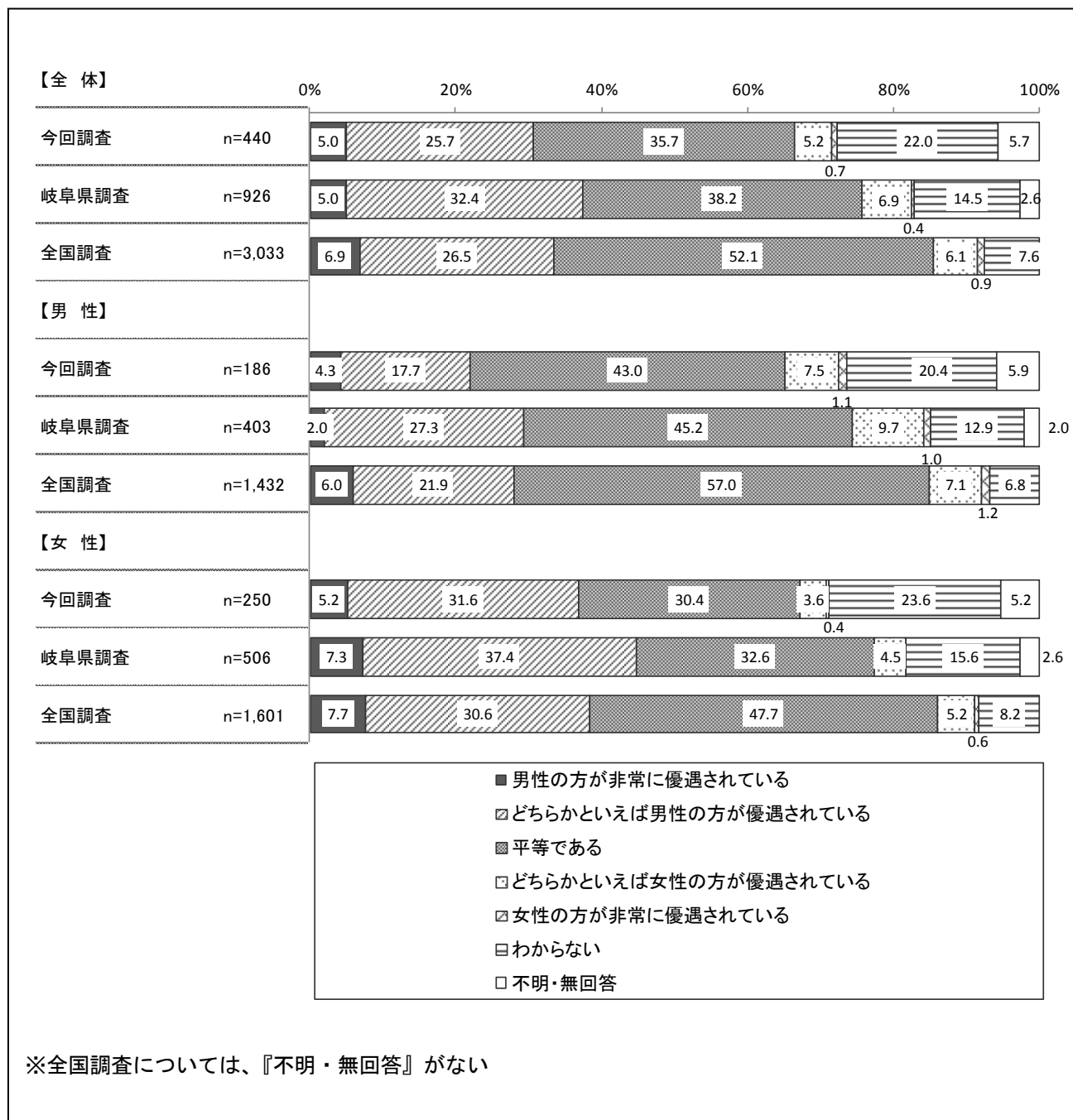
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で22.0%、女性で36.8%と女性が14.8ポイント上回っています。

年齢別では、60代で『男性優遇』との回答が5割弱と、他の年代と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（地域活動の場における平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。
 全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

(4) 学校教育の場では

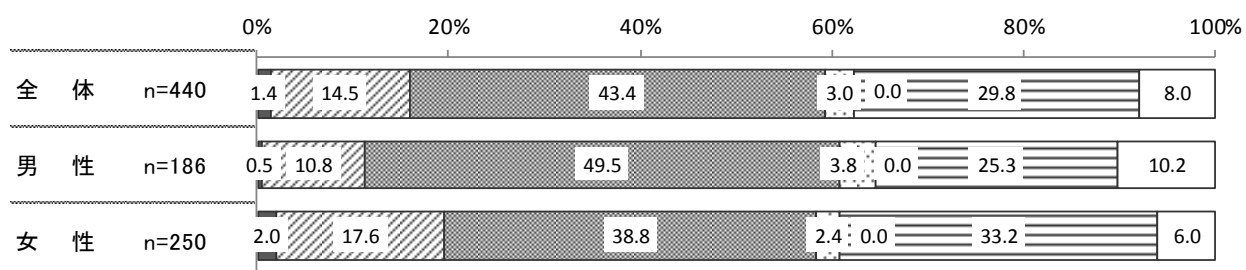
『平等』43.4%＞『男性優遇』15.9%＞『女性優遇』3.0%

【単数回答】

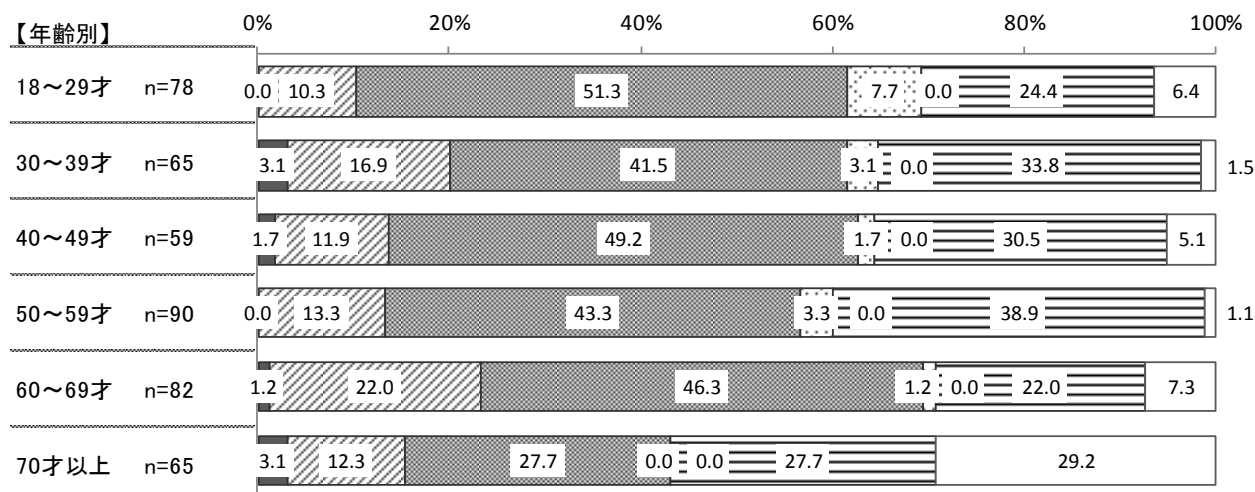
学校教育での地位については、「平等である」との回答が43.4%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が15.9%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で11.3%、女性で19.6%と女性が8.3ポイント上回っています。また、「平等である」との回答は男性で49.5%、女性で38.8%と男性が10.7ポイント上回っています。

年齢別では、30代、60代で『男性優遇』との回答が2割前後と、他の年代と比較して高くなっています。

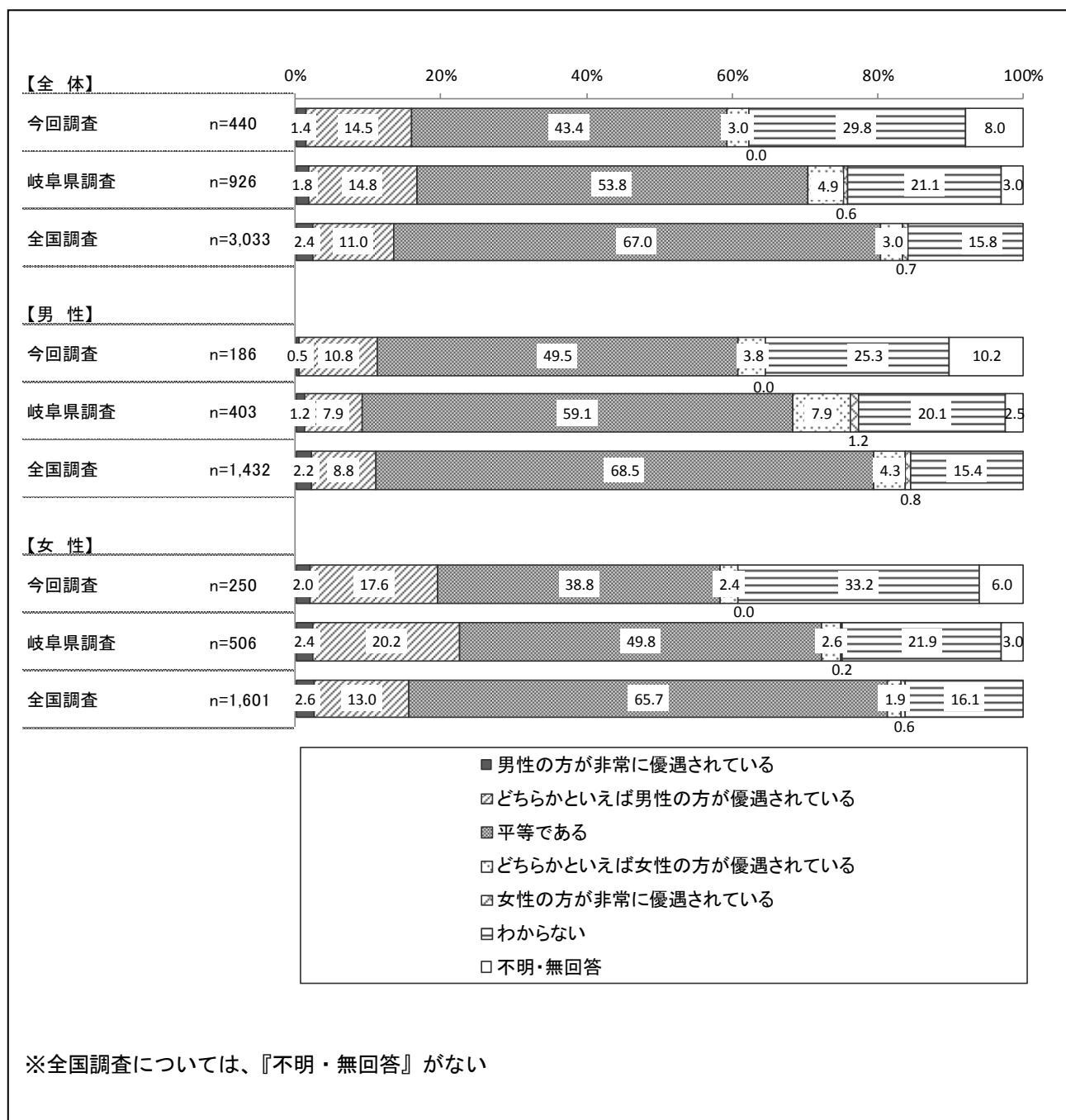


【年齢別】



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（学校教育における平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、男性では『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。全国調査と比較すると、全体、男女別いずれも『男性優遇』と回答する割合がやや高くなっています。

(5) 政治の場では

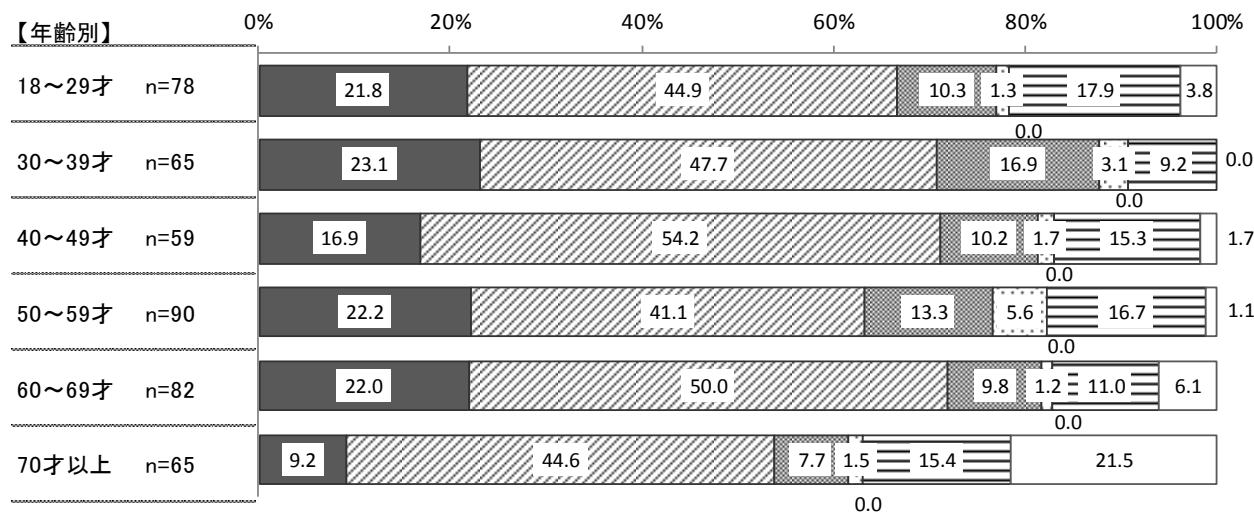
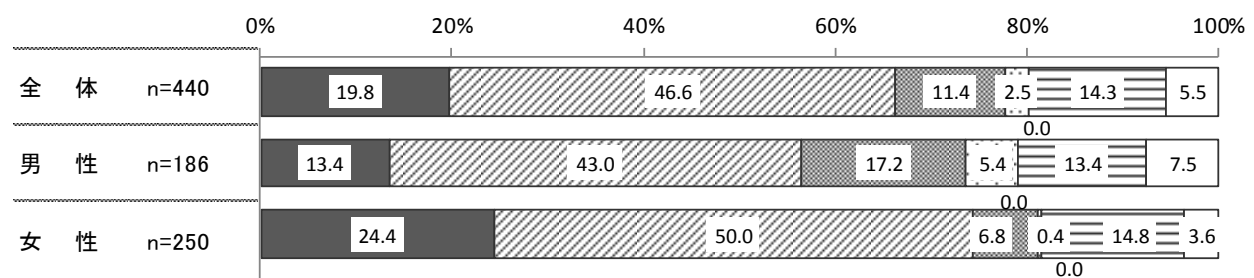
『男性優遇』66.4%＞『平等』11.4%＞『女性優遇』2.5%

【単数回答】

政治の場での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が66.4%と最も高く、次いで「平等である」が11.4%となっています。

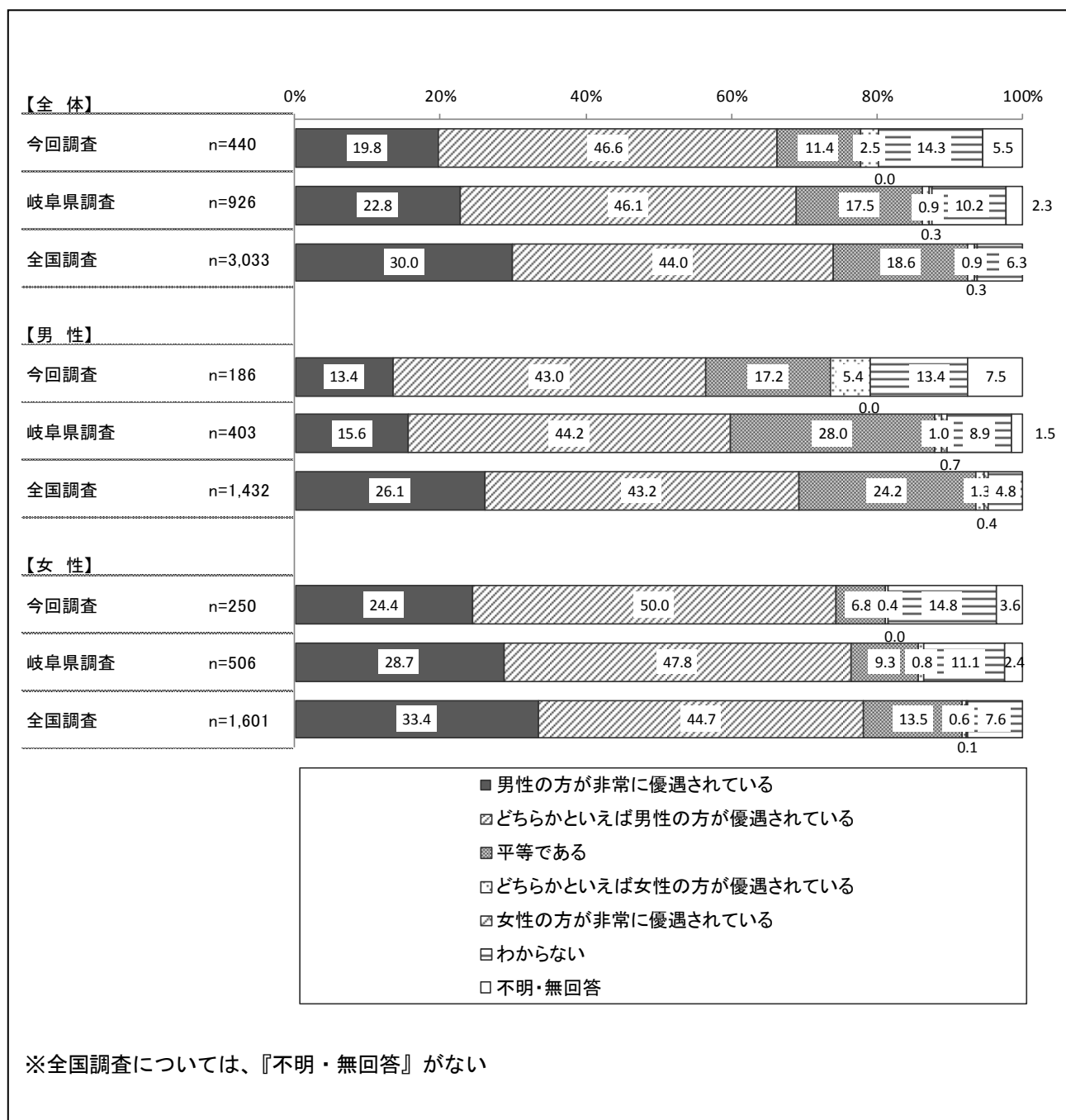
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で56.4%、女性で74.4%と女性が18.0ポイント上回っています。

年齢別では、70才以上を除いた年齢層で『男性優遇』との回答が6割以上を占め高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（政治の場における平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女とも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。
 全国調査と比較すると、全体、男女とも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

(6) 法律や制度の上では

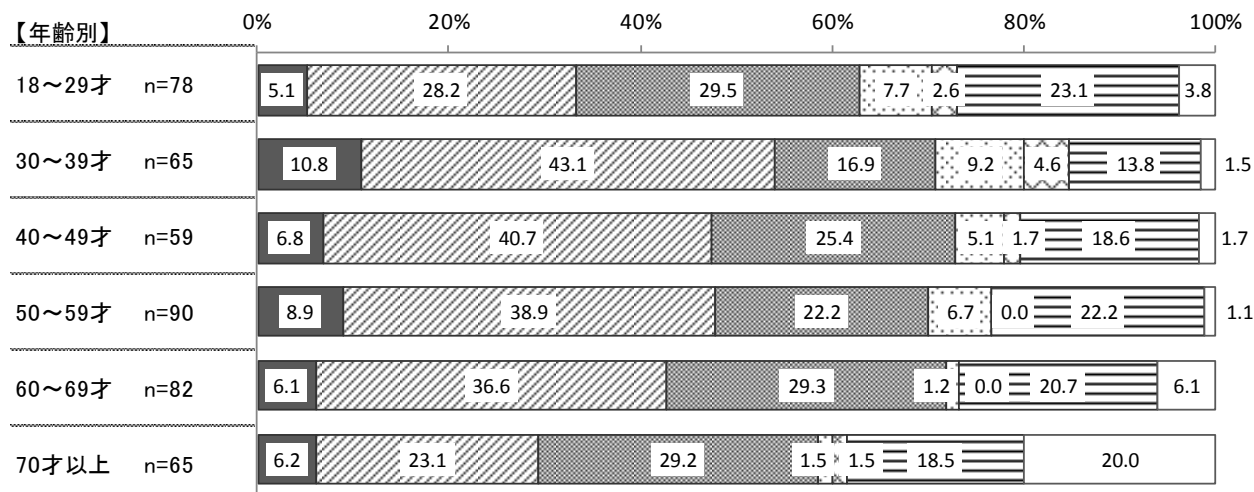
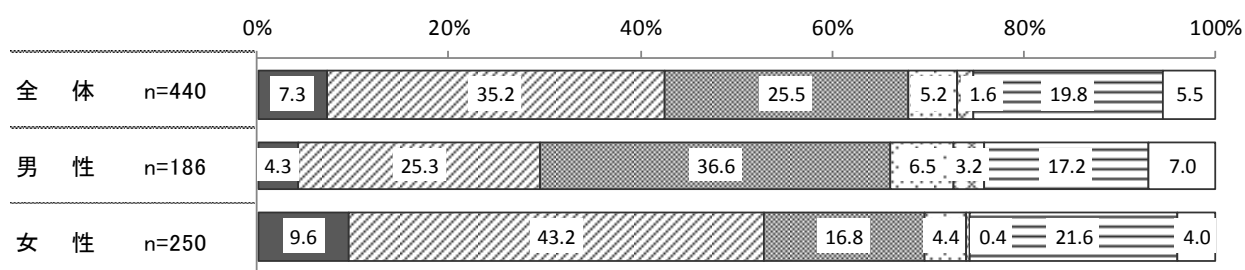
『男性優遇』42.5%＞『平等』25.5%＞『女性優遇』6.8%

【単数回答】

法律や制度の上での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が42.5%と最も高く、次いで「平等である」が25.5%となっています。

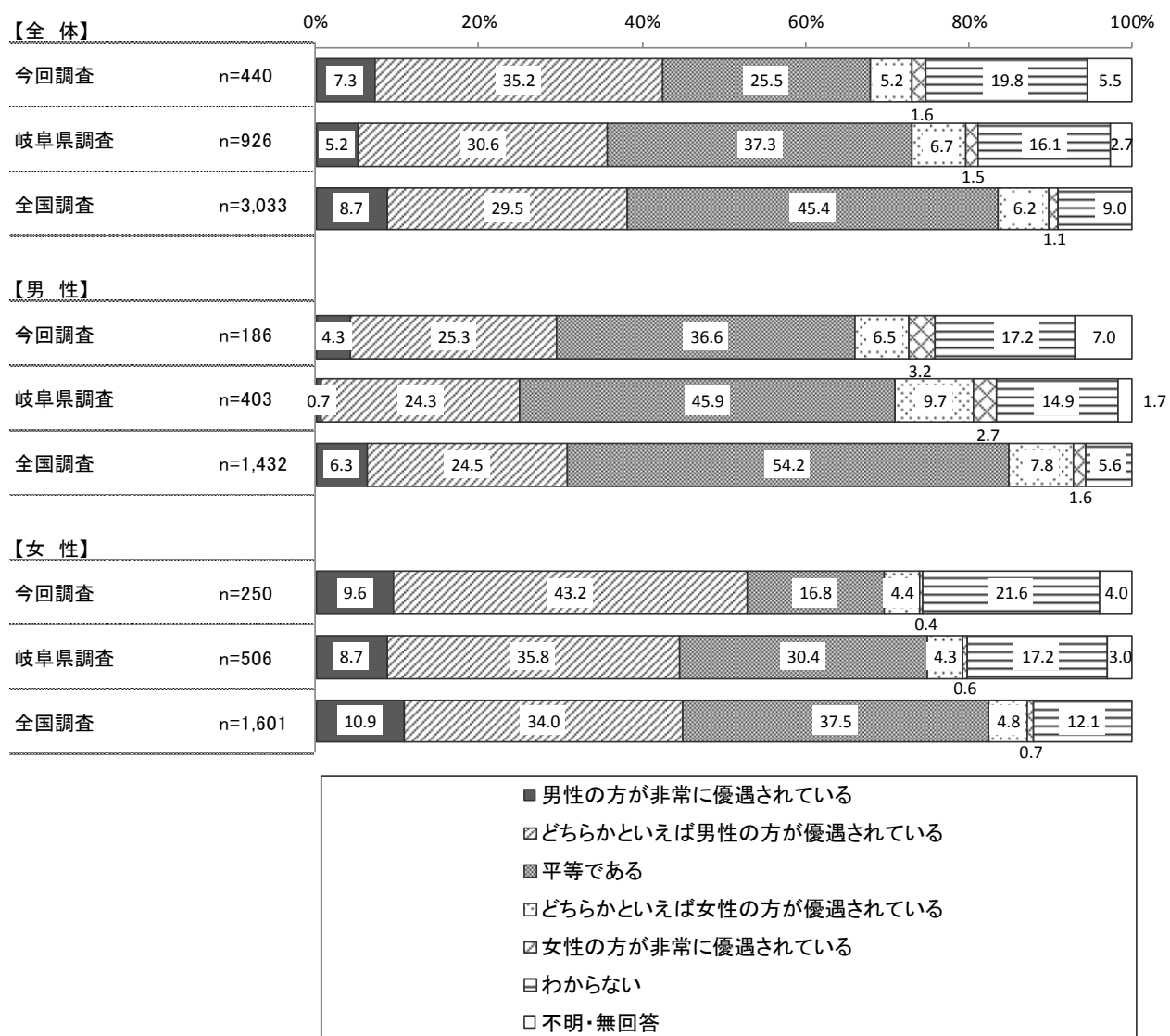
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で29.6%、女性で52.8%と女性が23.2ポイント上回っています。

年齢別では、30代で『男性優遇』との回答が5割を超え高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（法律や制度の上における平等感）



※全国調査については、『不明・無回答』がない

【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女とも『男性優遇』と回答する割合が高くなっています。
 全国調査と比較すると、全体、女性で『男性優遇』と回答する割合が高くなっています。

(7) 社会通念・慣習・しきたりなどでは

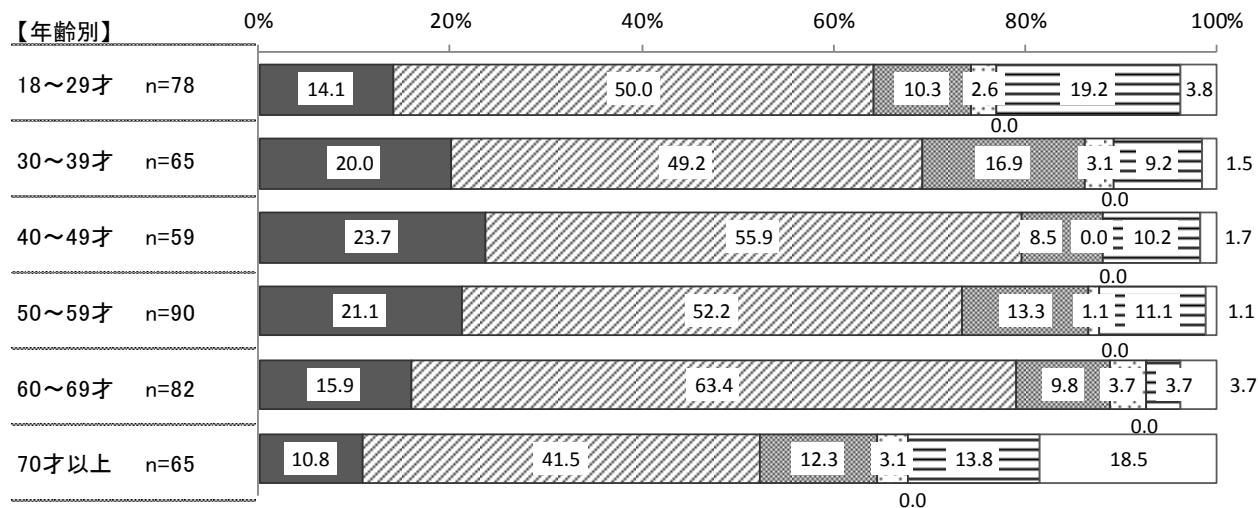
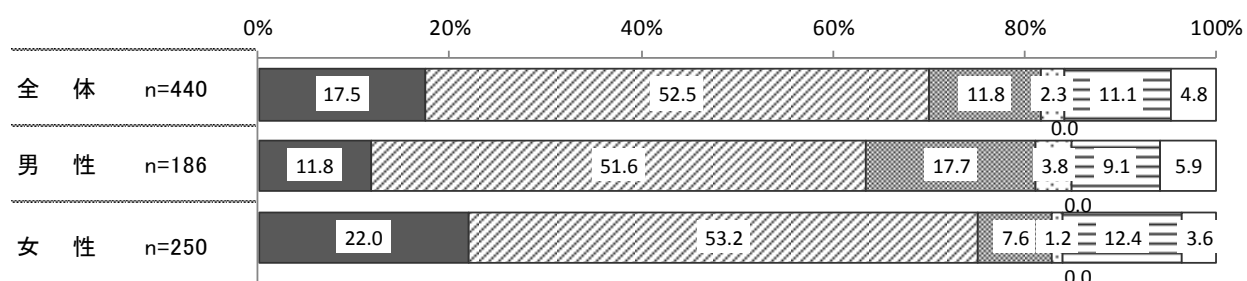
『男性優遇』70.0%＞『平等』11.8%＞『女性優遇』2.3%

【単数回答】

社会通念・慣習・しきたりなどでの地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が70.0%と最も高く、次いで「平等である」が11.8%となっています。

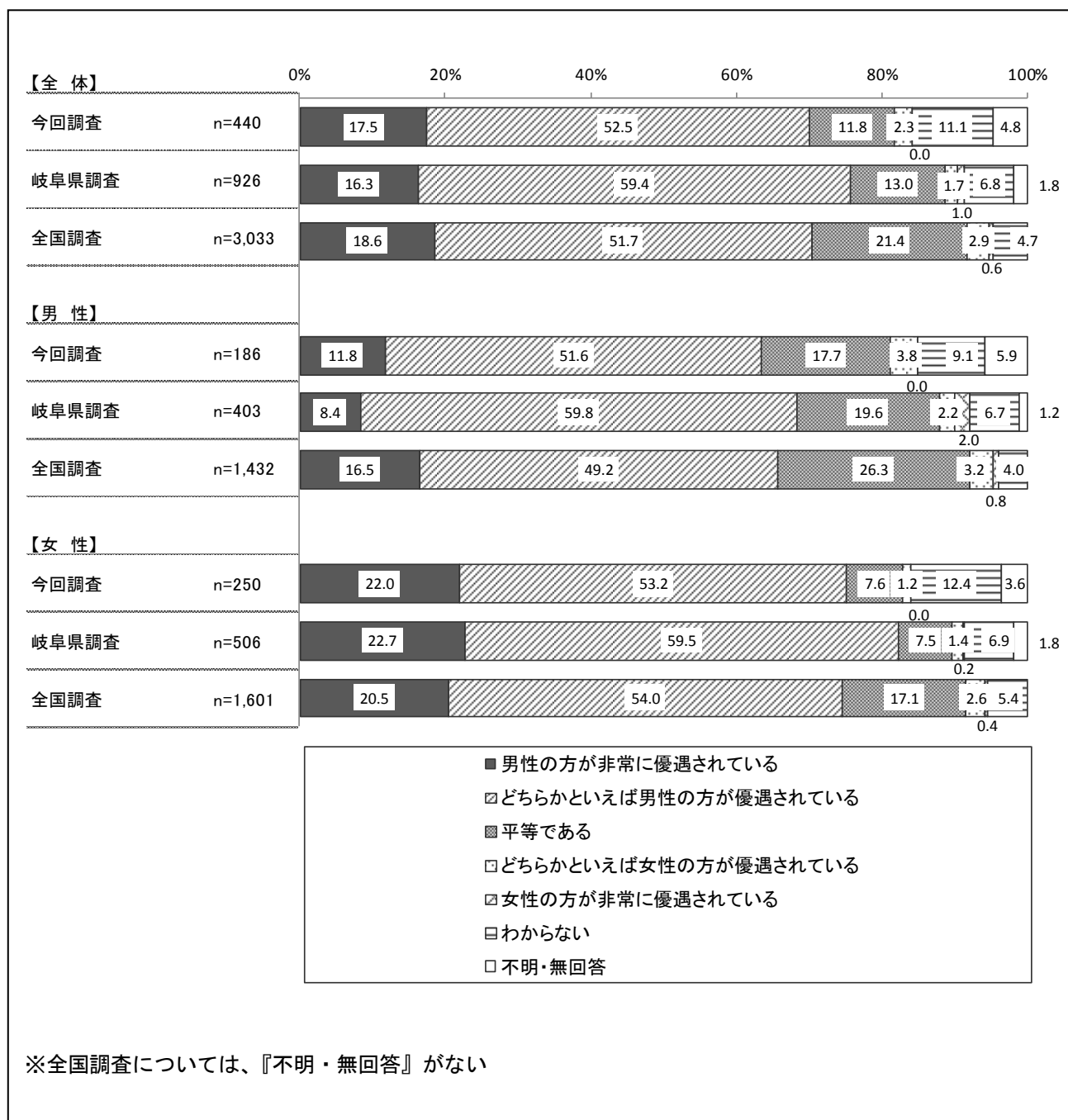
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で63.4%、女性で75.2%と女性が11.8ポイント上回っています。

年齢別では、40代や60代で『男性優遇』との回答が8割弱を占め高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（社会通念・慣習・しきたりにおける平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女とも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。
 全国調査と比較すると、全体、男女とも「平等である」と回答する割合が低くなっています。

(8) 社会全体では

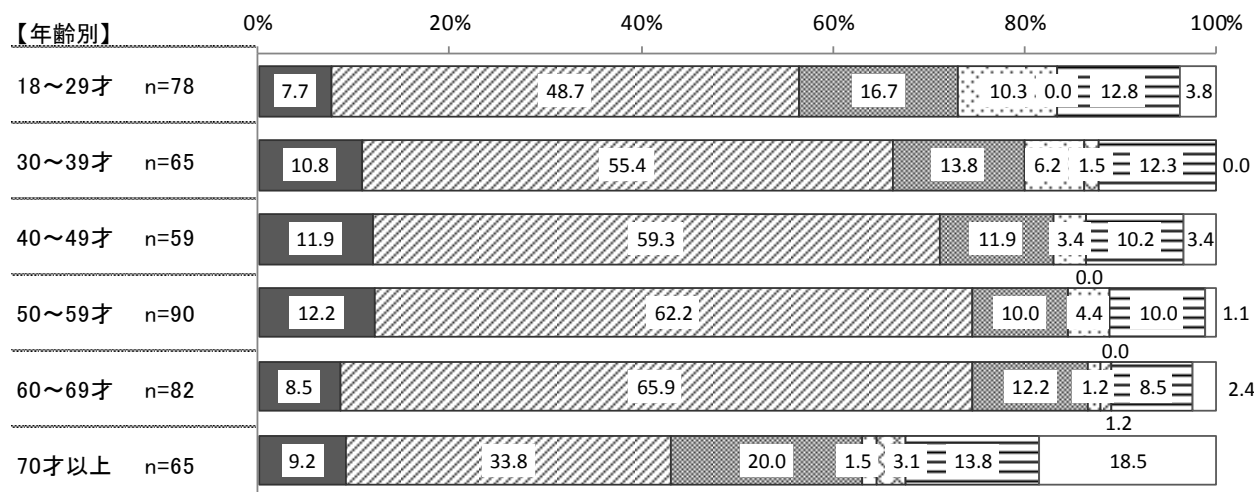
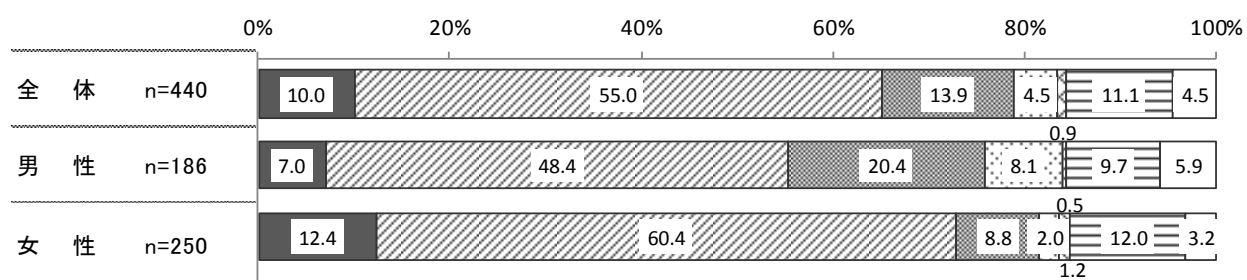
『男性優遇』65.0%＞『平等』13.9%＞『女性優遇』5.4%

【単数回答】

社会全体での地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が65.0%と最も高く、次いで「平等である」が13.9%となっています。

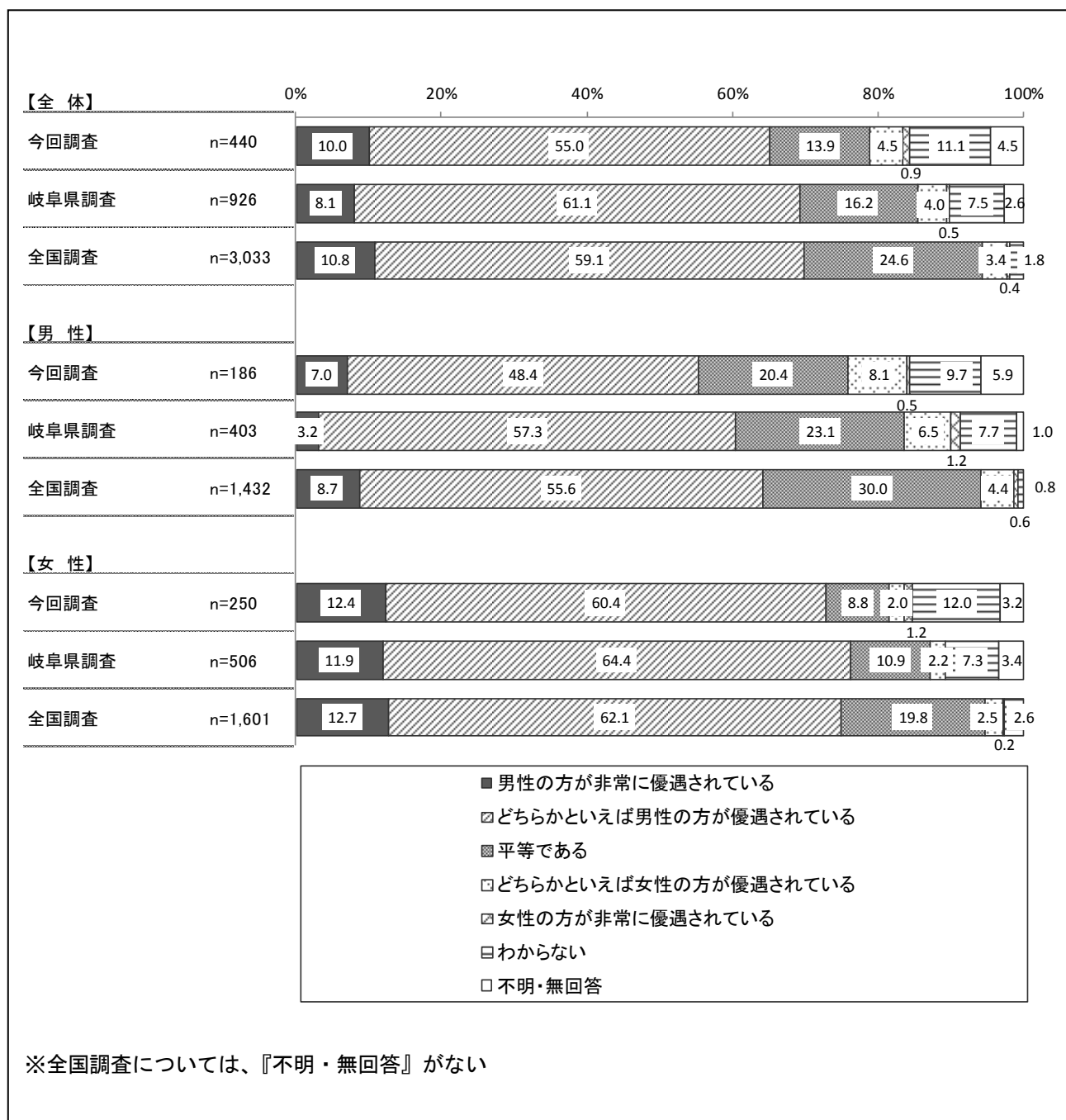
性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で55.4%、女性で72.8%と女性が17.4ポイント上回っています。

年齢別では、60代までは年代とともに『男性優遇』との回答が増えており、40～60代では7割を超えています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

参考：全国調査、岐阜県調査との比較（社会全体における平等感）



【岐阜県調査・全国調査との比較】

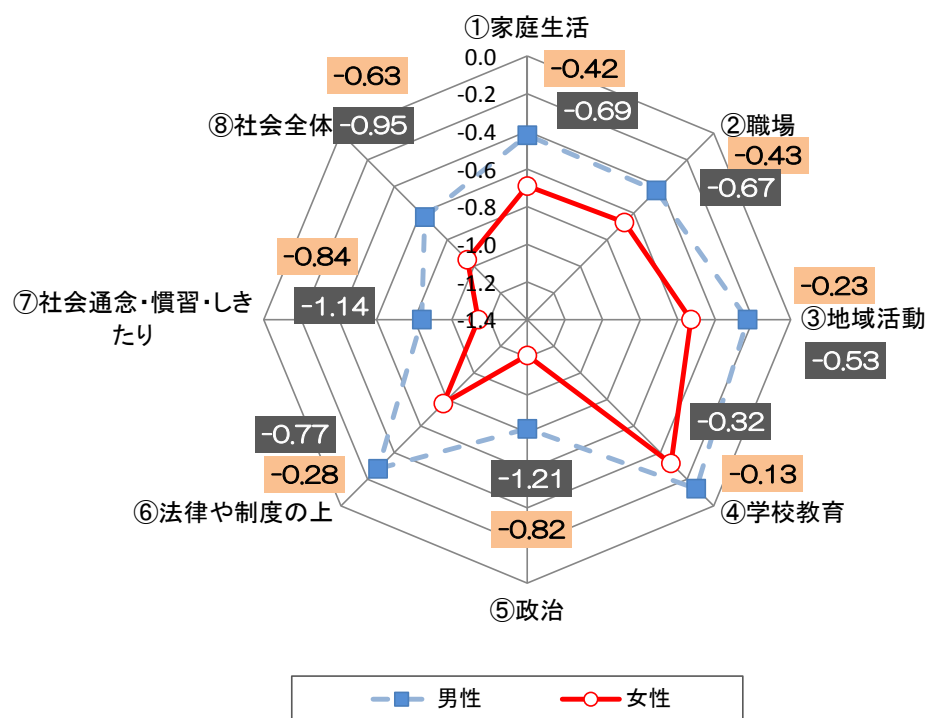
岐阜県調査と比較すると、全体、男女とも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。
 全国調査と比較すると、全体、男女とも『男性優遇』と回答する割合が低くなっています。

●男女の平等についての男女間の意識の比較

下図は、各分野の平等感について、性別ごとにレーダーチャート図にしたものです。

総体的に8分野すべてで男性より女性のポイントが下回っており、女性は「男性が優遇されている」と感じていることがわかります。これは、言い換えれば、男性が感じているより、女性の感じている不平等感が大きいことを示しています。

分野別にみると、「学校教育」では性別による平等感の差が最も小さくなっているのに対し、「法律や制度の上」、「政治」では男女の平等感の差が大きくなっています。



（平均得点について）

「家庭生活」や「職場」など8分野の男女の平等感についての回答結果に対して「男性の方が非常に優遇されている」を-2、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を-1、「平等である」を±0、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を+1、「女性の方が非常に優遇されている」を+2、「わからない」「無回答」は除いて男女別に平均得点を算出しました。

平均得点の考え方としては、点数が大きくなり、±0に近くなるほど、男女の平等感が高く、内側に行くほど男性が優遇されているということがいえます。

問1 男女の平等についての平均得点算出結果

分野	全体	男性	女性	男女差
① 家庭生活	-0.58	-0.42	-0.69	-0.27
② 職場	-0.57	-0.43	-0.67	-0.24
③ 地域活動	-0.40	-0.23	-0.53	-0.30
④ 学校教育	-0.23	-0.13	-0.32	-0.19
⑤ 政治	-1.04	-0.82	-1.21	-0.39
⑥ 法律や制度の上	-0.55	-0.28	-0.77	-0.49
⑦ 社会通念・慣習・しきたり	-1.01	-0.84	-1.14	-0.30
⑧ 社会全体	-0.81	-0.63	-0.95	-0.32

【問2】

問1の「(8)社会全体では」において「1男性の方が非常に優遇されている」「2どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方におたずねします。

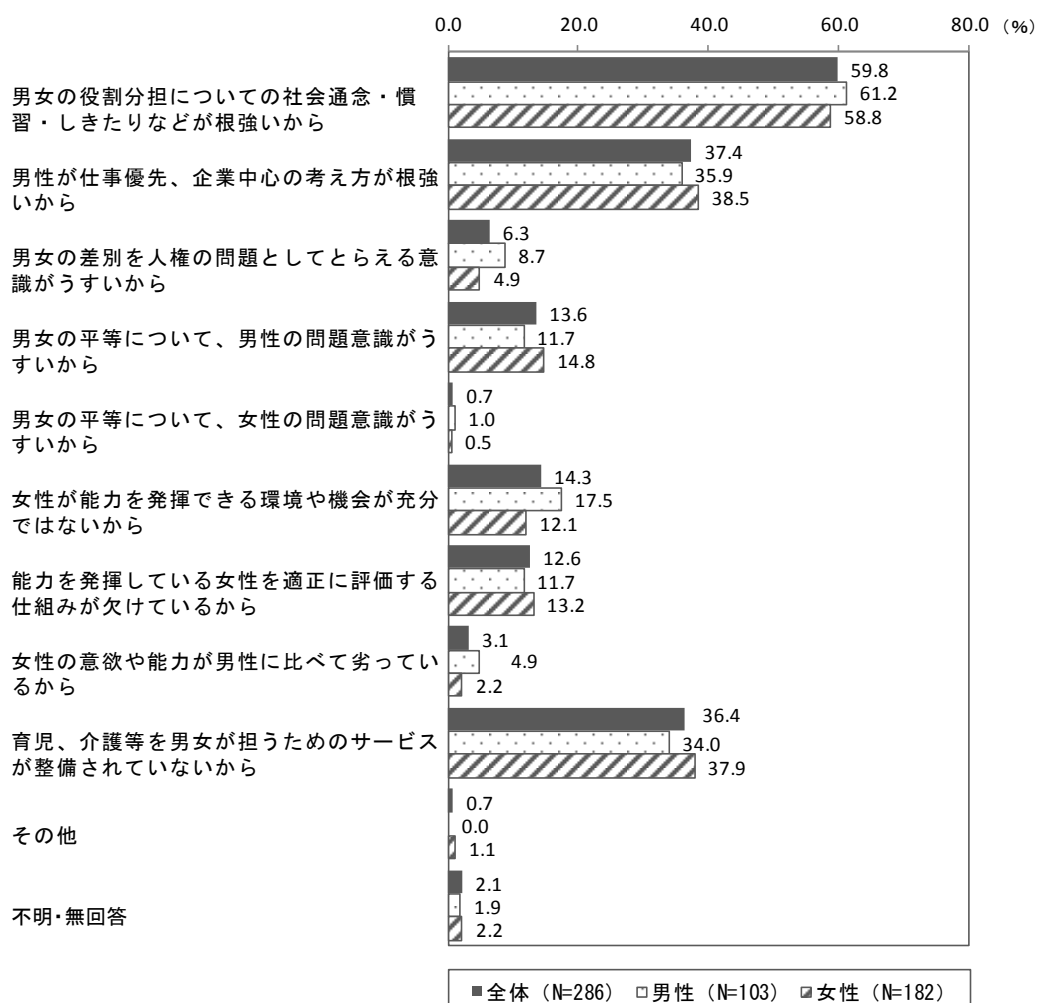
その主な理由は何だと思いますか。(〇は2つまで)

社会全体で『男性優遇』されている理由は、「男女の役割についての社会通念の根強さ」「男性の仕事中心の考え方」「育児・介護等を男女が担うための整備不足」

【複数回答】

社会全体で『男性優遇』であると感じる主な理由については、「男女の役割分担についての社会通念・慣習などが根強いから」との回答が59.8%と最も高く、次いで「男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから」が37.4%、「育児、介護等を男女が担うためのサービスが整備されていないから」が36.4%となっています。

性別でみると、「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が男性で61.2%、女性で58.8%と最も高くなっています。また、「育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスなどが整備されていないから」との回答が男性で34.0%、女性で37.9%と、女性が3.9ポイント高くなっています。



■年齢別クロス集計

年齢別では、40代で「男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから」、その他の年代では「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」との回答が最も多くなっています。

	調査数	男女の役割分担についての社会通念・慣習などが根強いから	男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから	男女の差別を人権の問題としてとらえる意識がうすいから	男女の平等について、男性の問題意識がうすいから	男女の平等について、女性の問題意識がうすいから	女性が能力を発揮できない環境や機会が充分ではないから	能力を発揮している女性が適正に評価する仕組みが欠けているから	女性の意欲や能力が男性に比べて劣っているから	育児、介護等が整備されていないから	その他	不明・無回答
18～29歳	N=44	56.8	29.5	4.5	9.1	—	9.1	11.4	2.3	47.7	—	4.5
30～39歳	N=43	60.5	46.5	4.7	9.3	—	18.6	4.7	2.3	41.9	—	—
40～49歳	N=42	50.0	52.4	—	11.9	—	19.0	14.3	7.1	35.7	2.4	—
50～59歳	N=67	71.6	34.3	6.0	16.4	—	10.4	11.9	4.5	29.9	1.5	—
60～69歳	N=61	55.7	27.9	11.5	16.4	—	18.0	19.7	1.6	37.7	—	3.3
70歳以上	N=28	57.1	39.3	10.7	17.9	7.1	10.7	10.7	—	25.0	—	7.1

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

【問3】

問1の「(8)社会全体では」において「1 男性の方が非常に優遇されている」「2 どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方に、再びおたずねします。

今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることは何だと思えますか。(1 つに○)

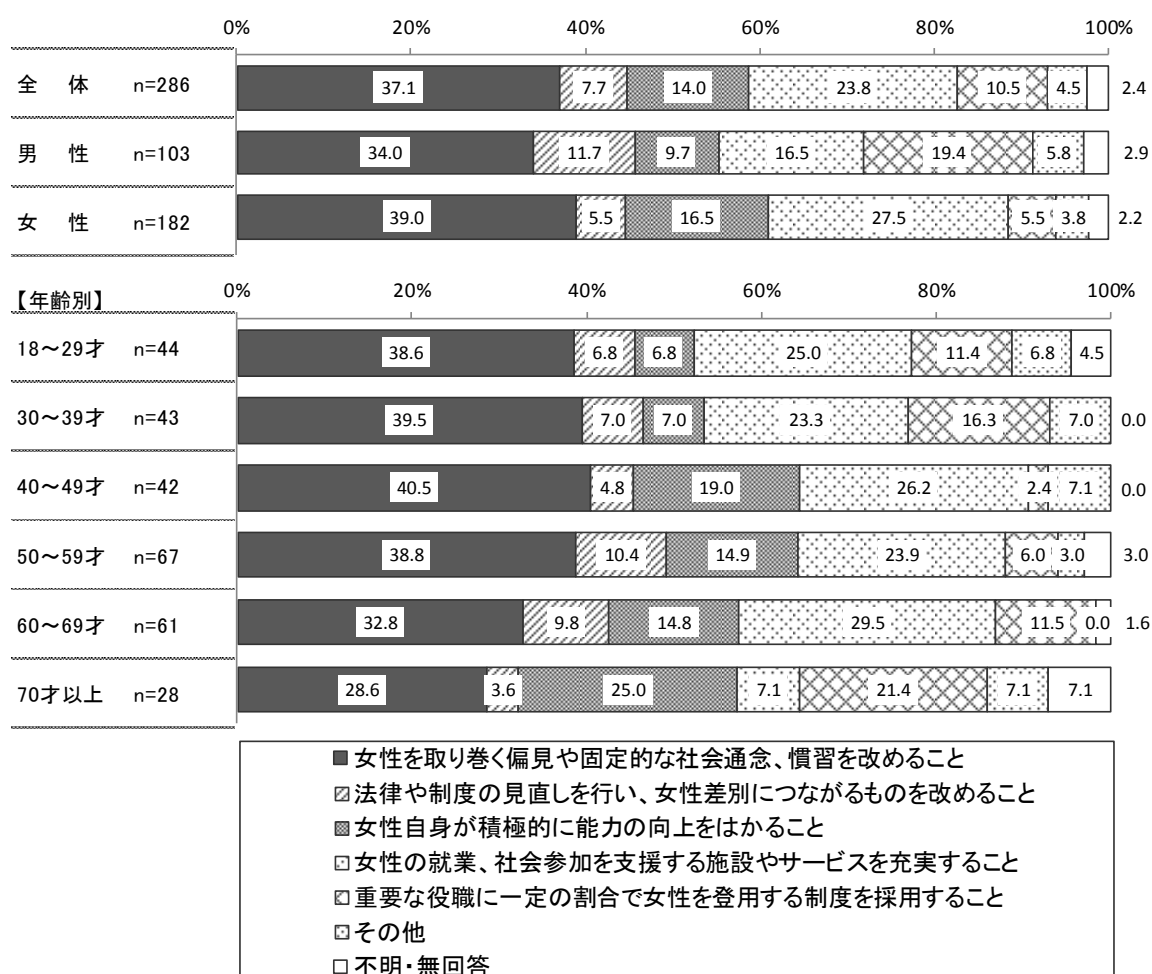
男女がもっと平等になるために重要なことは、「女性を取り巻く偏見や固定的な社会通念の改善」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実」

【単数回答】

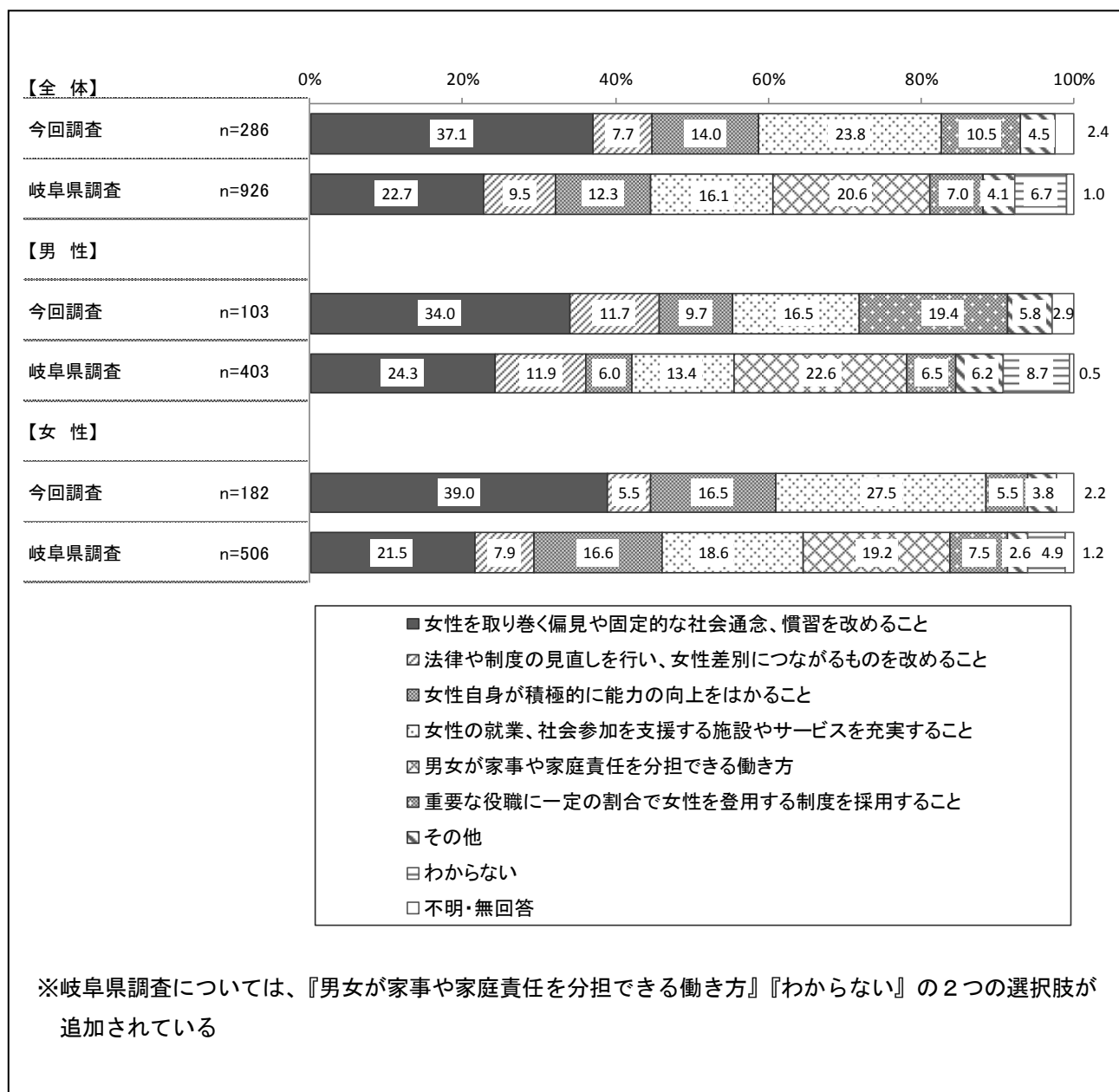
社会全体で『男性優遇』であると感じている方が、今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることについては、「女性を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習を改めること」との回答が 37.1%と最も高く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実すること」が 23.8%となっています。

性別でみると、「女性を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習を改めること」との回答が男性で 34.0%、女性で 39.0%と、女性が 5.0 ポイント上回っています。また、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること」が男性で 16.5%、女性で 27.5%と、女性が 11.0 ポイント上回っています。

年齢別では、全体で最も高かった「女性を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習を改めること」との回答は、40 代の 40.5%をピークに年齢とともに低くなっています。



参考：岐阜県調査との比較（男女がさらに社会で平等になるために重要なこと）



【岐阜県調査との比較】

岐阜県調査と比較すると、全体、男女とも「女性を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習を改めること」と回答する割合が高くなっています。

【問4】

男性の方におたずねします。（女性の方は【問6】にお進みください。）

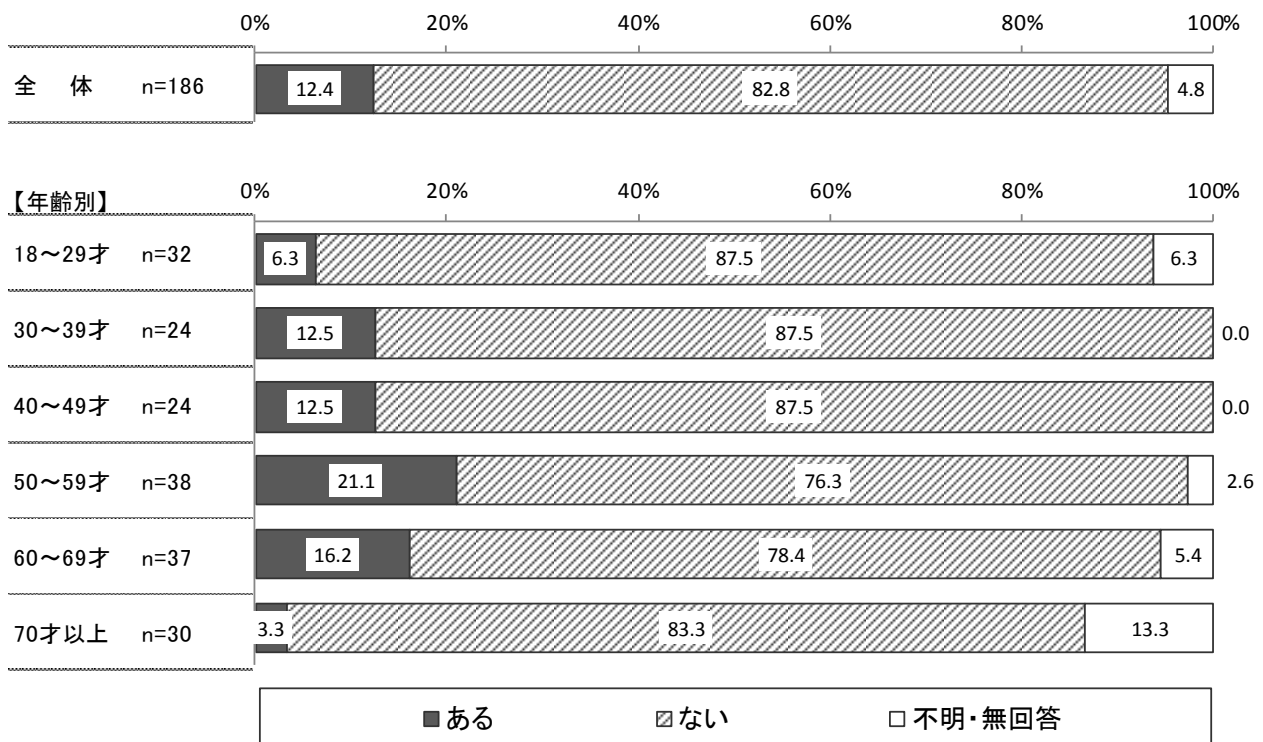
あなたは、家庭における男女の役割において「つらい」と感じることはありますか。

家庭における男女の役割が「つらい」と感じている男性は約 1 割

【単数回答】

男性の方で、家庭における男女の役割において「つらい」と感じるかどうかについては、「ある」との回答が 12.4%、「ない」が 82.8%となっています。

年齢別では、50代で「ある」との回答が 21.1%と、他の年代と比較して高くなっています。



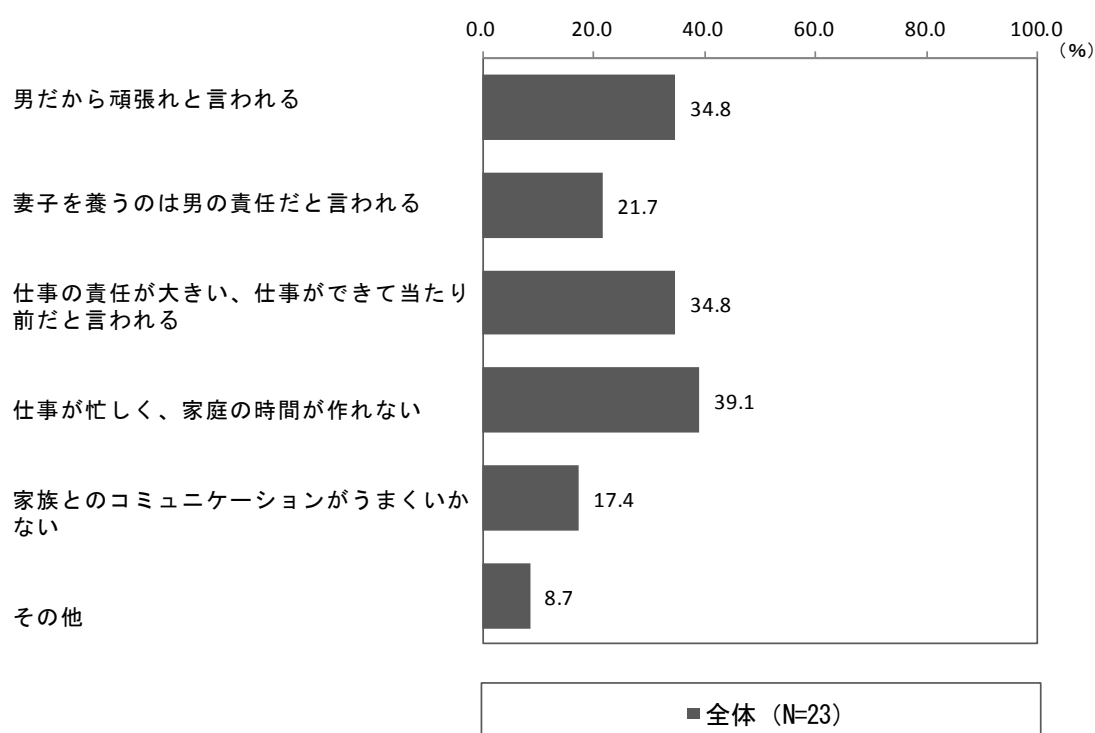
【問5】

問4で「1. ある」と答えた方におたずねします。
それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

「仕事が忙しく、家庭の時間が作れない」ことがつらいと感じている

【複数回答】

どんなことで「男もつらい」と感じるかについては、「仕事が忙しく、家庭の時間が作れない」との回答が39.1%と最も高く、次いで「男だから頑張れと言われる」「仕事の責任が大きい、仕事ができたり前だと言われる」が34.8%となっています。



		調査数	問5 男性がつらいと感じる内容					
			男だから頑張れと言われる	妻子を養うのは男の責任だと言われる	仕事の責任が大きい、仕事ができたり前だと言われる	仕事が忙しく、家庭の時間が作れない	家族とのコミュニケーションがうまくいかない	その他
調査数		23	8	5	8	9	4	2
年齢	18～29歳	2	1	2	1	－	－	－
	30～39歳	3	1	1	1	2	－	－
	40～49歳	3	2	1	2	1	1	－
	50～59歳	8	3	－	2	4	2	－
	60～69歳	6	1	1	1	2	1	2
	70歳以上	1	－	－	1	－	－	－

【問6】

仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。(1)～(9)のそれぞれについてお答えください。

(1)「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について

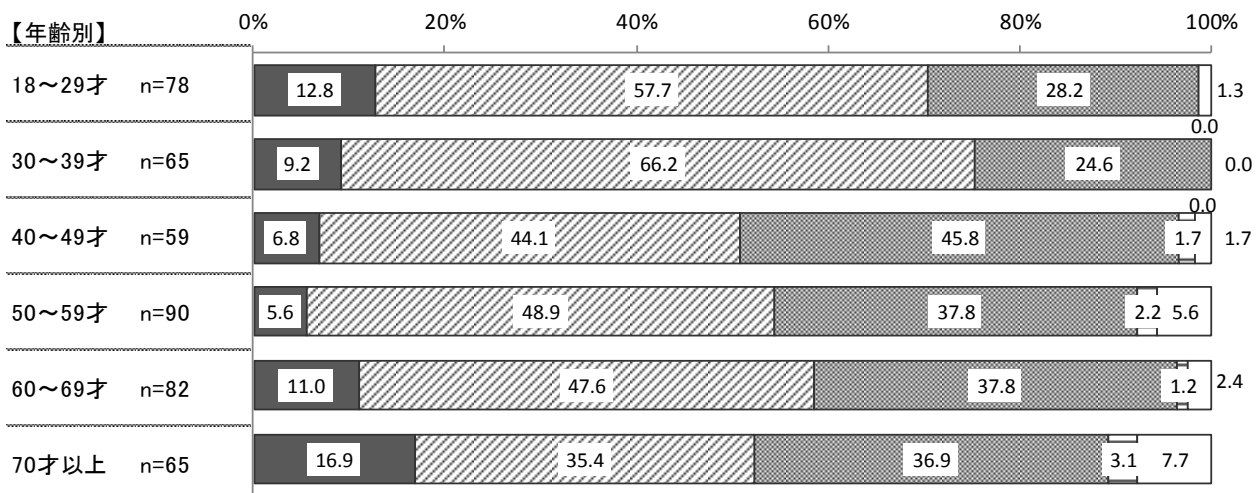
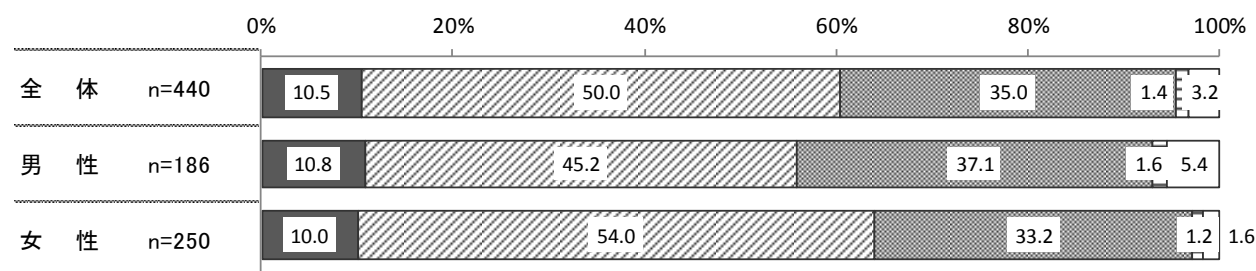
『そうは思わない』50.0%＞『そう思う』10.5%

【単数回答】

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、「そう思う」との回答が10.5%、「そうは思わない」が50.0%となっています。

性別でみると、「そうは思わない」との回答が男性で45.2%、女性で54.0%と女性が8.8ポイント上回っています。

年齢別では、70代以上で他の年代と比較して「そう思う」と回答する割合が高くなっています。



■ そう思う ▨ そうは思わない ■ どちらともいえない □ わからない □ 不明・無回答

(2) 女性が職業を持ち続けることについて

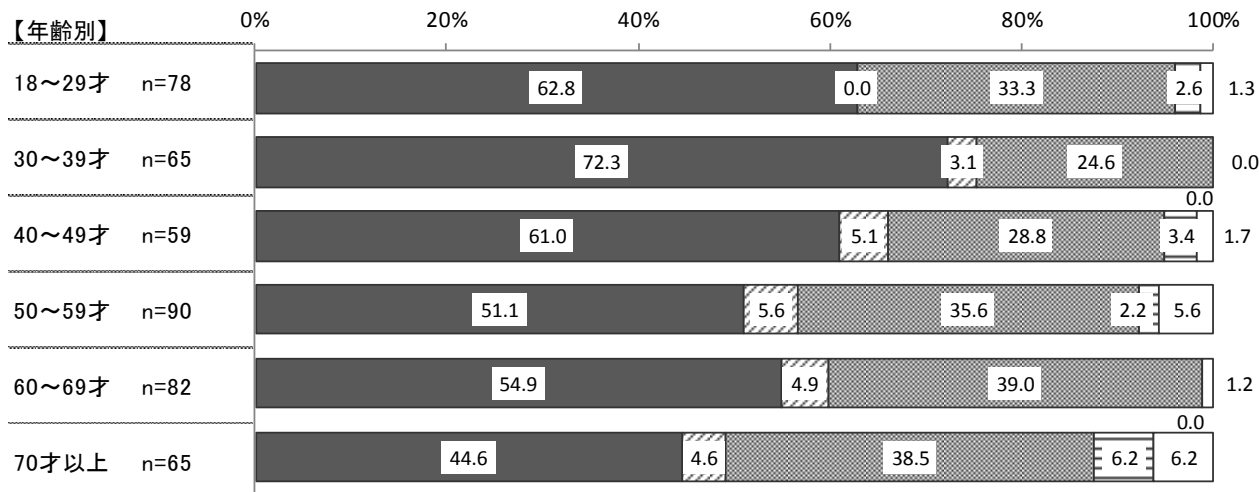
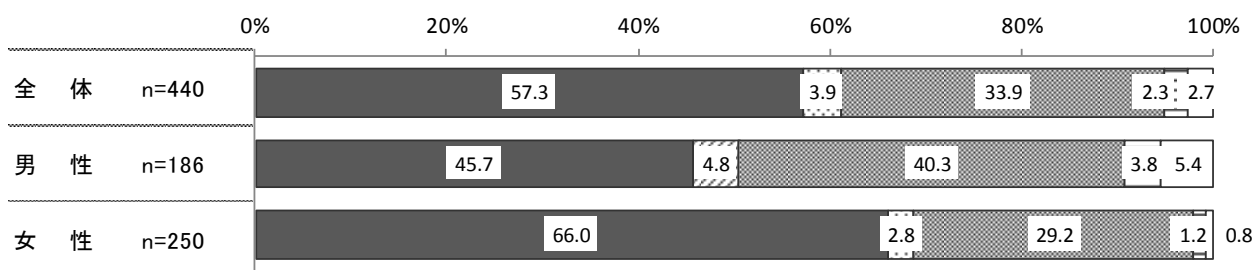
『好ましい』57.3%＞『好ましくない』3.9%

【単数回答】

「女性が職業を持ち続けることについて」という考え方については、「好ましい」との回答が57.3%、「好ましくない」が3.9%となっています。

性別でみると、「好ましい」との回答が男性で45.7%、女性で66.0%と女性が20.3ポイント上回っています。

年齢別では、30代で「好ましい」との回答が72.3%と、他の年代と比較して高くなっています。



■ 好ましい □ 好ましくない ▨ どちらともいえない □ わからない □ 不明・無回答

(3)「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方について

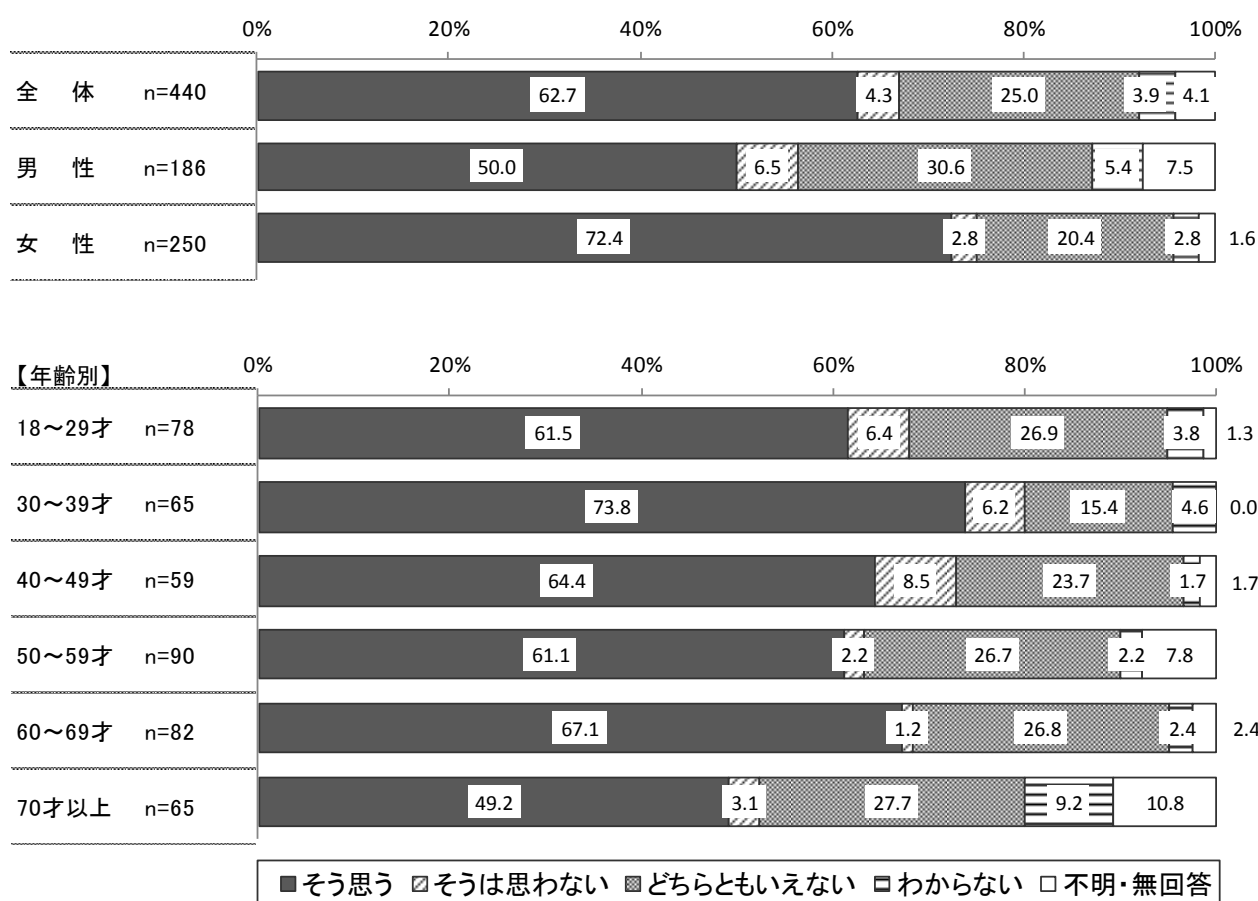
『そう思う』62.7%＞『そうは思わない』4.3%

【単数回答】

「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方については、「そう思う」との回答が62.7%、「そうは思わない」が4.3%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で50.0%、女性で72.4%と、女性が22.4ポイント上回っています。

年齢別では、30代で「そう思う」との回答が73.8%と、他の年代と比較して高くなっています。



(4)「現在、介護の必要な親の世話をしている人の大部分が女性である」 ことについて

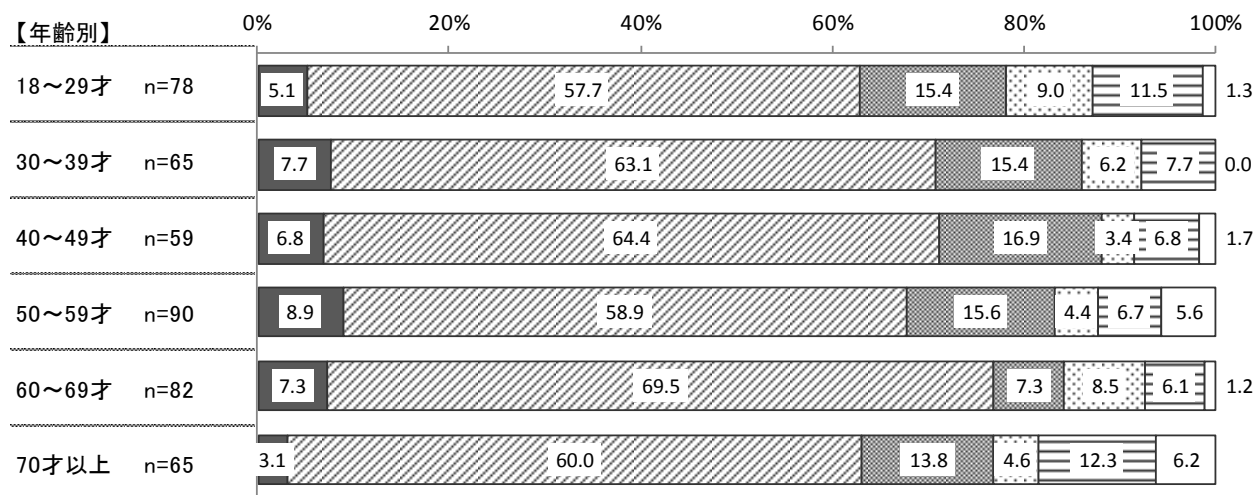
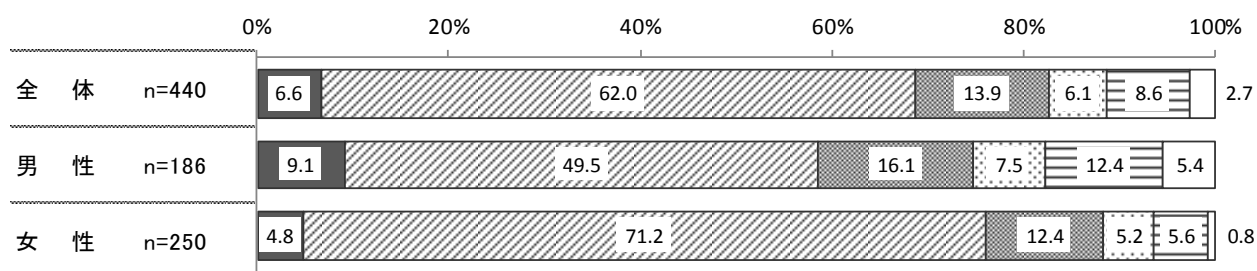
『男性も介護すべきである』62.0%＞『子どもが介護すべきである』13.9%＞
『女性が介護することはやむを得ない』6.6%

【単数回答】

「現在、介護の必要な親の世話をしている人の大部分が女性である」 ことについては、「男性も女性とともに介護すべきである」との回答が 62.0%と最も高く、次いで「男女にかかわらずに実の子どもが介護すべきである」が 13.9%、「主に女性が介護することはやむをえない」が 6.6%となっています。

性別でみると、男女とも「男性も女性とともに介護すべきである」が最も高くなっていますが、男性が 49.5%となっているのに対し、女性は 71.2%となっており、男女差で大きな開きがみられます。

年齢別では、60代で「男性も女性とともに介護すべきである」との回答が 69.5%と、他の年代と比較して高くなっています。



- 主に女性が介護することはやむをえない
- ▨ 男性も女性とともに介護すべきである
- ▤ 男女にかかわらずに実の子どもが介護すべきである
- ▦ その他
- わからない
- 不明・無回答

(5)「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について

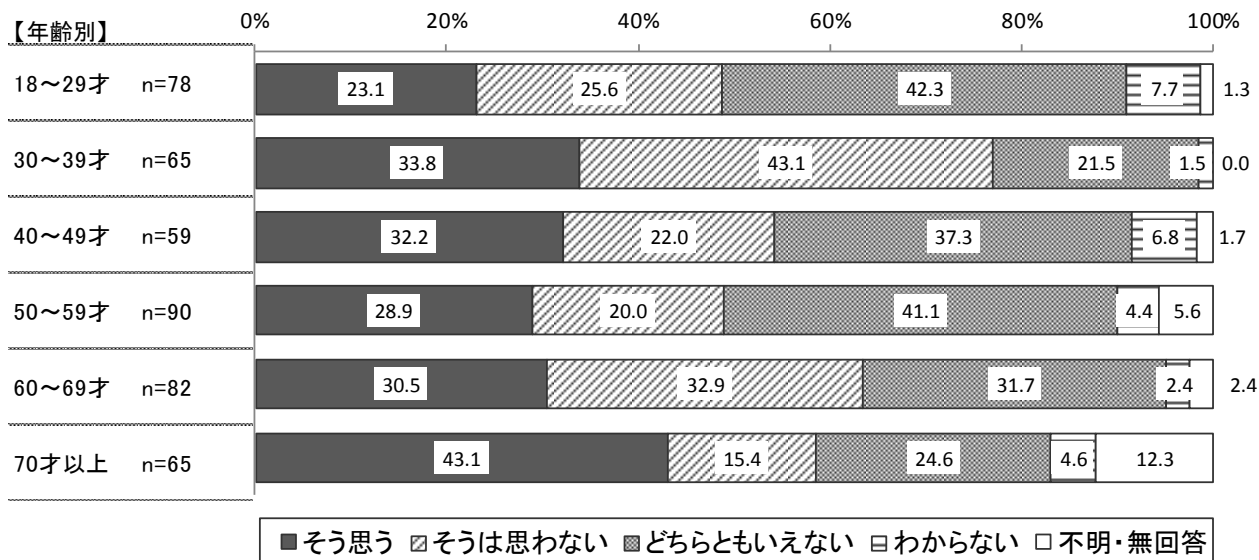
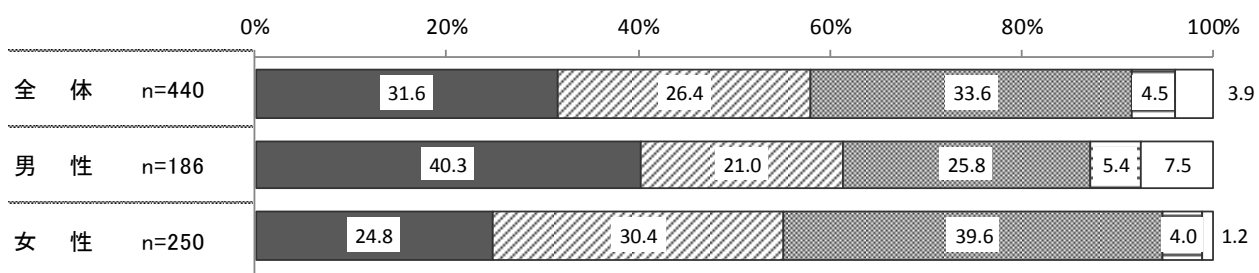
『そう思う』31.6%＞『そうは思わない』26.4%

【単数回答】

「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方については、「そう思う」との回答が31.6%、「そうは思わない」が26.4%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で40.3%、女性で24.8%と、男性が15.5ポイント上回っています。

年齢別では、70才以上で「そう思う」との回答が4割を超えており、他の年代と比較して高くなっています。



(6)「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」という考え方について

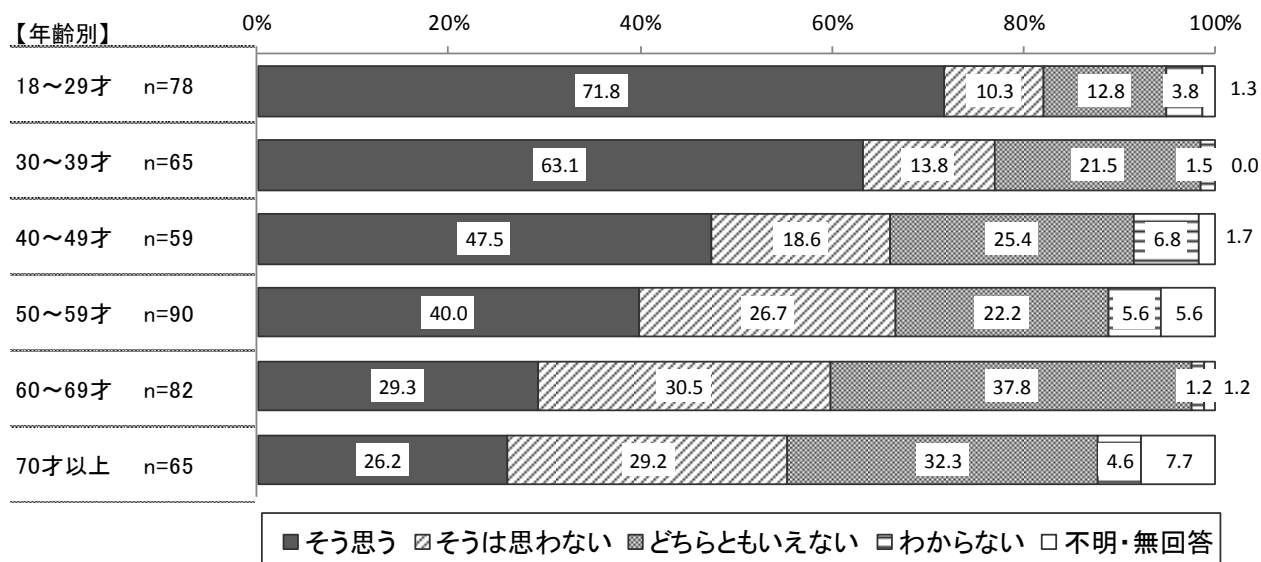
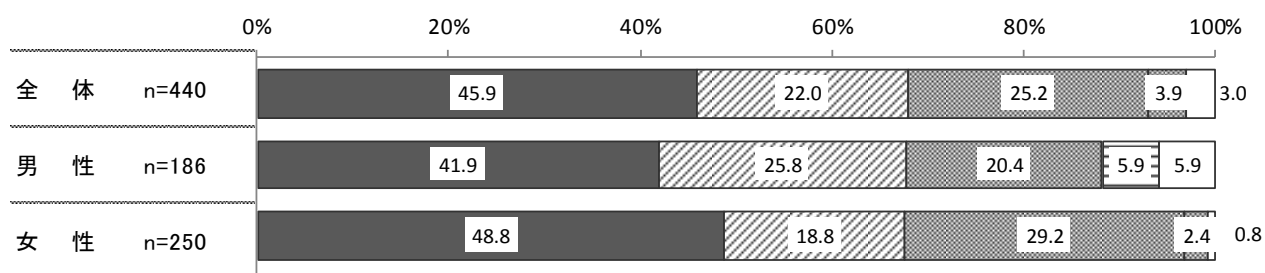
『そう思う』45.9%＞『そうは思わない』22.0%

【単数回答】

「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」という考え方については、「そう思う」との回答が45.9%、「そうは思わない」が22.0%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で41.9%、女性で48.8%と女性が6.9ポイント上回っています。

年齢別では、若年層ほど「そう思う」と回答する割合が高く、18～29才、30代では6割を超えています。また、年齢とともに低くなる傾向にあり、年齢間で大きな差がみられます。



(7)「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい」という考え方について

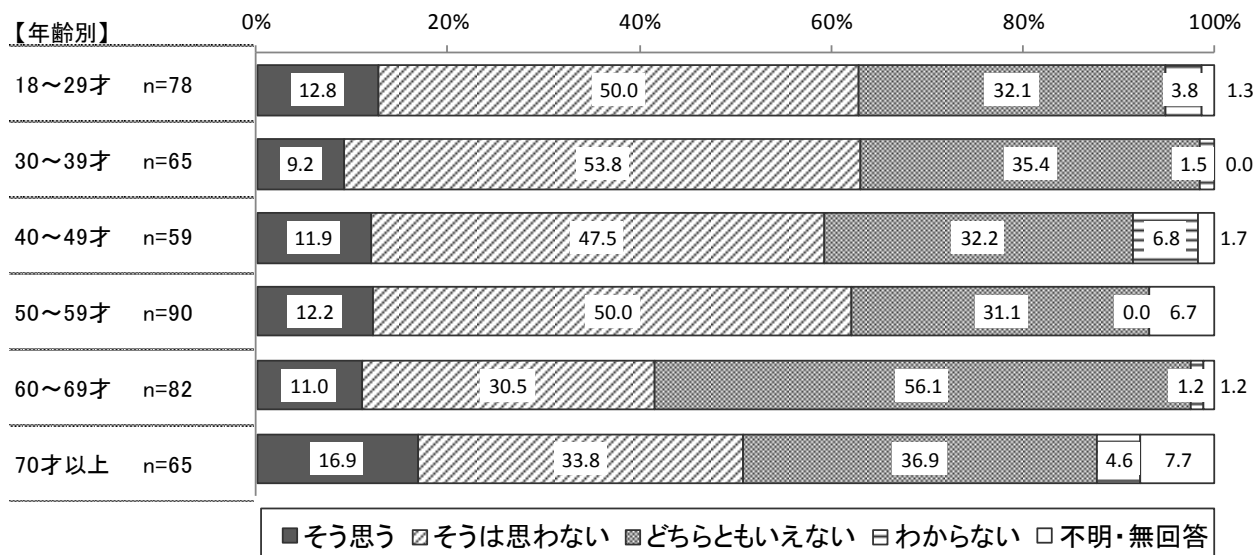
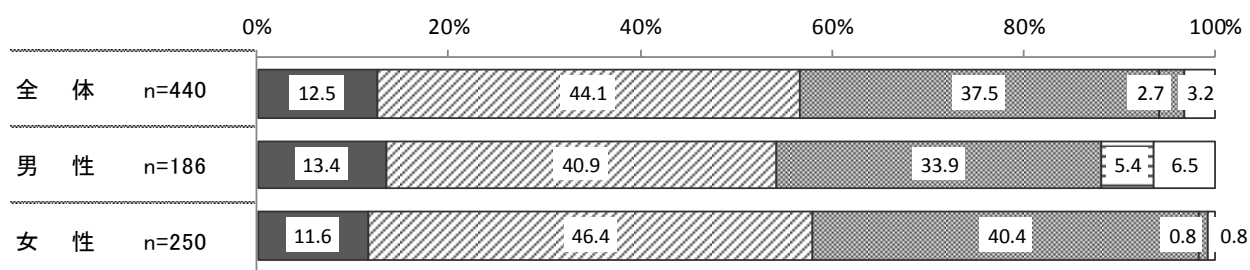
『そうは思わない』44.1%＞『そう思う』12.5%

【単数回答】

「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい」という考え方については、「そう思う」との回答が 12.5%、「そうは思わない」が 44.1%となっています。

性別でみると、女性の方が、「そうは思わない」と回答する割合がやや高くなっています。

年齢別では、「そうは思わない」との回答は 18～29 才から 50 代までは 5 割前後を占め高くなっているのに対し、60 才以上では 3 割程度となっています。



(8)「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について

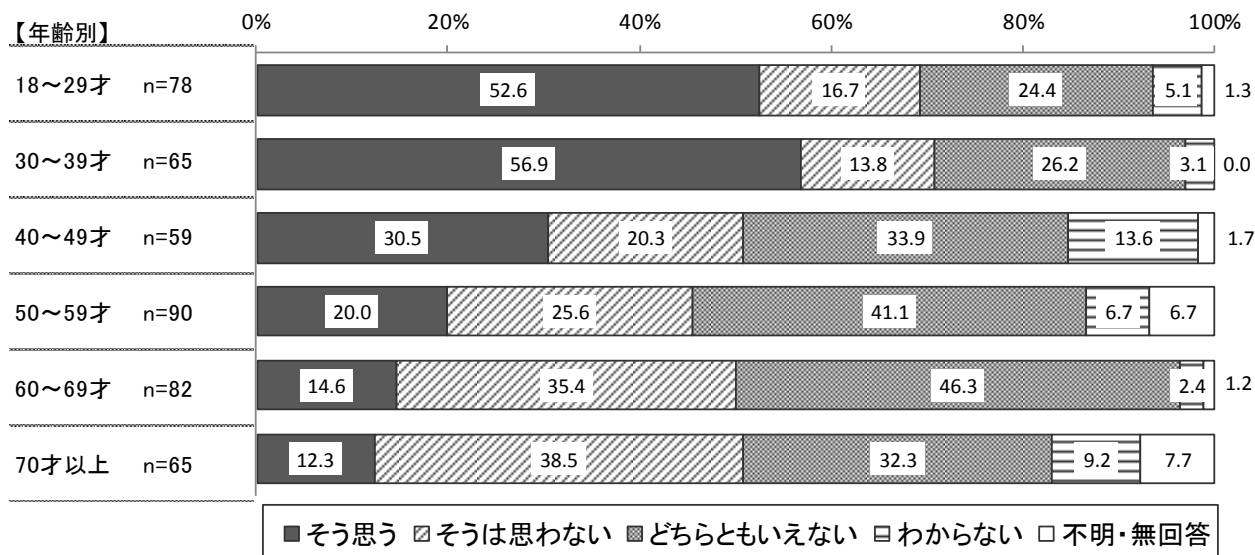
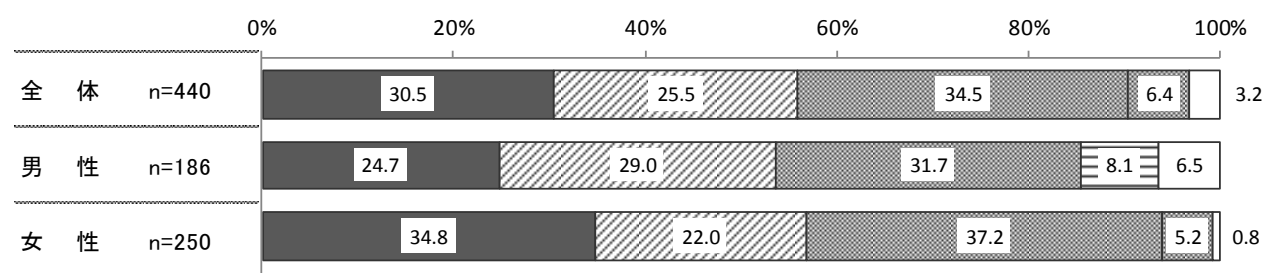
『そう思う』30.5%＞『そうは思わない』25.5%

【単数回答】

「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方については、「そう思う」との回答が30.5%、「そうは思わない」が25.5%となっています。

性別でみると、「そう思う」との回答が男性で24.7%、女性で34.8%と女性が10.1ポイント上回っています。

年齢別では、若年層ほど「そう思う」と回答する割合が高く、18～29才、30代では5割を超えています。それに対し、「そうは思わない」との回答は年齢とともに高くなる傾向にあり、60才以上では4割弱を占めています。



(9)「結婚したら、離婚してはいけない」という考え方について

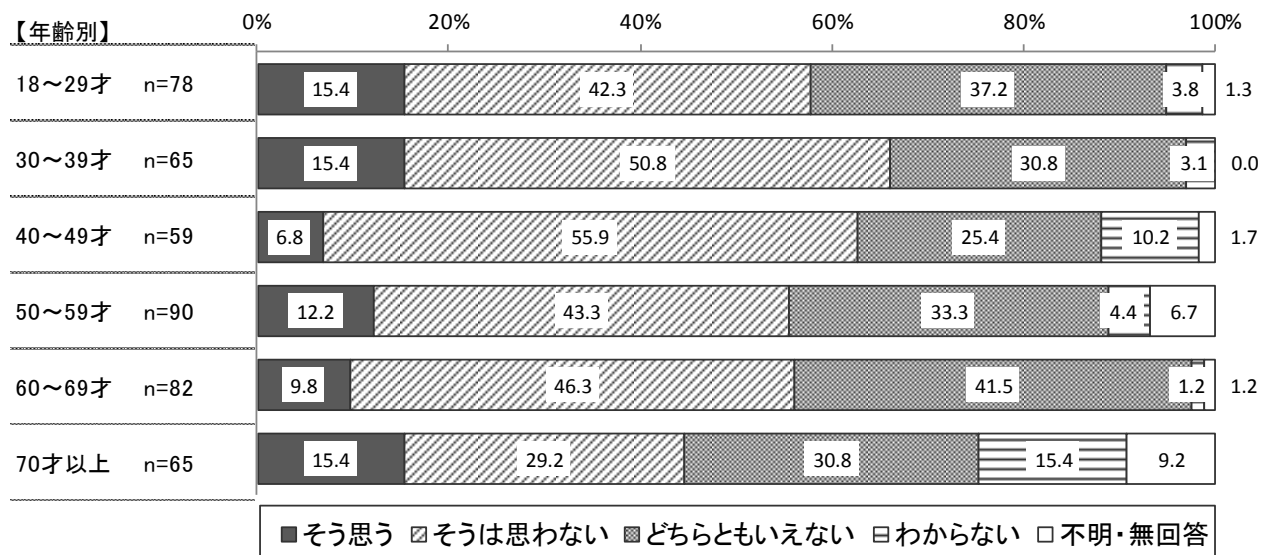
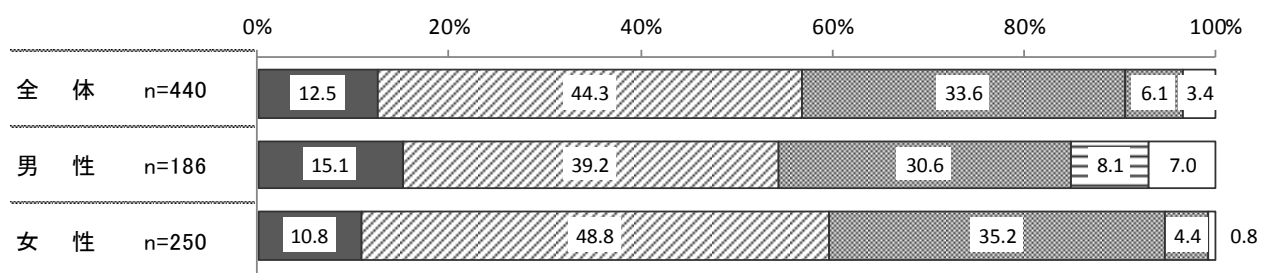
『そうは思わない』44.3%>『そう思う』12.5%

【単数回答】

「結婚したら、離婚してはいけない」という考え方については、「そう思う」との回答が 12.5%、「そうは思わない」が 44.3%となっています。

性別でみると、「そうは思わない」との回答が男性で 39.2%、女性で 48.8%と女性が 9.6 ポイント上回っています。

年齢別では、30～40代で「そうは思わない」との回答が5割を超えており、他の年代と比較して高くなっています。



3 仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス）について

【問7】

あなたのご家庭での男女の役割の現状を、次の(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。

(1) 食料品などの買出し

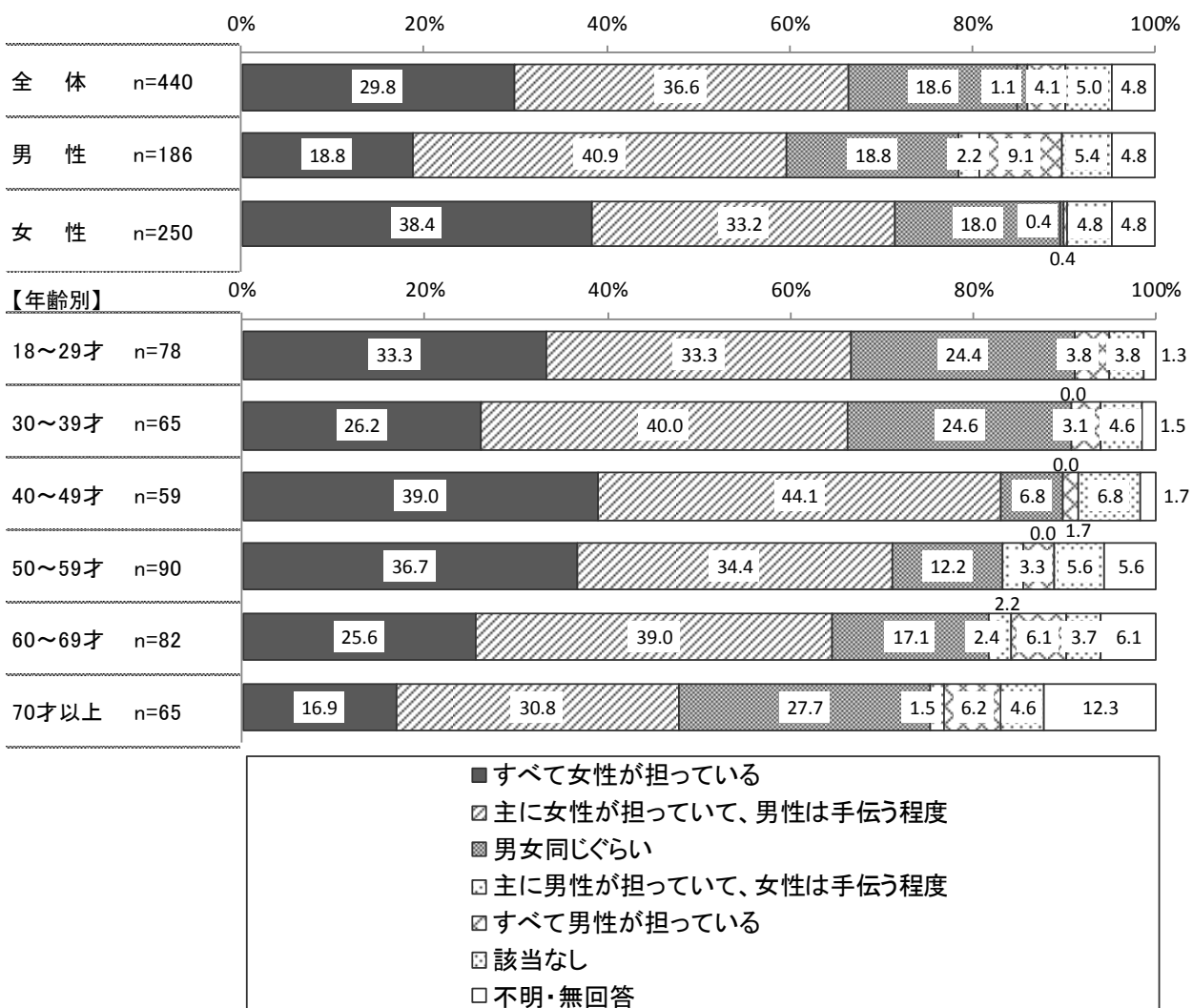
『女性が担っている』66.4%＞『男女同じくらい』18.6%＞『男性が担っている』5.2%

【単数回答】

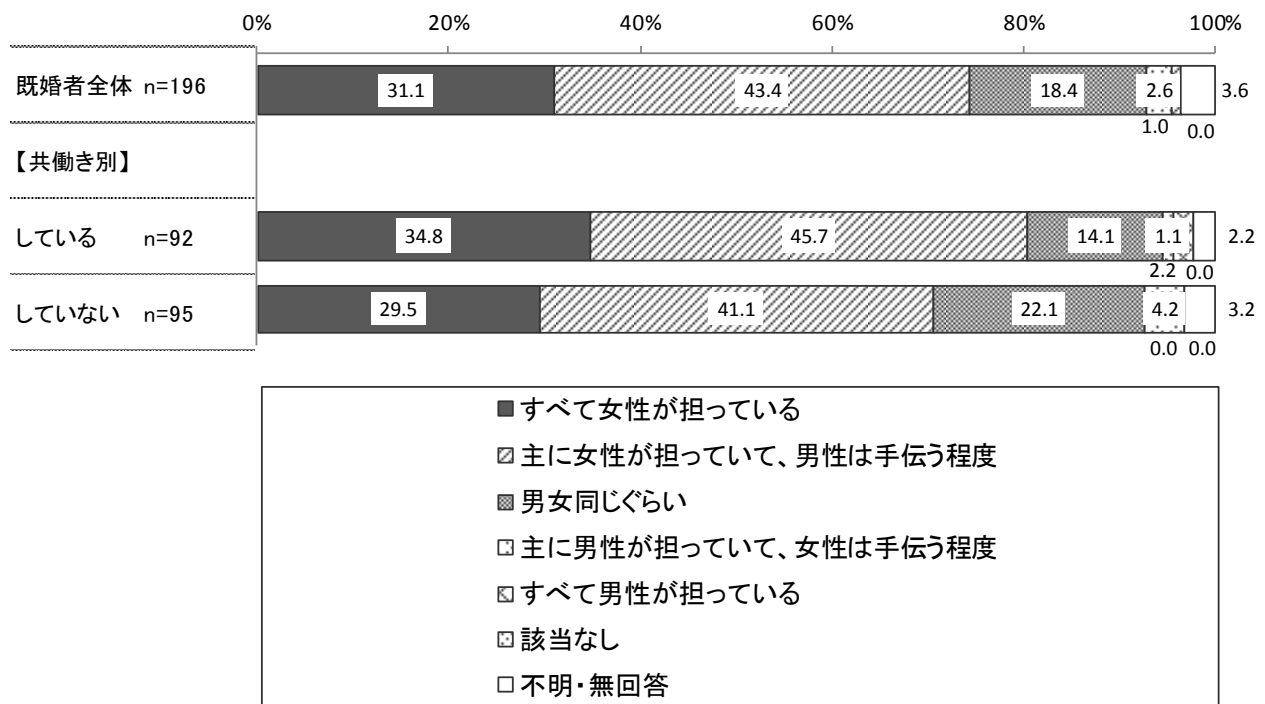
食料品などの買出しの男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が66.4%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で59.7%、女性で71.6%と女性が11.9ポイント上回っています。

年齢別では、『女性が担っている』との回答は40代で8割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が74.5%、共働き別では、共働きしている既婚者は80.5%、共働きしていない既婚者は70.6%と、共働きしていない既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が低くなっています。



(2) 食事の用意

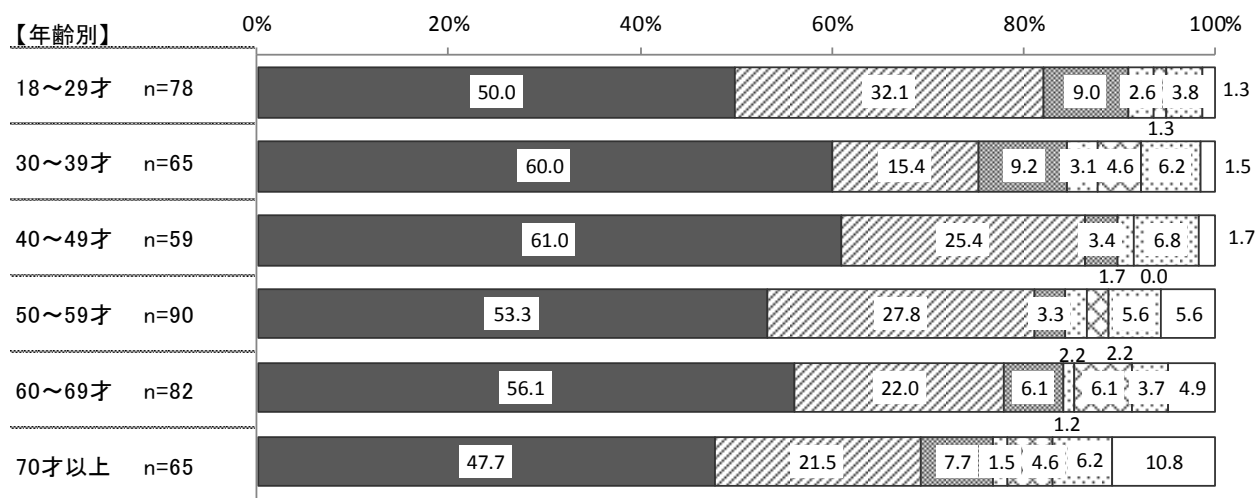
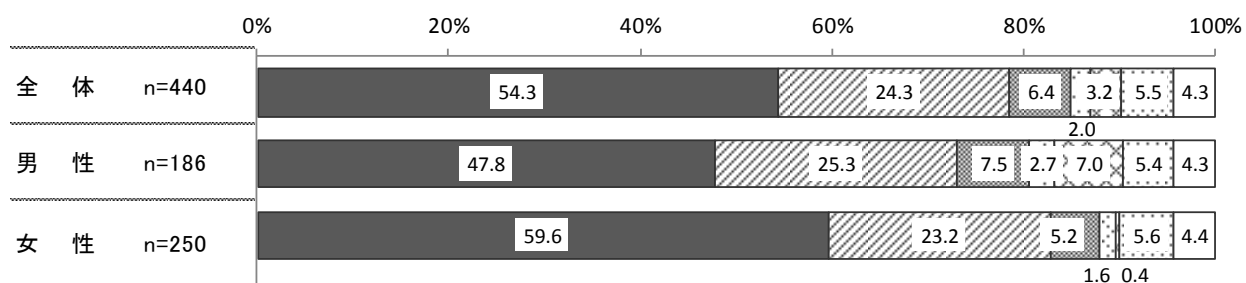
『女性が担っている』78.6%＞『男女同じくらい』6.4%＞『男性が担っている』5.2%

【単数回答】

食事の用意の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が78.6%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』が男性で73.1%、女性で82.8%と女性が9.7ポイント上回っています。

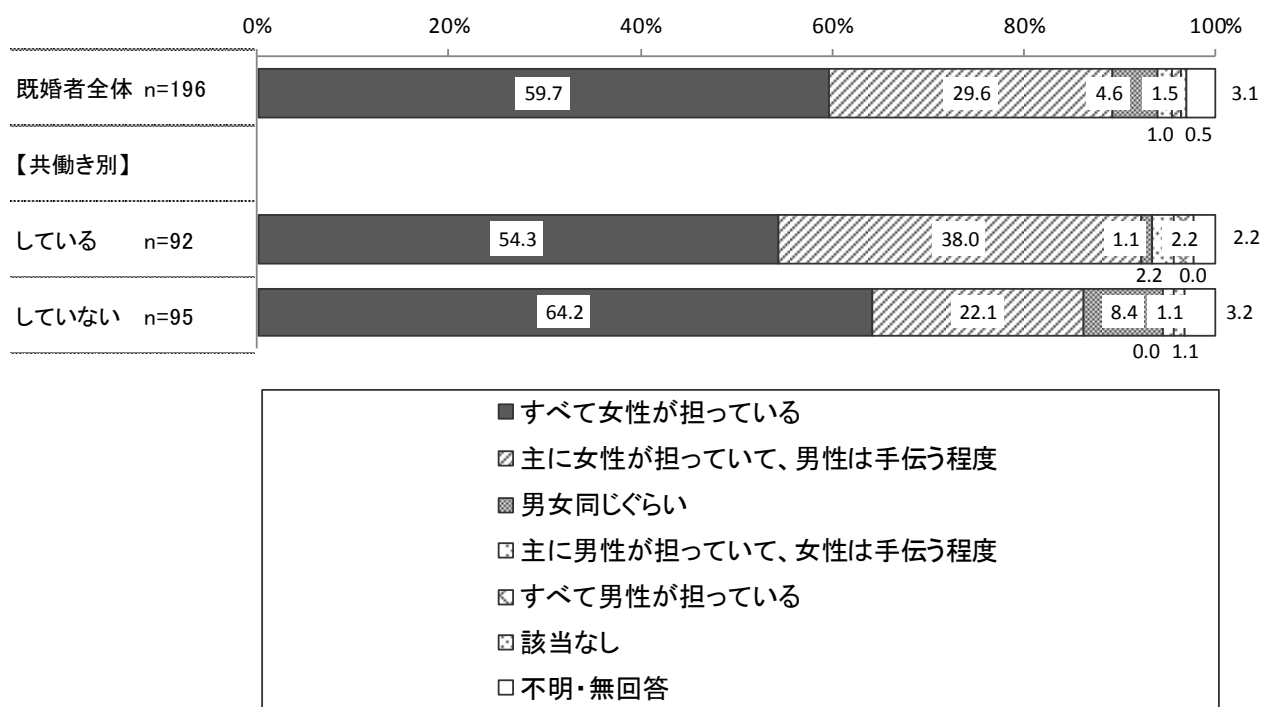
年齢別では、70才以上では『女性が担っている』との回答が69.2%と他の年代に比べて低くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- ▤ 男女同じくらい
- ▩ 主に男性が担っていて、女性は手伝う程度
- ▦ すべて男性が担っている
- 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が89.3%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は92.3%、共働きしていない既婚者は86.3%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(3) 食事の後片付け

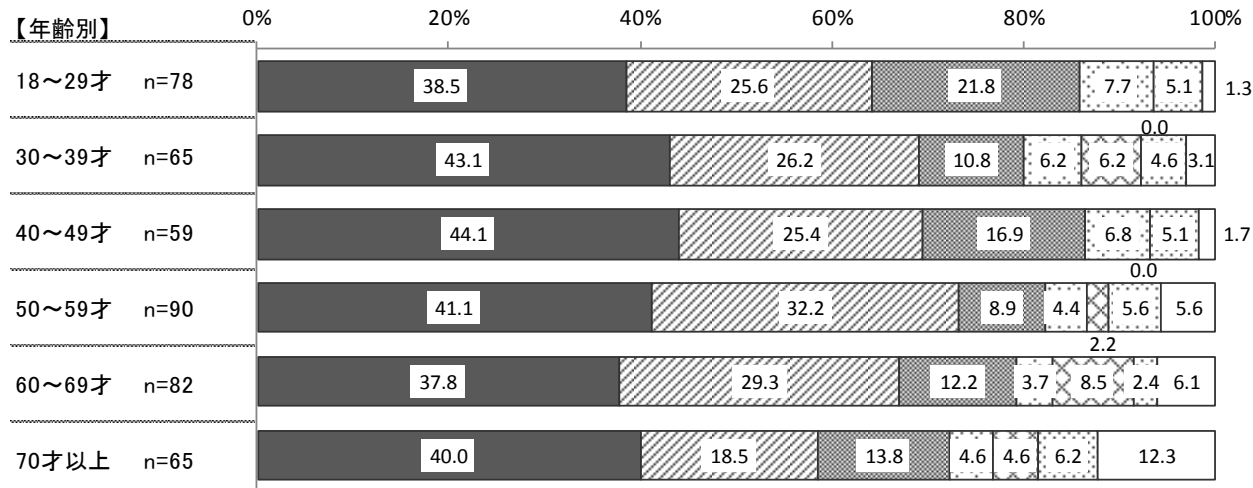
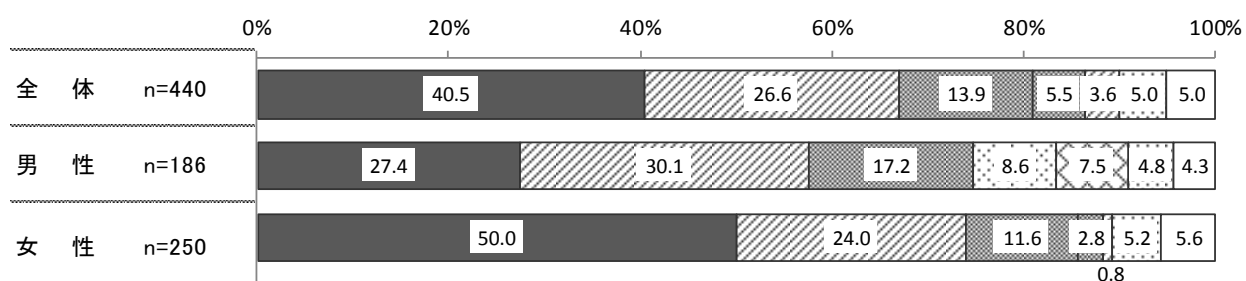
『女性が担っている』67.1%＞『男女同じくらい』13.9%＞『男性が担っている』9.1%

【単数回答】

食事の後片付けの男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が67.1%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』が男性で57.5%、女性で74.0%と女性が16.5ポイント上回っています。

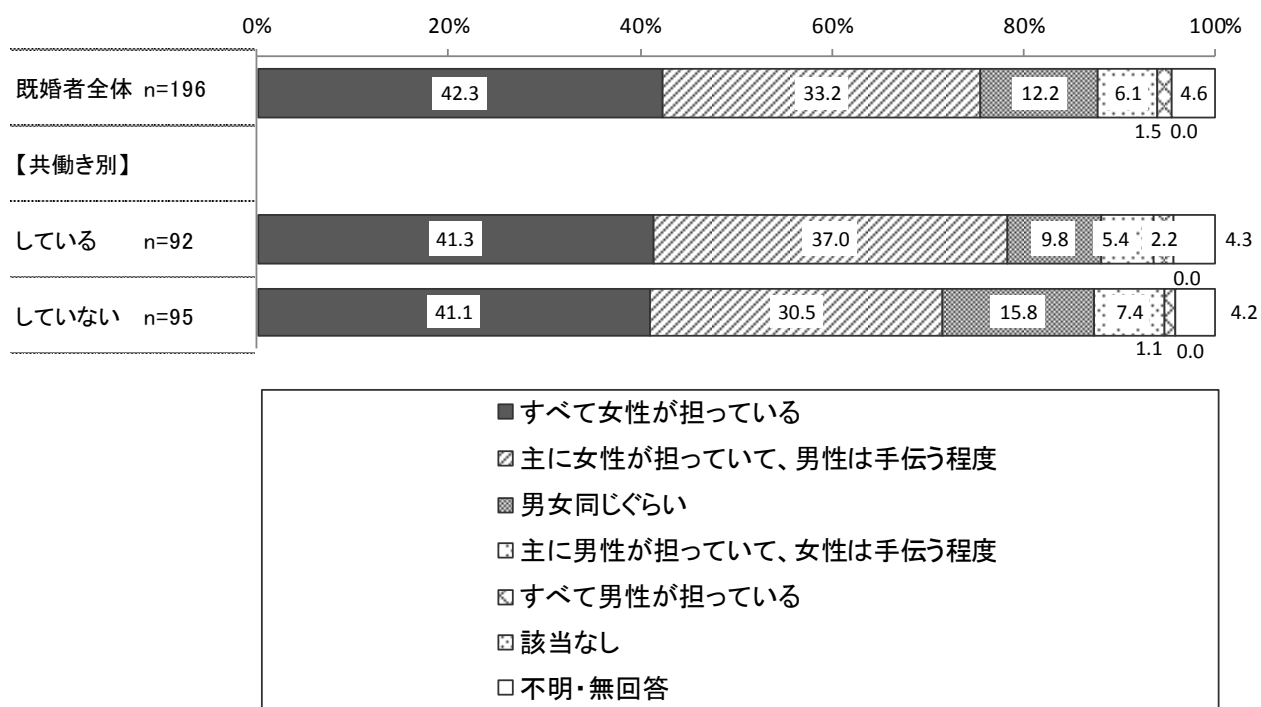
年齢別では、50代で『女性が担っている』との回答が73.3%となっており、他の年代に比べてやや高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- ▤ 男女同じくらい
- ▩ 主に男性が担っていて、女性は手伝う程度
- ▦ すべて男性が担っている
- 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が75.5%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は78.3%、共働きしていない既婚者は71.6%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合がやや高くなっています。



(4) 乳幼児の世話

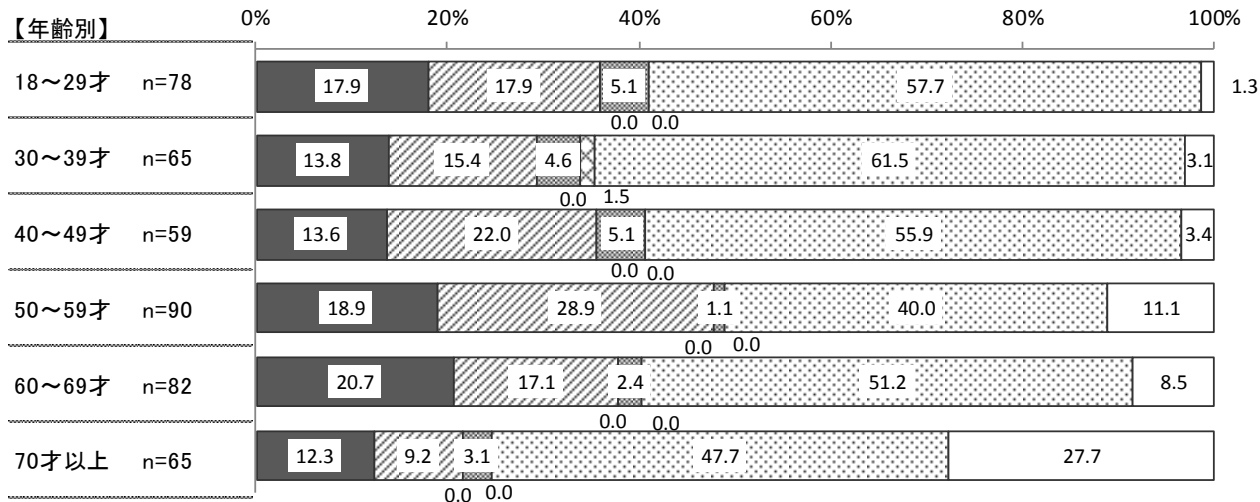
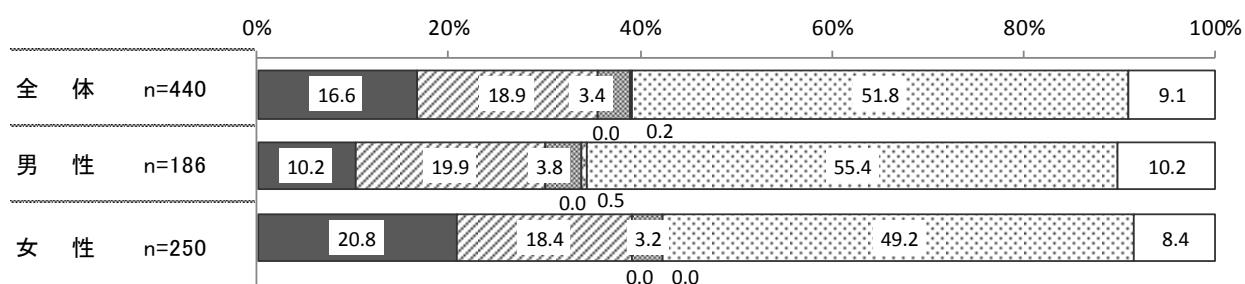
『女性が担っている』35.5%＞『男女同じくらい』3.4%＞『男性が担っている』0.2%

【単数回答】

乳幼児の世話の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が35.5%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で30.1%、女性で39.2%と女性が9.1ポイント上回っています。

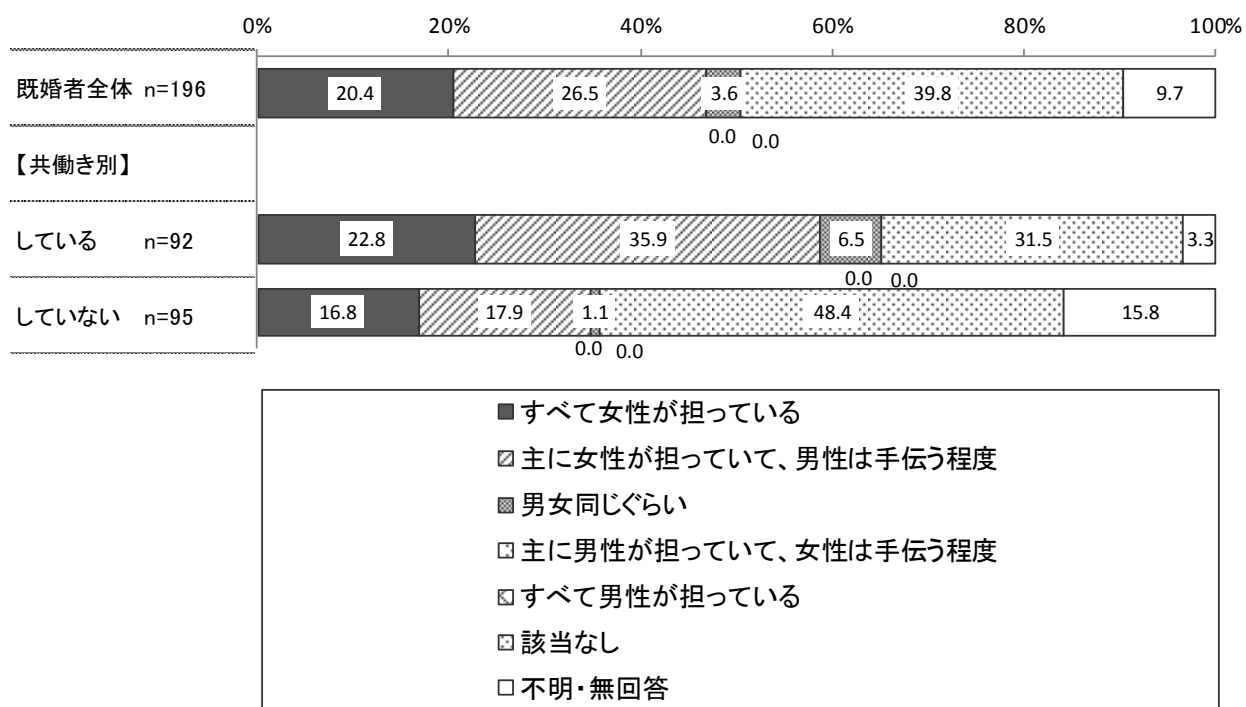
年齢別では、50代で『女性が担っている』との回答が5割弱を占め、他の年代に比べて高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- ▤ 男女同じくらい
- ▧ 主に男性が担っていて、女性は手伝う程度
- ▩ すべて男性が担っている
- 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 46.9%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は 58.7%、共働きしていない既婚者は 34.7%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(5) 子どものしつけや家庭での教育

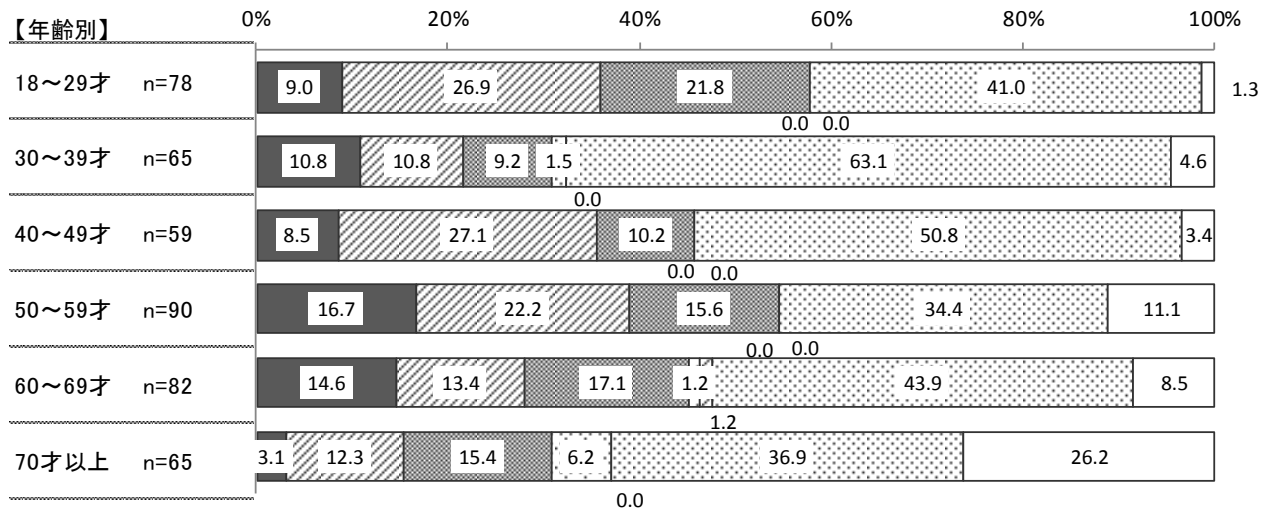
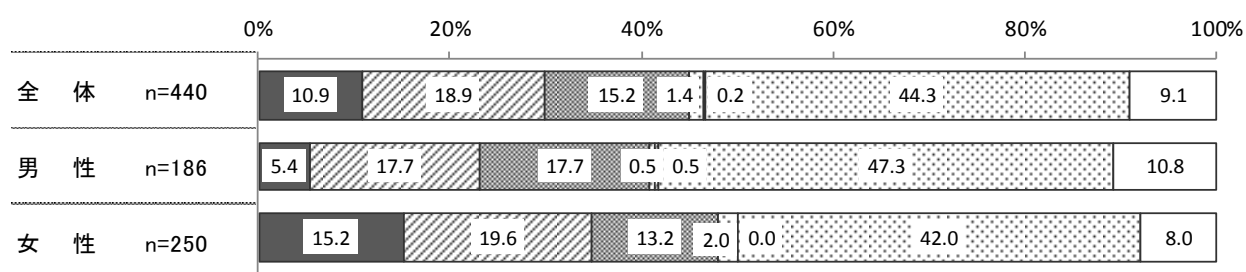
『女性が担っている』29.8%＞『男女同じくらい』15.2%＞『男性が担っている』1.6%

【単数回答】

子どものしつけや家庭での教育の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が29.8%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で23.1%、女性で34.8%と女性が11.7ポイント上回っています。

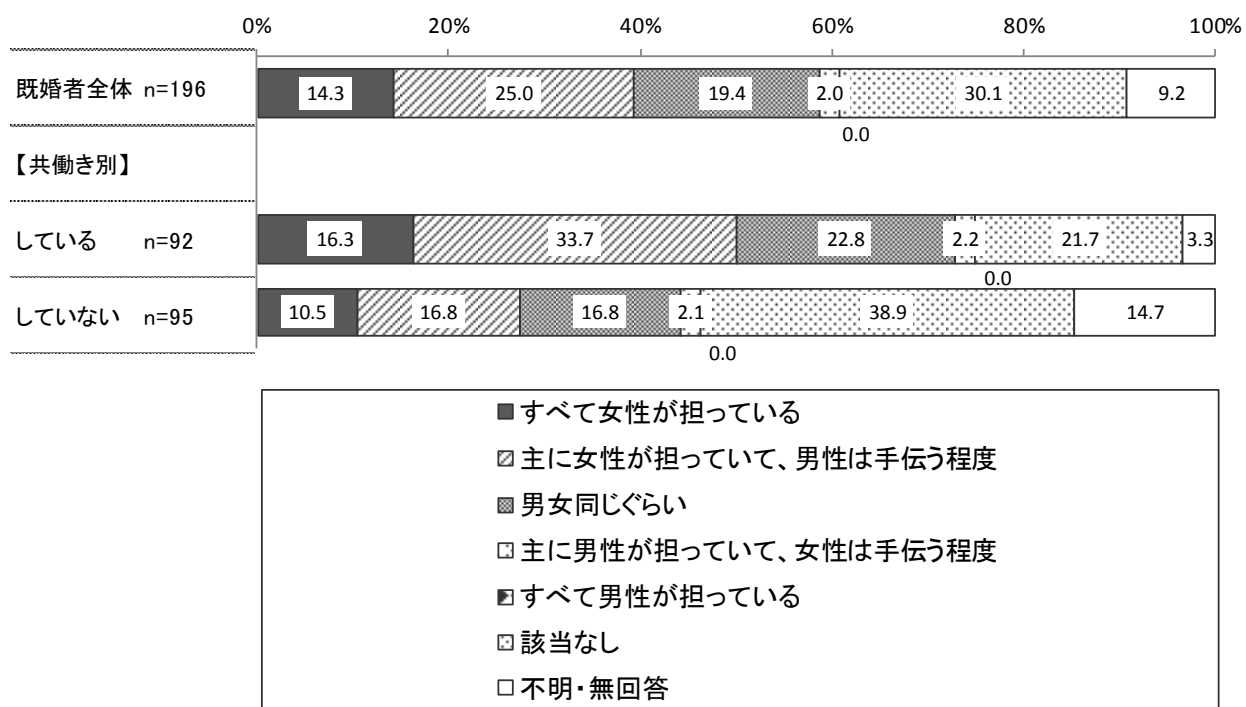
年齢別では、18～29才では「男女同じくらい」が21.8%と他の年代に比べて高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- ▤ 男女同じくらい
- ▧ 主に男性が担っていて、女性は手伝う程度
- ▩ すべて男性が担っている
- 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が39.3%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は50.0%、共働きしていない既婚者は27.3%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(6) 子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加

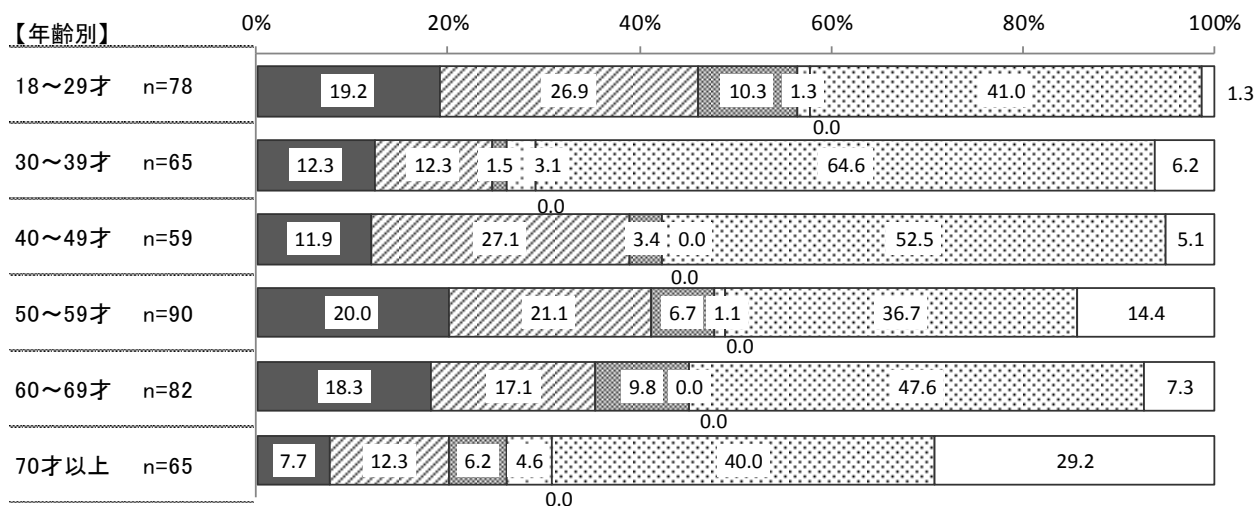
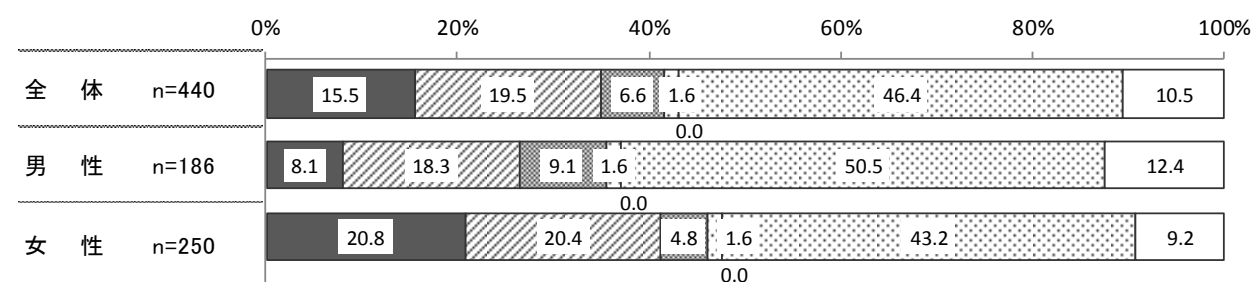
『女性が担っている』35.0%＞『男女同じくらい』6.6%＞『男性が担っている』1.6%

【単数回答】

子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が35.0%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で26.4%、女性で41.2%と女性が14.8ポイント上回っています。

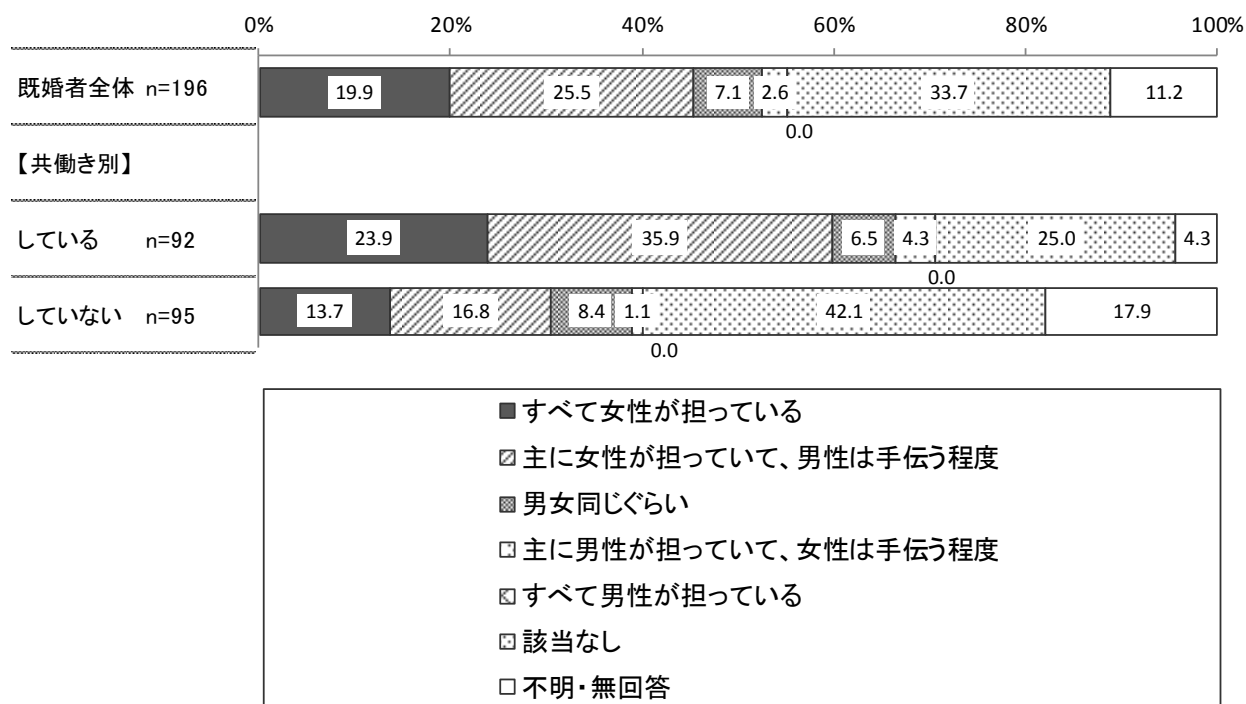
年齢別では、18～29才で『女性が担っている』との回答が46.1%と、他の年代と比較して高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- 男女同じくらい
- ▨ 主に男性が担っていて、女性の手伝う程度
- すべて男性が担っている
- ▨ 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が 45.4%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は 59.8%、共働きしていない既婚者は 30.5%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(7) 洗濯、掃除

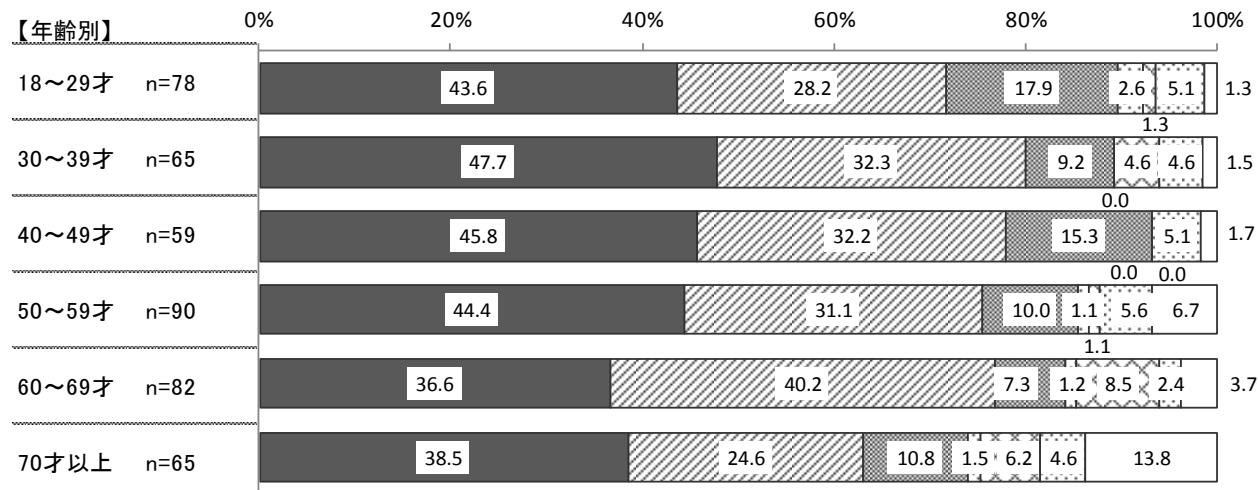
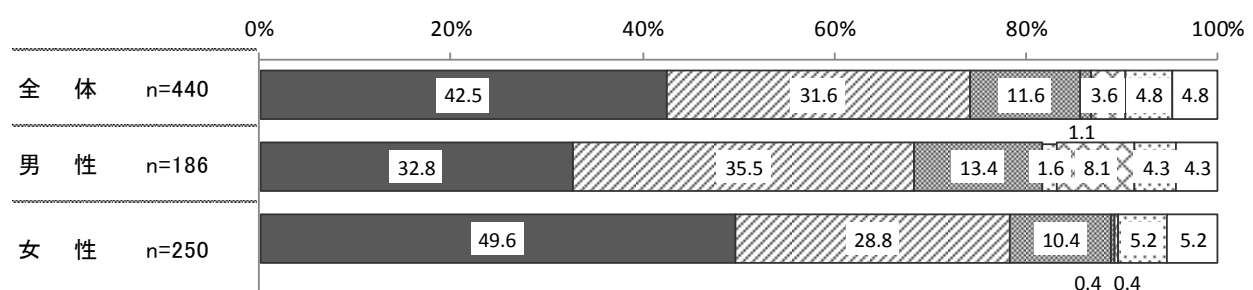
『女性が担っている』74.1%＞『男女同じくらい』11.6%＞『男性が担っている』4.7%

【単数回答】

洗濯、掃除の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が74.1%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で68.3%、女性で78.4%と女性が10.1ポイント上回っています。

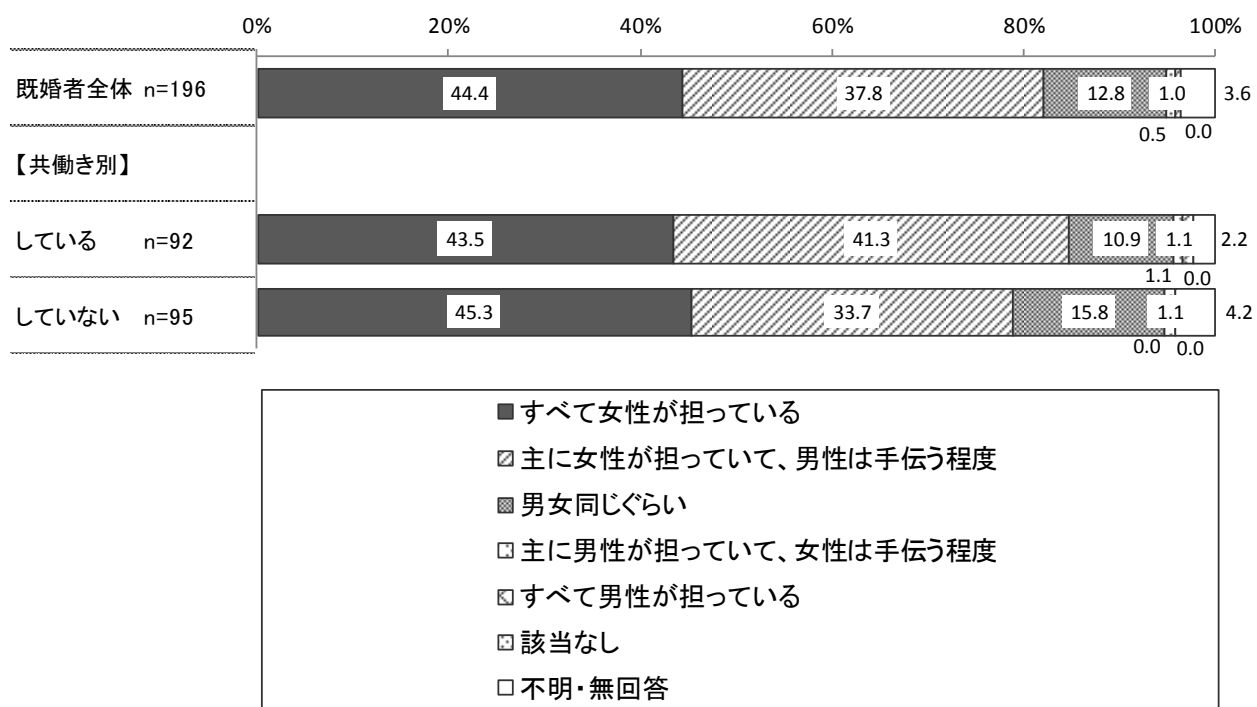
年齢別では、18～29才では「男女同じくらい」との回答が17.9%と、他の年代と比較して高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じくらい
- ▨ 主に男性が担っていて、女性は手伝う程度
- ▩ すべて男性が担っている
- 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が82.2%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は84.8%、共働きしていない既婚者は79.0%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(8) ゴミ出し

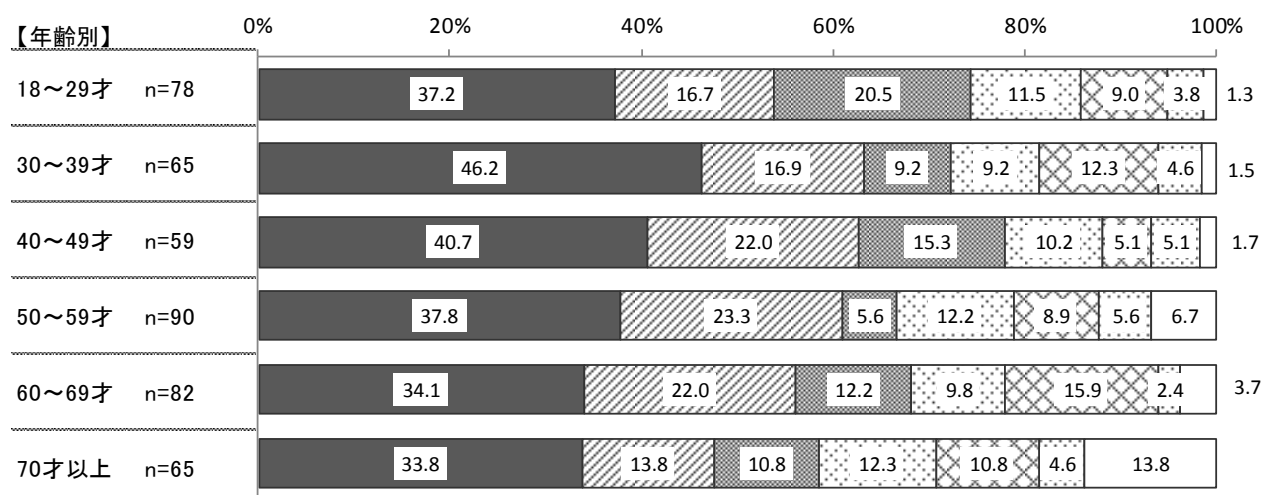
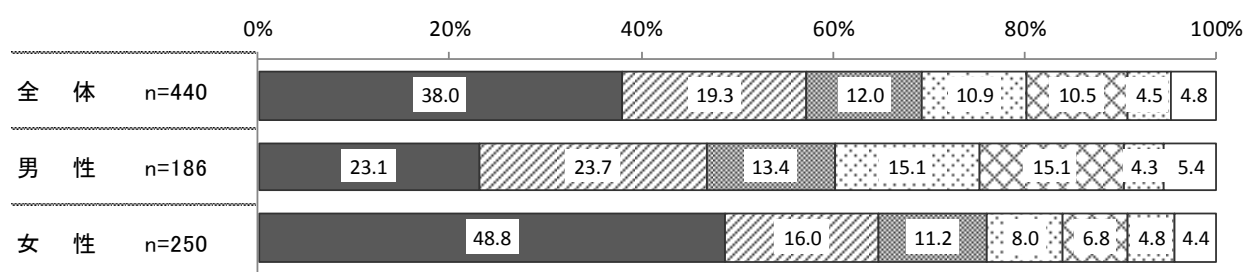
『女性が担っている』57.3%＞『男性が担っている』21.4%＞『男女同じくらい』12.0%

【単数回答】

ゴミ出しの男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が57.3%となっており、次いで『男性が担っている』との回答が21.4%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で46.8%、女性で64.8%と女性が18.0ポイント上回っています。

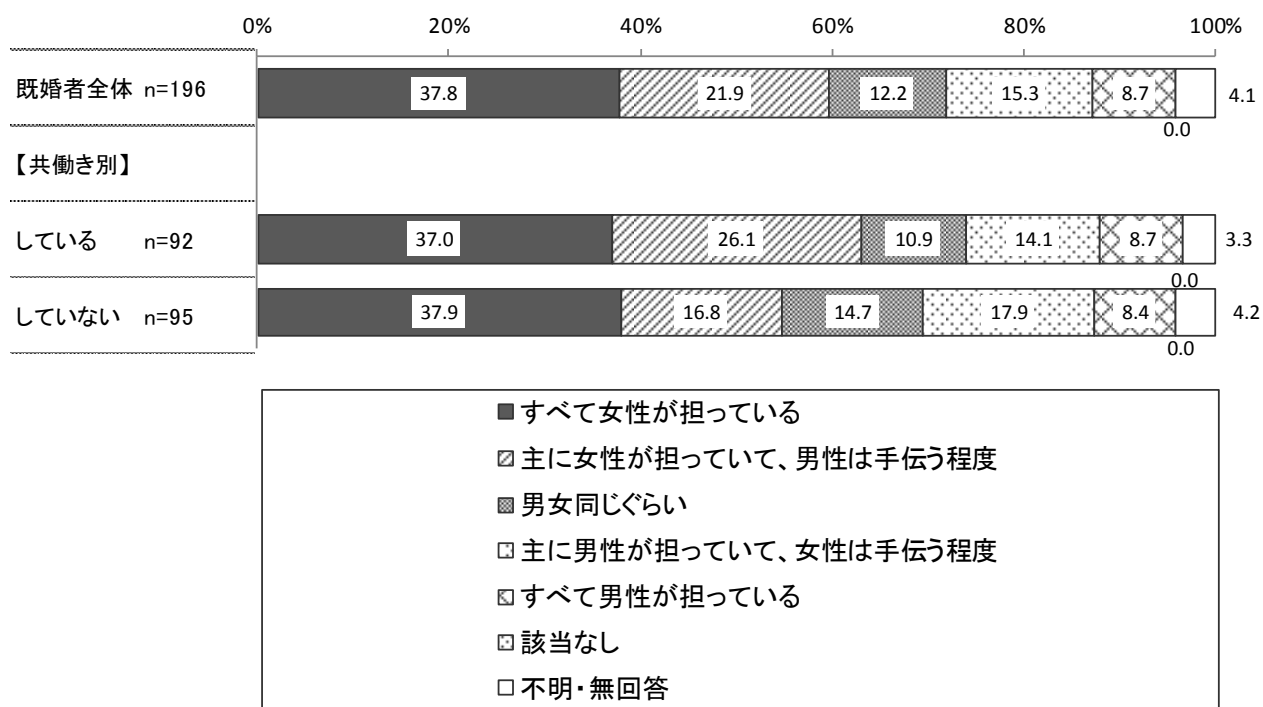
年齢別では、30～50代で『女性が担っている』との回答が6割を超えています。また、18～29才では「男女同じくらい」が20.5%と、他の年代と比較して高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- 男女同じくらい
- ▨ 主に男性が担っていて、女性の手伝う程度
- ▨ すべて男性が担っている
- ▨ 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が59.7%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は63.1%、共働きしていない既婚者は54.7%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(9) 家計の管理

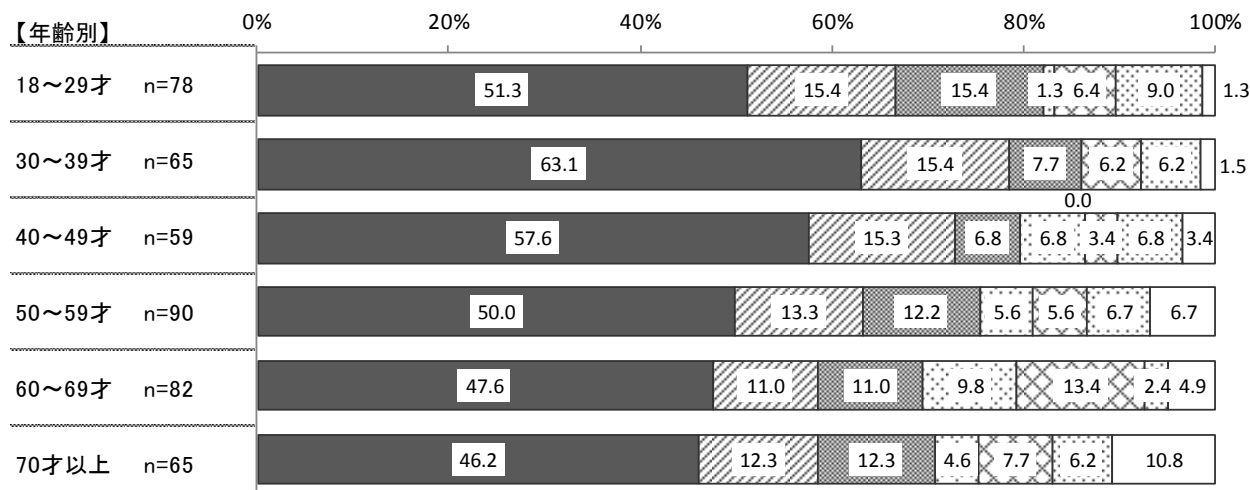
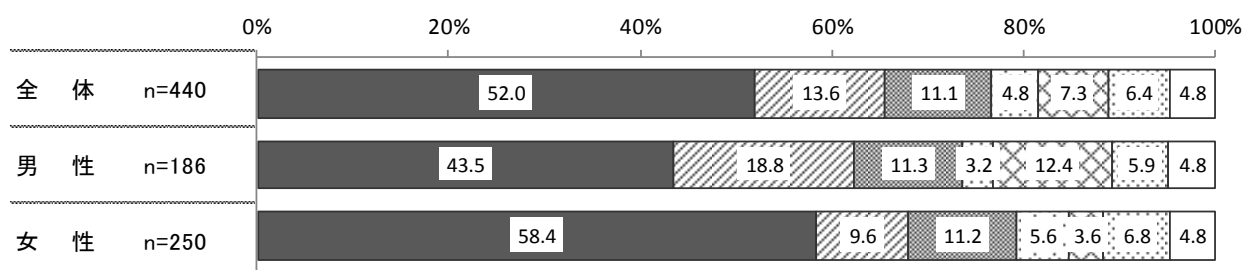
『女性が担っている』65.6%＞『男性が担っている』12.1%＞『男女同じくらい』11.1%

【単数回答】

家計の管理の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が65.6%となっており、次いで『男性が担っている』との回答が12.1%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で62.3%、女性で68.0%と、女性が5.7ポイント上回っています。

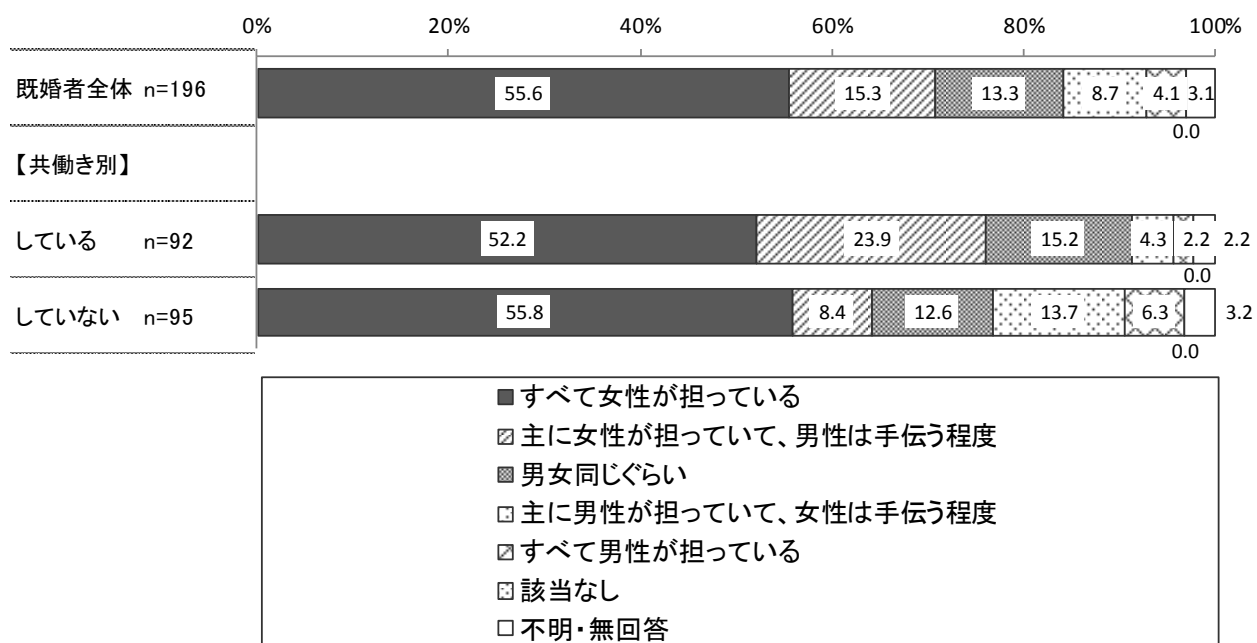
年齢別では、30～40代で『女性が担っている』との回答が7割を超え、他の年代と比較して高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じくらい
- ▤ 主に男性が担っていて、女性は手伝う程度
- ░ すべて男性が担っている
- 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が70.9%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は76.1%、共働きしていない既婚者は64.2%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



(10) 家族の介護

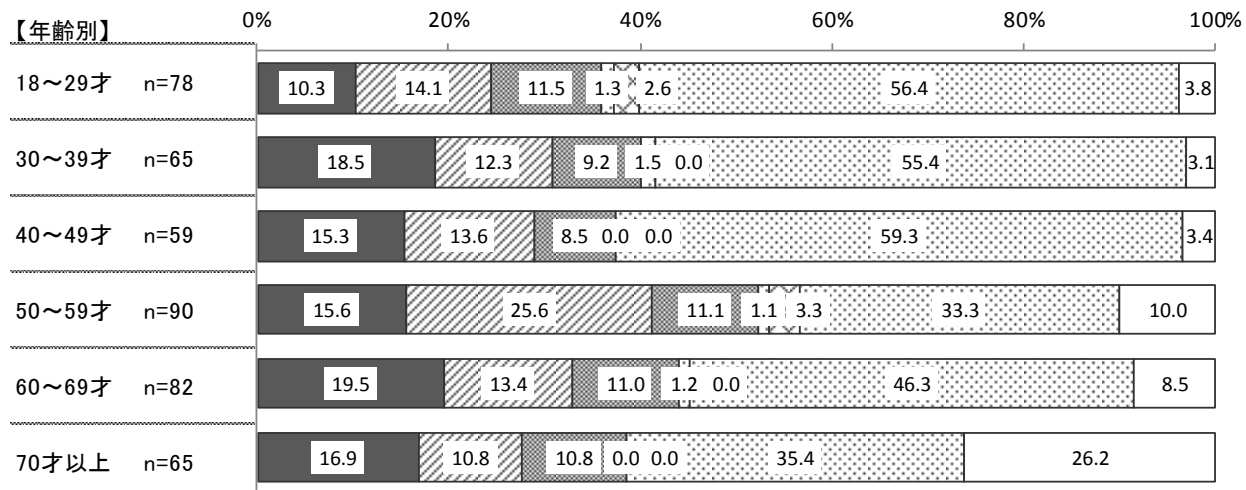
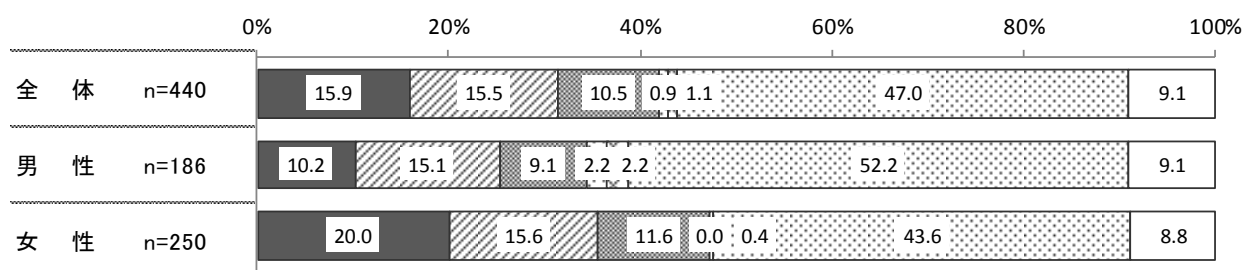
『女性が担っている』31.4%＞『男女同じくらい』10.5%＞『男性が担っている』2.0%

【単数回答】

家族の介護の男女の役割の現状については、「すべて女性が担っている」と「主に女性が担っていて、男性は手伝う程度」を合わせた『女性が担っている』との回答が31.4%となっています。

性別でみると、『女性が担っている』との回答が男性で25.3%、女性で35.6%と女性が10.3ポイント上回っています。

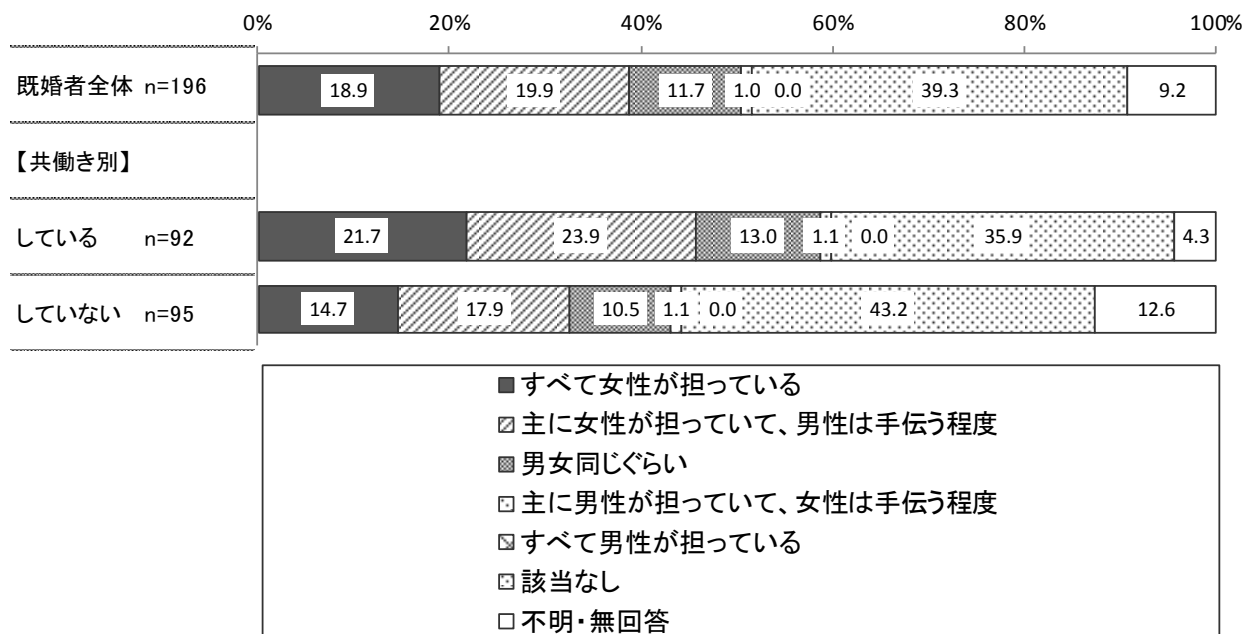
年齢別では、50代で『女性が担っている』との回答が4割を超え、他の年代と比較して高くなっています。



- すべて女性が担っている
- ▨ 主に女性が担っていて、男性は手伝う程度
- 男女同じくらい
- ▨ 主に男性が担っていて、女性の手伝う程度
- すべて男性が担っている
- ▨ 該当なし
- 不明・無回答

既婚者全体では、『女性が担っている』との回答が38.8%となっています。

共働き別では、共働きしている既婚者は45.6%、共働きしていない既婚者は32.6%と、共働きしている既婚者で『女性が担っている』と回答する割合が高くなっています。



【問8】

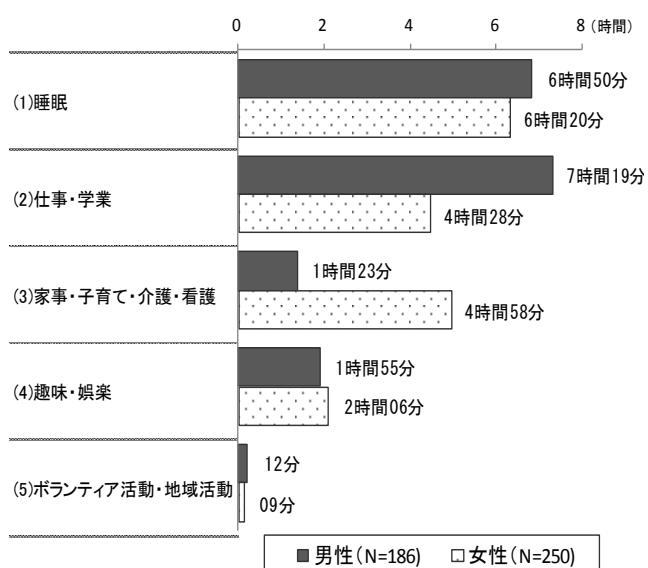
あなたは、平均的な1日の生活時間をどのように過ごしていますか。次の(1)～(5)のそれぞれの平日と休日の両方についてお答えください。(枠内に「およその合計時間」をご記入ください。該当がない場合は「0時間」とご記入ください。)

「仕事時間」は男性の方が約3時間長いに対し、「家事時間」は平・休日とも女性の方が4時間程度長い

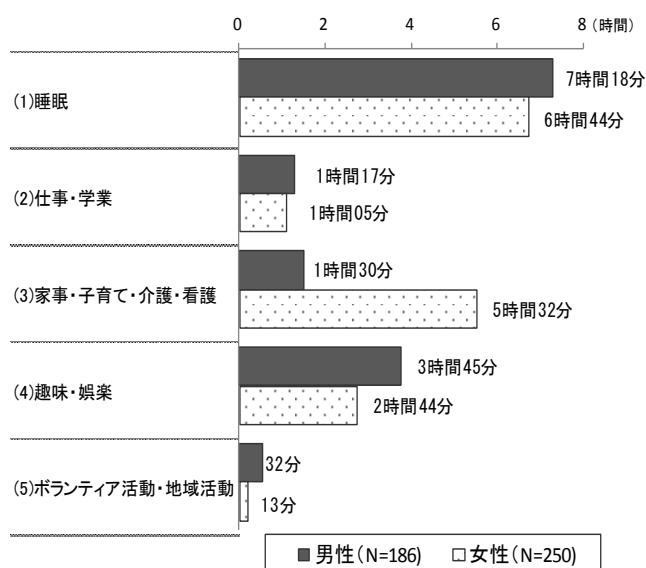
【数量回答】

1日の生活平均時間については、平日では、「仕事・学業」「家事・子育て・介護・看護」の男女差がそれぞれ大きくなっています。休日では、「家事・子育て・介護・看護」の男女差が大きくなっています。

【1日の生活平均時間（平日）】



【1日の生活平均時間（休日）】



(1) 睡眠

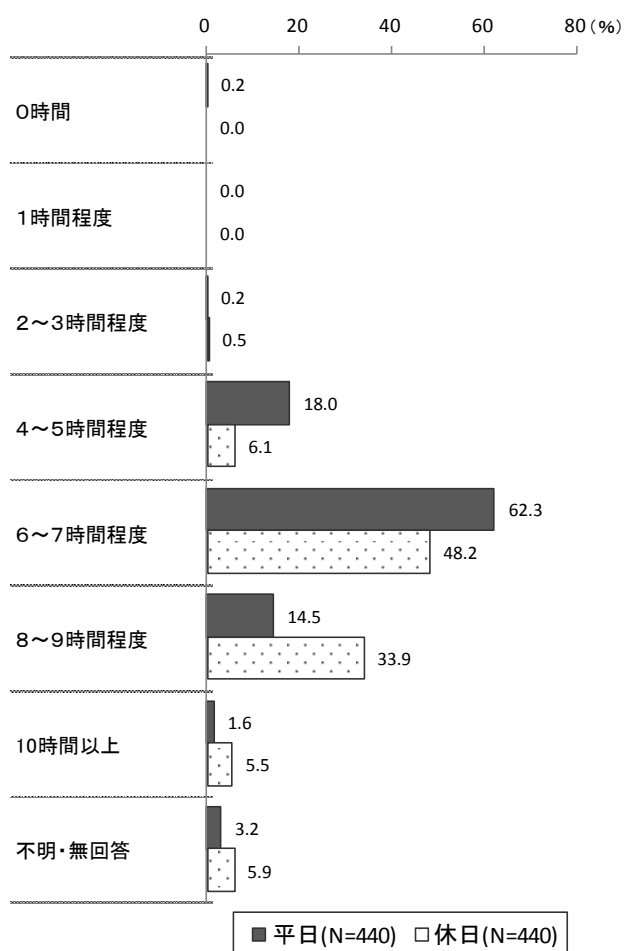
「睡眠時間」は、平・休日とも男性の方がやや長い

【数量回答】

睡眠については、平日・休日ともに「6～7時間程度」との回答がそれぞれ62.3%、48.2%と最も高くなっています。

性別でみると、平均睡眠時間は、平日・休日ともに女性は全体の平均睡眠時間を下回っているものの、男性は上回っています。

男女別共働き別でみると、男性は共働きの区別なく、平日・休日ともに全体の平均時間を上回っているのに対し、女性は下回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=440	6時間32分	6時間58分
男性	n=186	6時間50分	7時間18分
共働きしている	n=36	6時間43分	7時間19分
共働きしていない	n=43	6時間57分	7時間20分
女性	n=250	6時間20分	6時間44分
共働きしている	n=55	6時間31分	6時間46分
共働きしていない	n=50	6時間21分	6時間42分

(2) 仕事・学業

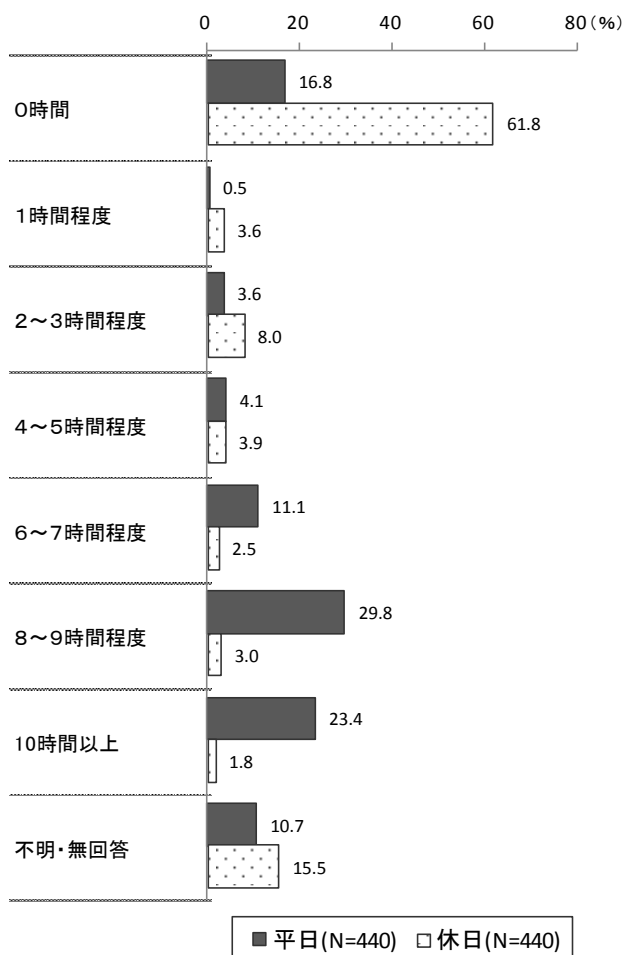
「仕事・学業時間」は、共働き男性では平日・休日とも全体平均を上回っている

【数量回答】

仕事・学業については、平日では「8～9時間程度」との回答が29.8%と最も高く、次いで「10時間以上」が23.4%となっています。休日では「0時間」が61.8%と最も高くなっています。

性別でみると、男性で平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。

男女別共働き別でみると、男性では共働きに関係なく、平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。また、共働きしている女性では平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=440	5時間34分	1時間08分
男性	n=186	7時間19分	1時間17分
共働きしている	n=36	9時間10分	1時間41分
共働きしていない	n=43	5時間37分	1時間10分
女性	n=250	4時間28分	1時間05分
共働きしている	n=55	6時間44分	1時間48分
共働きしていない	n=50	1時間33分	38分

(3) 家事・子育て・介護・看護

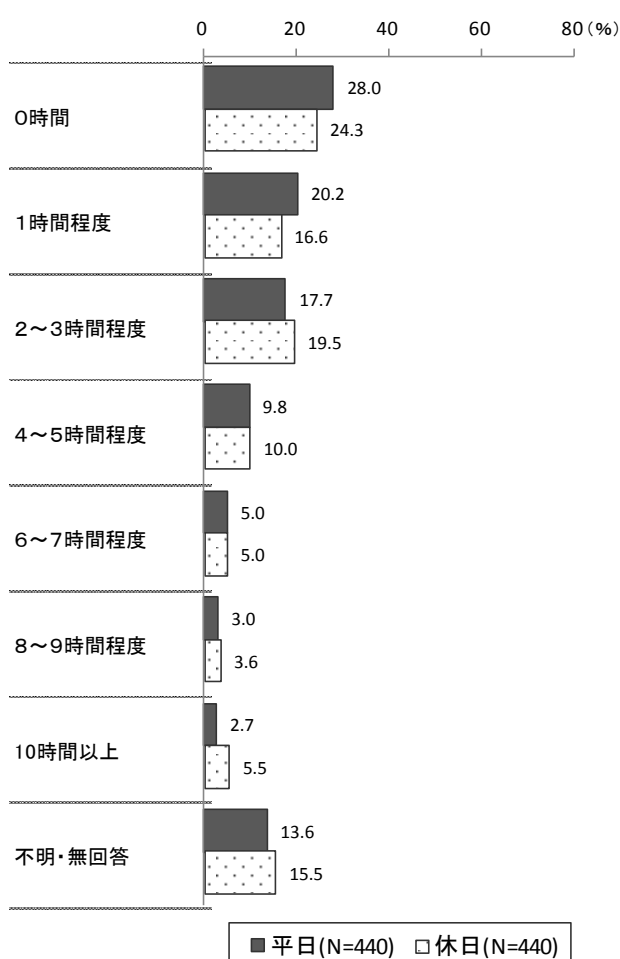
「家事・子育て・介護・看護」は、平日・休日とも女性が圧倒的に多い

【数量回答】

家事・子育て・介護・看護については、平日・休日ともに「0時間」との回答がそれぞれ28.0%、24.3%と最も高くなっています。

性別でみると、女性で平日・休日ともに全体の平均時間を大きく上回っています。

男女別共働き別でみると、女性は共働きの区別なく、平日・休日ともに全体の平均時間を大きく上回っています。また、共働きしていない女性は、平日と比較して休日の平均時間が少なくなるのに対し、共働きしている女性は多くなっています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=440	3時間34分	3時間59分
男性	n=186	1時間23分	1時間30分
共働きしている	n=36	1時間19分	1時間26分
共働きしていない	n=43	1時間30分	1時間37分
女性	n=250	4時間58分	5時間32分
共働きしている	n=55	4時間59分	6時間17分
共働きしていない	n=50	5時間01分	4時間48分

(4) 趣味・娯楽

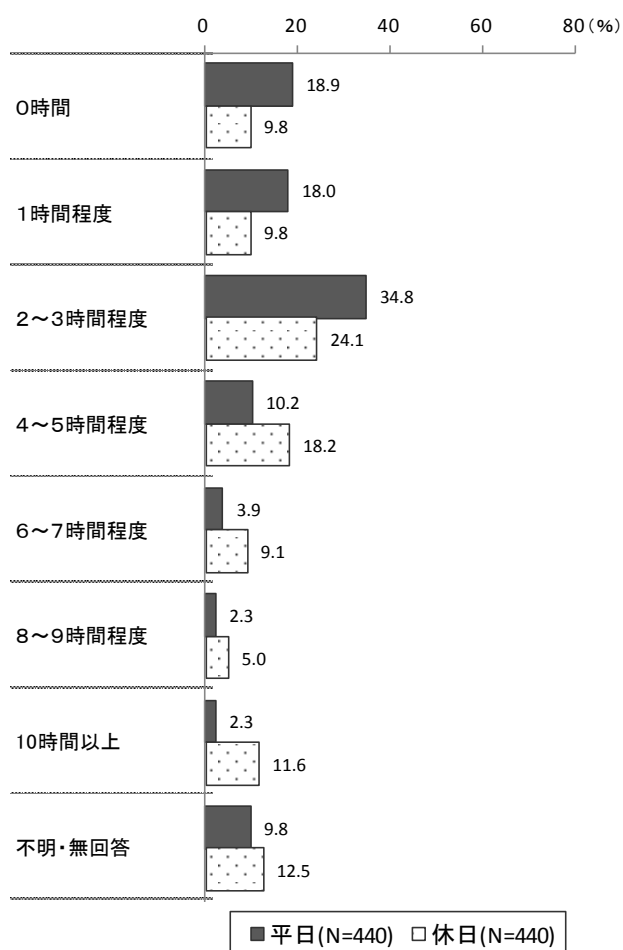
「趣味・娯楽」は、女性は平日、男性は休日で全体の平均を上回る

【数量回答】

趣味・娯楽については、平日・休日ともに「2～3時間程度」との回答がそれぞれ34.8%、24.1%と最も高くなっています。

性別でみると、女性は平日で、男性は休日で、全体の平均時間を上回っています。

男女別共働き別でみると、共働きしていない女性で平日に、男性は共働きの区別なく休日に、それぞれ全体の平均時間を上回っています。また、共働きしている女性は、平日・休日の区別なく全体の平均時間を下回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=440	2時間05分	3時間13分
男性	n=186	1時間55分	3時間45分
共働きしている	n=36	2時間00分	4時間23分
共働きしていない	n=43	1時間46分	3時間20分
女性	n=250	2時間06分	2時間44分
共働きしている	n=55	1時間42分	2時間56分
共働きしていない	n=50	2時間29分	2時間39分

(5) ボランティア活動・地域活動

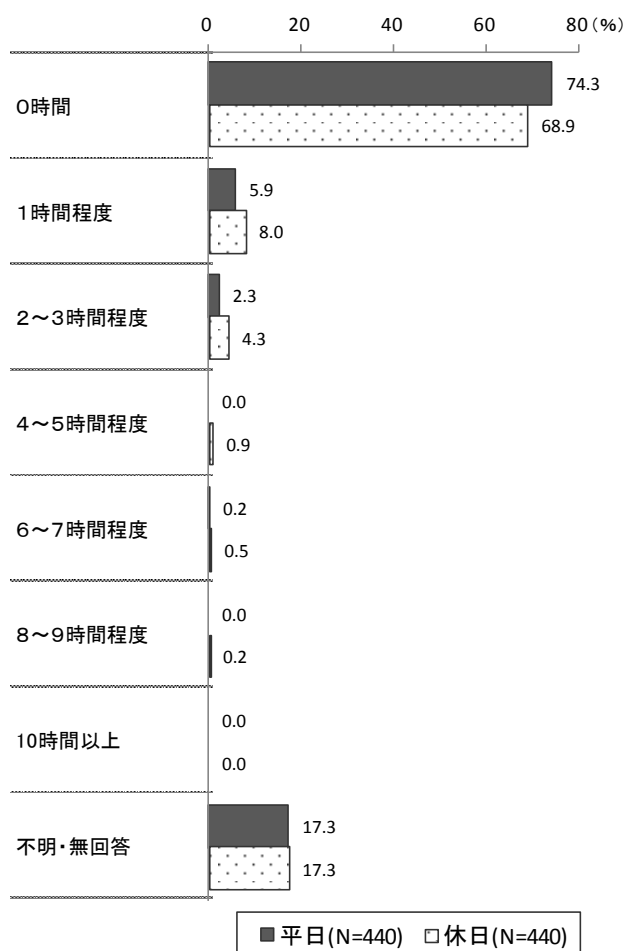
「ボランティア活動・地域活動」は、平日・休日ともわずかとなっている

【数量回答】

ボランティア活動・地域活動については、平日・休日ともに「0時間」との回答がそれぞれ74.3%、68.9%と最も高くなっています。

性別でみると、男性は平日・休日ともに全体の平均時間を上回っています。

男女別共働き別でみると、共働きしている男性は、休日で全体の平均時間を大幅に上回っています。また、共働きをしていない女性は平日で全体の平均時間を上回っています。



	調査数	平均時間	
		平日	休日
全体	n=440	10分	20分
男性	n=186	12分	32分
共働きしている	n=36	13分	48分
共働きしていない	n=43	12分	18分
女性	n=250	09分	13分
共働きしている	n=55	02分	16分
共働きしていない	n=50	14分	09分

【問9】

勤めている方（パートタイマーの方も含む）におたずねします。

あなたは、次の制度を活用して、育児休業などを取得したことがありますか。(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

(1) 育児休業

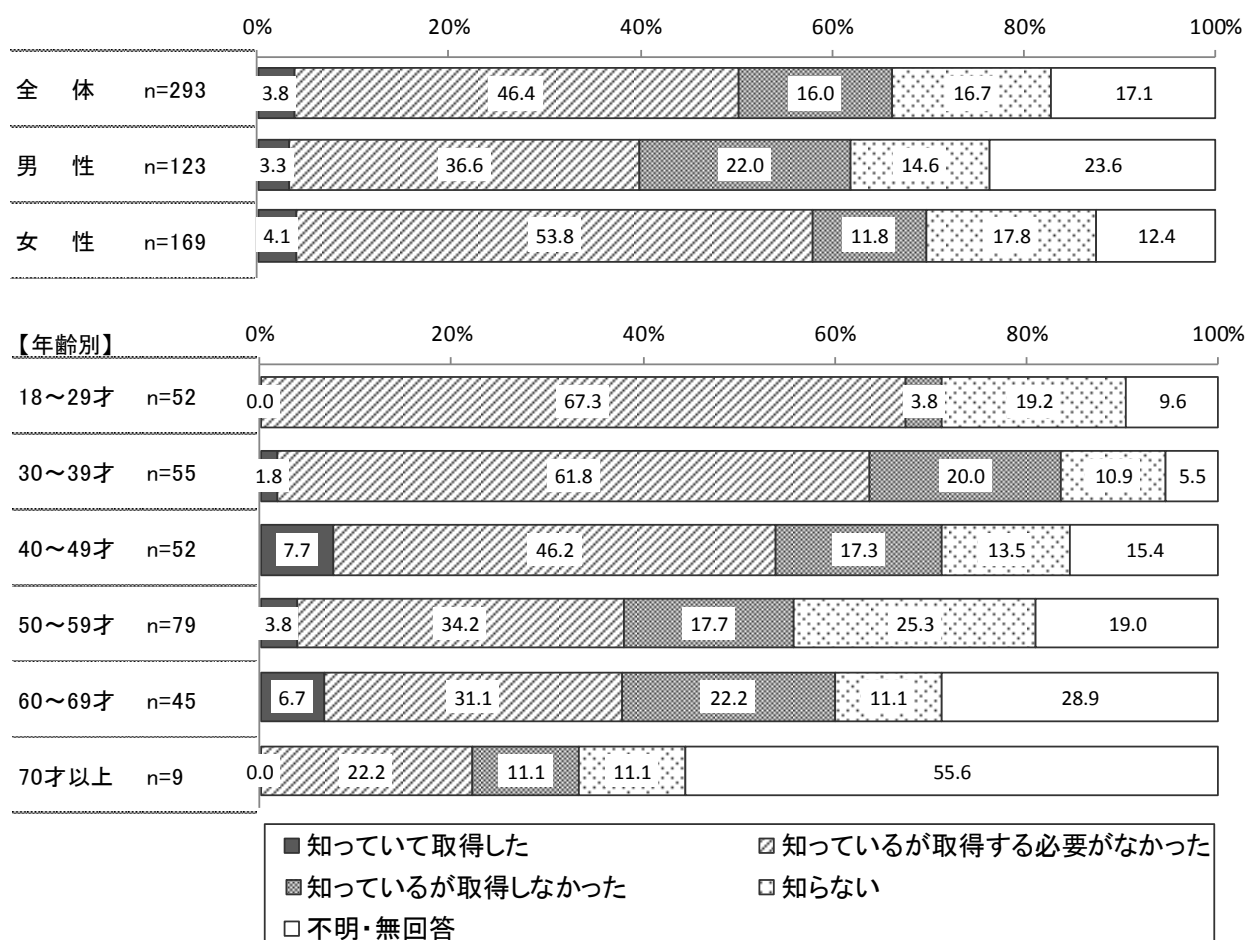
『必要がない』『取得しなかった』62.4%＞『知らない』16.7%＞『取得した』3.8%

【単数回答】

育児休業については、「知っているが取得する必要がなかった」との回答が46.4%と最も高く、次いで「知らない」が16.7%、「知っているが取得しなかった」が16.0%、「知っていて取得した」が3.8%となっています。

性別でみると、「知っているが取得しなかった」との回答が男性で22.0%、女性で11.8%と、男性が10.2ポイント上回っています。

年齢別では、40代までは「育児休業」を知っているとの回答が7割を超えています。



(2) 子の看護休暇

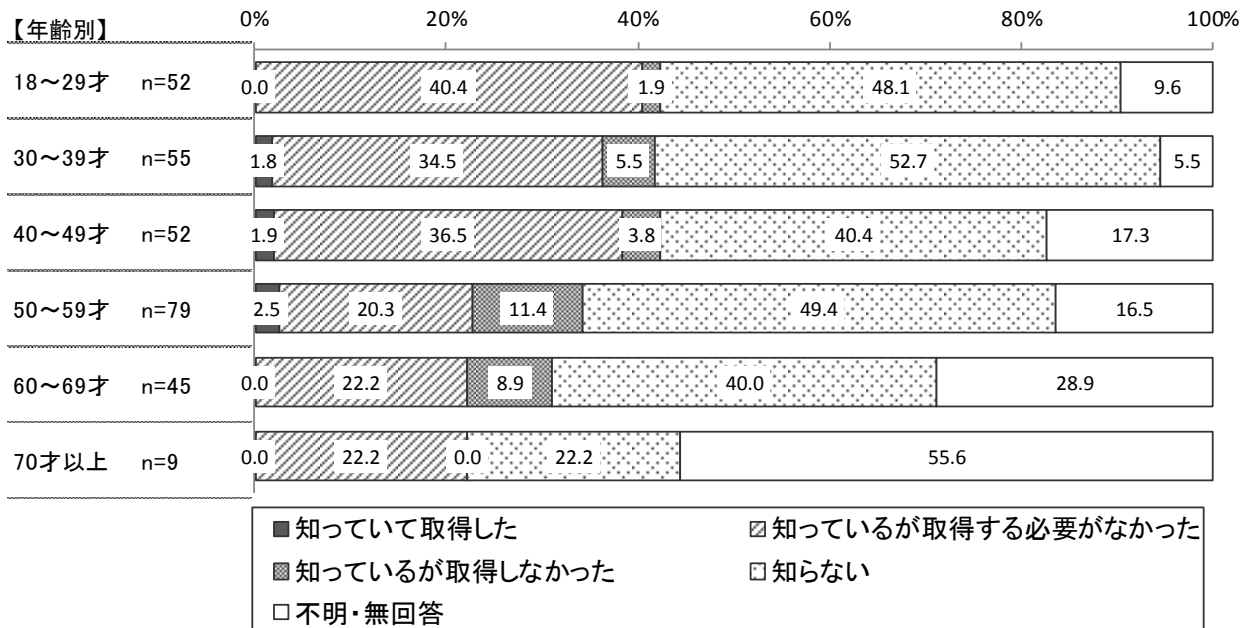
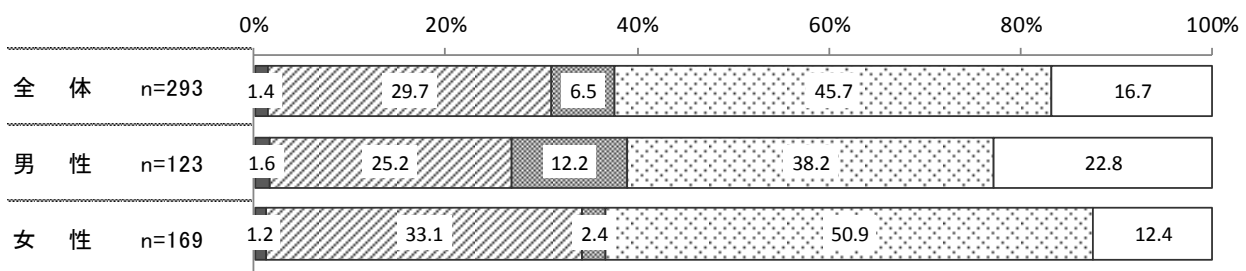
『知らない』45.7%＞『必要がない』『取得しなかった』36.2%＞『取得した』1.4%

【単数回答】

子の看護休暇については、「知らない」との回答が45.7%と最も高く、次いで「知っているが取得する必要がなかった」が29.7%となっています。

性別でみると、「知らない」との回答が男性で38.2%、女性で50.9%と女性が12.7ポイント上回っています。

年齢別では、30代で「知らない」との回答が52.7%と最も高く、次いで、50代で49.4%となっています。



(3) 介護休業

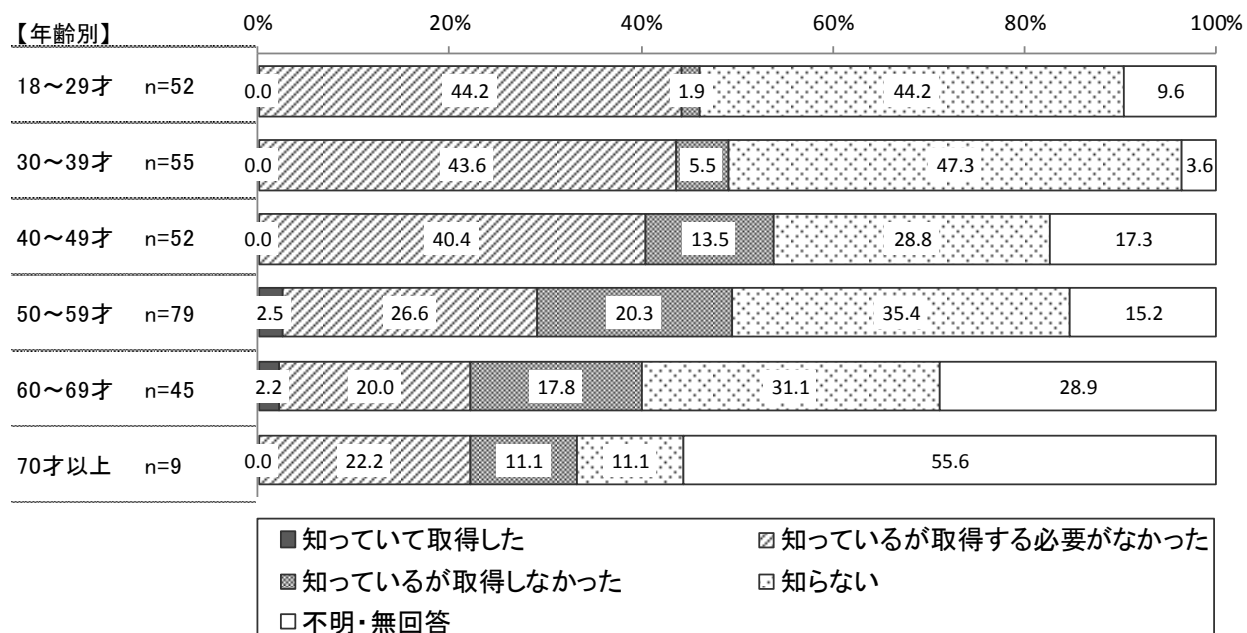
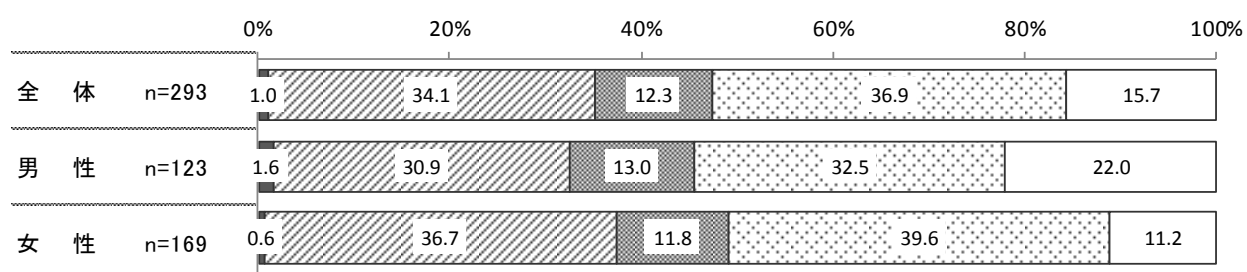
『必要がない』『取得しなかった』46.4%＞『知らない』36.9%＞『取得した』1.0%

【単数回答】

介護休業については、「知らない」との回答が36.9%と最も高く、次いで「知っているが取得する必要がなかった」が34.1%となっています。

性別でみると、「知らない」との回答が男性で32.5%、女性で39.6%と女性が7.1ポイント上回っています。

年齢別では、18～29才、30代などの若年層で「知らない」との回答が他の年代と比較して高くなっています。



(4) 介護休暇

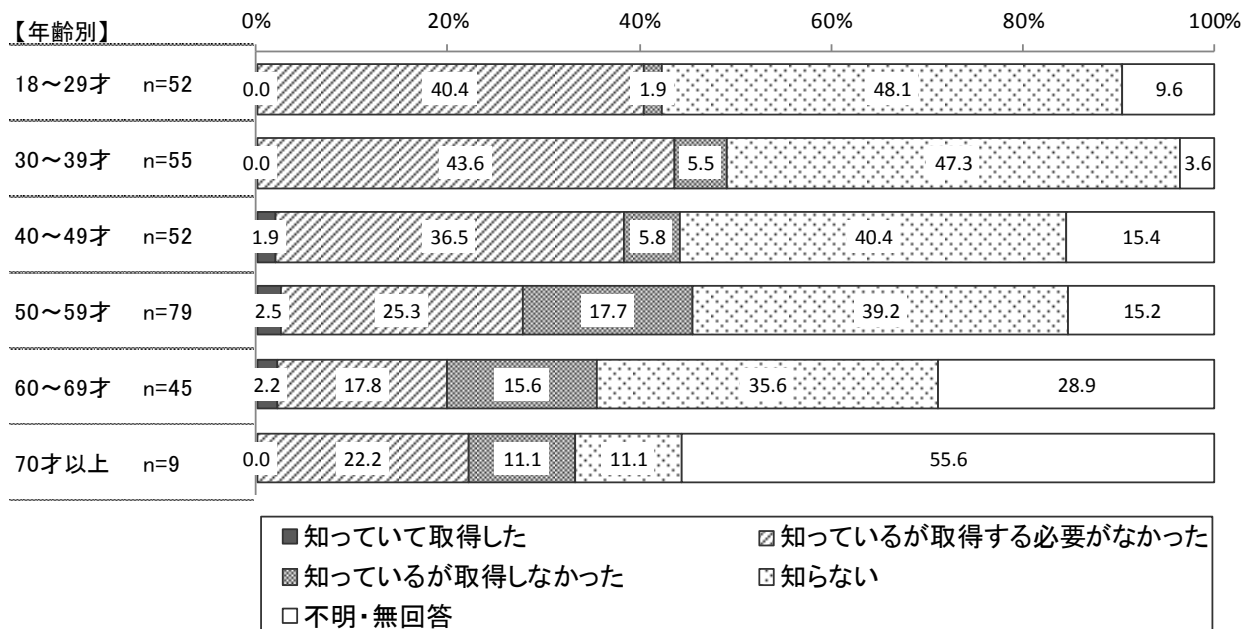
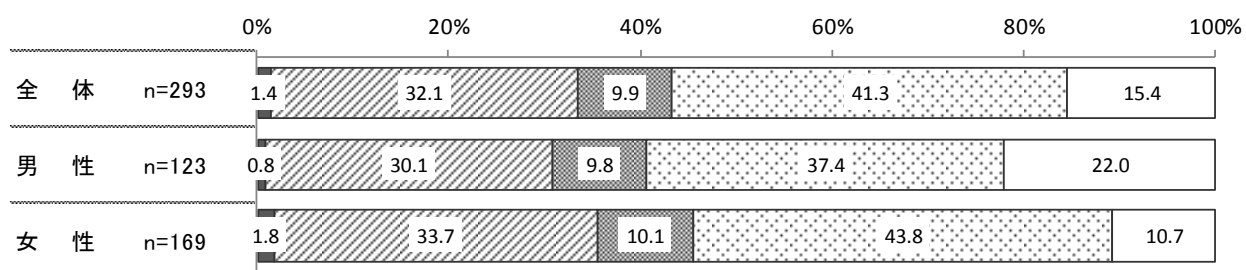
『必要がない』『取得しなかった』42.0%＞『知らない』41.3%＞『取得した』1.4%

【単数回答】

介護休暇については、「知らない」との回答が41.3%と最も高く、次いで「知っているが取得する必要がなかった」が32.1%となっています。

性別でみると、「知らない」との回答が男性で37.4%、女性で43.8%と女性が6.4ポイント上回っています。

年齢別では、18～29才、30代などの若年層で「知らない」との回答が他の年代と比較して高くなっています。



【問 10】

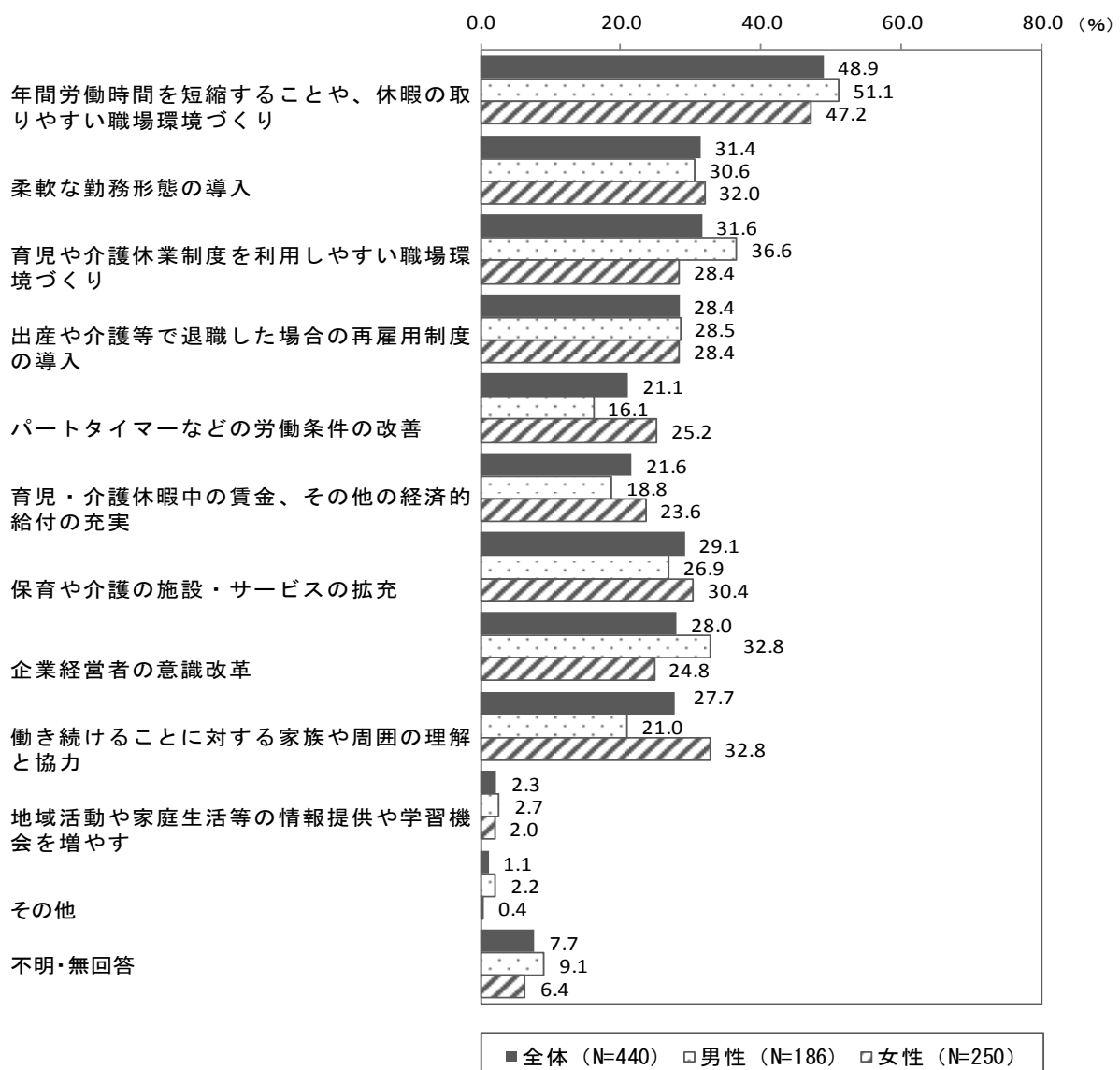
それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭を両立」をするためには、どのような条件の整備や機会が必要だと思いますか。(3つに〇)

仕事と家庭を両立するためには、「年間労働時間の短縮や休暇がとりやすい職場環境づくり」が必要

【複数回答】

男女が共に「仕事と家庭を両立」をするための条件整備については、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が 48.9%と最も高く、次いで「育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」が 31.6%、「柔軟な勤務形態の導入」が 31.4%となっています。

性別でみると、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が男女ともに最も高くなっています。男性では「育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」、女性では「働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力」と回答する割合が高くなっており、これらは性別によって差がみられる項目です。



■年齢別クロス集計

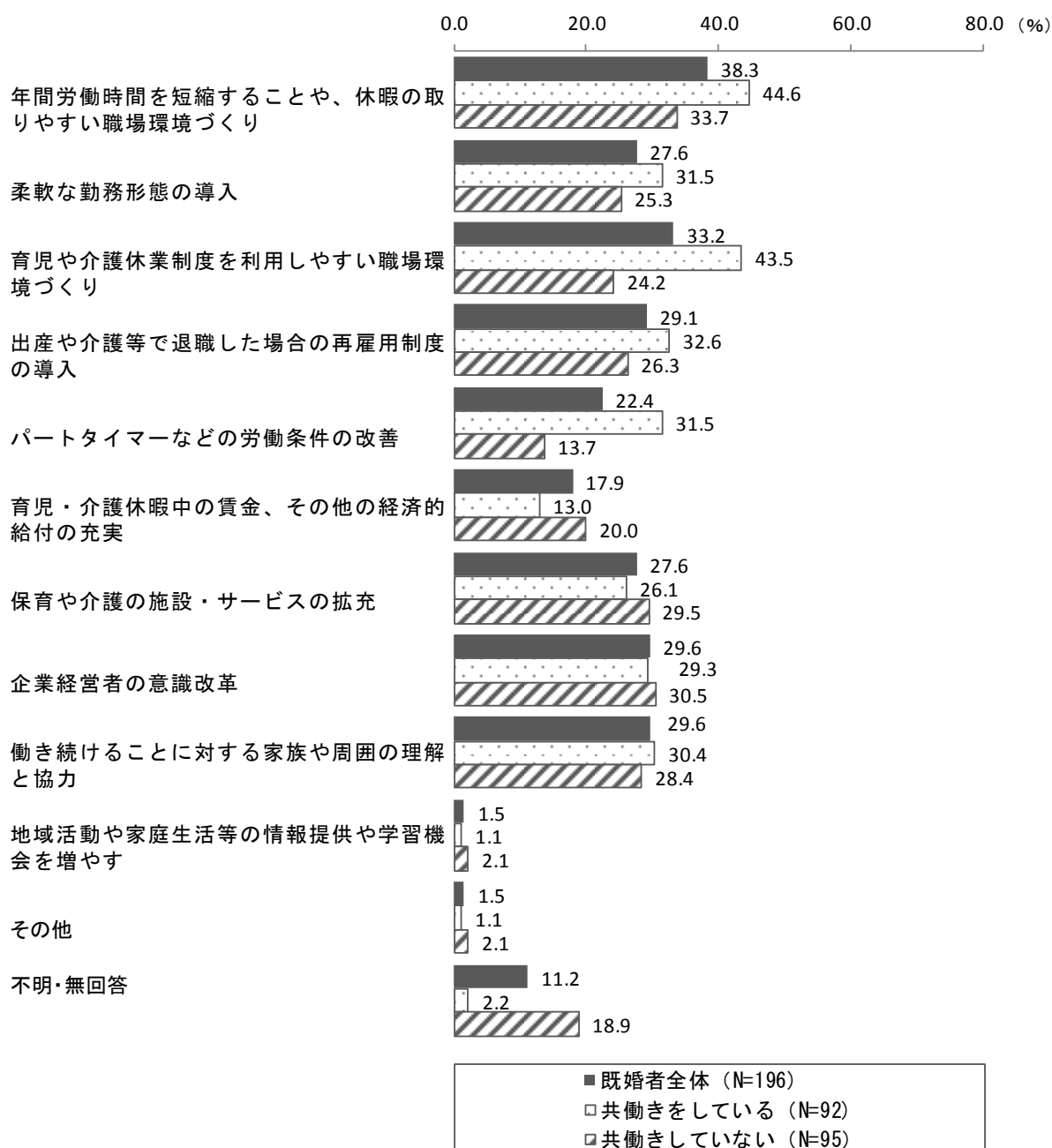
年齢別では、いずれの年代においても「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」が最も高くなっています。

	調査数	年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり	柔軟な勤務形態の導入	育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり	出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入	パートタイマーなどの労働条件の改善	育児・介護休業中の賃金、その他の経済的給付の充実	保育や介護の施設・サービスの拡充	企業経営者の意識改革	働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力	地域活動や家庭生活等の情報提供や学習機会を増やす	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	71.8	28.2	30.8	34.6	16.7	35.9	28.2	17.9	21.8	2.6	—	2.6
30～39歳	N=65	52.3	43.1	30.8	26.2	16.9	24.6	30.8	27.7	36.9	1.5	1.5	1.5
40～49歳	N=59	55.9	30.5	39.0	28.8	27.1	20.3	27.1	30.5	25.4	5.1	3.4	—
50～59歳	N=90	42.2	34.4	31.1	31.1	30.0	17.8	33.3	36.7	27.8	2.2	1.1	3.3
60～69歳	N=82	42.7	29.3	37.8	26.8	17.1	18.3	30.5	34.1	29.3	1.2	1.2	7.3
70歳以上	N=65	29.2	21.5	20.0	21.5	18.5	10.8	21.5	18.5	26.2	1.5	—	33.8

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

■共働き別クロス集計

既婚全体では、「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」との回答が38.3%と最も高くなっています。共働き別では、共働きしている既婚者は44.6%、共働きしていない既婚者は33.7%と、共働きしている既婚者で高くなっています。また、全体の第2位にあげられていた「育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」では、共働きしている既婚者が43.5%、共働きしていない既婚者が24.2%となっており、差が19.3ポイントと最も大きくなっています。



4 職業について

【問 11】

勤めている方（パートタイマーの方も含む）におたずねします。
あなたの職場では、次のことについて男女平等になっていますか。次の(1)～(7)のそれぞれについてお答えください。

(1) 募集や採用の条件

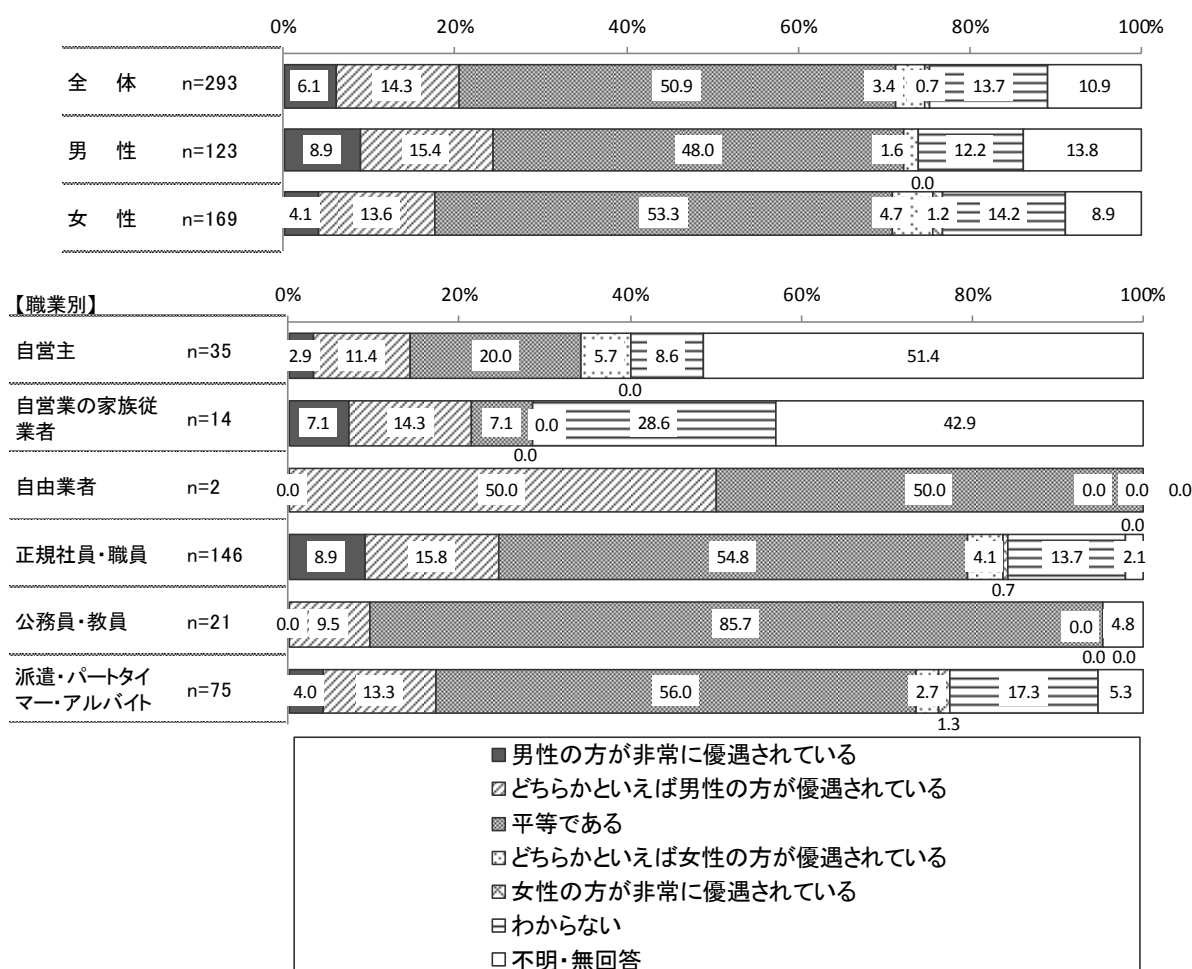
『平等』50.9%＞『男性優遇』20.4%＞『女性優遇』4.1%

【単数回答】

募集や採用の条件については、「平等である」との回答が50.9%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が20.4%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答は男性で24.3%、女性で17.7%と男性が6.6ポイント上回っており、一方、「平等である」は男性で48.0%、女性で53.3%と女性が5.3ポイント上回っています。

職業別でみると、公務員・教員で「平等である」との回答が85.7%と高くなっています。



(2) 人事配置や昇進

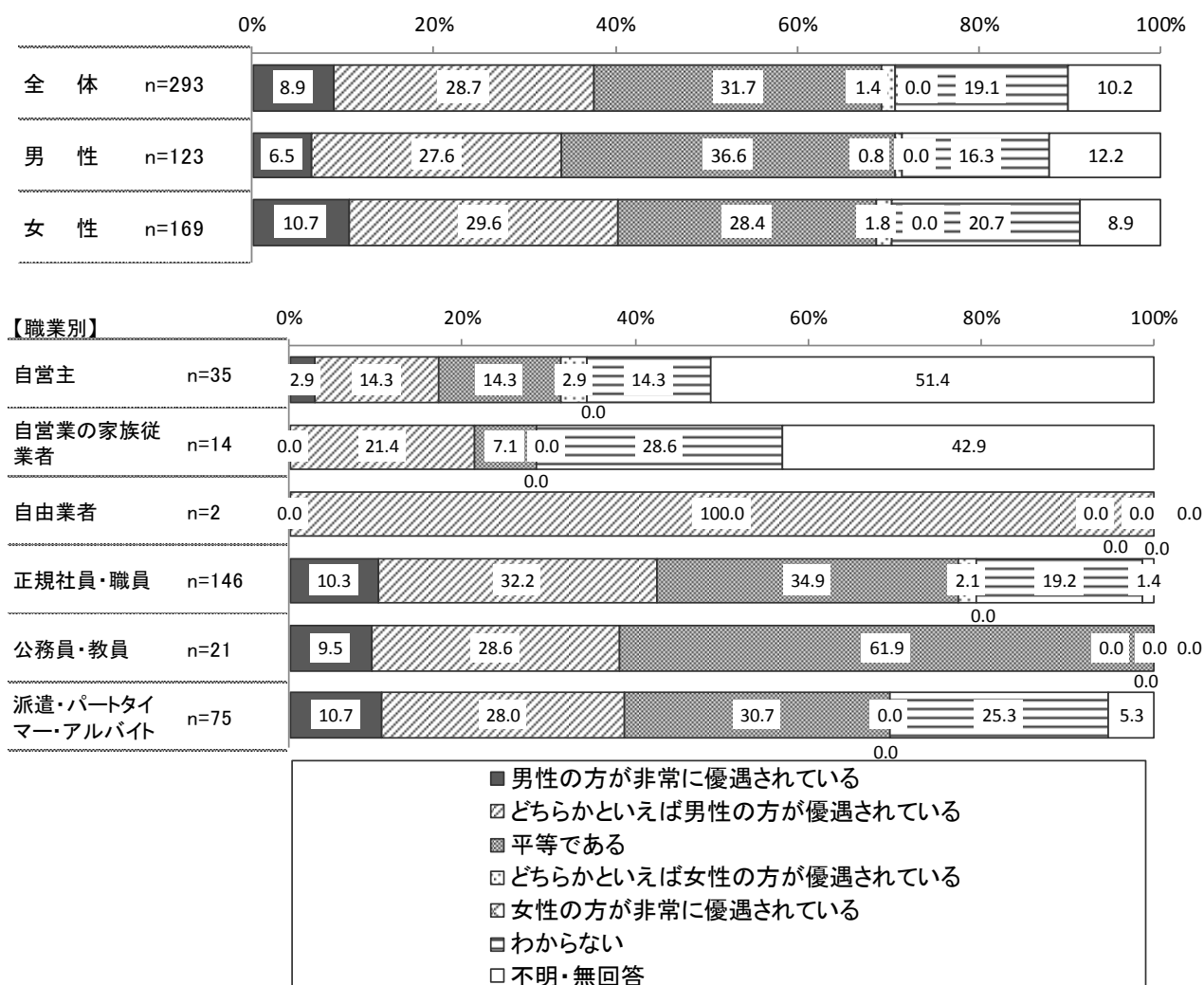
『男性優遇』37.6%＞『平等』31.7%＞『女性優遇』1.4%

【単数回答】

人事配置や昇進については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が37.6%と最も高く、次いで「平等である」が31.7%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答は男性で34.1%、女性で40.3%と女性が6.2ポイント上回っている一方で、「平等である」は男性で36.6%、女性で28.4%と男性が8.2ポイント上回っています。

職業別でみると、公務員・教員で「平等である」との回答が61.9%、正規社員・職員（民間会社、団体等）で『男性優遇』が42.5%と高くなっています。



(3) 教育や研修制度

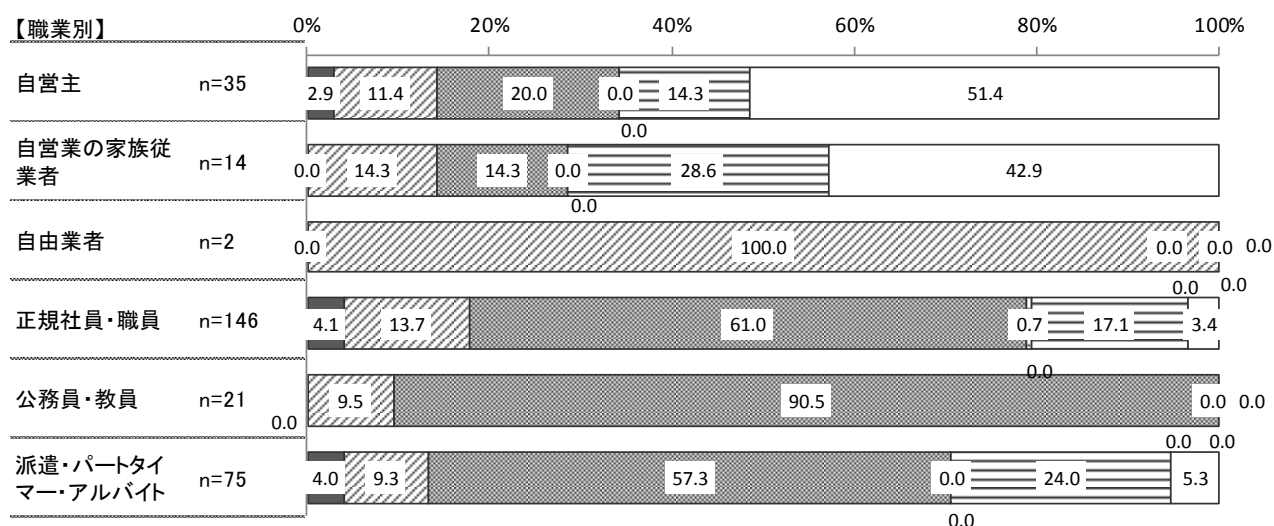
『平等』54.6%＞『男性優遇』16.0%＞『女性優遇』0.3%

【単数回答】

教育や研修制度については、「平等である」との回答が54.6%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が16.0%となっています。

性別でみると、男女とも「平等である」との回答が最も高く男性で53.7%、女性で55.6%となっています。

職業別でみると、公務員・教員で「平等である」との回答が90.5%と他の職業と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(4) 福利厚生

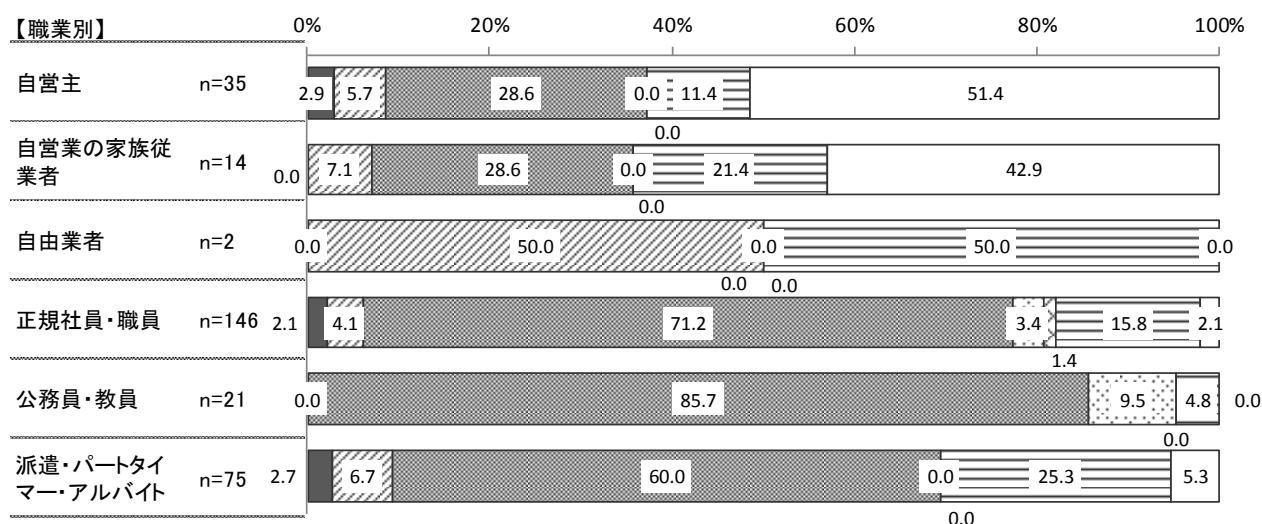
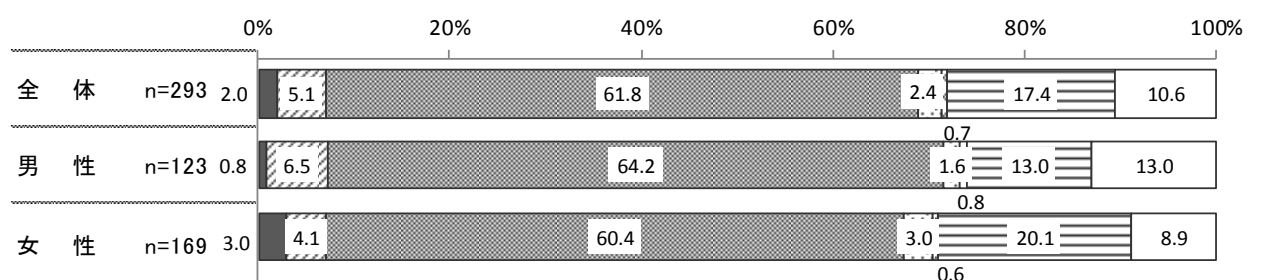
『平等』61.8%＞『男性優遇』7.1%＞『女性優遇』3.1%

【単数回答】

福利厚生については、「平等である」との回答が61.8%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が7.1%となっています。

性別でみると、男女とも「平等である」との回答が最も高く男性で64.2%、女性で60.4%となっています。

職業別でみると、公務員・教員、正規社員・職員（民間会社、団体等）で「平等である」との回答が7割を超え他の職業と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(5) 定年・退職

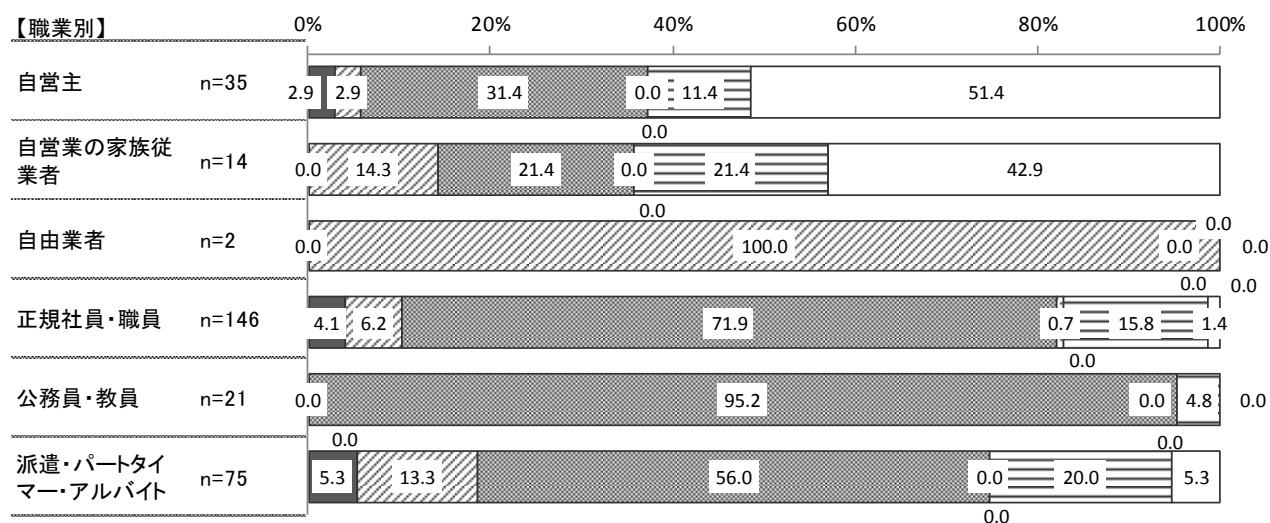
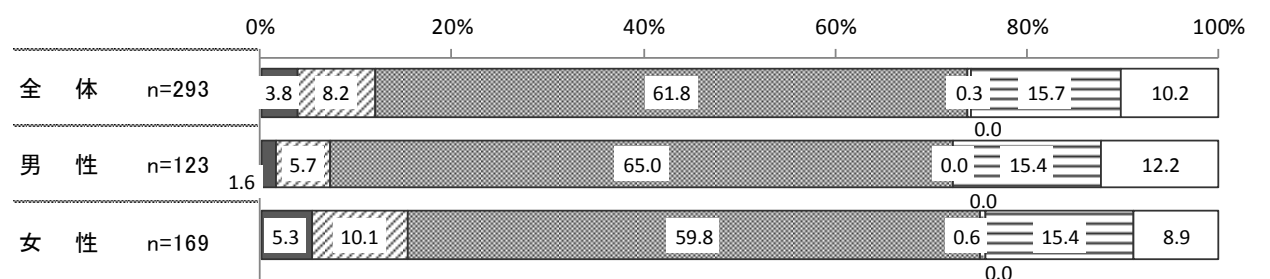
『平等』61.8%＞『男性優遇』12.0%＞『女性優遇』0.3%

【単数回答】

定年・退職については、「平等である」との回答が61.8%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が12.0%となっています。

性別でみると、男女とも「平等である」との回答が最も高く、男性で65.0%、女性で59.8%となっています。

職業別でみると、「平等である」との回答が公務員・教員で9割強、正規社員・職員（民間会社、団体等）で7割強と、他の職業と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(6) 賃金

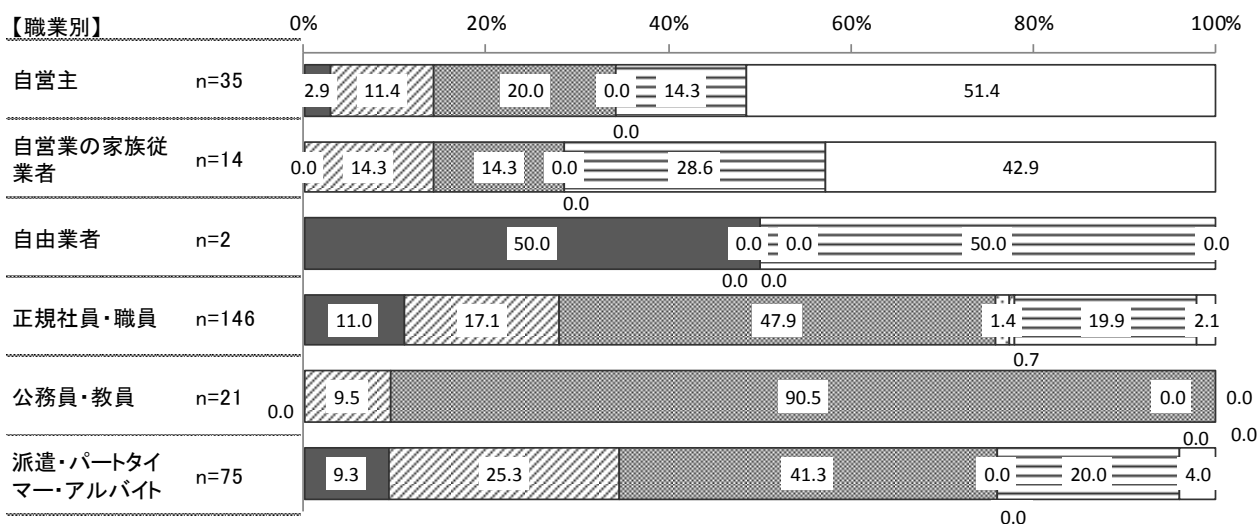
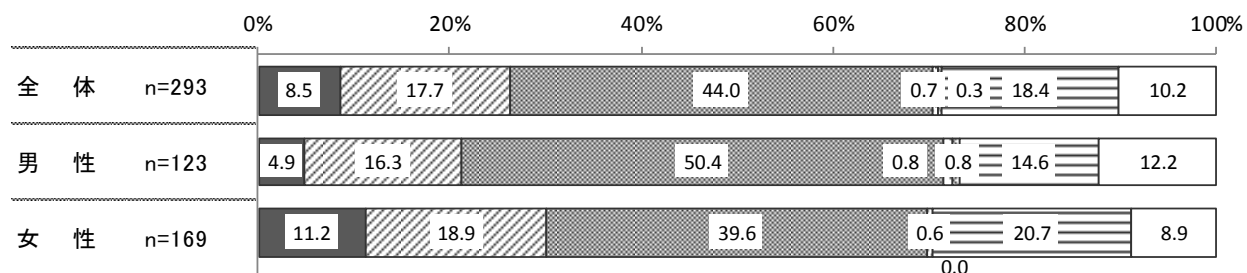
『平等』44.0%＞『男性優遇』26.2%＞『女性優遇』1.0%

【単数回答】

賃金については、「平等である」との回答が44.0%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が26.2%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答は男性で21.2%、女性で30.1%と女性が8.9ポイント上回っている、一方で「平等である」は男性で50.4%、女性で39.6%と男性が10.8ポイント上回っています。

職業別でみると、「平等である」との回答が公務員・教員で9割強と他の職業と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(7) 仕事の内容

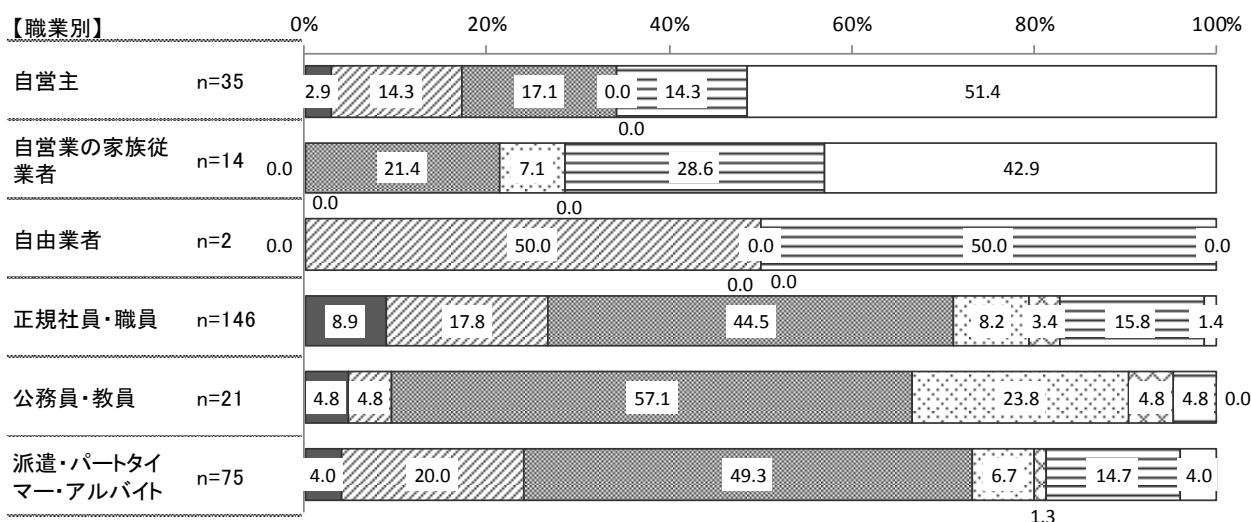
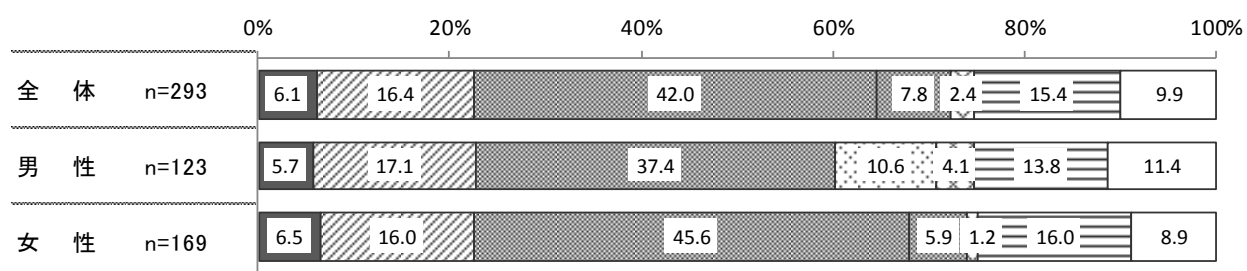
『平等』42.0%＞『男性優遇』22.5%＞『女性優遇』10.2%

【単数回答】

仕事の内容については、「平等である」との回答が42.0%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答が22.5%となっています。

性別でみると、『男性優遇』との回答が男性で22.8%、女性で22.5%と男女間で大きな差はありません。一方で、「平等である」との回答が男性で37.4%、女性で45.6%と女性が8.2ポイント上回っています。

職業別でみると、「平等である」との回答が公務員・教員で6割弱と他の職業と比較して高くなっています。



- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

5 地域活動について

【問 12】

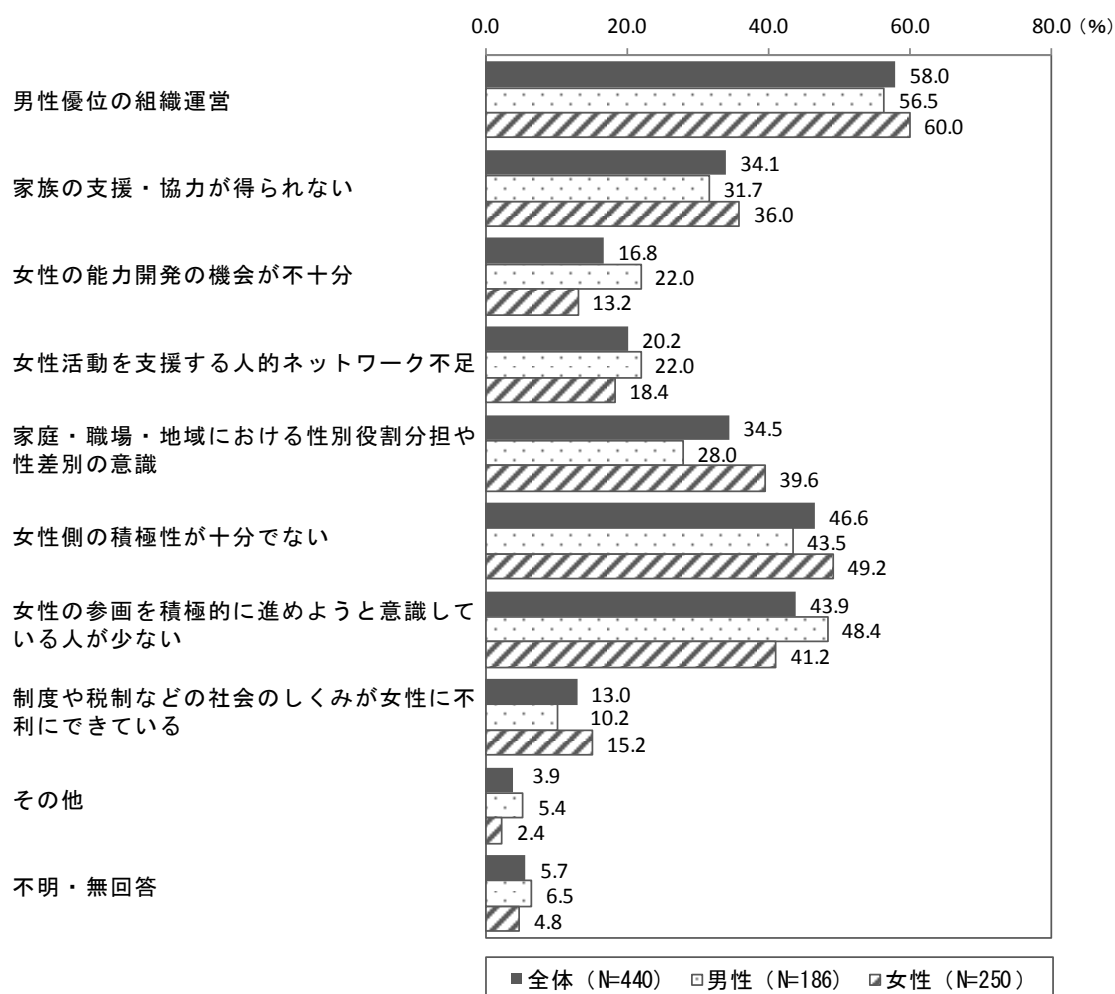
女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。（3つに〇）

企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は「男性優位の組織運営」

【複数回答】

企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由については、「男性優位の組織運営」との回答が58.0%と最も高くなっています。次いで「女性側の積極性が十分でない」（46.6%）、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」（43.9%）などの、女性側の意識改革が必要という意見も多くあげられています。

性別でみると、「男性優位の組織運営」との回答が男女ともに最も高くなっています。次いで、男性では「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」、女性では「女性側の積極性が十分でない」が高くなっています。



■年齢別クロス集計

年齢別では、40代で「女性側の積極性が十分でない」、その他の年代では「男性優位の組織運営」と回答する割合が最も高くなっています。

	調査数	男性優位の組織運営	家族の支援・協力が得られない	女性の能力開発の機会が不十分	女性活動を支援する人的ネットワーク不足	家庭・職場・地域における性別役割分担や性差別の意識	女性側の積極性が十分でない	女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない	制度や税制などの社会のしくみが女性に不利にできている	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	53.8	29.5	17.9	29.5	52.6	35.9	44.9	9.0	3.8	3.8
30～39歳	N=65	56.9	43.1	20.0	15.4	41.5	44.6	36.9	20.0	4.6	3.1
40～49歳	N=59	55.9	47.5	20.3	27.1	23.7	57.6	44.1	11.9	6.8	—
50～59歳	N=90	62.2	37.8	11.1	18.9	38.9	48.9	52.2	12.2	3.3	—
60～69歳	N=82	62.2	30.5	14.6	22.0	30.5	50.0	48.8	14.6	1.2	4.9
70歳以上	N=65	53.8	18.5	20.0	6.2	13.8	44.6	32.3	10.8	4.6	24.6

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

【問13】

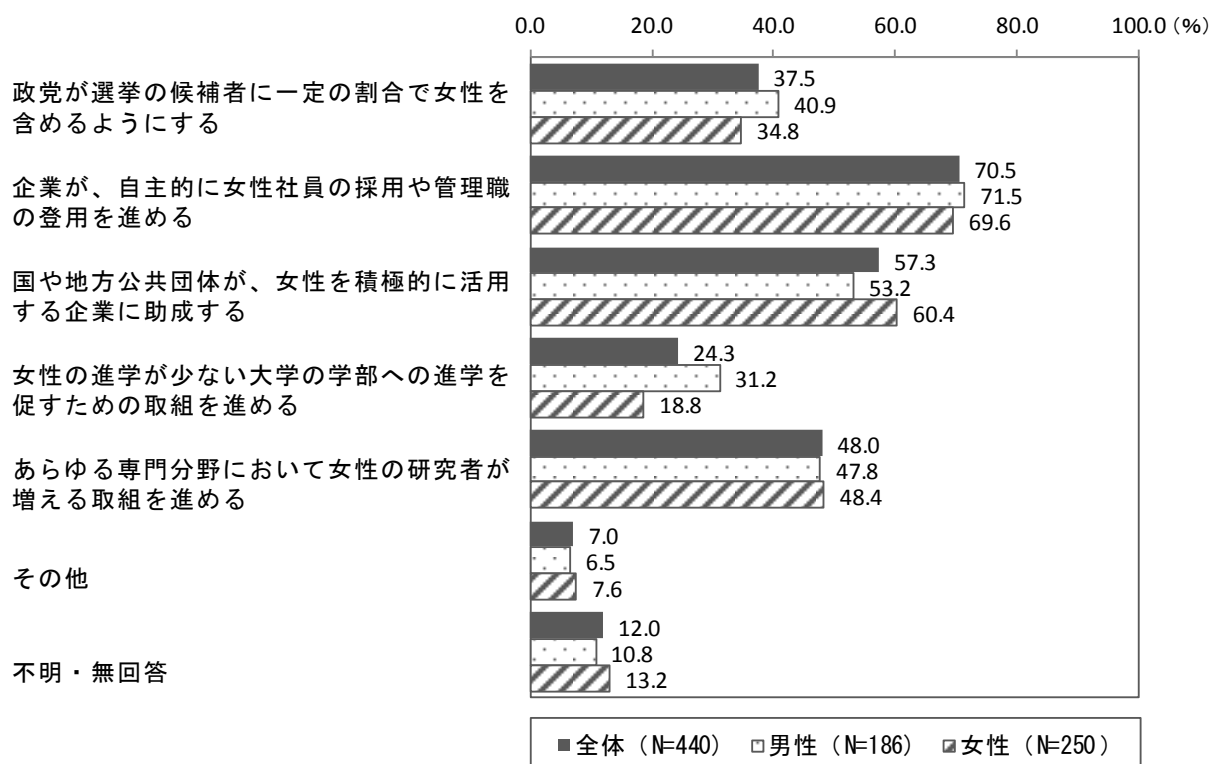
女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つに〇)

女性の社会進出が進んでいない分野へ女性の進出を進めるには、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用など、教育訓練の取組を進める」ことが必要

【複数回答】

女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくために必要なことについては、「企業が、自主的に女性社員の採用や管理職の登用を進める」との回答が70.5%と最も高く、次いで「国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業に助成する」が57.3%となっています。

性別でみると、「企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取り組みを進める」と回答する割合が男女ともに最も高くなっています。



■年齢別クロス集計

年齢別では、いずれの年代においても「企業が、自主的に女性社員の採用や管理職の登用を進める」と回答する割合が最も高くなっています。

	調査数	政党が選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする	企業が、自主的に女性社員の採用や管理職の登用を進める	国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する	女性の進学が少ない大学の進学への進学を促すための大学の進学部	あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	42.3	69.2	62.8	33.3	47.4	11.5	3.8
30～39歳	N=65	43.1	73.8	64.6	21.5	40.0	9.2	9.2
40～49歳	N=59	40.7	76.3	61.0	25.4	49.2	6.8	6.8
50～59歳	N=90	35.6	73.3	56.7	25.6	53.3	7.8	10.0
60～69歳	N=82	43.9	74.4	58.5	15.9	46.3	4.9	12.2
70歳以上	N=65	18.5	53.8	38.5	24.6	49.2	1.5	32.3

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

6 DV等「女性の人権」について

【問 14】

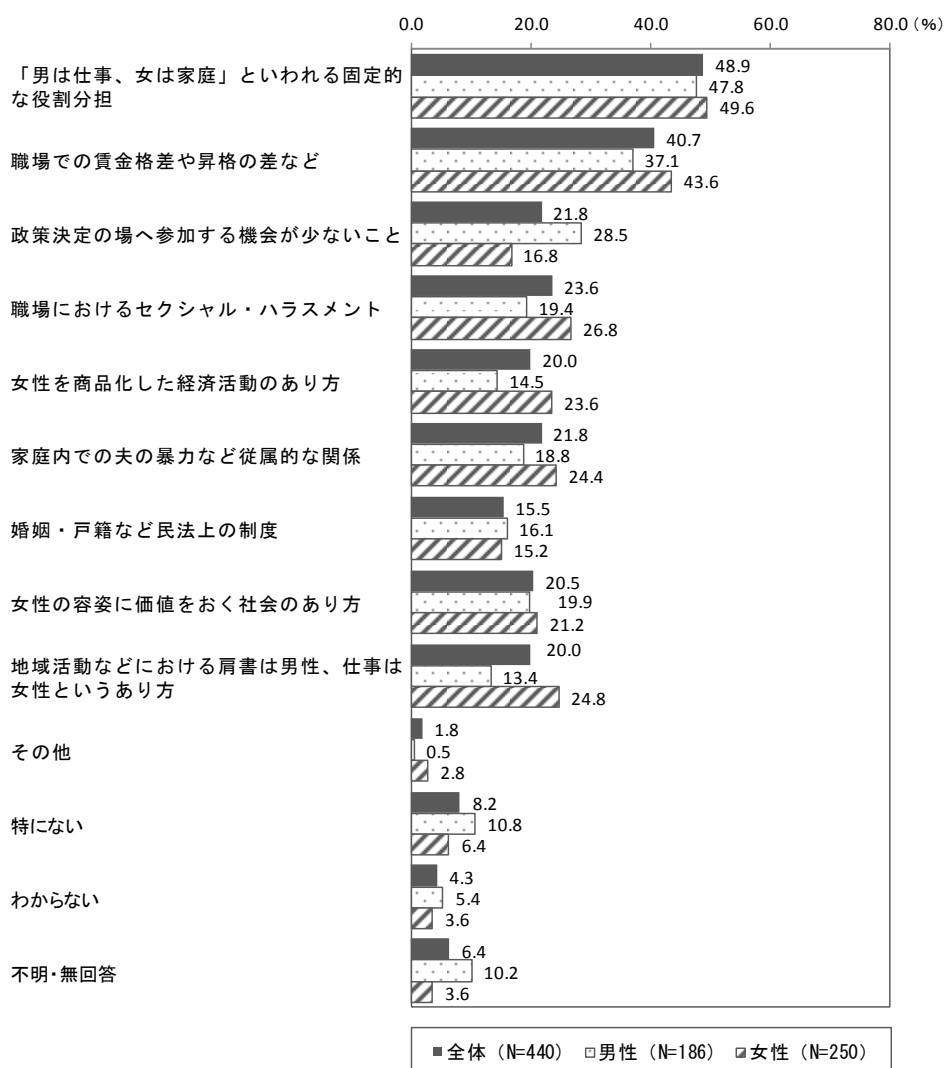
あなたが、女性の人権が尊重されていない（女性に対する差別）と感じることは何ですか。
(〇はいくつでも)

女性の人権が尊重されていないと感じることは、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」「職場での賃金格差や昇格の差」

【複数回答】

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」との回答が48.9%と最も高く、次いで「職場での賃金格差や昇格の差など」が40.7%となっています。

また、性別でみると、男性では「政策決定の場へ参加する機会が少ないこと」の回答が28.5%、女性では「職場におけるセクシャル・ハラスメント」の回答が26.8%と男女間で差が見られます。



■年齢別クロス集計

年齢別では、60才未満では「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」の占める割合が最も高くなっています。60才以上では「職場での賃金格差や昇格の差など」の占める割合が最も高くなっています。

	調査数	「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担	職場での賃金格差や昇格の差など	政策決定の場合へ参加する機会が少ないこと	職場におけるセクシャル・ハラスメント	女性を商品化した経済活動のあり方	家庭内での夫の暴力など従属的な関係	婚姻・戸籍など民法上の制度	女性の容姿に価値をおく社会のあり方	地域活動などにおける肩書は男性、仕事は女性というあり方	その他	特になし	わからない	不明・無回答
18～29歳	N=78	51.3	38.5	14.1	38.5	17.9	32.1	16.7	19.2	16.7	1.3	5.1	7.7	2.6
30～39歳	N=65	47.7	40.0	18.5	27.7	20.0	23.1	24.6	20.0	16.9	1.5	12.3	—	1.5
40～49歳	N=59	54.2	33.9	20.3	13.6	15.3	23.7	13.6	15.3	23.7	3.4	8.5	1.7	5.1
50～59歳	N=90	60.0	40.0	22.2	25.6	21.1	17.8	17.8	21.1	17.8	3.3	6.7	2.2	3.3
60～69歳	N=82	41.5	52.4	29.3	23.2	28.0	22.0	15.9	24.4	26.8	1.2	9.8	7.3	2.4
70歳以上	N=65	35.4	35.4	24.6	9.2	15.4	12.3	3.1	21.5	18.5	—	7.7	6.2	26.2

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

【問15】

あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされたこと、あるいはしたことがありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについてお答えください。

(1) 大声で怒鳴る

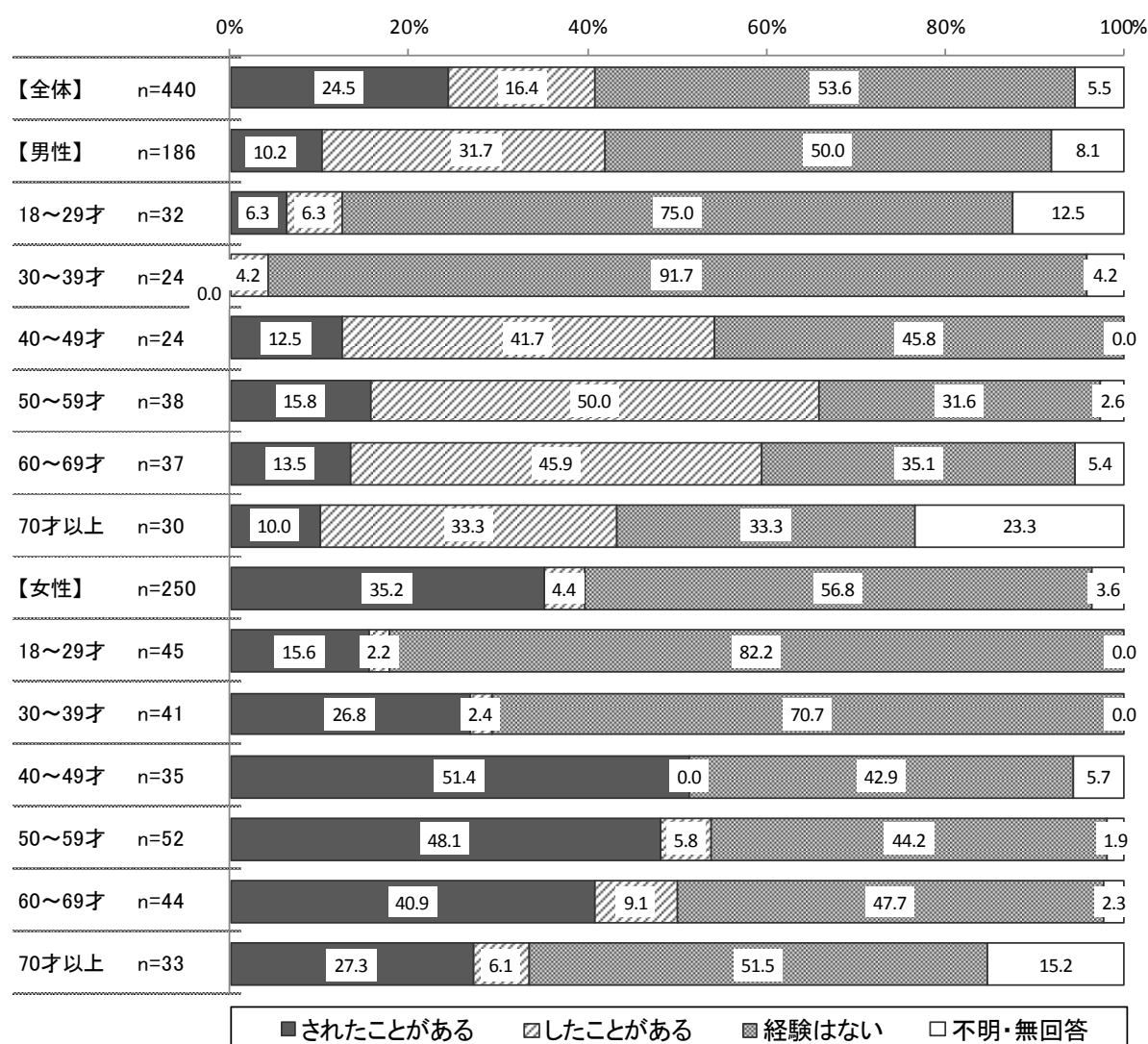
「経験はない」53.6%＞「されたことがある」24.5%＞「したことがある」16.4%

【単数回答】

大声で怒鳴るについては、「されたことがある」との回答が24.5%、「したことがある」が16.4%、「経験はない」が53.6%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で10.2%、女性で35.2%と女性が25.0ポイント上回っています。それに対し、「したことがある」との回答が男性で31.7%、女性で4.4%と男性が27.3ポイント上回っています。

性・年齢別では、40代と50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、50代、60代の男性で「したことがある」が高くなっています。



(2) 何を言っても無視する

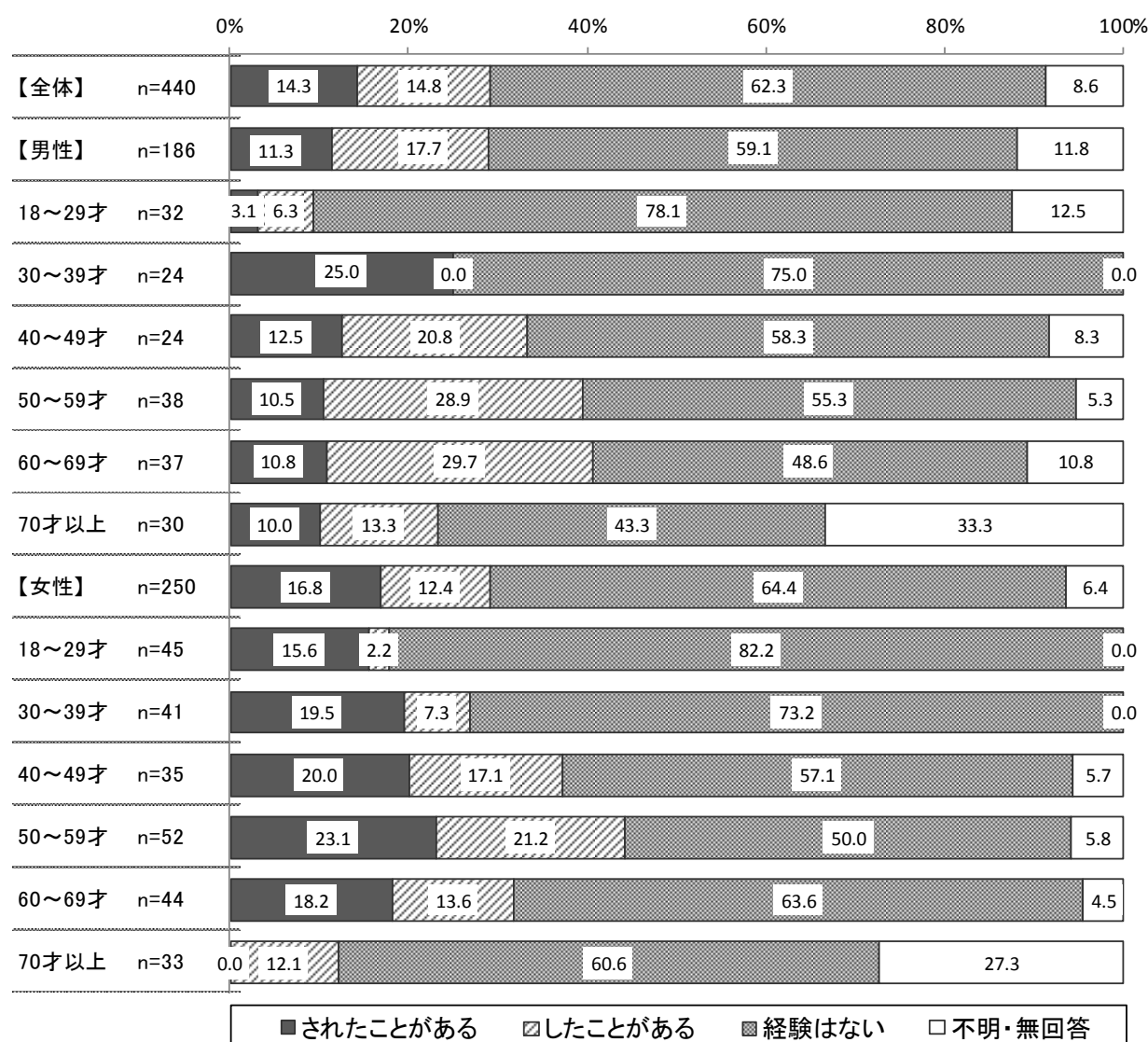
「経験はない」62.3%＞「したことがある」14.8%＞「されたことがある」14.3%

【単数回答】

何を言っても無視するについては、「されたことがある」との回答が 14.3%、「したことがある」が 14.8%、「経験はない」が 62.3%となっています。

性別でみると、「したことがある」との回答が男性で 17.7%、女性で 12.4%と男性が 5.3 ポイント上回っています。

性・年齢別では、40代と50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、50代、60代の男性で「したことがある」が高くなっています。



(3) 「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を言う

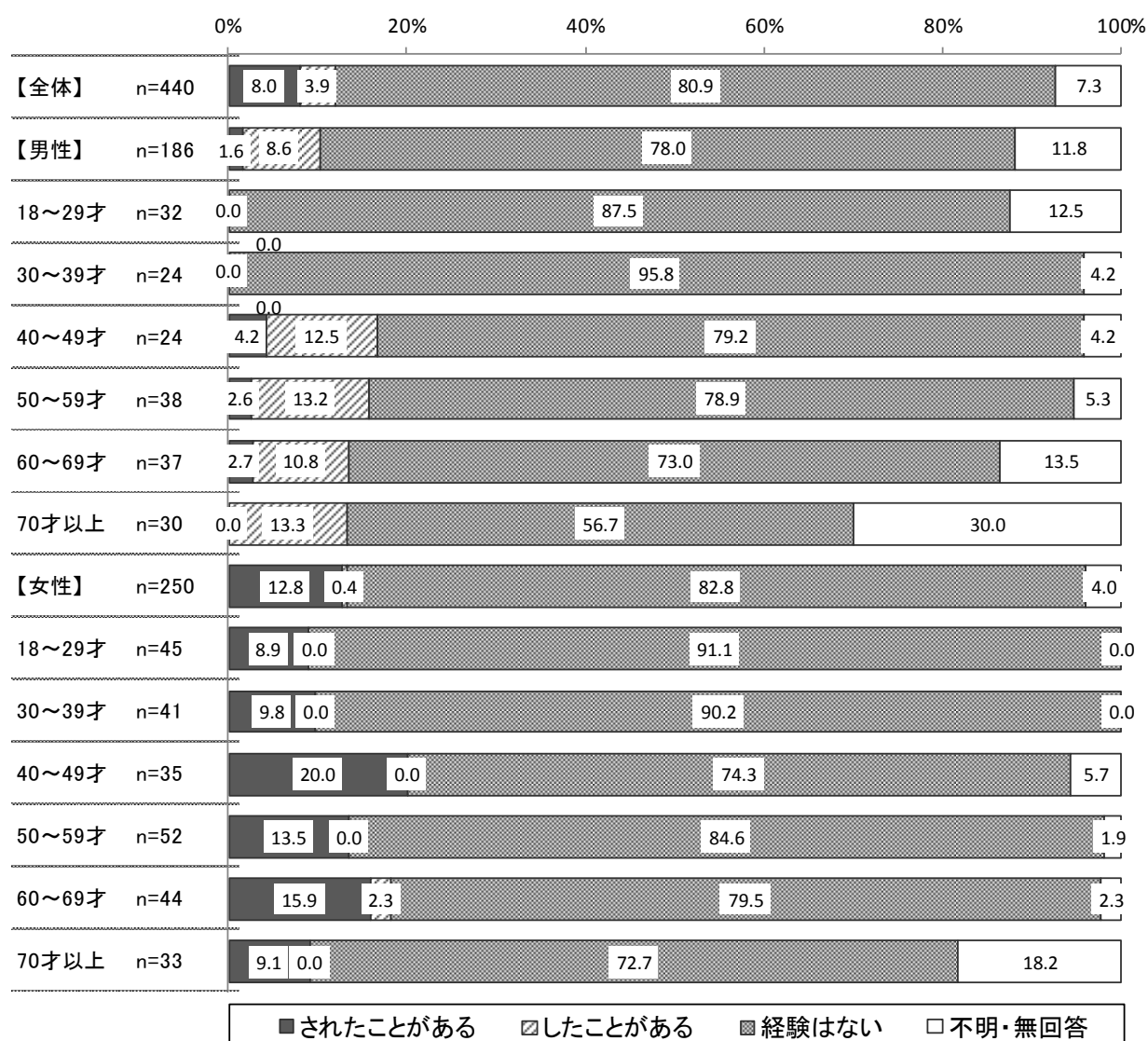
「経験はない」80.9%＞「されたことがある」8.0%＞「したことがある」3.9%

【単数回答】

「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を言うについては、「されたことがある」との回答が8.0%、「したことがある」が3.9%、「経験はない」が80.9%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で1.6%、女性で12.8%と女性が11.2ポイント上回っています。それに対し、「したことがある」との回答が男性で8.6%、女性で0.4%と男性が8.2ポイント上回っています。

性・年齢別では、40代の女性で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。

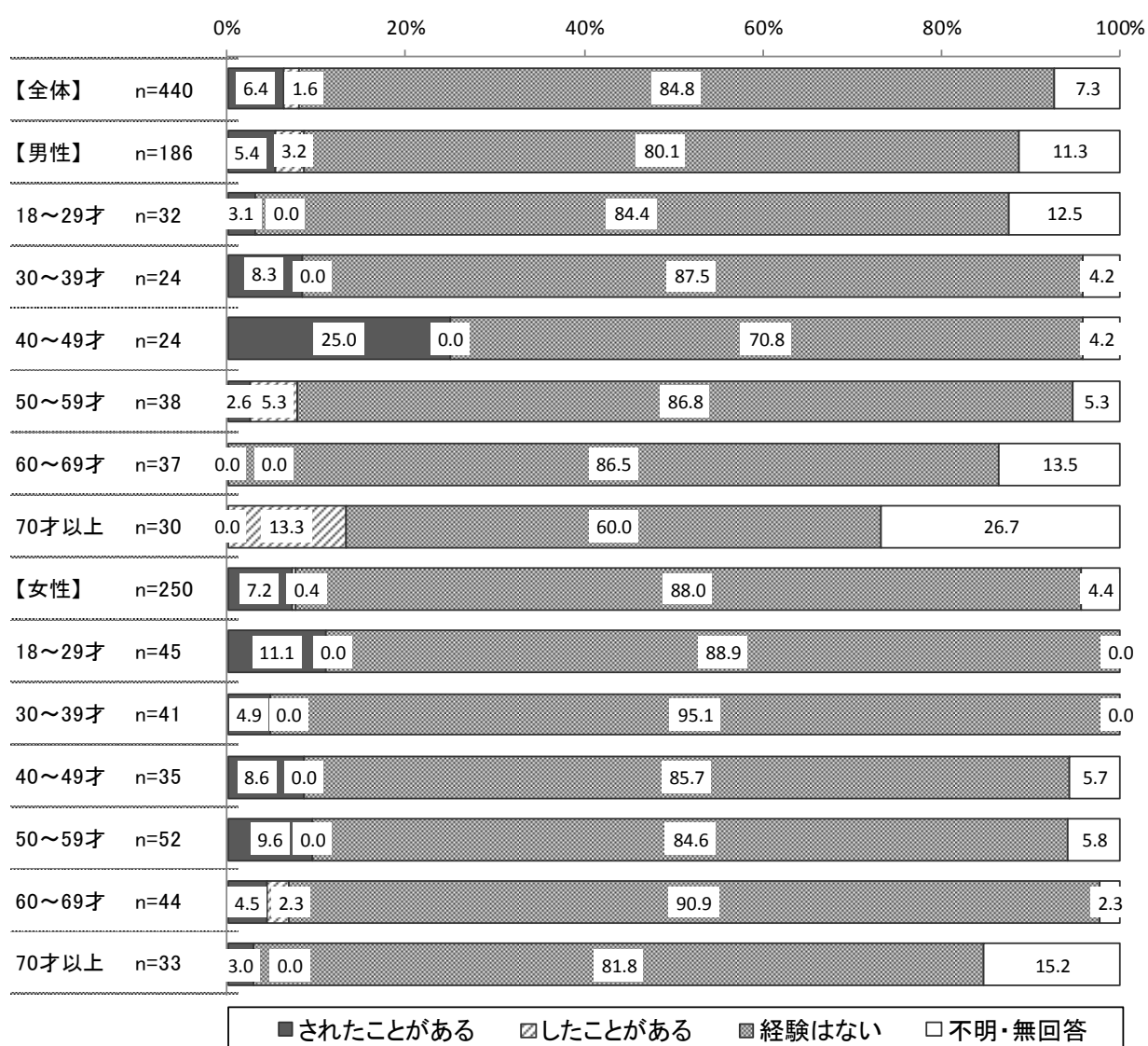


(4) 交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりする

「経験はない」84.8%＞「されたことがある」6.4%＞「したことがある」1.6%

【単数回答】

交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりするについては、「されたことがある」との回答が6.4%、「したことがある」が1.6%、「経験はない」が84.8%となっています。
性別でみると、男女間に大きな違いはみられません。



(5) 大事にしているものを、壊したり捨てたりする

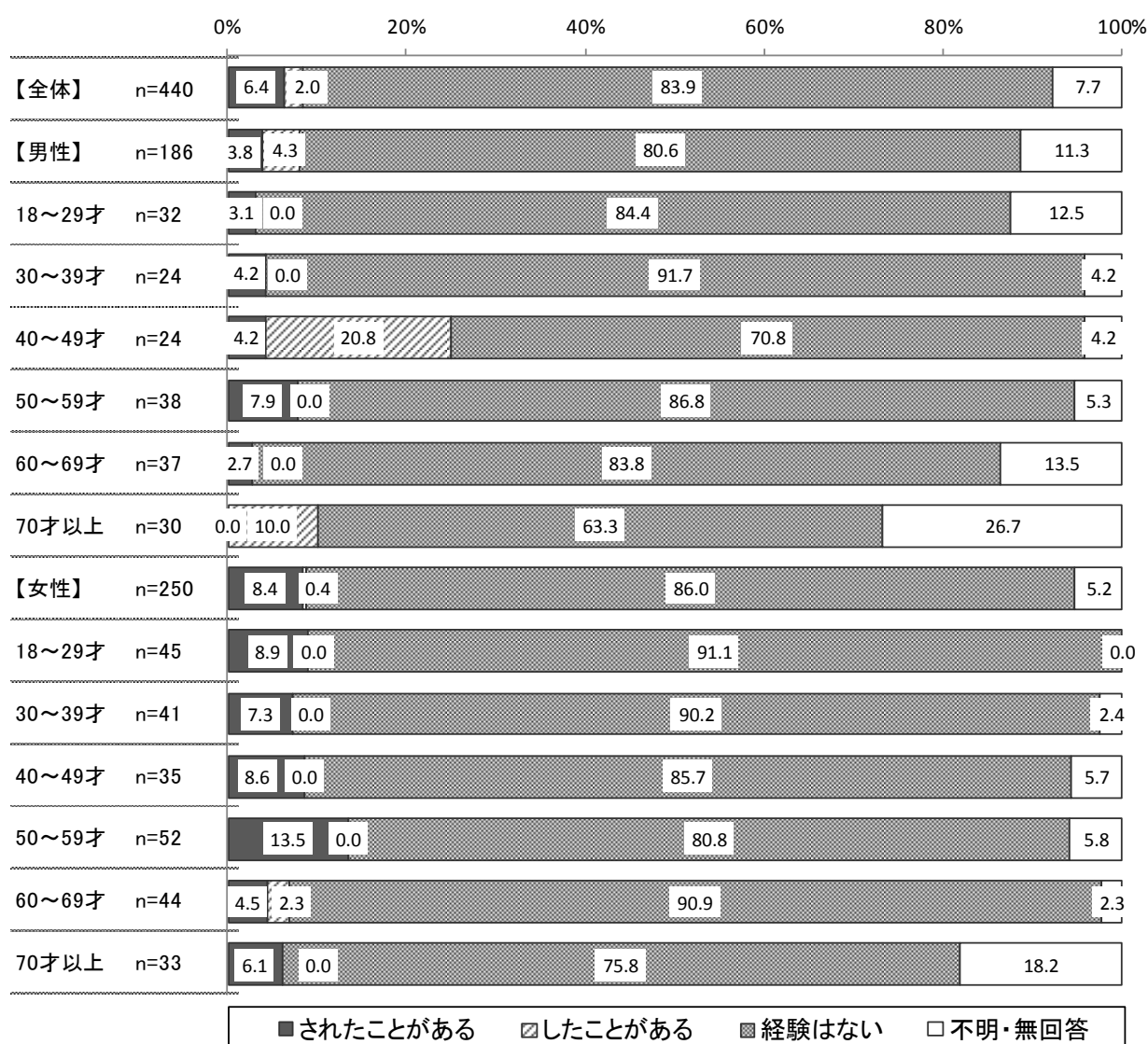
「経験はない」83.9%＞「されたことがある」6.4%＞「したことがある」2.0%

【単数回答】

大事にしているものを、壊したり捨てたりするについては、「されたことがある」との回答が6.4%、「したことがある」が2.0%、「経験はない」が83.9%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で3.8%、女性で8.4%と女性が4.6ポイント上回っています。

性・年齢別では、50代の女性で「されたことがある」が、40代の男性で「したことがある」が高くなっています。



(6) なぐるふりをして脅したり、押したりする

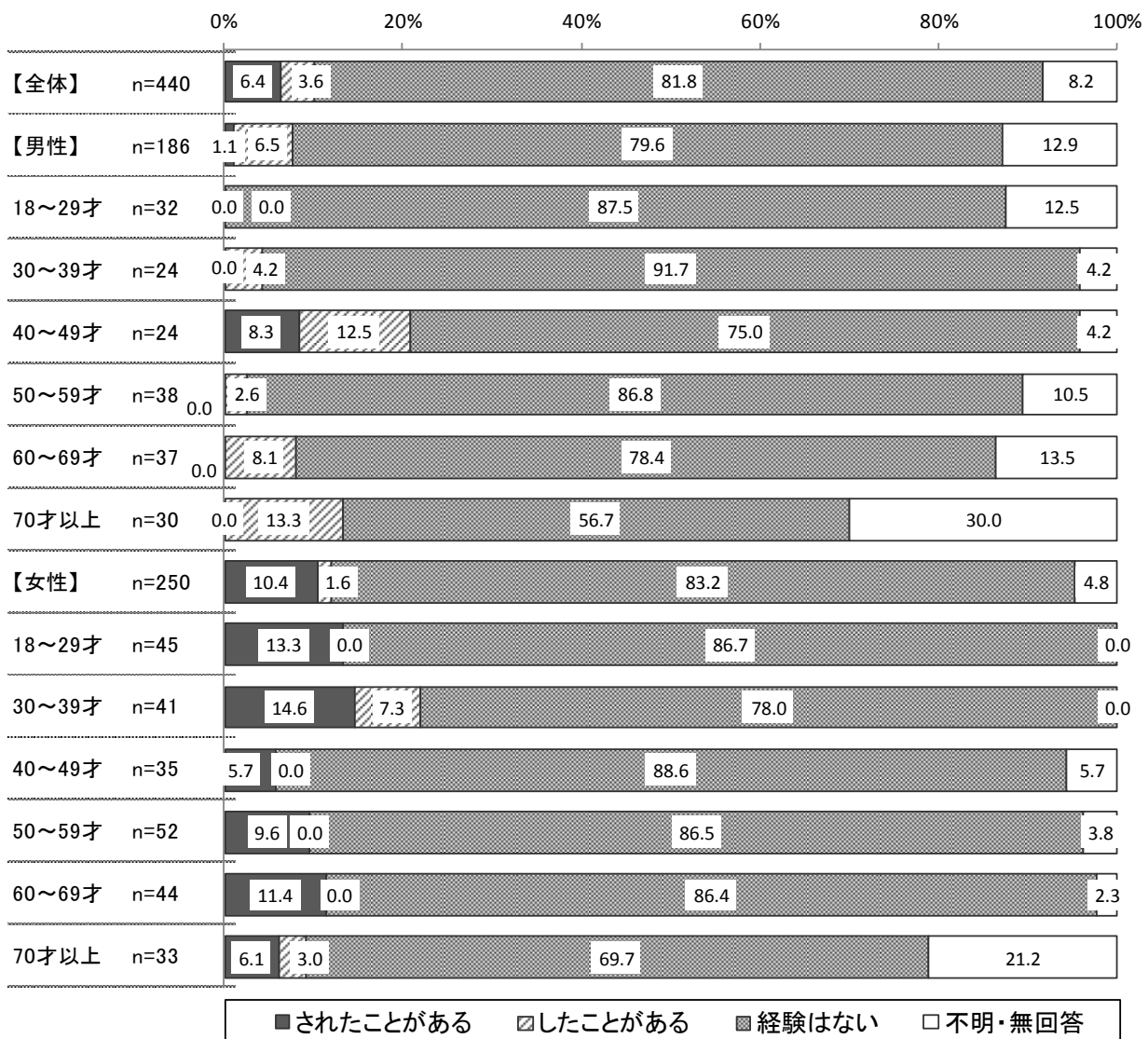
「経験はない」81.8%＞「されたことがある」6.4%＞「したことがある」3.6%

【単数回答】

なぐるふりをして脅したり、押したりするについては、「されたことがある」との回答が6.4%、「したことがある」が3.6%、「経験はない」が81.8%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で1.1%、女性で10.4%と女性が9.3ポイント上回っています。それに対し、「したことがある」との回答が男性で6.5%、女性で1.6%と男性が4.9ポイント上回っています。

性・年齢別では、特に大きな変化はみられません。



(7) 平手でたたいたり、蹴ったりする

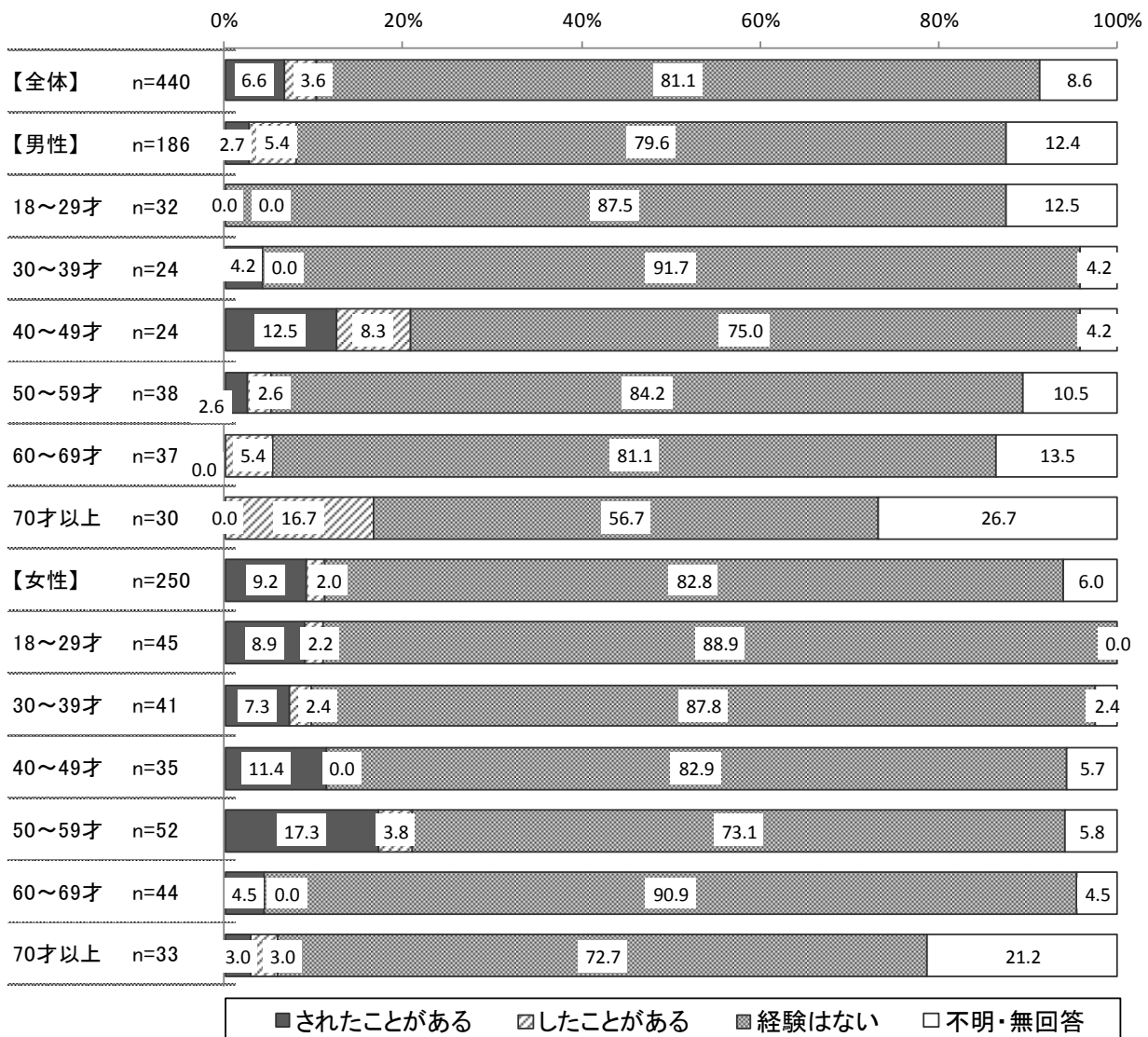
「経験はない」81.1%＞「されたことがある」6.6%＞「したことがある」3.6%

【単数回答】

平手でたたいたり、蹴ったりするについては、「されたことがある」との回答が6.6%、「したことがある」が3.6%、「経験はない」が81.1%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性で2.7%、女性で9.2%と女性が6.5ポイント上回っています。

性・年齢別では、50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、70才以上の男性で「したことがある」が高くなっています。



(8) 立ち上がれなくなるまで、ひどい暴力をふるう

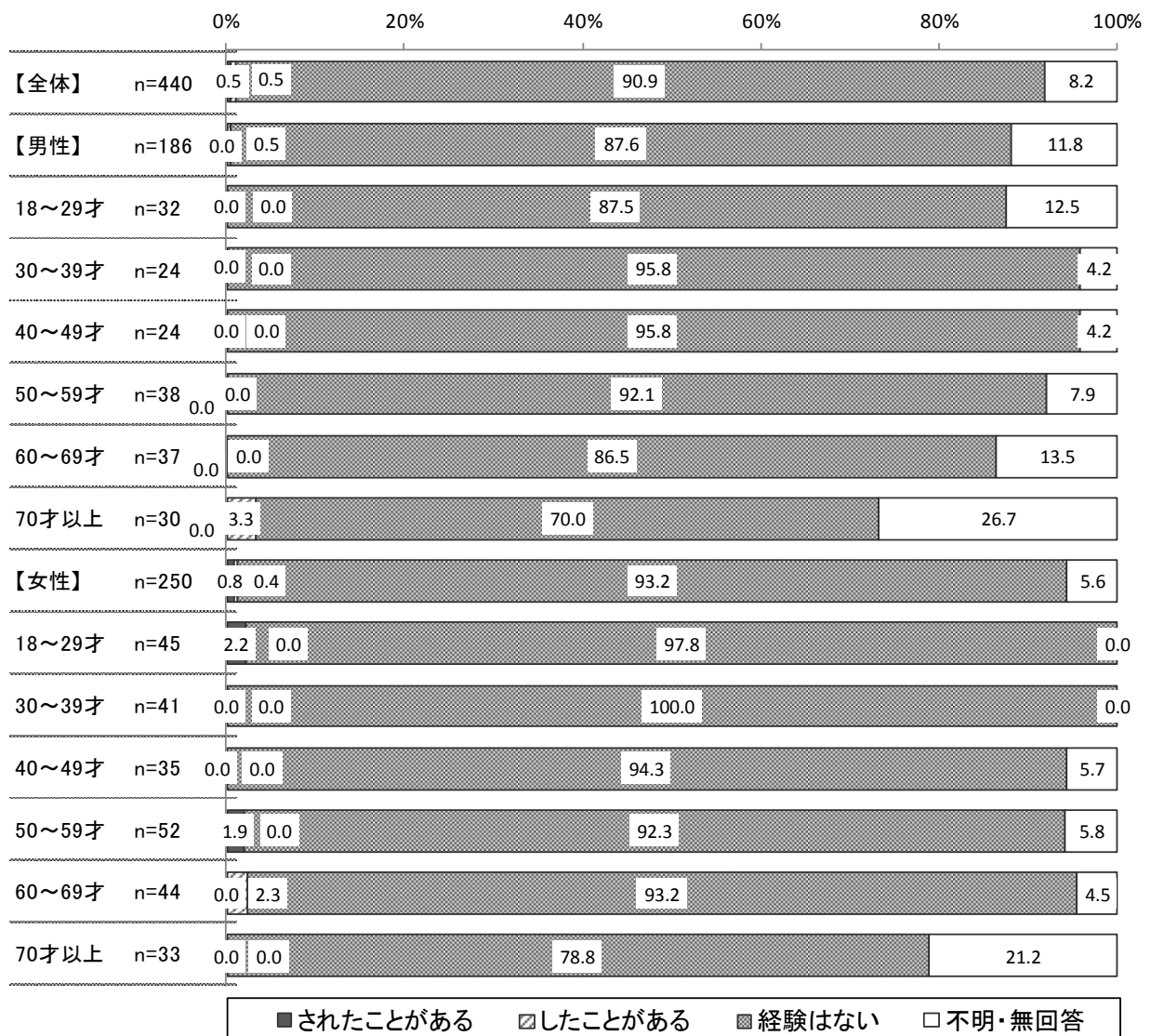
「経験はない」90.9%＞「されたことがある」「したことがある」0.5%

【単数回答】

立ち上がれなくなるまで、ひどい暴力をふるうについては、「されたことがある」との回答が0.5%、「したことがある」が0.5%、「経験はない」が90.9%となっています。

性別でみると、男女間に大きな違いはみられません。

また、性・年齢別でみても、特に大きな変化はみられません。



(9) いやがっているのに性的な行為を強要する

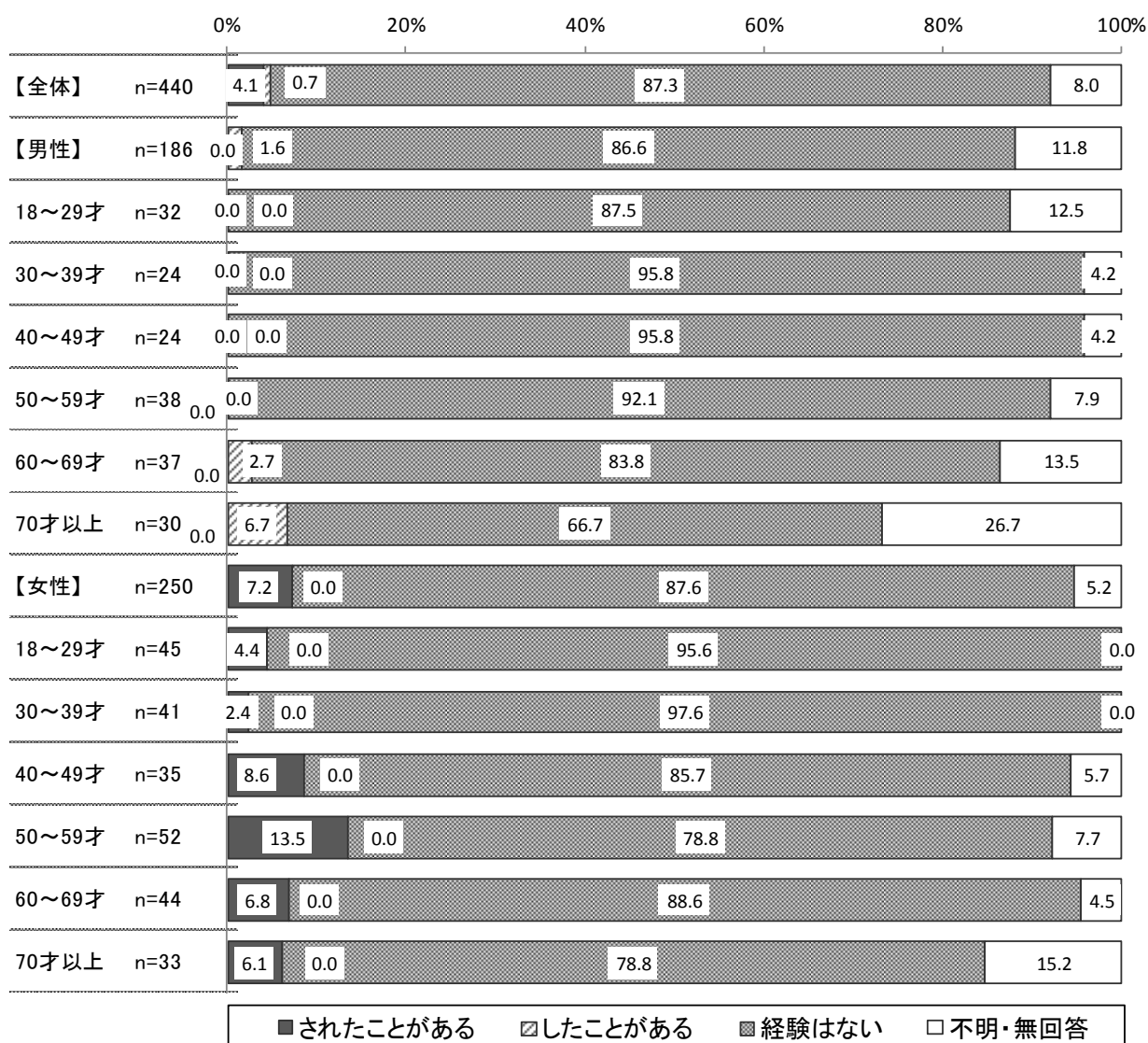
「経験はない」87.3%＞「されたことがある」4.1%＞「したことがある」0.7%

【単数回答】

いやがっているのに性的な行為を強要するについては、「されたことがある」との回答が4.1%、「したことがある」が0.7%、「経験はない」が87.3%となっています。

性別でみると、「されたことがある」との回答が男性では0.0%、女性では7.2%と女性が7.2ポイント上回っています。

性・年齢別では、50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。



(10) 金銭管理を独占し、生活費を渡さない

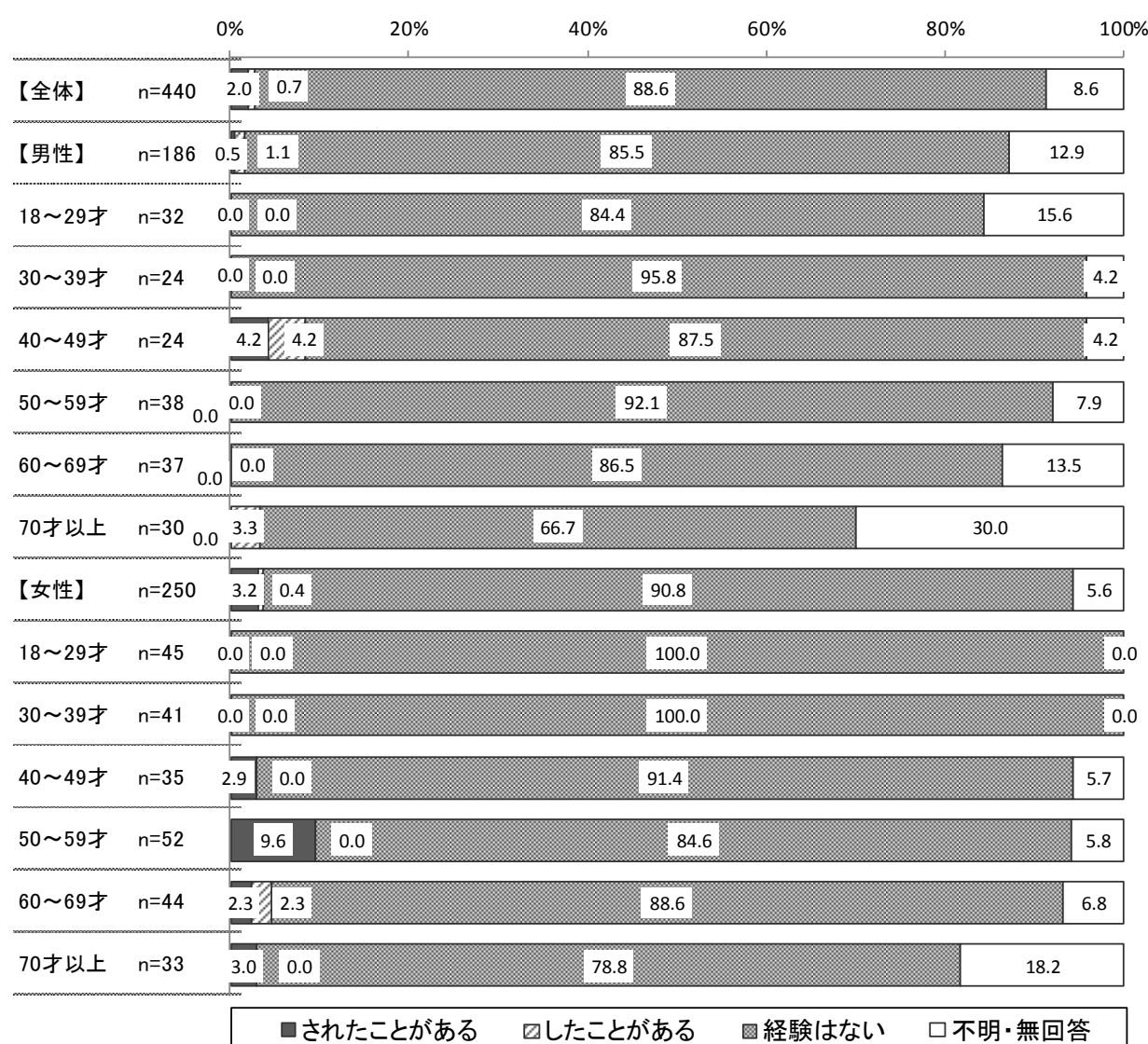
「経験はない」88.6%＞「されたことがある」2.0%＞「したことがある」0.7%

【単数回答】

金銭管理を独占し、生活費を渡さないについては、「されたことがある」との回答が2.0%、「したことがある」が0.7%、「経験はない」が88.6%となっています。

性別でみると、男女間に大きな違いはみられません。

性・年齢別では、50代の女性で「されたことがある」と回答する割合が高くなっています。



(11) 10代20代のときに上記(1)～(9)のようなことをする

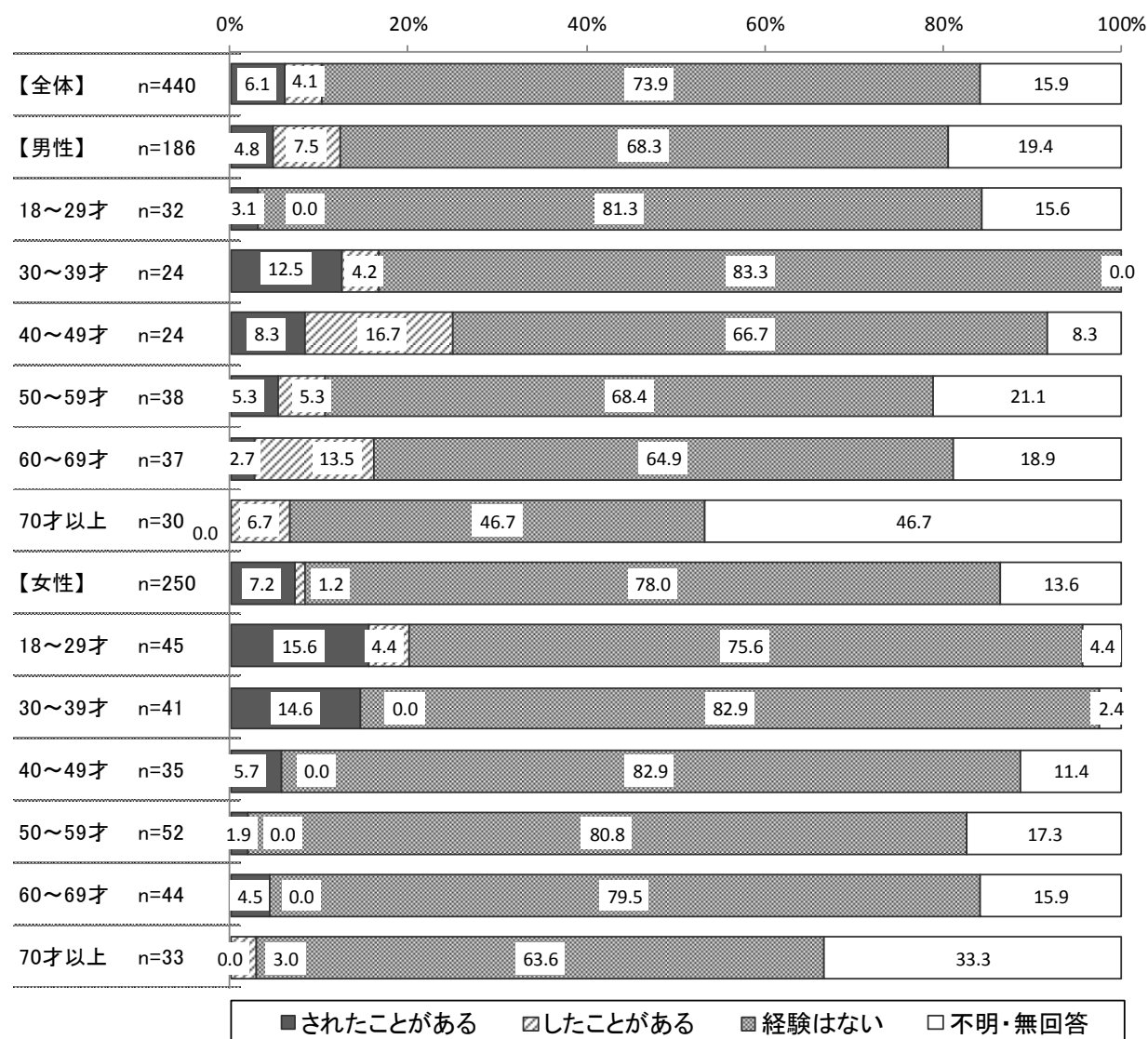
「経験はない」73.9%＞「されたことがある」6.1%＞「したことがある」4.1%

【単数回答】

10代20代のときに上記(1)～(9)のようなことをするについては、「されたことがある」との回答が6.1%、「したことがある」が4.1%、「経験はない」が73.9%となっています。

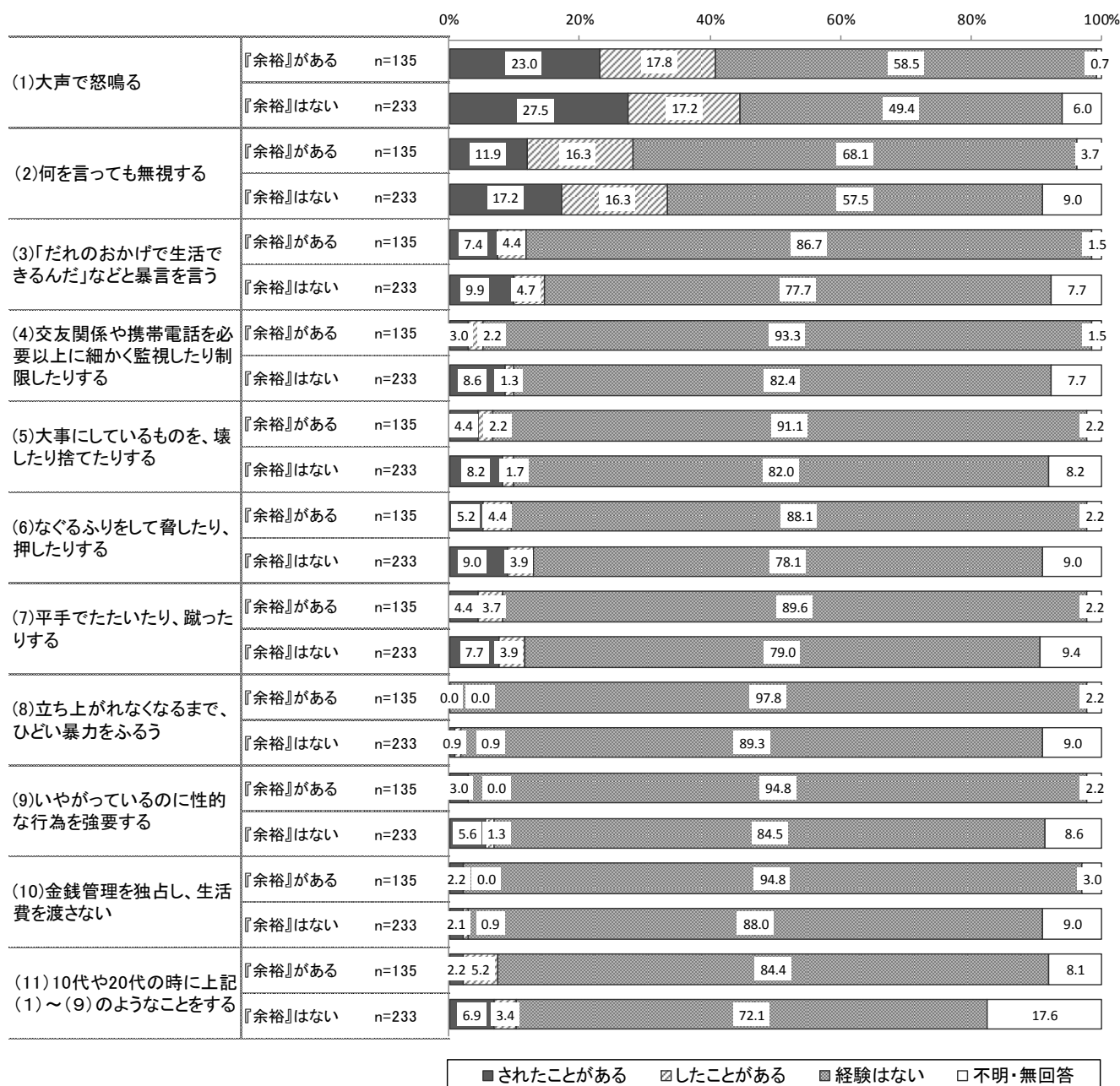
性別でみると、「したことがある」との回答が女性では1.2%、男性で7.5%と男性が6.3ポイント上回っています。

性・年齢別では、18～29才、30代の女性で「されたことがある」と回答する割合が、40代の男性で「したことがある」が高くなっています。



■経済的状況別クロス集計

経済的状況別でみると、「されたことがある」と回答した人は、「金銭管理を独占し、生活費を渡さない」を除いては、経済的に余裕がない人（あまり余裕がない人も含む）が余裕がある人（まあまあ余裕がある人も含む）を上回っています。しかしながら、最も差が多いもので5ポイント程度となっており、差はあまりみられません。また、「したことがある」と回答した人は、経済的な余裕に関係なく特に大きな違いはみられません。



【問 16】

問 15 の項目の中で、「1. されたことがある」または「2. したことがある」のところに、1 つでも○をつけた方におたずねします。（(1)～(12)のすべてが、「3.経験はない」という方は【問 19】にお進みください。）

あなたが問 15 のような状況に置かれたとき、誰かに相談しましたか。

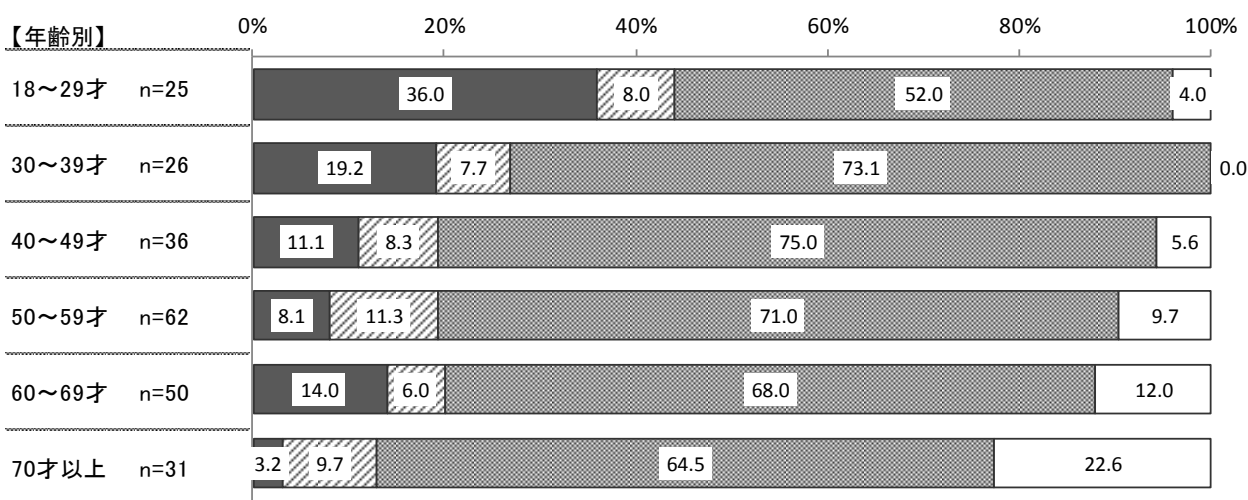
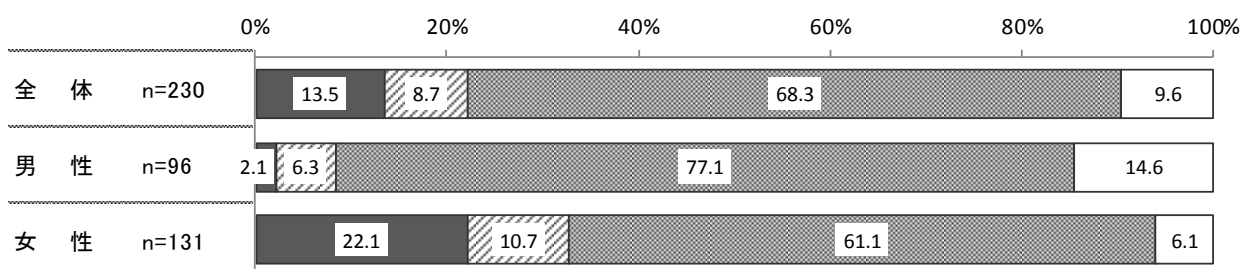
**「相談しようと思わなかった」68.3%＞「相談した」13.5%＞
「相談したかったが、相談しなかった」8.7%**

【単数回答】

夫や妻、恋人などから何らかの暴力などを受けた時の相談については、「相談した」との回答が 13.5%、「相談したかったが、相談しなかった」が 8.7%、「相談しようと思わなかった」が 68.3% となっています。

性別でみると、「相談した」と回答する人の割合は、男性で 2.1%、女性で 22.1%となっています。

年齢別では、「相談した」と回答する人の割合は、18～29 才で 36.0%と高くなっています。



■ 相談した
 ■ 相談しようと思わなかった
 ▨ 相談したかったが、相談しなかった
 □ 不明・無回答

【問 17】

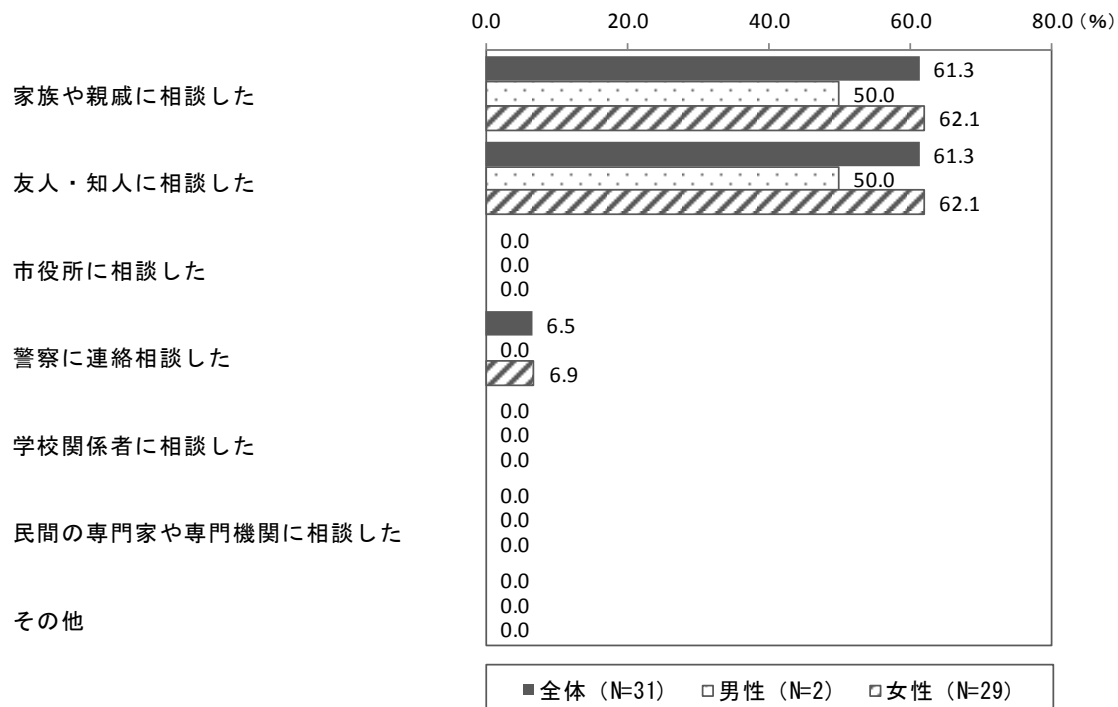
問 16 で、「1. 相談した」と答えた方におたずねします。
あなたは、誰に相談しましたか。（〇はいくつでも）

DV 経験の相談先は「友人・知人」「家族や親戚」など身近な人

【複数回答】

DV 経験の相談先については、「家族や親戚に相談した」「友人・知人に相談した」との回答が 61.3% と最も高くなっており、被害者の多くが家族や友人など身近な人に相談していることがうかがえます。

性別でみると、「家族や親戚に相談した」「友人・知人に相談した」と回答する割合が男女ともに最も高くなっています。



【問 18】

問 16 で、「2. 相談しなかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」に○をつけた方におたずねします。

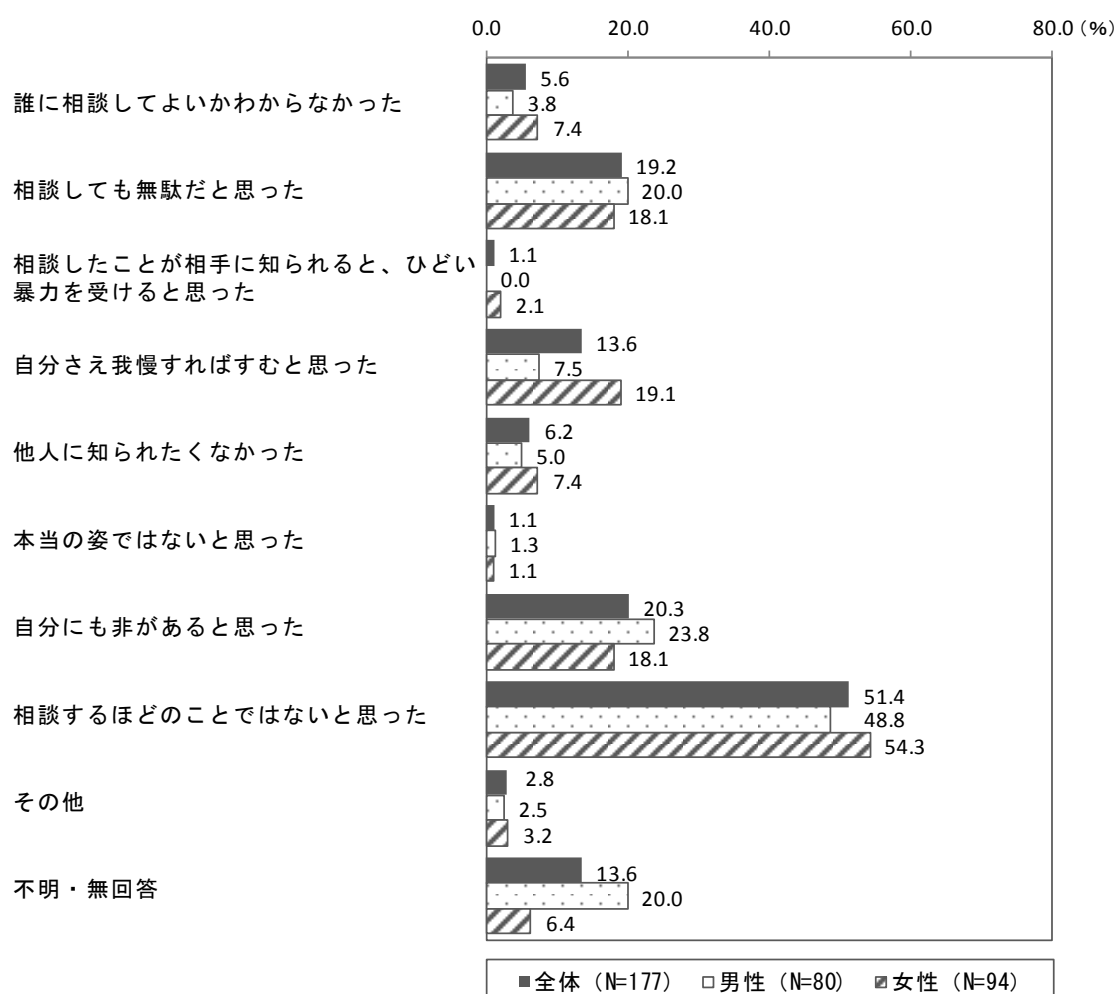
どこにも相談しなかったのはなぜですか。(○は2つまで)

どこにも相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思った」

【複数回答】

どこにも相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」との回答が51.4%と最も高く、次いで「自分にも非があると思った」が20.3%、「相談しても無駄だと思った」が19.2%となっています。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思った」と回答する割合が男女ともに最も高くなっています。また、「自分さえ我慢すればすむと思った」は男性で7.5%、女性で19.1%と男女間で差がみられます。



【問 19】

男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

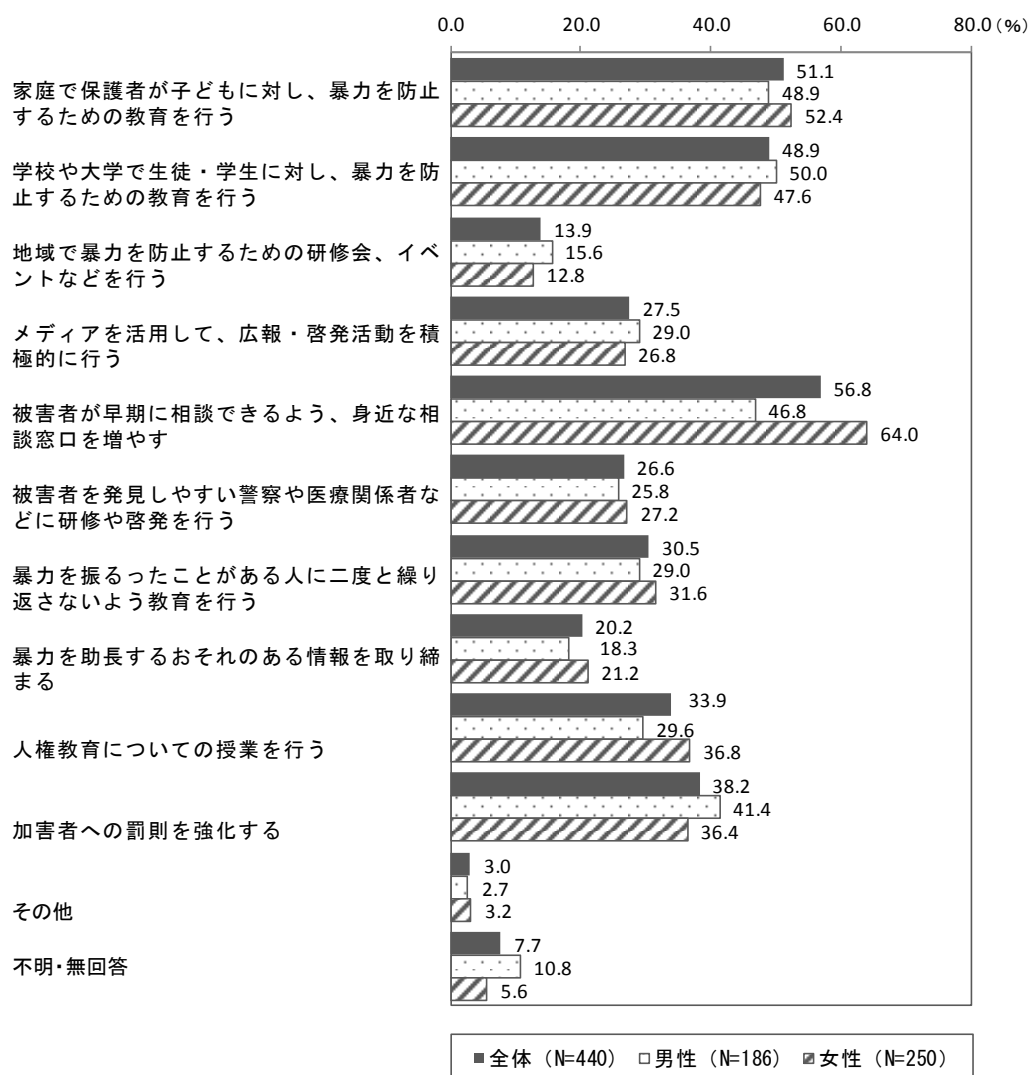
(〇はいくつでも)

男女間における暴力を防止するためには「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「家庭で保護者が子どもに対し暴力を防止するための教育を行う」ことが必要

【複数回答】

男女間における暴力を防止するために必要なことについては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が 56.8%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が 51.1%、「学校や大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が 48.9%となっています。

性別でみると、男性では「学校や大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」との回答が、女性では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も多くなっています。



■年齢別クロス集計

年齢別では、60才未満では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、60才以上では「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」と回答する割合が最も高くなっており、年代間で差がみられます。

	調査数	家庭で保護者が子どもに対する暴力を防止する教育を行う	学校や大学で生徒・学生に対する暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	被害者などに研修や啓発を行う	暴力を振るったことがある人への二度と繰り返さないよう教育を行う	暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる	人権教育についての授業を行う	加害者への罰則を強化する	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	53.8	52.6	11.5	35.9	65.4	44.9	35.9	17.9	33.3	53.8	2.6	3.8
30～39歳	N=65	55.4	50.8	12.3	26.2	64.6	35.4	46.2	15.4	30.8	43.1	3.1	—
40～49歳	N=59	44.1	50.8	13.6	23.7	50.8	16.9	28.8	16.9	32.2	44.1	1.7	10.2
50～59歳	N=90	44.4	52.2	18.9	30.0	56.7	25.6	31.1	17.8	36.7	37.8	6.7	4.4
60～69歳	N=82	56.1	46.3	13.4	25.6	52.4	18.3	23.2	28.0	34.1	30.5	2.4	4.9
70歳以上	N=65	53.8	38.5	12.3	21.5	49.2	16.9	18.5	24.6	35.4	20.0	—	26.2

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

7 子ども・子育てについて

【問 20】

あなたに男女両方の子どもがいたとして、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。男女別に2つまで選んでください。（お子さんのいない方等は一般的な意見としてお答えください。）

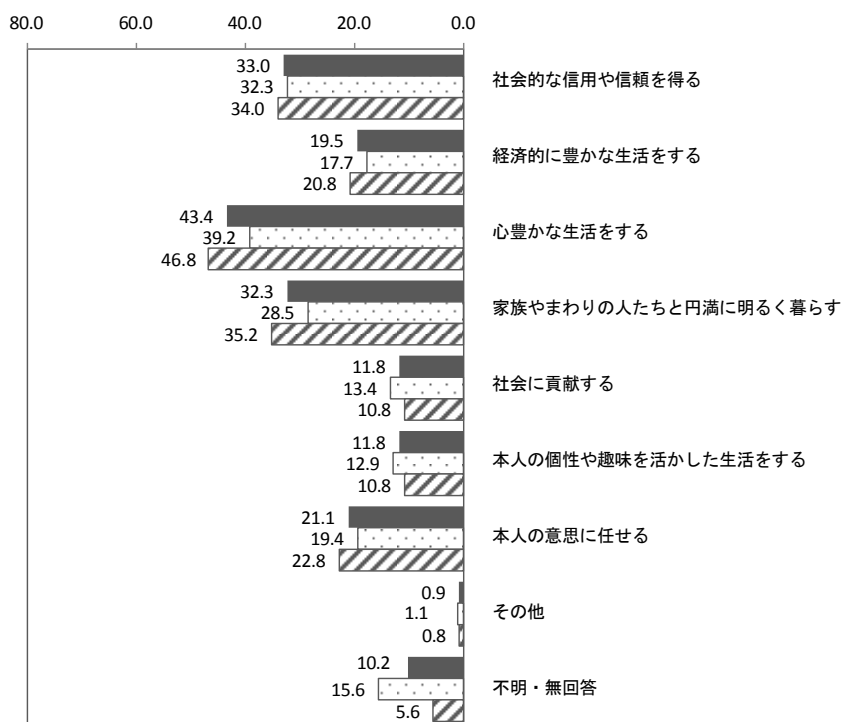
子どもに対し希望する将来の生き方は「心豊かな生活をする」

【複数回答】

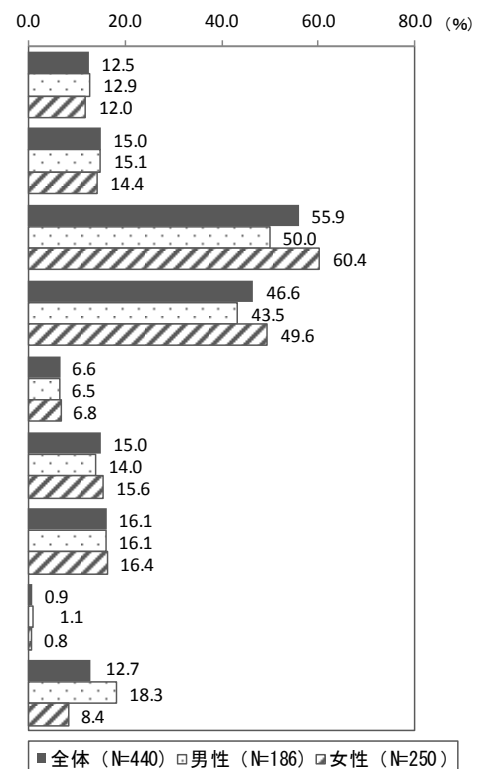
男の子の将来に望む生き方については、「心豊かな生活をする」との回答が43.4%と最も高く、次いで「社会的な信用や信頼を得る」が33.0%となっています。

女の子の将来に望む生き方については、「心豊かな生活をする」との回答が55.9%と最も高く、次いで「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」が46.6%となっています。

【男の子】



【女の子】



■年齢別クロス集計

年齢別では、男の子の場合は、70才以上で「社会的な信用や信頼を得る」、その他の年代では「心豊かな生活をする」との回答が最も高くなっています。次いで、30代と50代では「社会的な信用や信頼を得る」、70才以上では、「心豊かな生活をする」、その他の年代では「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」と回答する人の割合が高くなっています。

女の子の場合は、いずれの年代においても「心豊かな生活をする」「家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす」の上位2項目の回答が多くなっています。

		調査数	社会的な信用や信頼を得る	経済的に豊かな生活をする	心豊かな生活をする	家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす	社会に貢献する	本人の個性や趣味を活かした生活をする	本人の意思に任せる	その他
男の子の場合	18～29歳	N=78	32.1	30.8	37.2	33.3	9.0	14.1	26.9	1.3
	30～39歳	N=65	33.8	18.5	52.3	26.2	15.4	16.9	30.8	1.5
	40～49歳	N=59	27.1	22.0	49.2	40.7	16.9	13.6	11.9	—
	50～59歳	N=90	35.6	14.4	51.1	34.4	12.2	7.8	24.4	—
	60～69歳	N=82	34.1	18.3	42.7	36.6	4.9	12.2	19.5	2.4
	70歳以上	N=65	32.3	12.3	27.7	21.5	15.4	7.7	10.8	—
女の子の場合	18～29歳	N=78	14.1	19.2	61.5	43.6	5.1	19.2	23.1	1.3
	30～39歳	N=65	16.9	18.5	64.6	35.4	10.8	21.5	26.2	1.5
	40～49歳	N=59	6.8	13.6	57.6	52.5	13.6	18.6	5.1	—
	50～59歳	N=90	8.9	14.4	65.6	55.6	4.4	12.2	16.7	—
	60～69歳	N=82	12.2	14.6	48.8	54.9	1.2	12.2	13.4	2.4
	70歳以上	N=65	16.9	9.2	33.8	32.3	7.7	7.7	10.8	—

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

【問21】

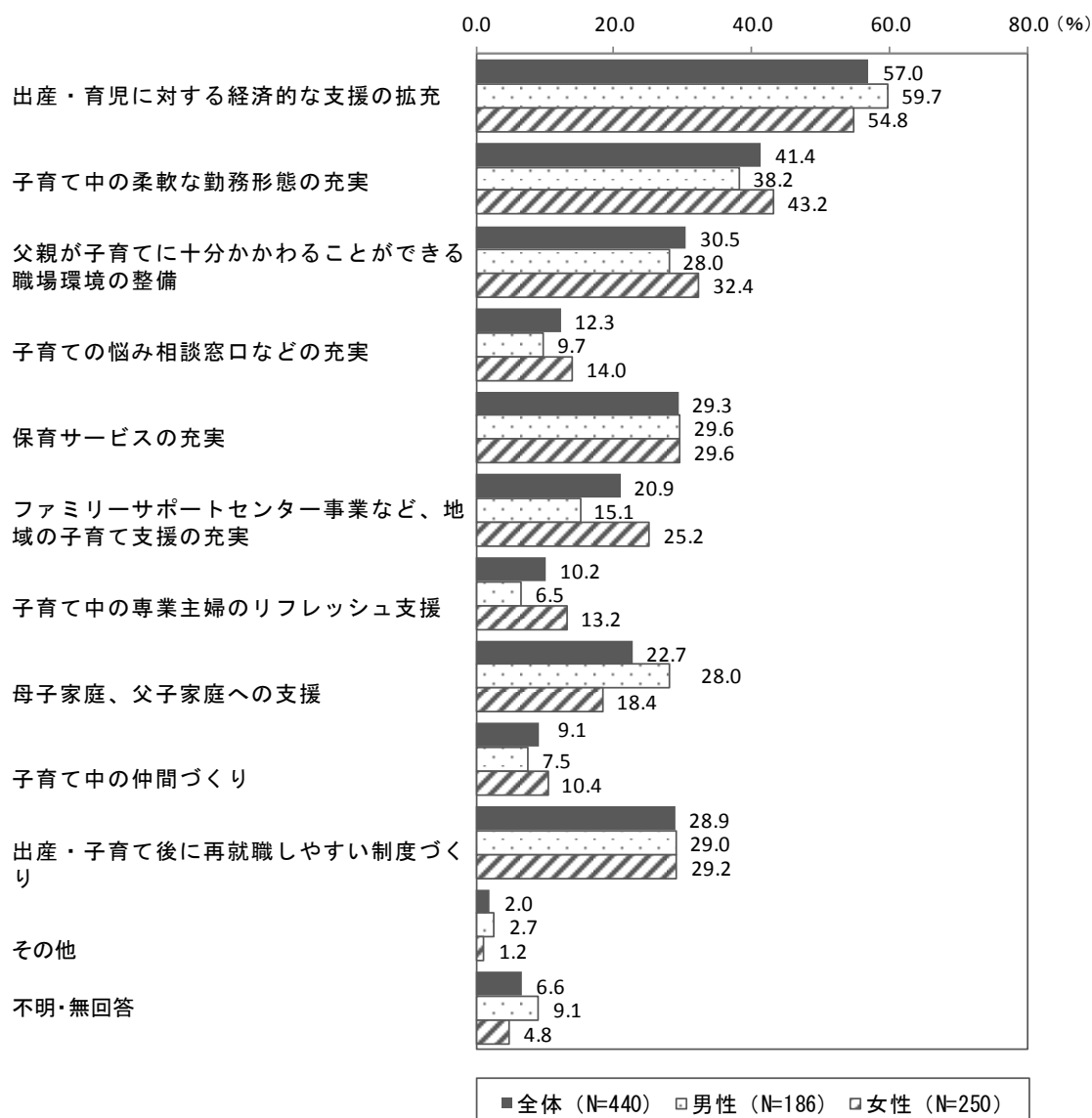
安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、あなたはどのように思いますか。
(〇は3つまで)

安心して子どもを生み育てるためには「出産や育児に対する経済的な支援」が必要

【複数回答】

安心して子どもを生み育てるために必要なことについては、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」との回答が57.0%と最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」が41.4%、「父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備」が30.5%となっています。

性別でみると、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」と回答する割合が男女ともに最も高く、次いで「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」が高くなっています。また、男性では「母子家庭、父子家庭への支援」との回答が、女性では「ファミリーサポートセンター事業など、地域の子育て支援の充実」が高くなっているなど、男女間で差がみられます。



■年齢別クロス集計

年齢別では、いずれの年代においても「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」との回答が最も高くなっています。次いで、70才以上では、「保育サービスの充実」と回答する割合が高く、その他の年代では「子育て中の柔軟な勤務形態の充実」と回答する割合が高くなっています。

	調査数	出産・育児に対する経済的な支援の拡充	子育て中の柔軟な勤務形態の充実	父親ができるに十分な職場環境の整備	子育ての悩み相談窓口などの充実	保育サービスの充実	ファミリーサポートセンターの充実	子育て中の専業主婦のライフシユ支援	母子家庭、父子家庭への支援	子育て中の仲間づくり	出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	60.3	37.2	34.6	15.4	20.5	16.7	17.9	24.4	7.7	35.9	2.6	2.6
30～39歳	N=65	56.9	49.2	33.8	12.3	35.4	18.5	7.7	24.6	10.8	32.3	—	4.6
40～49歳	N=59	57.6	47.5	25.4	16.9	32.2	25.4	8.5	28.8	5.1	18.6	5.1	6.8
50～59歳	N=90	55.6	45.6	35.6	14.4	26.7	21.1	5.6	15.6	11.1	28.9	2.2	6.7
60～69歳	N=82	63.4	39.0	24.4	4.9	29.3	30.5	11.0	23.2	4.9	34.1	1.2	3.7
70歳以上	N=65	46.2	30.8	27.7	10.8	33.8	12.3	10.8	23.1	15.4	18.5	1.5	16.9

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

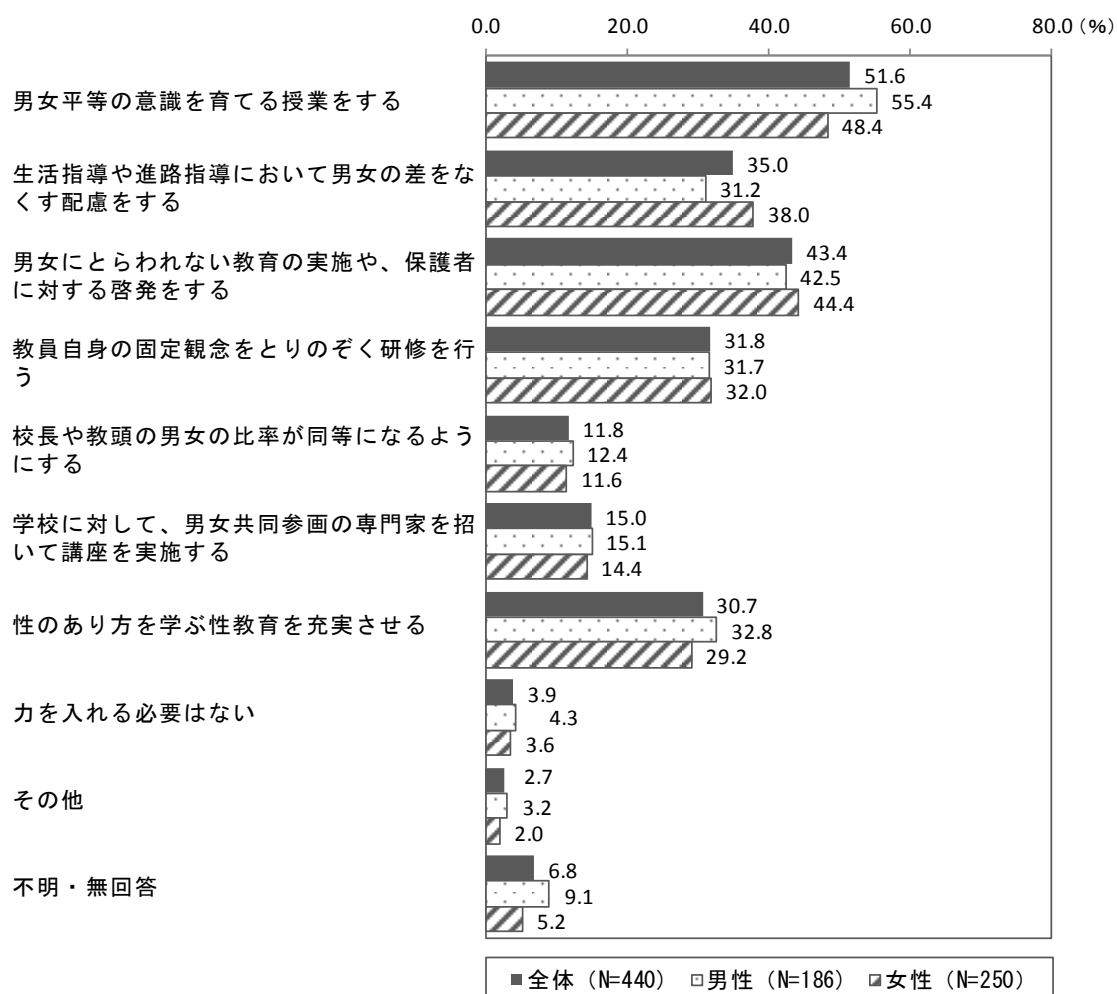
【問 22】

男女平等意識を育てるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

男女平等意識を育てるために学校教育では「男女平等の意識を育てる授業」に力を入れることが必要

【複数回答】

男女平等意識を育てるために、学校教育の場で力を入れることについては、「男女平等の意識を育てる授業をする」との回答が 51.6%と最も高く、次いで「男女にとらわれない教育を実施し、合わせて保護者に対する啓発をする」が 43.4%、「生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする」が 35.0%となっています。



■年齢別クロス集計

年齢別では、いずれの年代においても「男女平等の意識を育てる授業をする」と回答する割合が最も高くなっています。次いで、70才以上では、「性のあり方を学ぶ性教育を充実させる」と回答する割合が高く、その他の年代では「男女にとらわれない教育を実施し、合わせて保護者に対する啓発をする」と回答する割合が高くなっています。

	調査数	男女平等の意識を育てる授業をする	生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする	男女にとらわれない教育の実施や、保護者に対する啓発をする	教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う	校長や教頭の男女の比率が同等になるようにする	学校に対して、男女共同参画の専門家を招いて講座を実施する	性のあり方を学ぶ性教育を充実させる	力を入れる必要はない	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	52.6	35.9	38.5	32.1	14.1	15.4	29.5	3.8	2.6	2.6
30～39歳	N=65	52.3	30.8	49.2	29.2	18.5	9.2	35.4	7.7	1.5	—
40～49歳	N=59	50.8	35.6	50.8	23.7	11.9	15.3	20.3	1.7	6.8	8.5
50～59歳	N=90	47.8	32.2	38.9	37.8	8.9	16.7	27.8	3.3	2.2	6.7
60～69歳	N=82	54.9	37.8	50.0	30.5	9.8	20.7	30.5	4.9	2.4	6.1
70歳以上	N=65	50.8	38.5	35.4	35.4	9.2	10.8	41.5	1.5	1.5	18.5

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

8 男女平等の施策について

【問 23】

次にあげる言葉のうち、あなたが知っているもの・言葉を聞いたことがあるものはどれですか。次の(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。

(1) 男女共同参画社会基本法

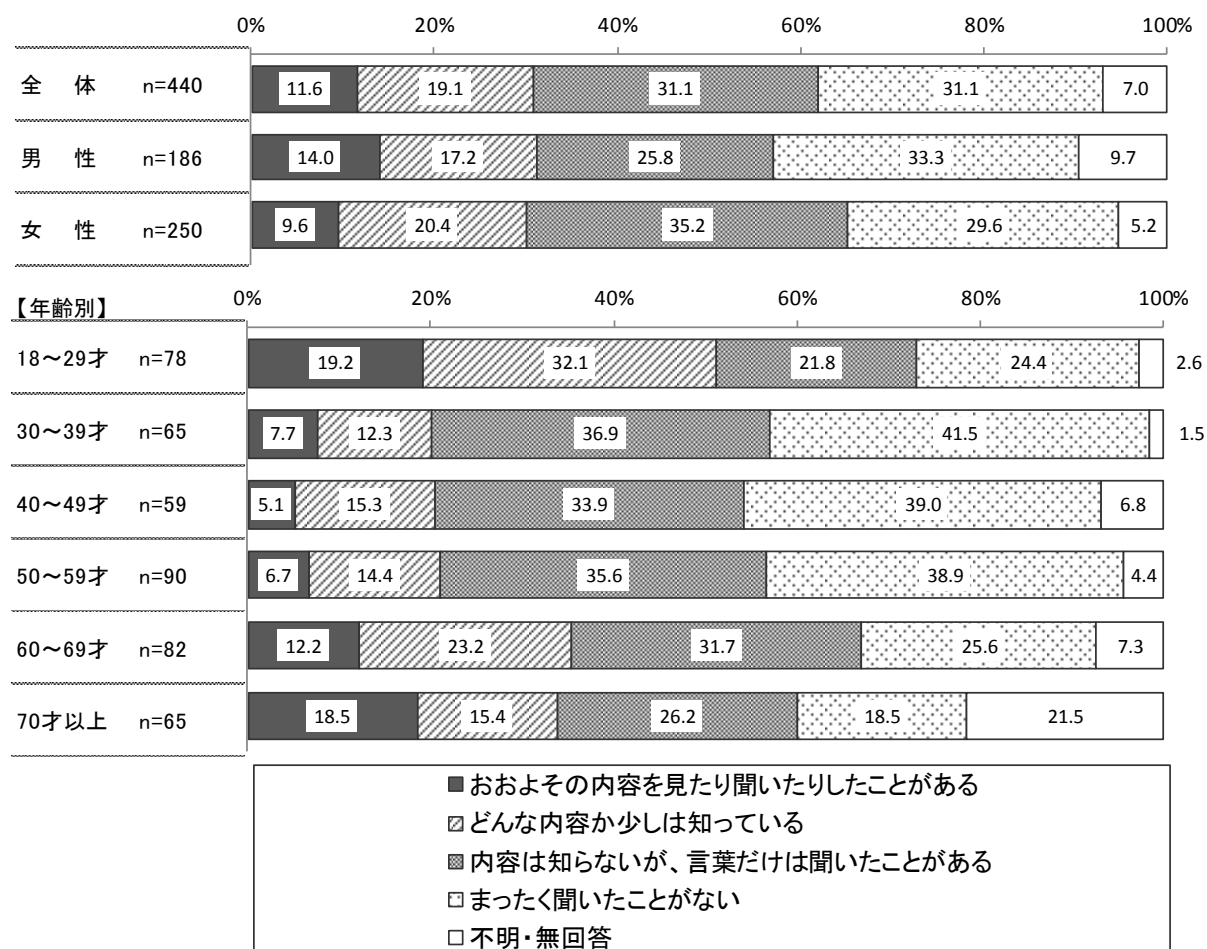
『知っている・見聞きしたことはある』61.8%＞『まったく聞いたことがない』31.1%

【単数回答】

男女共同参画社会基本法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が 11.6%、「どんな内容か少しは知っている」が 19.1%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が 31.1%となっており、これらを合わせた認知度は約6割（61.8%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は 31.1%となっています。

性別でみると、男性の認知度は 57.0%、女性の認知度は 65.2%と女性が 8.2 ポイント上回っています。

年齢別では、18～29 才で認知度は高く 7 割を超えています。



(2) 男女雇用機会均等法

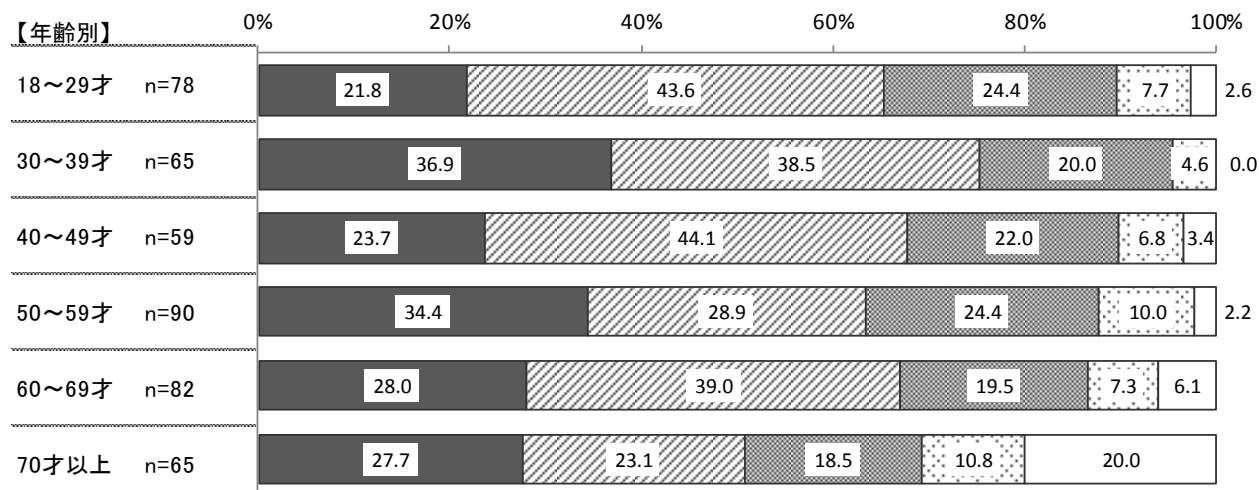
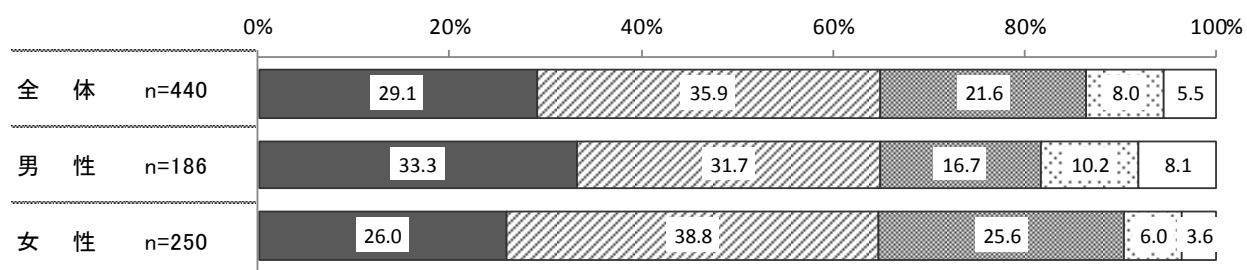
『知っている・見聞きしたことはある』86.6%＞『まったく聞いたことがない』8.0%

【単数回答】

男女雇用機会均等法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が 29.1%、「どんな内容か少しは知っている」が 35.9%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が 21.6%となっており、これらを合わせた認知度は約9割（86.6%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は 8.0%となっています。

性別でみると、男性の認知度は 81.7%、女性の認知度は 90.4%と女性が 8.7 ポイント上回っています。

年齢別では、各年代とも認知度は高く、70才以上を除いては8割を超えています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- ▤ 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- ▧ まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(3) ワーク・ライフ・バランス

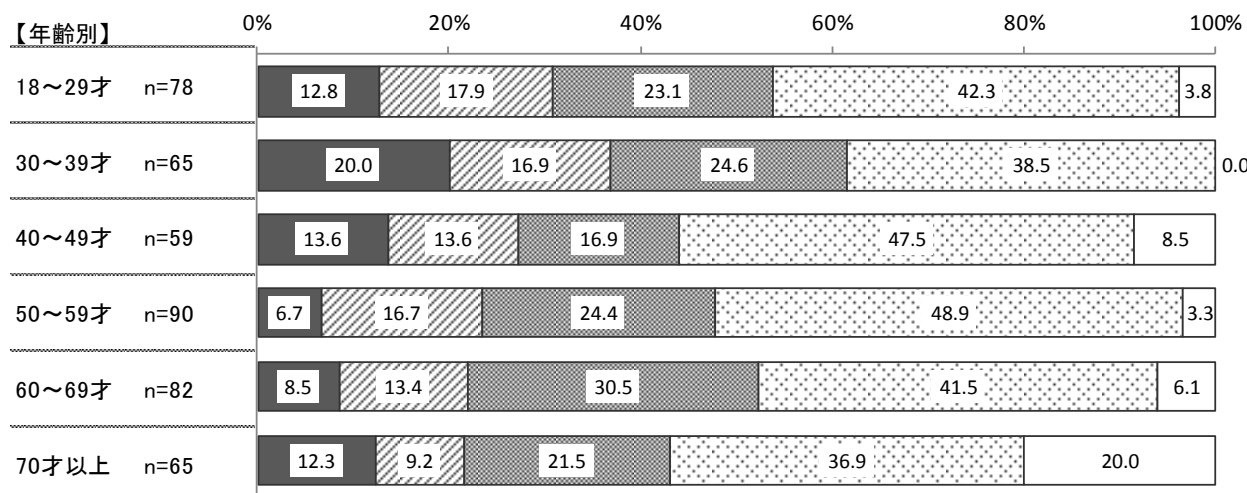
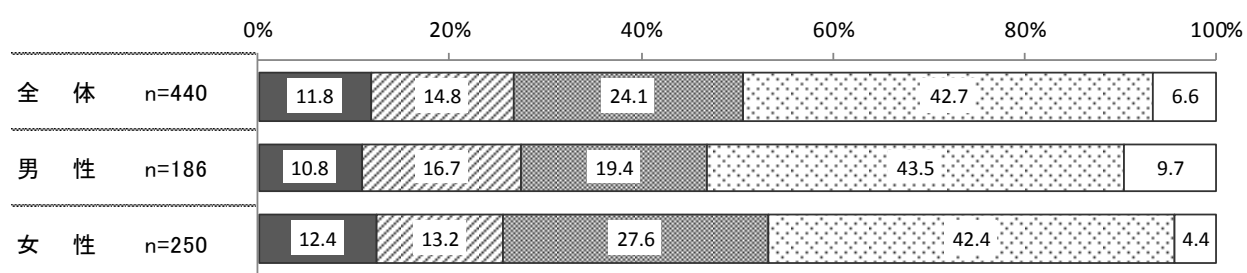
『知っている・見聞きしたことはある』50.7%＞『まったく聞いたことがない』42.7%

【単数回答】

ワーク・ライフ・バランスの認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が 11.8%、「どんな内容か少しは知っている」が 14.8%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が 24.1%となっており、これらを合わせた認知度は約5割（50.7%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は 42.7%となっています。

性別でみると、男性の認知度は 46.9%、女性の認知度は 53.2%と女性が 6.3 ポイント上回っています。

年齢別では、30代で認知度は高く6割を超えています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- ▤ 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(4) 女性活躍推進法

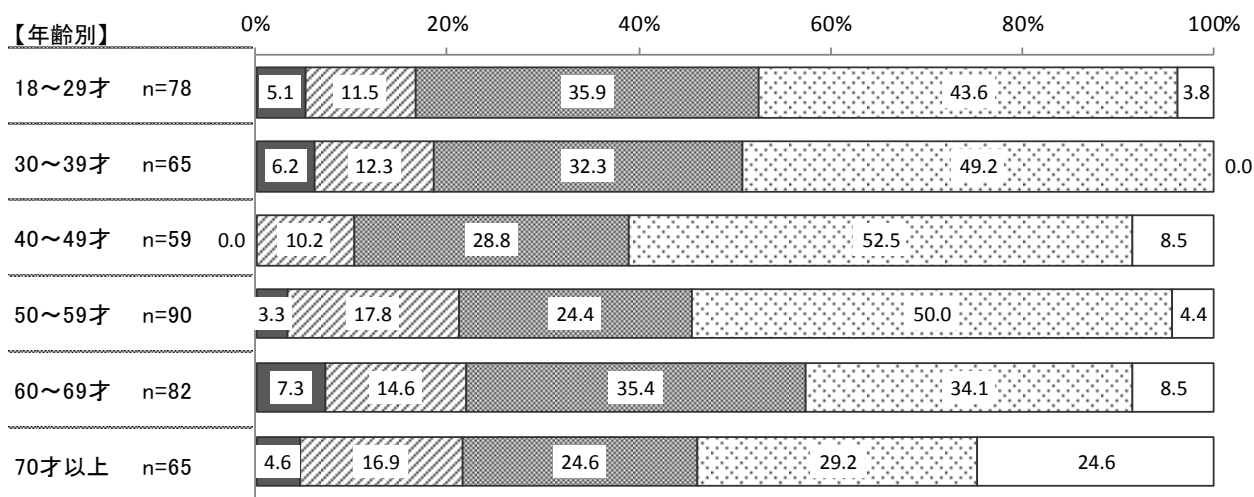
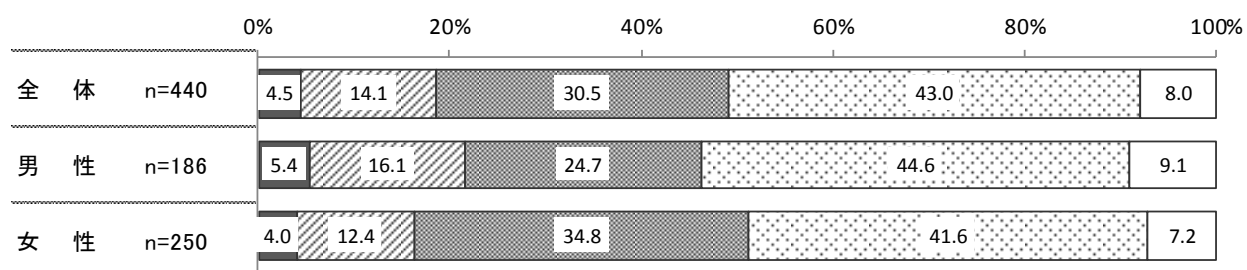
『知っている・見聞きしたことはある』49.1%＞『まったく聞いたことがない』43.0%

【単数回答】

女性活躍推進法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が 4.5%、「どんな内容か少しは知っている」が 14.1%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が 30.5%となっており、これらを合わせた認知度は約5割(49.1%)となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は 43.0%となっています。

性別でみると、男性の認知度は 46.2%、女性の認知度は 51.2%と女性が 5.0 ポイント上回っています。

年齢別では、18～29 才、30 代、60 代で認知度は高く 5 割を超えています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- ▨ まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(5) DV防止法

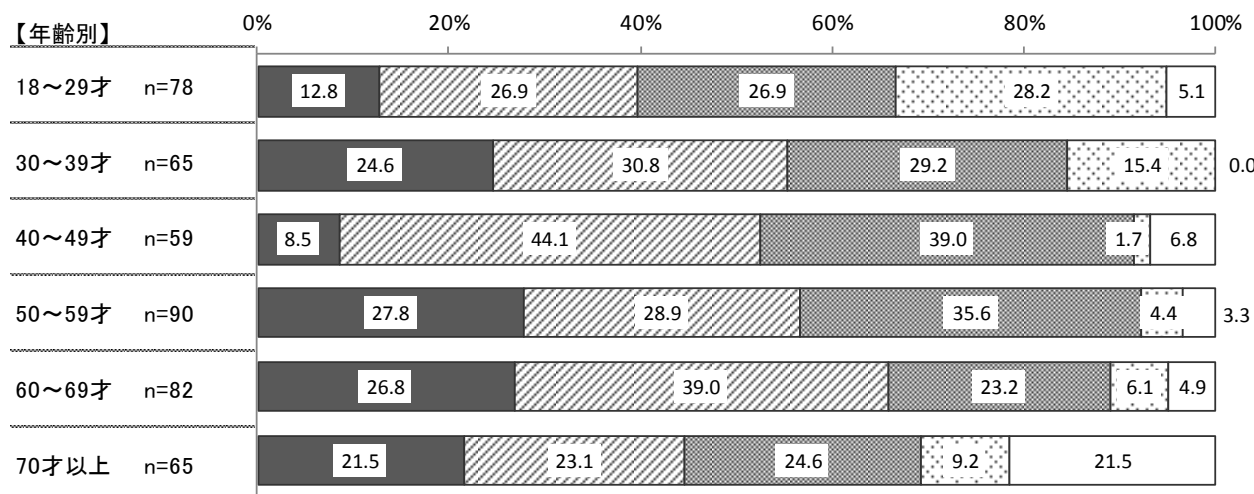
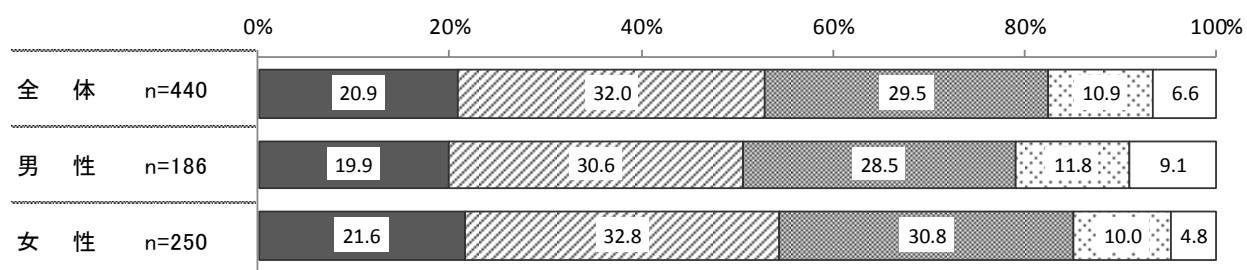
『知っている・見聞きしたことはある』82.4%＞『まったく聞いたことがない』10.9%

【単数回答】

DV防止法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が20.9%、「どんな内容か少しは知っている」が32.0%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が29.5%となっており、これらを合わせた認知度は約8割（82.4%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は10.9%となっています。

性別でみると、男性の認知度は79.0%、女性の認知度は85.2%と女性が6.2ポイント上回っています。

年齢別では、各年代とも認知度は高く、特に40～60代では9割前後を占めています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- ▩ 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

（６）次世代育成支援対策推進法

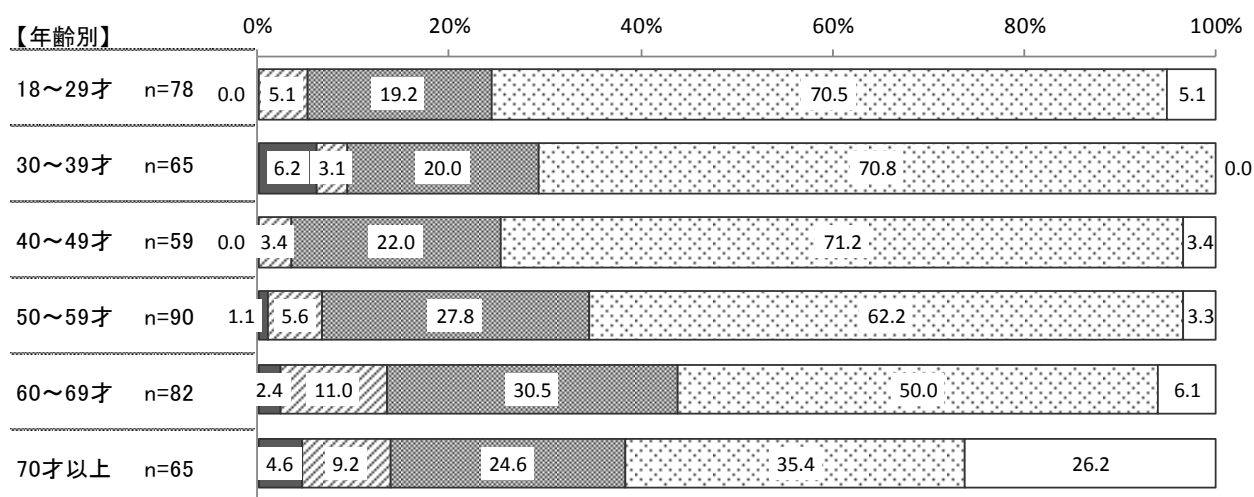
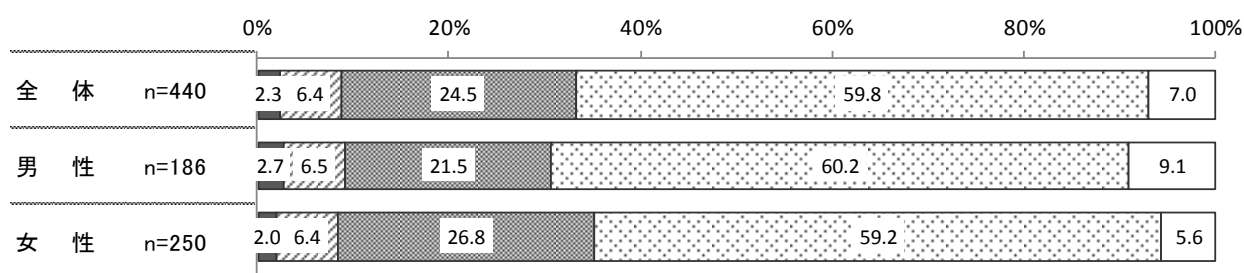
『知っている・見聞きしたことはある』33.2%＞『まったく聞いたことがない』59.8%

【単数回答】

次世代育成支援対策推進法の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が2.3%、「どんな内容か少しは知っている」が6.4%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が24.5%となっており、これらを合わせた認知度は約3割（33.2%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は59.8%となっています。

性別でみると、男性の認知度は30.7%、女性の認知度は35.2%と女性が4.5ポイント上回っています。

年齢別では、60代以上で認知度は高く4割前後を占めています。それに対し、18～29才や30代、40代では「まったく聞いたことがない」との回答が7割を超えています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(7) 多治見市男女共同参画推進条例

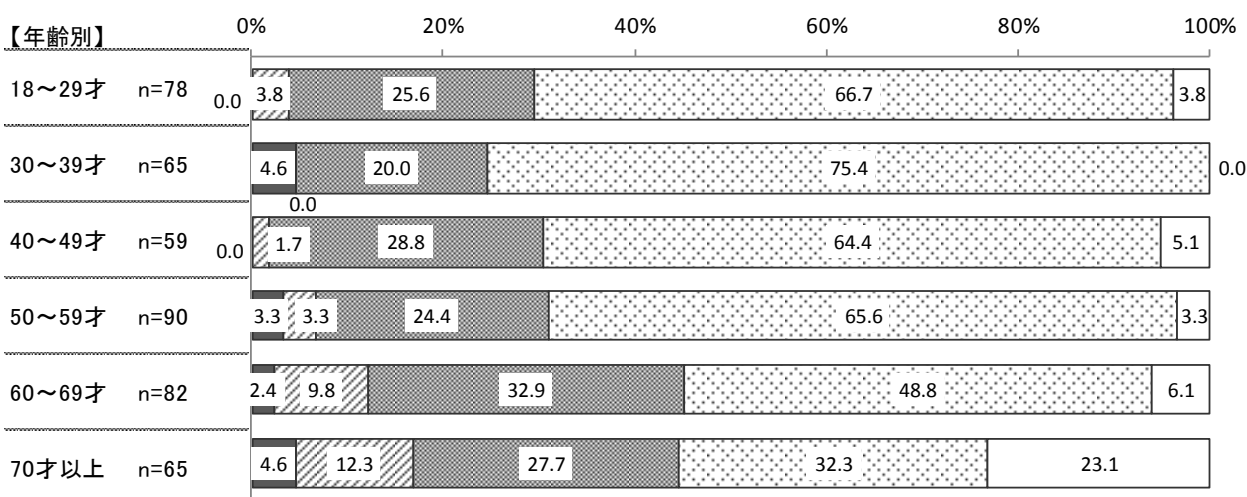
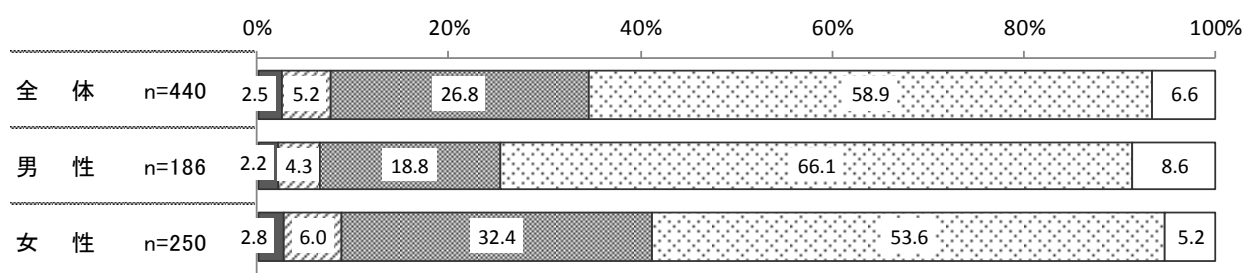
『知っている・見聞きしたことはある』34.5%＞『まったく聞いたことがない』58.9%

【単数回答】

多治見市男女共同参画推進条例の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が2.5%、「どんな内容か少しは知っている」が5.2%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が26.8%となっており、これらを合わせた認知度は約3割（34.5%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は58.9%となっています。

性別でみると、男性の認知度は25.3%、女性の認知度は41.2%と女性が15.9ポイント上回っています。

年齢別では、60代以上で認知度は高く4割を超えています。それに対し、60才未満では「まったく聞いたことがない」との回答が6割を超えています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- ▨ まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(8) たじみ男女共同参画プラン

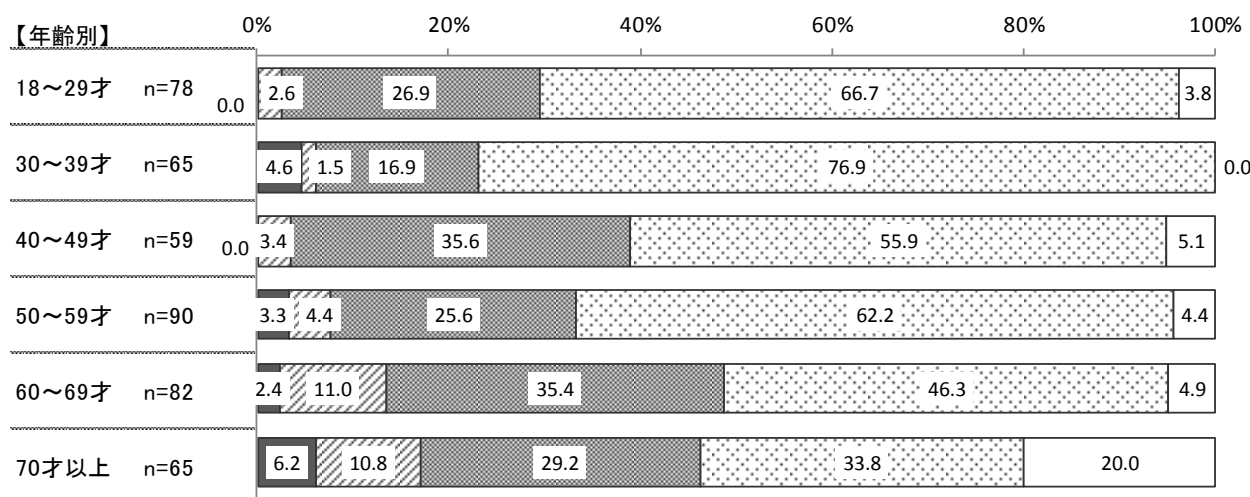
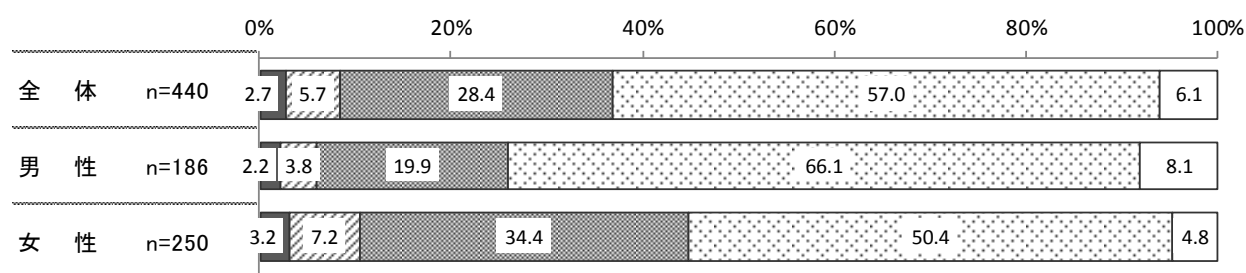
『知っている・見聞きしたことはある』36.8%＞『まったく聞いたことがない』57.0%

【単数回答】

たじみ男女共同参画プランの認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が2.7%、「どんな内容か少しは知っている」が5.7%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が28.4%となっており、これらを合わせた認知度は約4割（36.8%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は57.0%となっています。

性別でみると、男性の認知度は25.9%、女性の認知度は44.8%と女性が18.9ポイント上回っています。

年齢別では、60代以上で認知度は高く4割を超えています。それに対し、18～29才や30代では「まったく聞いたことがない」との回答が7割前後を占めています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(9) 男女共同参画サロン「ほっと」

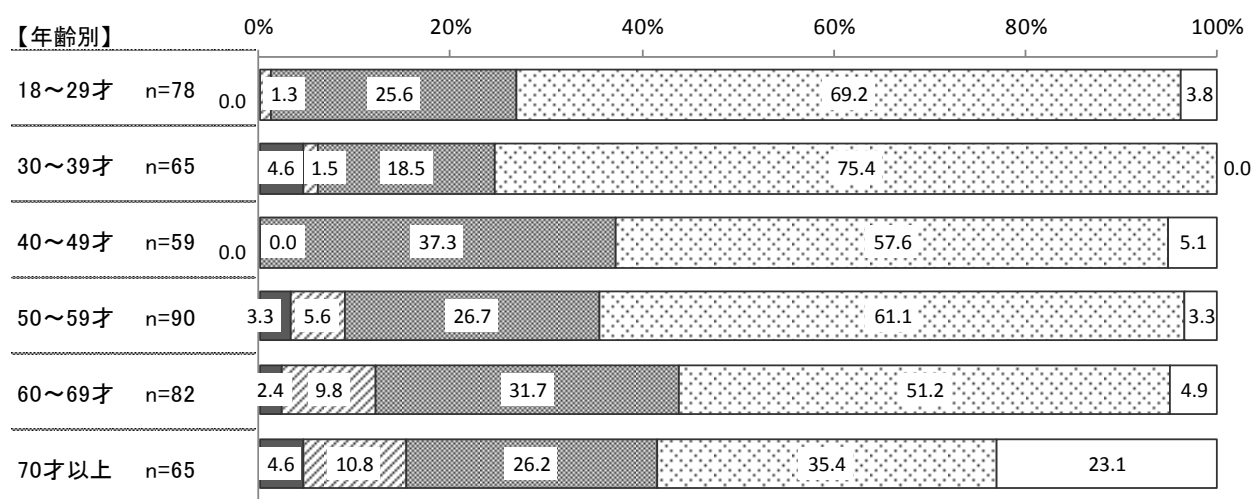
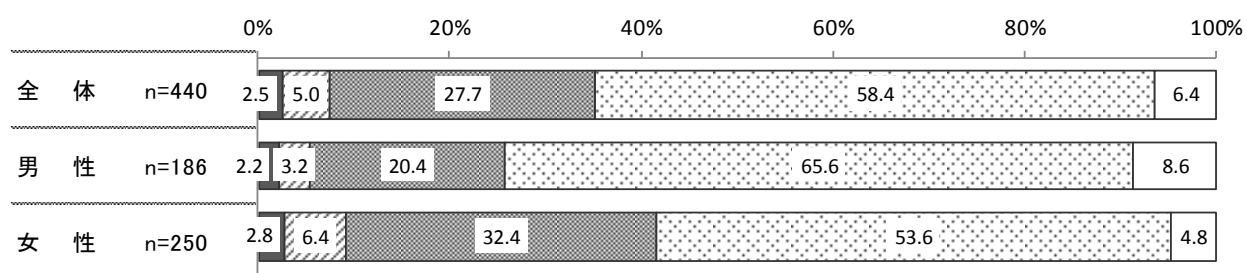
『知っている・見聞きしたことはある』35.2%＞『まったく聞いたことがない』58.4%

【単数回答】

男女共同参画サロン「ほっと」の認知度については、「おおよそその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が2.5%、「どんな内容か少しは知っている」が5.0%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が27.7%となっており、これらを合わせた認知度は約4割（35.2%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は58.4%となっています。

性別でみると、男性の認知度は25.8%、女性の認知度は41.6%と女性が15.8ポイント上回っています。

年齢別では、60代以上で認知度は高く4割を超えています。それに対し、18～29才や30代では「まったく聞いたことがない」との回答が7割前後を占めています。



- おおよそその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

(10) 同性パートナー証明

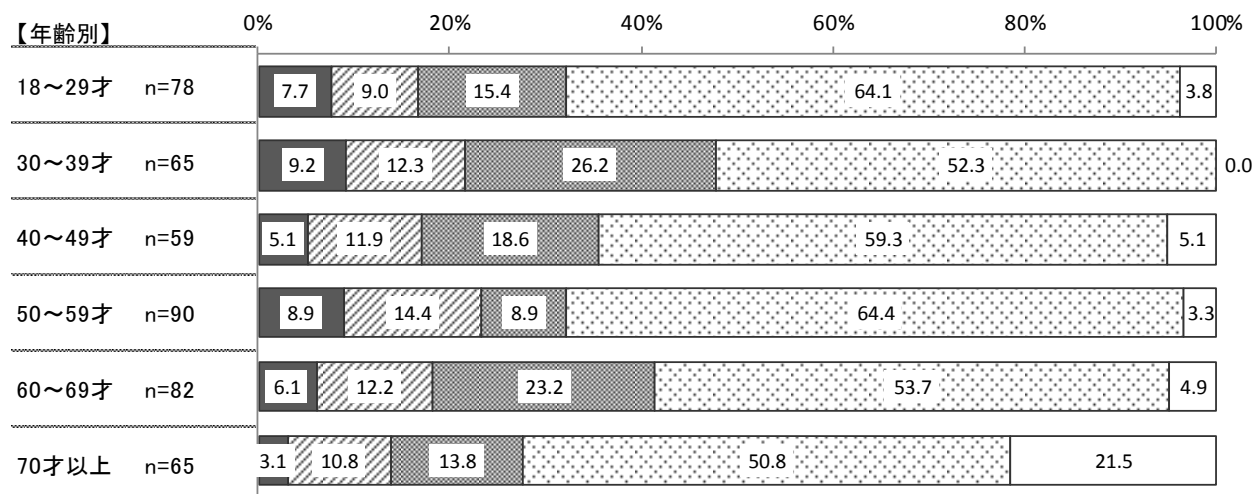
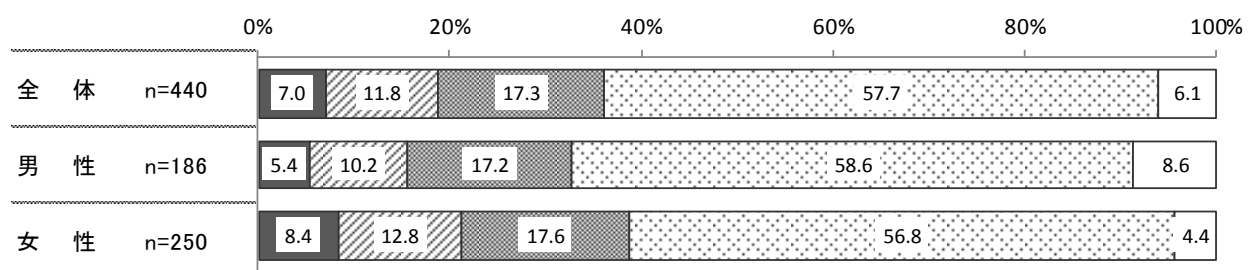
『知っている・見聞きしたことはある』36.1%＞『まったく聞いたことがない』57.7%

【単数回答】

同性パートナー証明の認知度については、「おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある」との回答が7.0%、「どんな内容か少しは知っている」が11.8%、「内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある」が17.3%となっており、これらを合わせた認知度は約4割（36.1%）となっています。一方、「まったく聞いたことがない」と回答した人の割合は57.7%となっています。

性別でみると、男性の認知度は32.8%、女性の認知度は38.8%と女性が6.0ポイント上回っています。

年齢別では、30代や60代で認知度は高く4割を超えています。



- おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある
- ▨ どんな内容か少しは知っている
- ▤ 内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある
- まったく聞いたことがない
- 不明・無回答

【問 24】

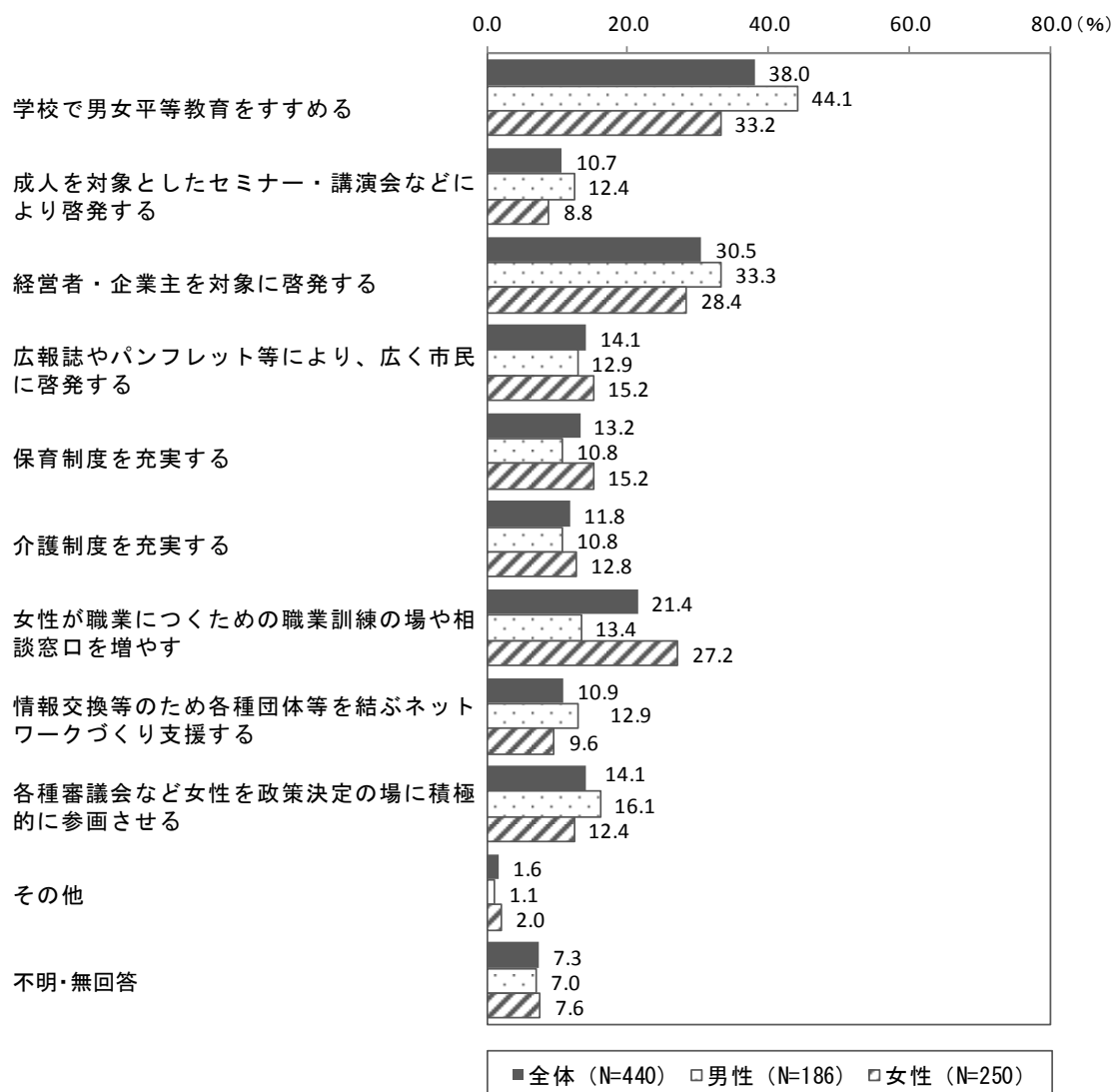
あなたは、男女平等実現のための市の施策として、今後どのようなことを望みますか。
(○は2つまで)

男女平等実現のため市の施策に望むことは「学校で男女平等教育をすすめる」

【複数回答】

男女平等実現のための市の施策として、市に望むことについては、「学校で男女平等教育をすすめる」との回答が38.0%と最も高く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」が30.5%、「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」が21.4%となっています。

性別でみると、「学校で男女平等教育をすすめる」が男女ともに最も高く、次いで「経営者・企業主を対象に啓発する」が高くなっています。また、女性では男性に比べ「女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす」の占める割合が高くなっています。



■年齢別クロス集計

年齢別では、50代を除いてはいずれの年代においても「学校で男女平等教育をすすめる」と回答する割合が最も高くなっています。また、50代では、「経営者・企業主を対象に啓発する」と回答する割合が最も高くなっています。

	調査数	学校で男女平等教育をすすめる	成人を対象としたセミナー・講演会などにより啓発する	経営者・企業主を対象に啓発する	広報誌やパンフレット等により、広く市民に啓発する	保育制度を充実する	介護制度を充実する	女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす	情報交換の場づくり各種団体等を結ぶネットワークづくり	各種審議会など女性を政策決定の場に積極的に参画させる	その他	不明・無回答
18～29歳	N=78	33.3	6.4	33.3	17.9	17.9	14.1	21.8	9.0	7.7	—	7.7
30～39歳	N=65	33.8	13.8	32.3	10.8	18.5	16.9	26.2	6.2	10.8	1.5	6.2
40～49歳	N=59	39.0	10.2	30.5	15.3	13.6	6.8	28.8	8.5	11.9	5.1	3.4
50～59歳	N=90	30.0	16.7	31.1	12.2	12.2	11.1	22.2	16.7	14.4	2.2	4.4
60～69歳	N=82	45.1	9.8	35.4	13.4	9.8	7.3	14.6	13.4	19.5	1.2	7.3
70歳以上	N=65	49.2	6.2	18.5	15.4	6.2	13.8	16.9	9.2	20.0	—	15.4

※太枠で囲われ、色が付いているものは最も割合が高い項目、太枠で囲われているだけのものは2番目に割合が高い項目を示している。

9 その他 「経済状況」について

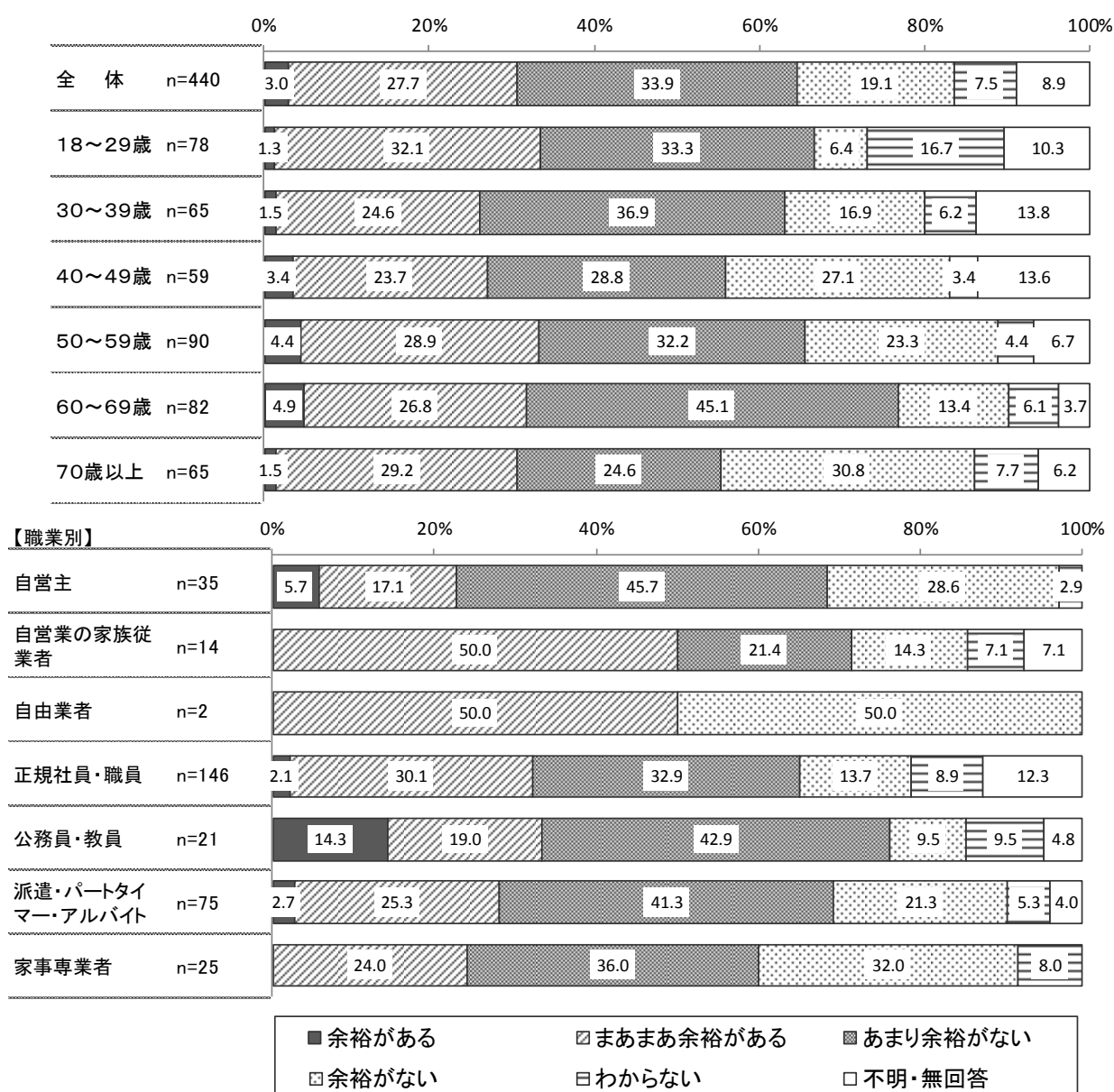
(I) 経済的にみて、あなたの世帯の生活の程度はどうか。

『経済的に余裕がない』53.0%＞『経済的に余裕がある』30.7%

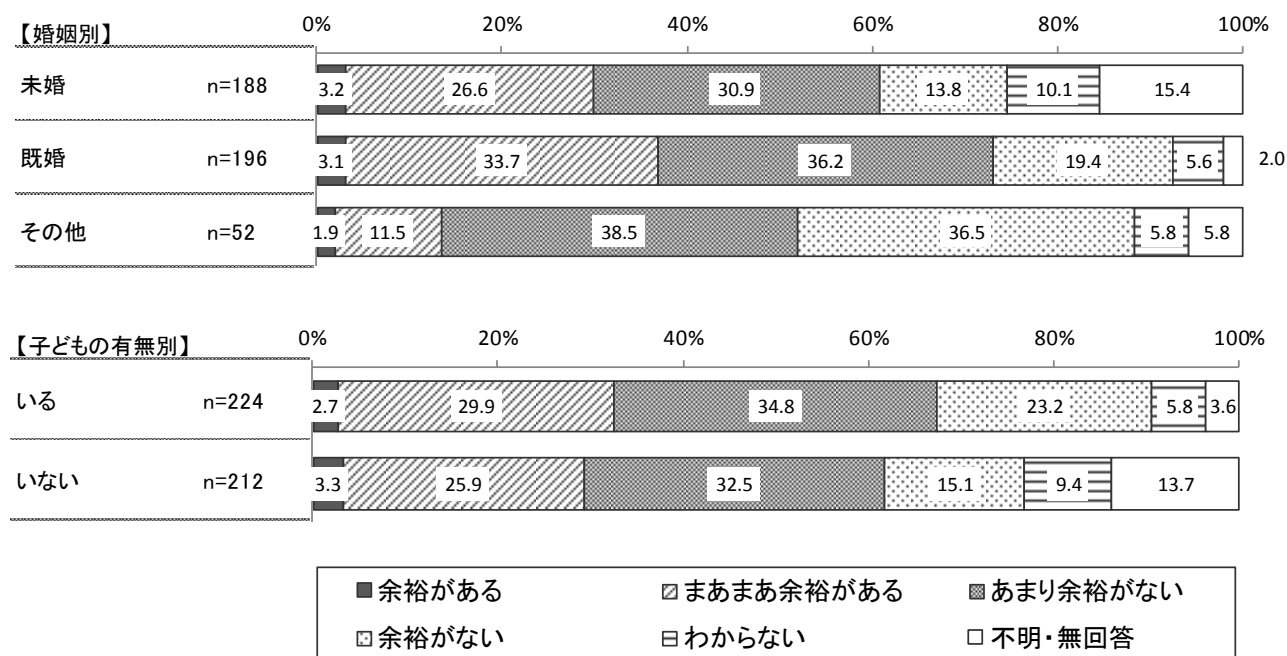
経済的にみた世帯の状況については、「余裕がない」と「あまり余裕がない」を合わせた『経済的に余裕がない』との回答が53.0%となっています。一方で、「余裕がある」と「まあまあ余裕がある」を合わせた『経済的に余裕がある』との回答は30.7%となっています。

年齢別でみると、30代以上で『経済的に余裕がない』と回答する割合が高くなっています。

職業別でみると、自営主、派遣・パートタイマー・アルバイト、家事専業者で『経済的に余裕がない』と回答する割合が高くなっています。



婚姻状況別でみると、既婚者で『経済的に余裕がない』と回答する割合が高くなっています。
 子どもの有無別でみると、子どもがいる世帯で『経済的に余裕がない』と回答する割合が高くなっています。



Ⅳ 経年比較

【問1】

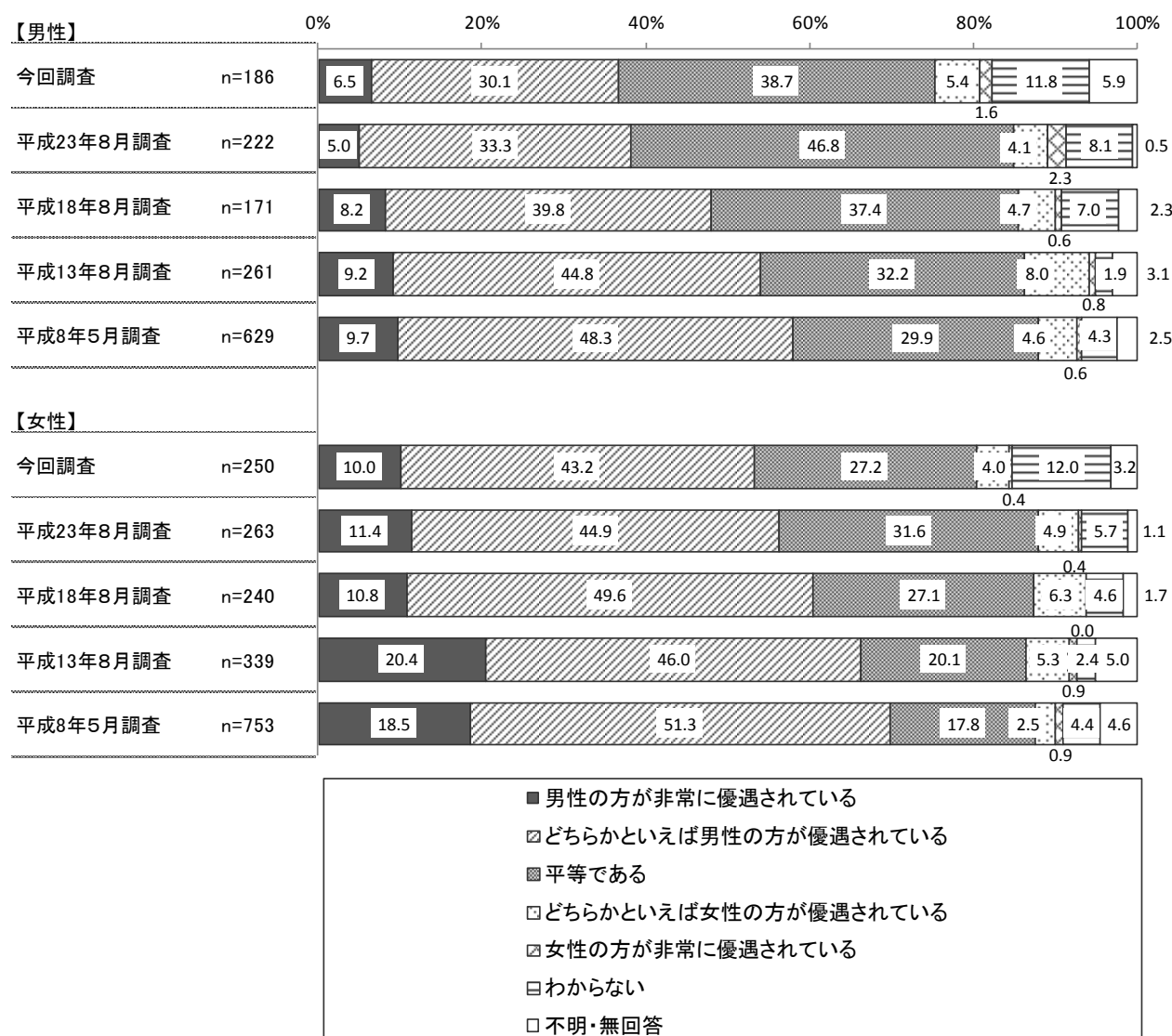
あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(1)～(7)のそれぞれについてお答えください。

(1) 家庭生活では

『男性優遇』は減少傾向にある

【単数回答】

家庭生活での地位について、経年比較でみると、平成23年度から今回調査にかけては減少したものの、男女とも「平等になっている」との回答は増加傾向にあります。また、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答は減少しています。

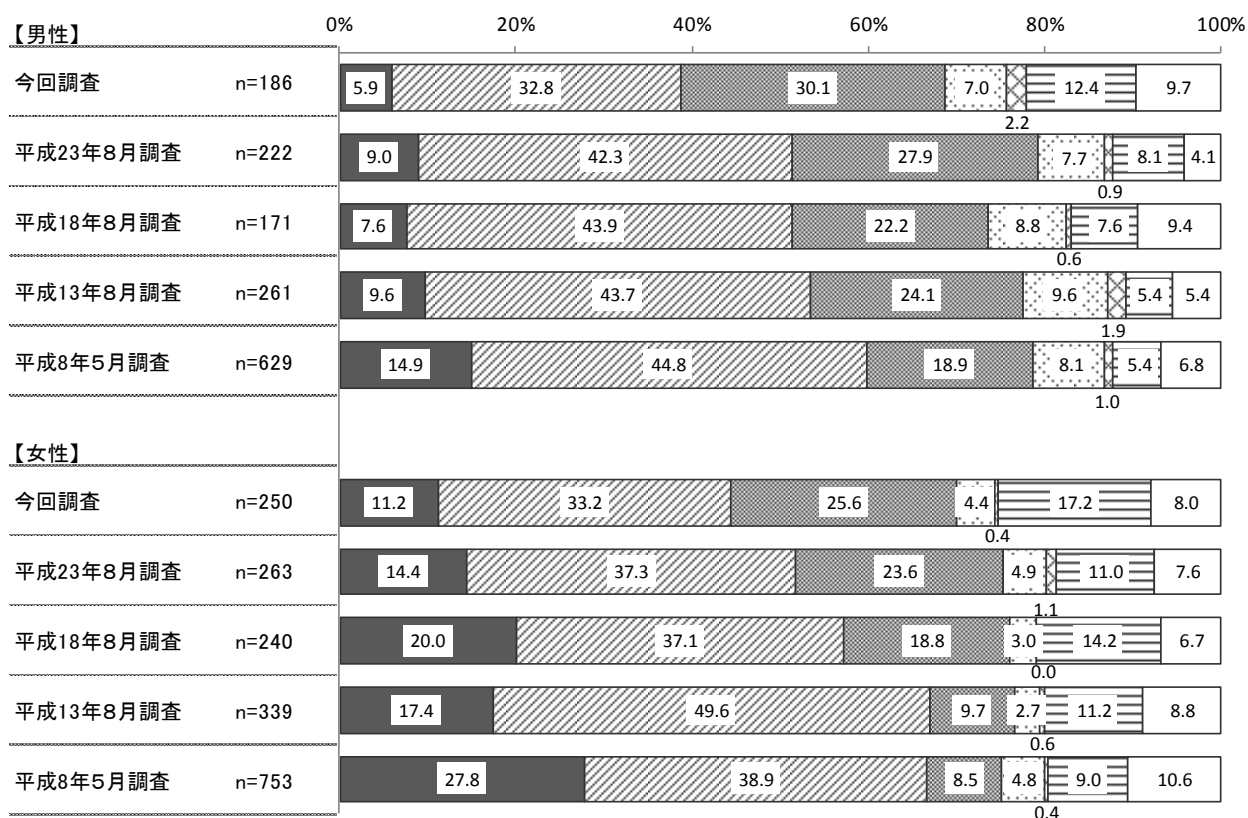


(2) 職場では

『男性優遇』は減少し、「平等」が増加傾向にある

【単数回答】

職場について、経年比較でみると、男女とも「平等になっている」との回答が増加し、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』との回答は減少しています。



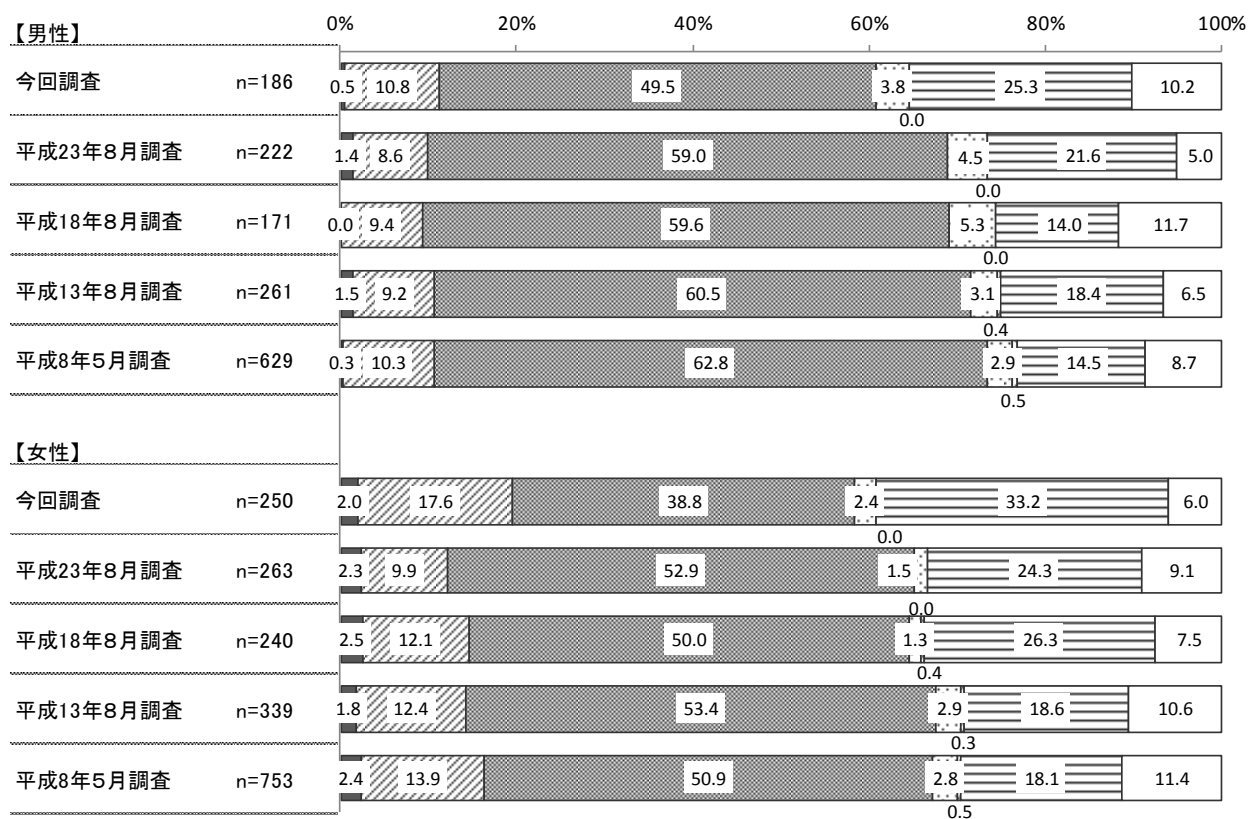
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(4) 学校教育の場では

男性では「平等」がやや減少している

【単数回答】

学校教育の場について、経年比較でみると、男性では「平等になっている」との回答が減少しています。



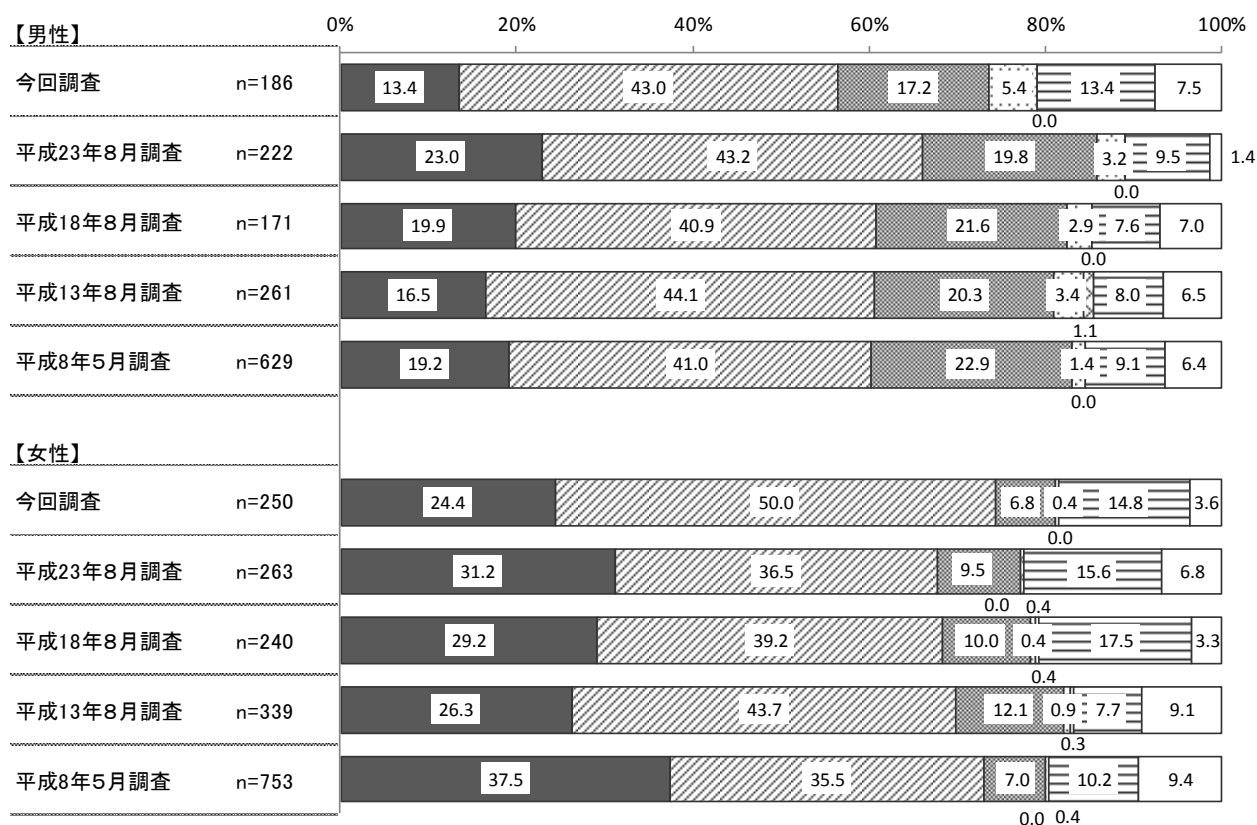
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(5) 政治の場では

女性では「平等」は1割程度と低い水準にある

【単数回答】

政治の場について、経年比較でみると、男性では「平等になっている」との回答が減少しています。女性では「平等になっている」との回答は1割前後で推移しており、低い水準にあります。



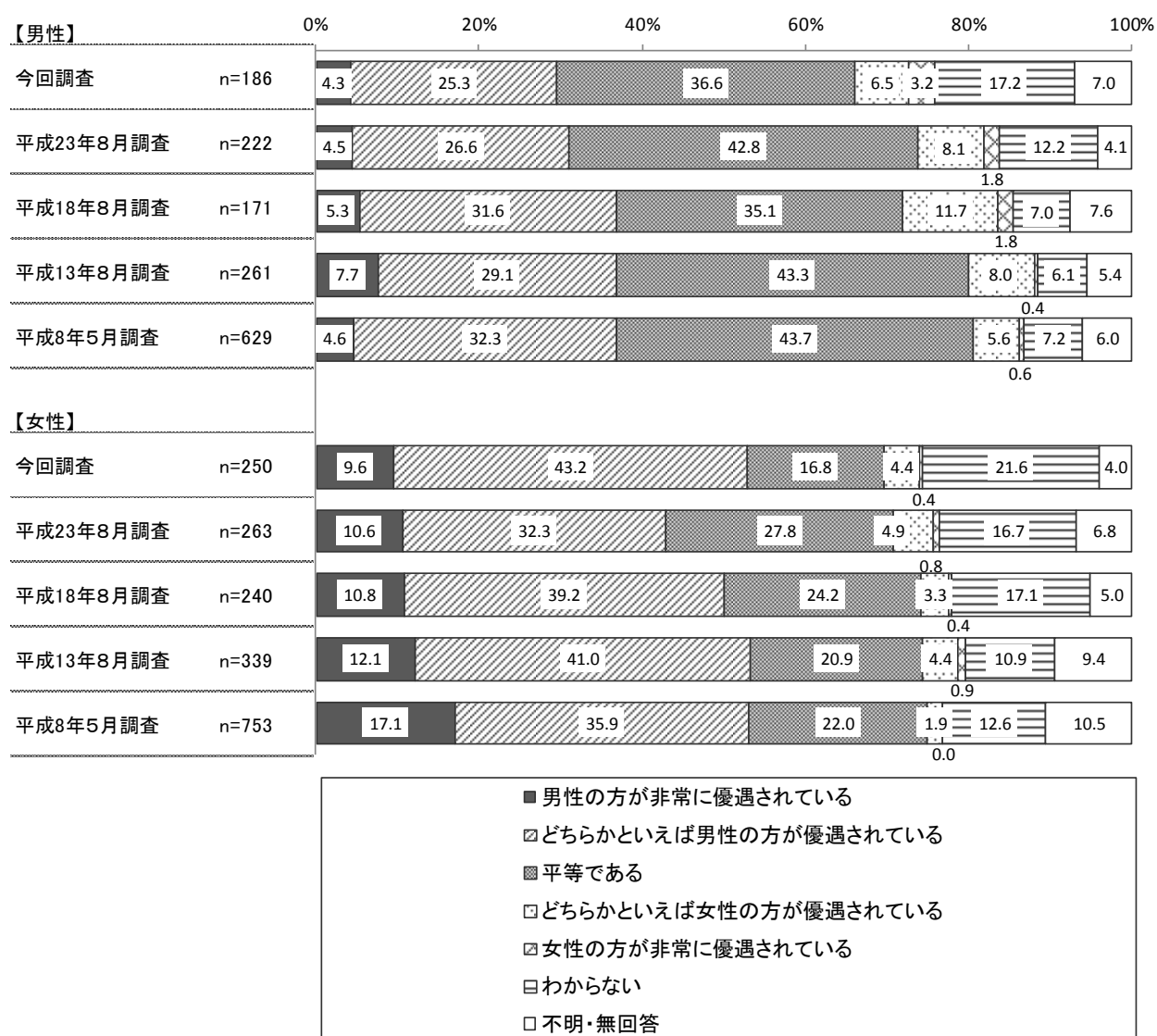
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 不明・無回答

(6) 法律や制度の上では

男性では『男性優遇』が減少傾向にある

【単数回答】

法律や制度の上について、経年比較でみると、男性では「平等になっている」との回答は4割前後で推移しています。また、『男性優遇』との回答はやや減少傾向にあります。女性では「平等になっている」との回答は増減を繰り返しながらも2割前後で推移しており、『男性優遇』との回答は5割前後で推移しています。

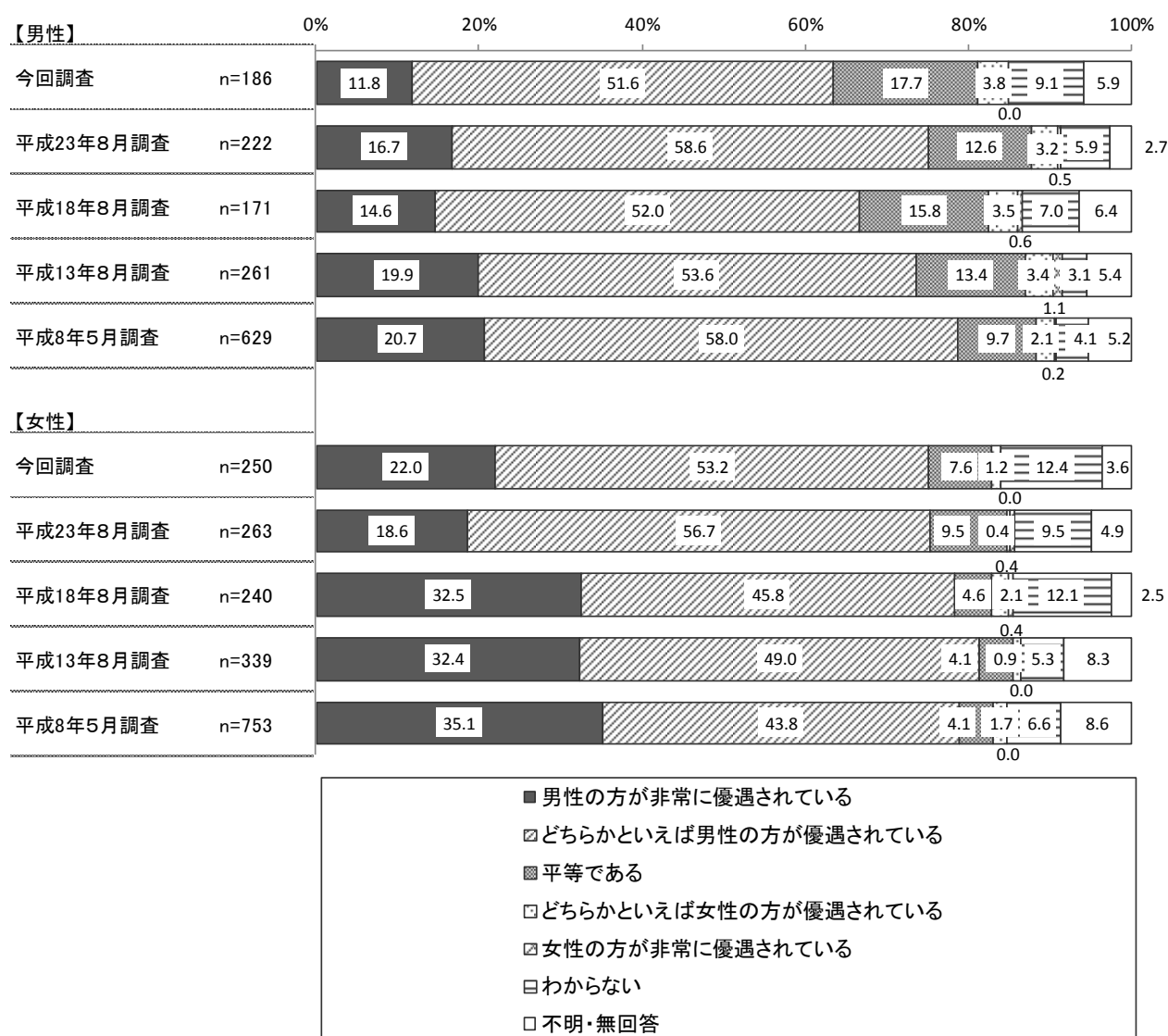


(7) 社会通念・慣習・しきたりなどでは

「平等」が1割程度と低い水準にある

【単数回答】

社会通念・慣習・しきたりなどについて、経年比較でみると、男性では「平等になっている」との回答は1割前後で推移しています。一方、『男性優遇』との回答は増減を繰り返しながら7割前後と高い水準にあります。女性では「平等になっている」との回答は1割にも満たない状況にあります。一方、『男性優遇』との回答は平成13年以降減少傾向にあります。

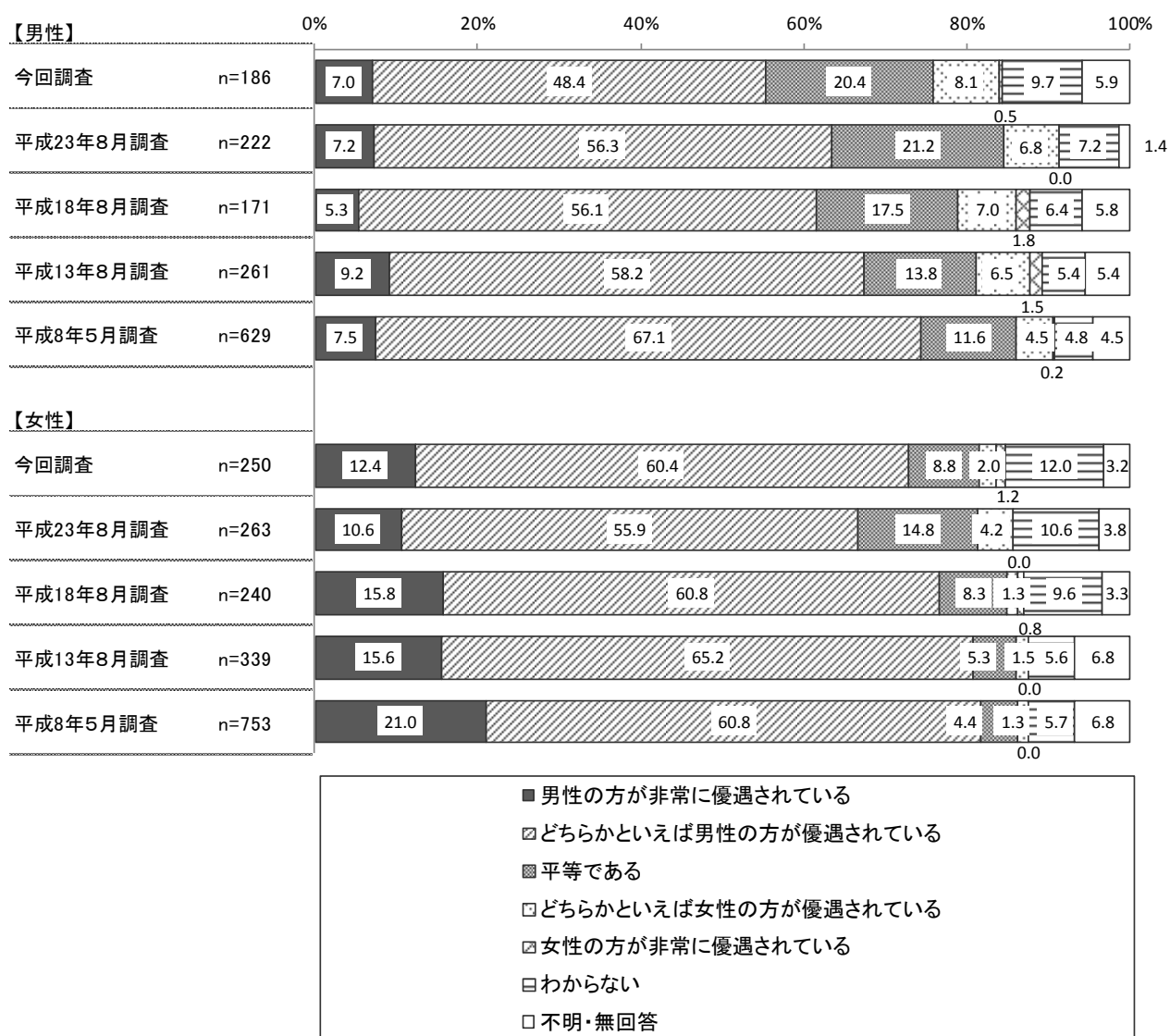


(8) 社会全体では

女性では『男性優遇』が7割を超えている

【単数回答】

社会全体について、平成23年度調査と比較すると男女ともに「平等である」との回答が減少しています。また、女性については「男性優遇」との回答が前回調査と比較して増加しています。



【問6】

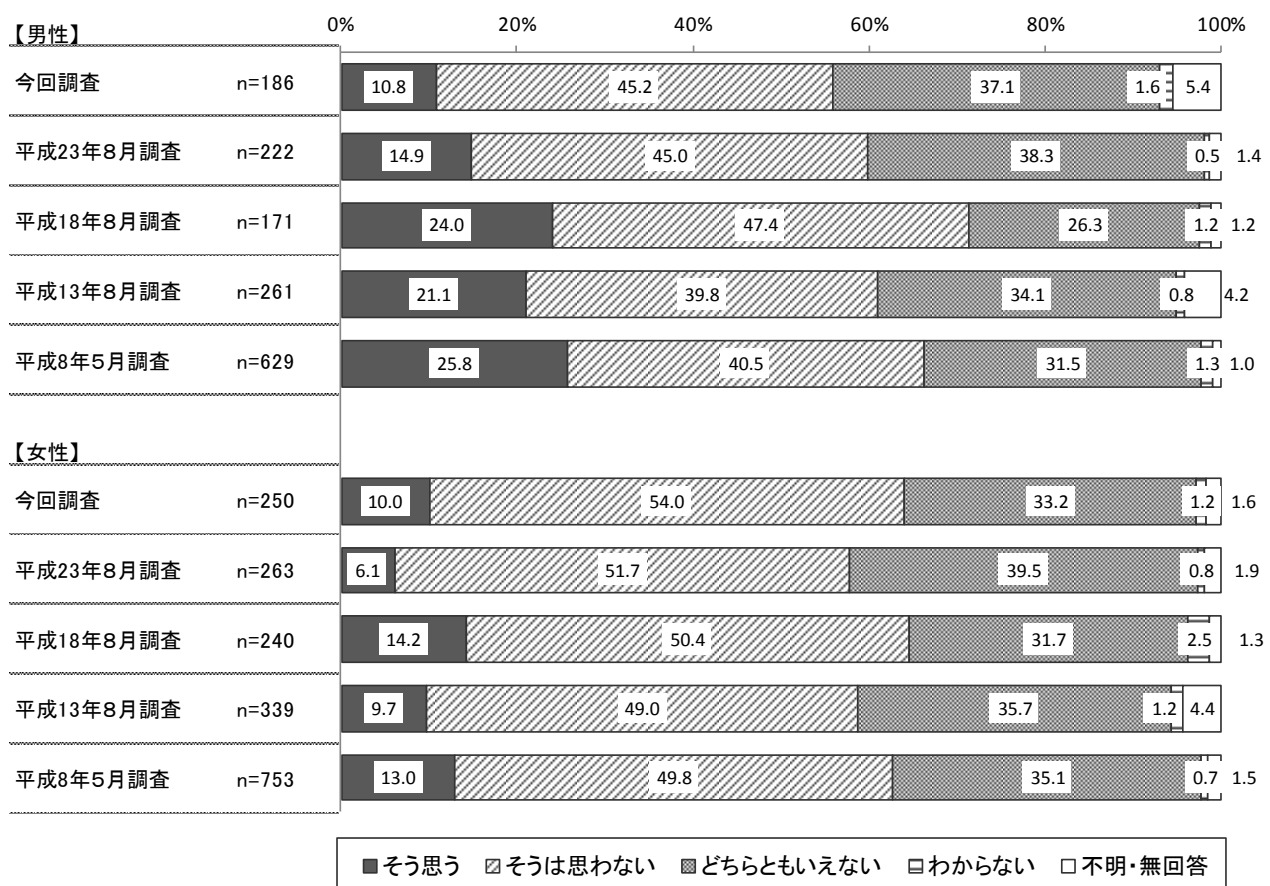
仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。(1)～(9)のそれぞれについてお答えください。

(1)「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について

男性では「そう思う」は減少しているのに対し、「そうは思わない」が増加傾向にある

【単数回答】

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、経年比較でみると、男性では「そう思う」との回答は増減を繰り返しながらも減少しています。一方で、「そうは思わない」との回答は平成18年以降約5割弱で推移しています。女性では「そう思う」との回答は増減を繰り返しながら1割前後で推移しています。また、「そうは思わない」との回答は緩やかな増加傾向を示しており、今回調査は54.0%となっています。

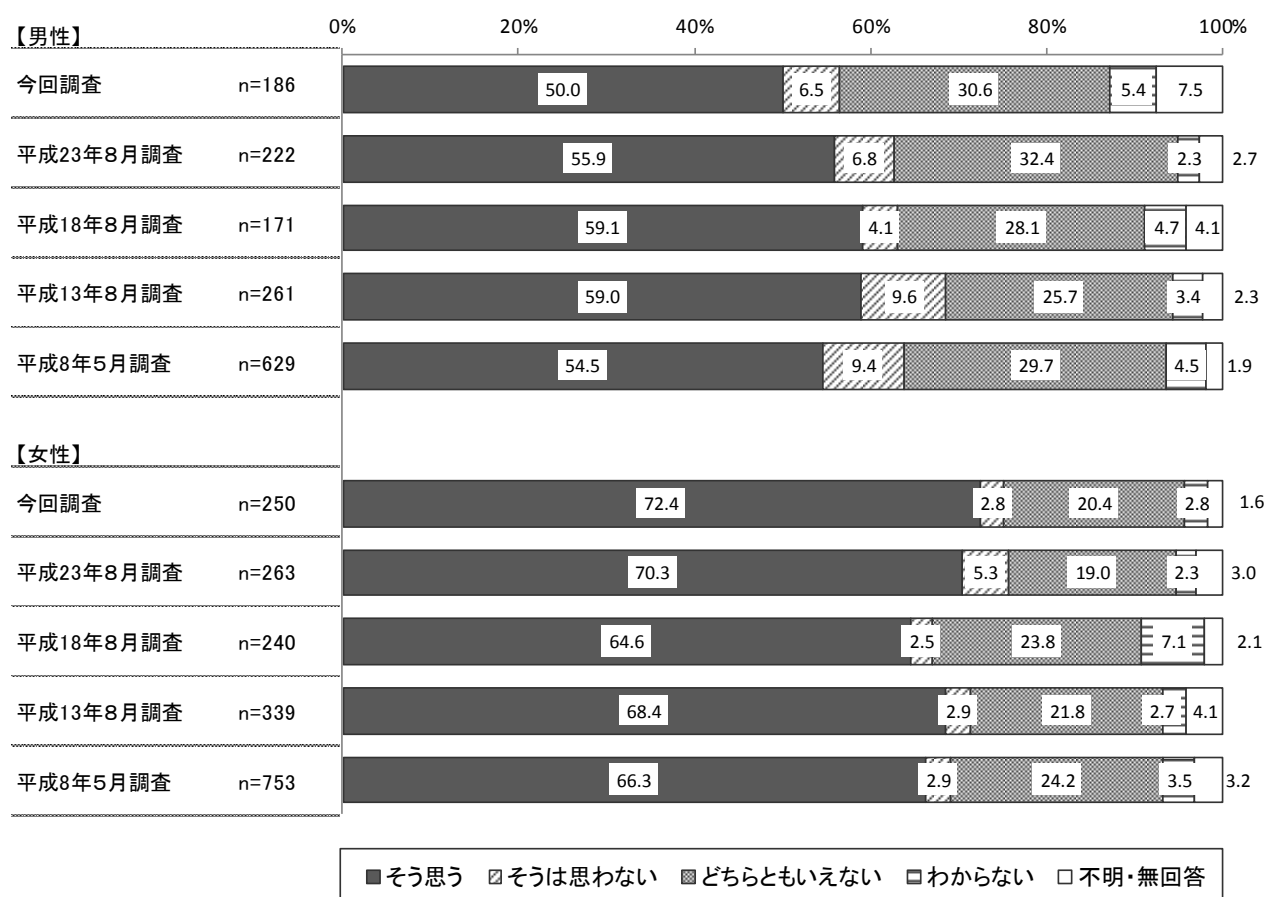


(3)「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方について

女性では「そう思う」は増加傾向にある

【単数回答】

「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方について、経年比較でみると、男性では「そう思う」との回答は5割強で推移しており大きな変化はみられません。女性では「そう思う」との回答はやや増加傾向にあり、平成23年の調査以降7割を超えています。

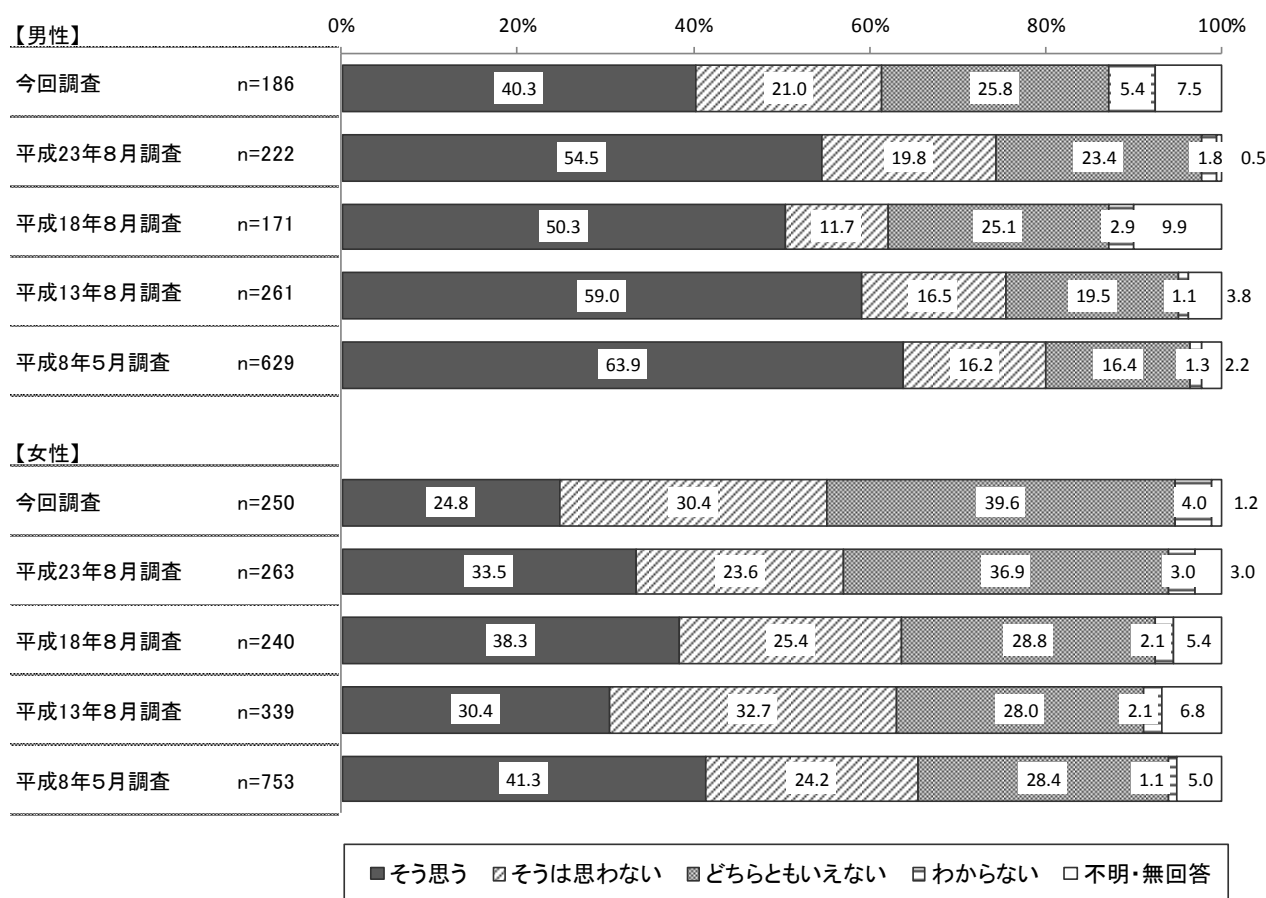


(5)「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について

男女とも「そう思う」は減少し、「そうは思わない」は増加している

【単数回答】

「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方については、経年比較で見ると、男性では「そうは思わない」との回答が平成18年度以降増加傾向にあります。女性では「そう思う」との回答は増減を繰り返しながら3～4割程度で推移しています。



【問 14】

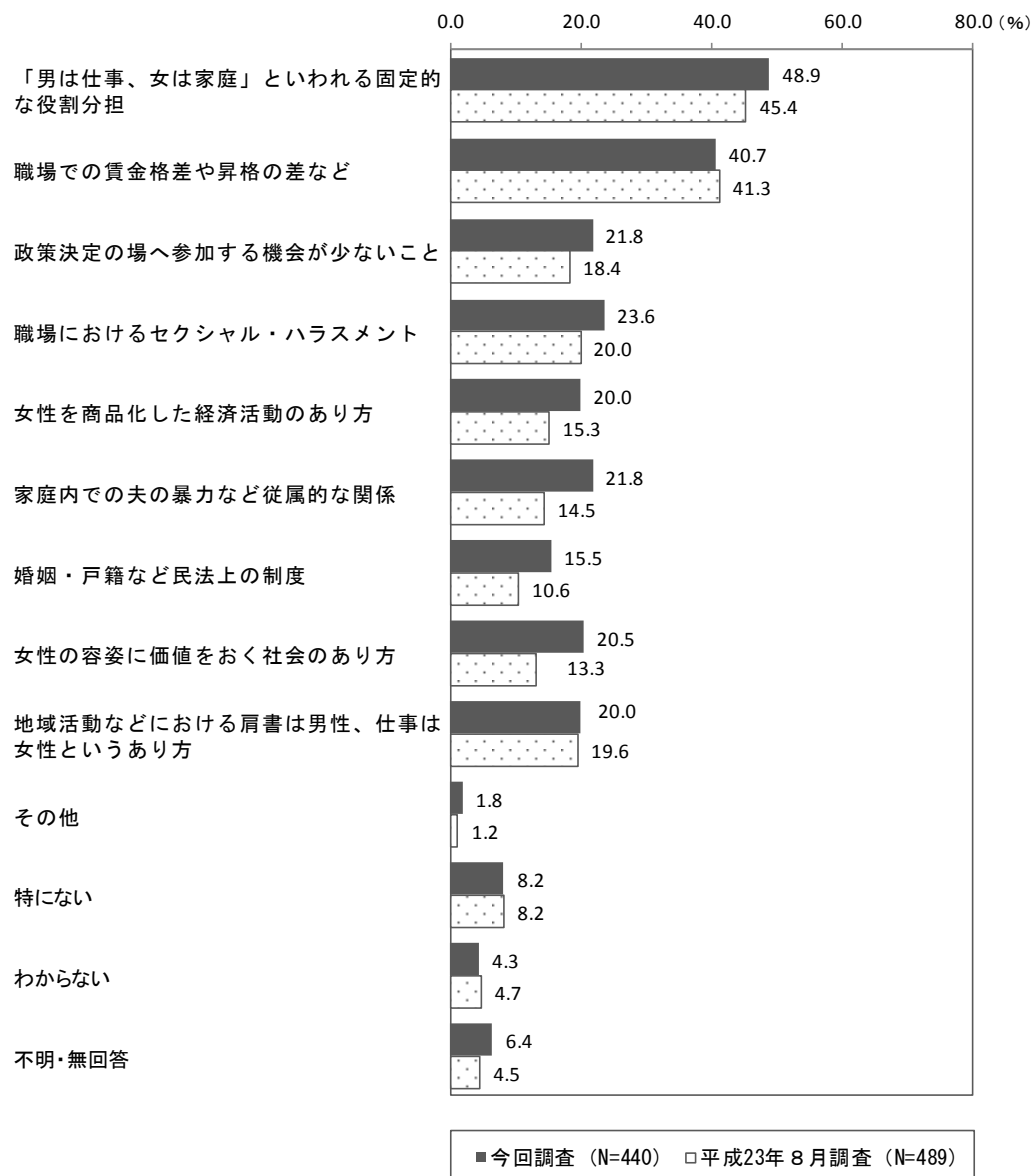
あなたが、女性の人権が尊重されていない（女性に対する差別）と感じることは何ですか。
（〇はいくつでも）

女性の人権が尊重されていないと感じることは、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」「職場での賃金格差や昇格の差」で上位 2 項目に変化はない

【複数回答】

女性の人権が尊重されていないと感じることについては、経年比較でみると、「男は仕事、女は家庭といわれる固定的な役割分担」との回答が最も高く、「職場での賃金格差や昇格の差など」が続いており、数値的にも平成 23 年度調査と変化はみられない。

「家庭内での夫の暴力など従属的な関係」「女性の容姿に価値をおく社会のあり方」と回答する割合が、平成 23 年度調査に比べ、それぞれ 7.3 ポイント、7.2 ポイント増加しています。



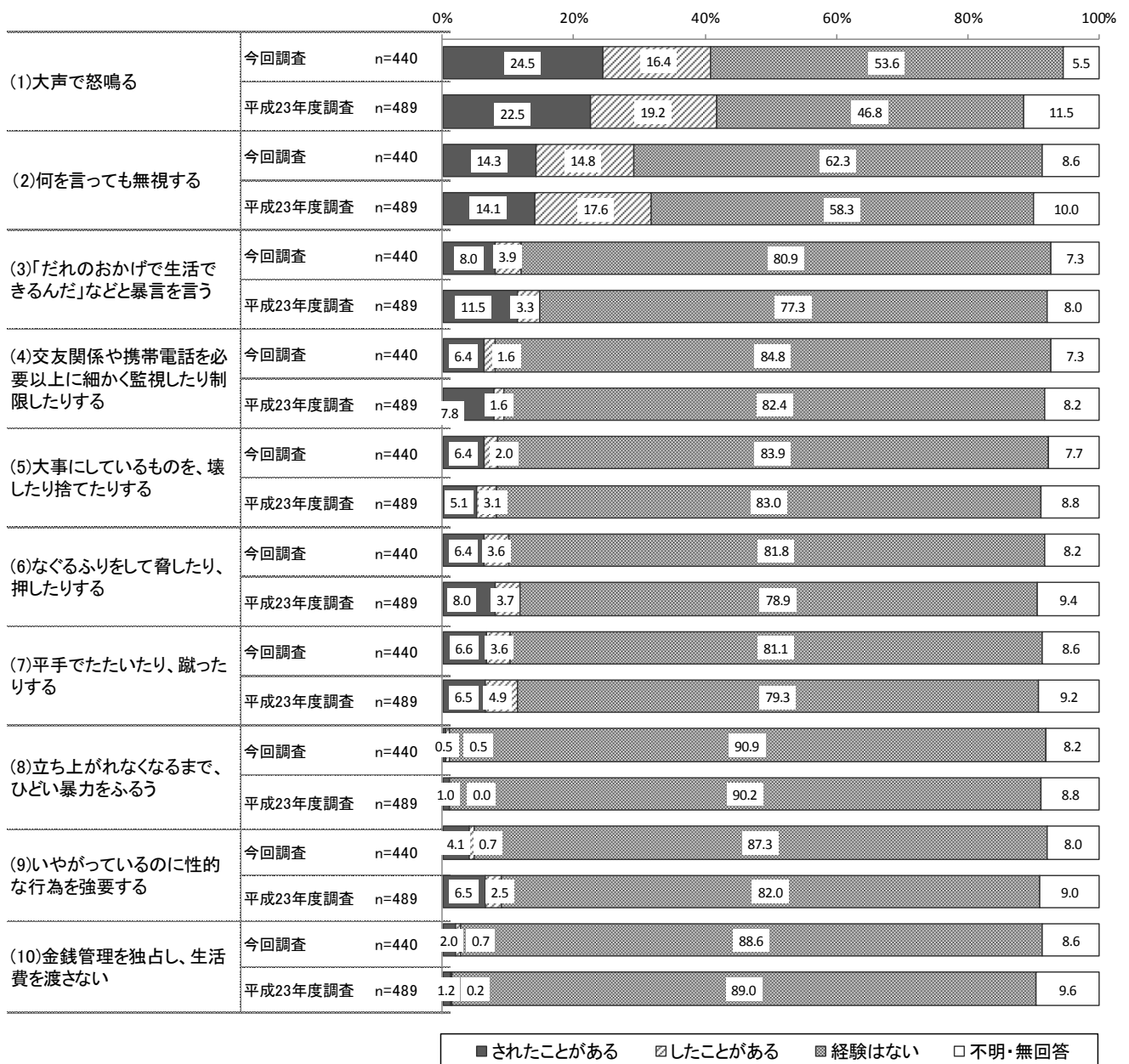
【問15】

あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされたこと、あるいはしたことがありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについてお答えください。

大声で怒鳴る、何を言っても無視するなど、精神的な暴力が上位を占める

【単数回答】

配偶者から恋人から受けたことや、したことについては、経年比較でみると、「されたことがある」「したことがある」ともに、「大声で怒鳴る」や「何を言っても無視する」と回答する割合が高く、精神的な暴力が上位となっています。前回調査と比べて特に大きな変化はみられません。



【問 19】

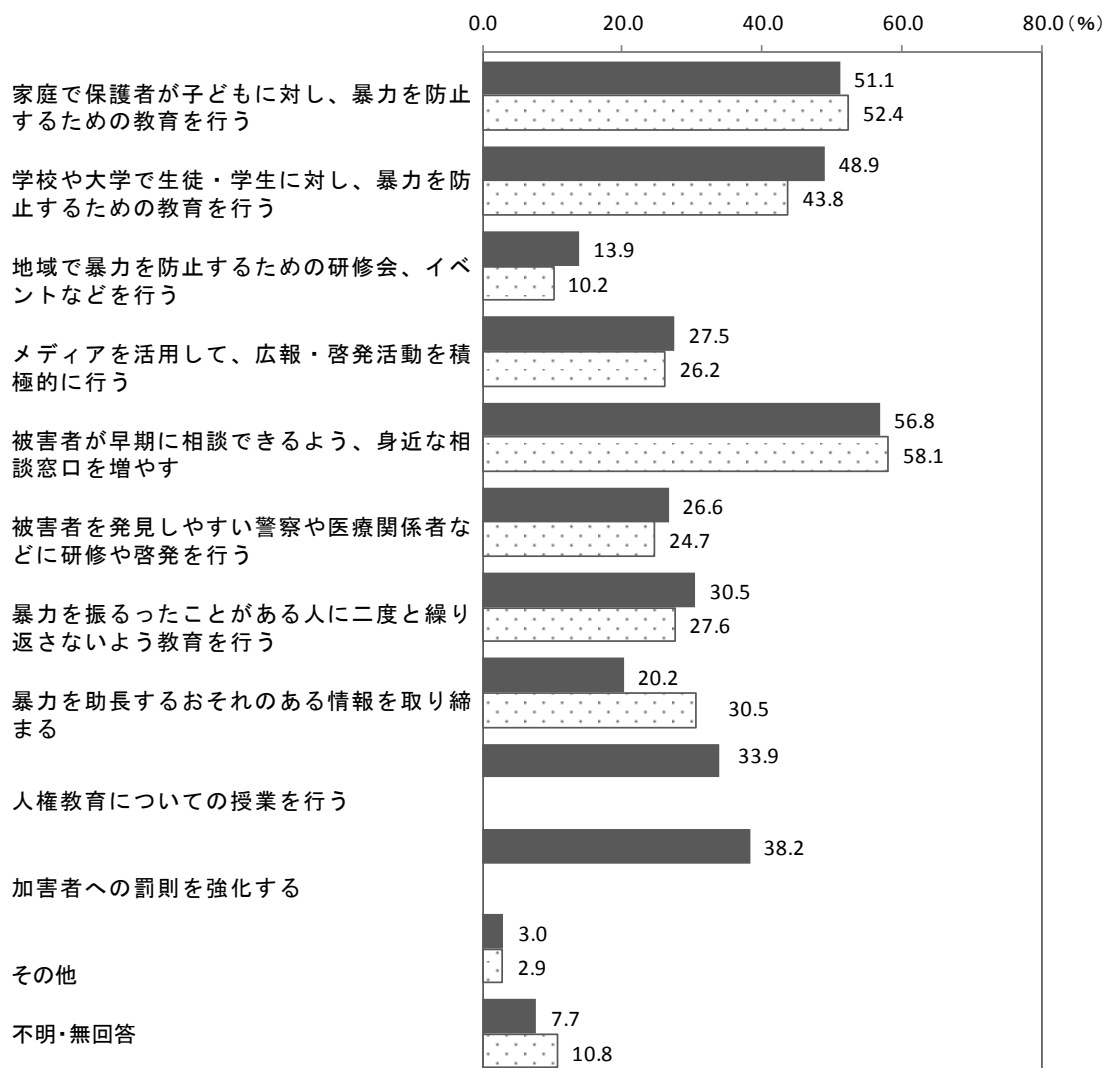
男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

(〇はいくつでも)

男女間における暴力を防止するためには「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」ことが必要

【複数回答】

男女間における暴力を防止するために必要なことについては、経年比較でみると、いずれも「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」との回答が最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、「学校や大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の順となっており、前回調査と比べて特に大きな変化はみられません。



■ 今回調査 (N=440) □ 平成23年 8 月調査 (N=489)

V その他回答・自由回答

<その他の内訳>

【(G) 職業】

内容
製造業
理容師

【問2】問1の「(8)社会全体では」において「1男性の方が非常に優遇されている」「2どちらかといえば男性の方が優遇されている」その主な理由は何だと思えますか。

内容
家庭、世帯の代表者として社会活動をするから
恫喝のような鶴の一声があると意見が言えないから

【問3】問1「(8)社会全体では」において「1男性の方が非常に優遇されている」「2どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方で、今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることはだと思えますか。

内容
育児で男性も休みやすい制度を作る
男性の家事、育児への参加割合を増やす
女性の介護、家事の負担が男性より大きい
男女が社会で生きていくためのライフスタイルのあり方を見直すべき
男性が子育てに使う時間をつくれるよう、社会制度・働き方を柔軟にすること
男性の仕事優先の考え方を改めるよう社会的努力をすること
女性が社会参加することにより、子育てが疎かになり、子どもたちの心の発達に影響すると思う
女性、男性の枠組みではなく、個人としての仕組みを作るべき
家庭、学校での教育が大切だと思う
平等は大切だけど、家族関係、子育てを第一に考え、色々な問題を考えるべき

【問5】男性の方で「男もつらい」と感じることはありますか。それはどんなことですか。

内容
自分の中にも問2の①意識があり、それに甘える面があるから

【問6(4)】仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは「現在、介護の必要な家族の世話をしている人の大部分が女性である」ことについてどのように思いますか。

内容
施設を充実するべき
男女にかかわらず社会的支援が必要
家族以外の施設などのヘルパーが関わるべき
家庭に女性がいるケースが多いので、「すべき」ではなくケースに合った選択をすればよいと思う
公的に貧富や子の有無に関わらず介護施設に入れるようになるべき
状況に応じて
自分が介護している
本人の意志にできる限り沿った人が介護すべき
経済的なこと
実の子だけの区別でなく、家族親族等で協力すべき
男性は就業時間や通勤の時間等で介護する時間がないと思う
この問題の前に女性の就労の問題を解決すべき
女性の方が一般的に気が利くのでそういう意味では良い
男だ女だと言うべきではないし、協力し合うべきではない
②が望ましいがケースによって決められない
家庭状況によると思う

【問 10】それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭を両立」をするためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。

内容
仕事に対する比重を減らし、家事、育児に重きを置く
自宅介護者への経済的給付。介護施設の充実だけでなく、家族と一緒にいたい人への協力が必要
業務内容について、人が代わることが難しいことが多く、両立が難しい
海外と比べてベビーシッター等の利用が少ないと思う
祖父母が同居し共働き世帯には支援金を出す

【問 12】女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。

内容
そのレベルに達していない
高齢の人が多いため、地域活動に出るのが難しい
仕事をまだやっているし、体力的な自信がない
女性にはできないこと（力仕事）が多すぎる
男女関係なく能力でお願いする
力があっても働ける環境を作ることができない女性が多い
前例の少ないものに対して、前に出づらいのは仕方がない
世帯を代表する役職は男性の名義で行うものとするという社会通念があるから
時間がない、男性が多い
女性が就くことを前提とした組織に改変する
女性自身がやりたがらない
人間関係の煩わしさを抱えたくない。女性だからとは思わない
女性の方が家事をしていて取れる時間がないため
町内会、自治会は不要、なくしてほしい
町内会の長とかはやりたいくないという人が大半で、やってくれる人は男性ばかりである

【問 13】女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

内容
女性の意識改革が必要
男女共同参画教育の推進すること
活躍する女性のPRを学生に行う
女性自身が気づきを必要としている
男に家事、育児に参加させる
出産のため退職したのち復職のしづらさ、育児をしながらでも働ける環境づくりが必要だと思う
企業が従業員の積極性を育てること、家事に対する周囲の理解と協力
女性は社会進出より、子育てに専念すべき
早急に形だけの策では意味がないのではないかと思う
育児・出産時期のフォローが大切
女性が就くことを前提とした組織に改変する
共働きでないと生活ができないような社会は色々と問題がある
女性だけでなく男性にも同じことが言える
自然にまかせる
分野によるので何とも言えない
女性の自主性、女性への偏見を変える
有能な女性にその分野への興味を持ってもらえるような方向に努力をする
自分に能力があれば女性でも男性でもいいと思う
女性でも活躍できるということを具体的に感じられる、想像できるような福利厚生を整える
その分野で活躍している女性をメディア等で取り上げる
女性の少ない職業に対し就きたい女性を支援する

【問 14】あなたが、女性の人権が尊重されていない（女性に対する差別）と感じることは何ですか。

内容
女性に働けという社会の流れがある
女性が仕事を持つと家庭がうまくいかなくなる場合が多い
家庭内において、夫は私を労働力としてしか認識していない
性別にかかわらず、下支えする仕事をする方を尊重する
まずは男性の考え方、将来の過ごし方を若いうちからしっかり教育してほしい
「不妊＝女性に原因」の考え方が根強く残っている
性被害者は圧倒的に女性が多いこと

【問 15(12)】その他DVに関して、あなたの夫や妻、恋人などからされたこと、あるいはしたことがありますか。

内容
稼いだお金を使われる
気に入らないとドアを大きな音を立てて閉めたり、聞こえるところで物に当たったりする
避妊を求めたのに応じてもらえなかった。妊娠を認知してもらえず中絶した
性的な行為が結婚後一度もない

【問 18】問 16 で、「2 相談したかったが、相談しなかった」あるいは「3 相談しようと思わなかった」と答えた方で、どこにも相談しなかったのはなぜですか。

内容
2 人の問題なので、2 人で解決する
そういうこともあるから
様子を見守る
面倒だから別れた
たいしたことではなかったから

【問 19】男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。

内容
社会全体が薄情だと感じる
殴ることだけが暴力ではないことをもっと認識してほしい
基本的に暴力行為が何の役にも立たず、結果悪い結末を迎えることを教育する
する側だけの問題と考えていることが一番の問題だ
暴力を振るう人は生き立ちに何か問題があったのではないかと思う
罰則強化は抑止力にはならないと思う
相談しやすい周りの環境が必要
保健センター等で妊婦や夫婦に向けたセミナーなど、親の教育が必要だと思う
役所や警察など、保護体制を確実に行うこと
ご近所付き合いが大切
子どもの多少の暴力を認め、暴力の怖さを認識させる
まじめに頑張れば報われる生活を送れる社会をつくる

【問 20】あなたに男女両方の子どもがいたとして、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。（お子さんのいない方等は一般的な意見としてお答えください。）

<男の子>

内容
罪を犯さない
自立すること
しっかりとした意志を持つやさしい子に育つこと
心身ともに健康で幸福な生活をする

<女の子>

内容
罪を犯さない
自立すること
しっかりとした意志を持つやさしい子に育つこと
心身ともに健康で幸福な生活をする

【問 21】安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、あなたはどのように思いますか。

内容
結婚を決意できる経済力、見通し
不妊治療への理解とすべての人に助成する
地域の協力が必要
家事を助けてくれるサポートの充実
子どもを持って裕福に暮らせると考えていることが間違いだと思う
育児休暇を取りやすい体制づくり
いじめの加害者への厳罰化、区別化の徹底
現在の環境制度づくりと並行して、子どもたちへの取り組む意識・教育の充実

【問 22】男女平等意識を育てるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

内容
もともと男女は平等ではないと思う
学校だけでなく、家庭での教育に力を入れてほしい
「～らしく」も悪くないという教育もすべきだと思う
平等というよりもそれぞれの立場や体力など認め合う教育がよいと思う
個々を大切にする教育、性別による役割の教育と理解が必要だと思う
学校教育は普通の道徳でよい
法的な権利は性別に関わりなく平等であるとの意識の定着を図る
個々を尊重する指導（意識、性格、考え、意志等）の充実
先生も人間すべてを指導するのは困難。今の社会人に押しつけすぎだと思う
他人を見下していじめをするようなことをしない教育をすればよいと思う
男女混合名簿にする

【問 24】あなたは、男女平等実現のための市の施策として、今後どのようなことを望みますか。

＜保育制度の充実＞

内容
保育園等を増加させる
保育所の立ち入り検査をしていき、安心感を市民に与える
保育施設の充実と教育にかかる費用を下げる
支援制度（人的保障）の充実
保育費を安くする
乳幼児・学童を預けられる保育施設の充実
利用しやすくするため、それぞれの職場の近くに多く作る
子どもにとってマイナスにしないほしい
安心して仕事ができる制度の充実
育児休暇を取りやすい体制づくり
利用しやすいサービスの充実
学童保育を利用しやすく柔軟に対応する（短期、長期休暇のみ）
保育園の確保等、共働きができる環境づくり
保育園に入れない事態の解消
未満児保育を充実させる

＜介護制度の充実＞

内容
介護サービスを利用しやすくする
老人の手当て（補助金）を厚くする
他業種との賃金格差をなくす
家事サポートの充実
通院時の車代の援助
少しでも家族の負担を減らせるように訪問やデイサービスなどを充実
独身者の自立支援をより充実してほしい
家族に介護の負担が肉体労働として負わされる必要のない制度の整備
低収入の方も希望の所へ入所させる
男女が平等に行えるように積極的にする
安心して仕事ができる制度の充実
施設の増加、従業員の賃金の見直し
重労働、低賃金では、生活はできないので、他の仕事との差別を少しでもなくす努力をする
介護にかかる費用の援助
急に仕事が入っても介護対応してくれる施設の充実

＜その他＞

内容
まずは市が男女平等に役職に就くようにしてほしい
家で子が親をみるべきという考えを改めさせるために施設の見学会を開く
子どもが過ごしやすい環境、安全を第一に考える
性別を意識しなくなしてほしい
先進国に学べ。日本は 30 年遅れていると思う
本人の能力ではなく、性別を理由にして重用することをしない
何も望まない

【問 25】

男女平等に関しての問題や行政に対するご意見・ご要望がございましたら、記入してください。

内容
＜行政・施策＞ 13 件
多治見市は 30～40 代の子どものない女性へのサポートが全くないと思う
すべての面で男女平等を推進することは間違っていると思う
平等と一言と言っても大変難しい課題だと思う
女性議員を増やし、制度改革等積極的に推進、広報してほしい
行政が取り扱うことは荷が重いとを感じる。企業に対する税制で対策すべきだと思う
このようなアンケートをされていることが素晴らしい
男女平等はあくまで各人がより自由に生きる権利を保障していくものである
地域や社会で助け合ってお金が少なくても利用できる環境ができるとよいと思う
女性管理職を登用するならば、この人ならという人を任命することに尽きると思う
アンケートをするより、行政は他にすべきことがあると思う
シングルマザーの方で養育費をもらえていないことが多いので、支援があるといいと思う
中間世代、特に独り者に対しての制度が厳しいと思う
心豊かな人であられるような社会、日本にするためにはどうしたらいいかを考える必要がある
＜男女共同参画＞ 33 件
学校等で教育して社会をじわりじわりと変革させていく必要がある
男だから仕事ではなく、家事・育児への参加が進まなければ、女性の社会進出も進まない
多治見市も女性の管理職をもっと増やすとよい
男女平等とは、個人の能力を評価し、称賛することが必要だと思う
何でも平等というのではなく、本当の意味の男女平等を正しく説明してほしい
男子の教育に力を入れ、女子には入れなくていいという考え方は、男女平等の社会の形成を妨げている
国が男女平等をむきになって進めようとしているように思える
平等であるということが却って考え方を混乱させてしまうのではないかな
男女平等といっても、女性の特質を活かした柔軟な仕組みが必要だと思う
「男女平等」とは、時代に合わせ男女のバランスを整え続けることだと思う
男女平等は大切だが、現在はあまりにも言葉だけが先に走っているような気がする
自分たちの結婚に対する考えと息子の考えにはやはり違いがあると思う
もともと男女は、それぞれの足りない部分を補って暮らしていくものだと思う
人と人がお互いを尊重し合って生きていける世の中が一番望ましいと思う
男女平等はよいことだと思いますが、全てに平等というのも強い違和感がある
男女平等をめぐる女性の労働問題に関しては不平等だと思う
私の通っている職場では、男女で仕事に分かれており、私は助かっている
体力、知力には個人差があるため、男女平等になれば幸せが得られるかというところでもないと思う
男女共同参画の施策を計画・実行する場合は、国・県・市町村が連携を図り実行していく必要がある
お互いの性差を尊重し合えるような社会になってほしい
時代が移り変わり女性もまだまだですが、自由な時間も少しは手に入れたのでないかなと思う
男女平等では元来ないそれぞれの良さを出せる社会が必要
男と女はもともとすべてが平等ではない
男性が働いて所得を得て、女性は家庭で子どもを育てる、これも一つの男女平等かもしれない
もともと男性女性はすべてにおいて違って当たり前であり、その違いをうまく助け合ってことを進めていく必要性を感じる

内容
女性の人権とは、無理に女性の社会進出を進めるということではないと思う
人間だから人としてどうあるべきかという捉え方をしていきたい
女性の社会進出だけでなく、男性の家庭進出にも積極的に動いてほしい
男には男の、女には女の良さがあり、お互いに弱い部分と強い部分があると思う
互いの性の得意・不得意を補うのが理想である
全ての人が平等で働き、生活できる社会になるといいと思う
女性の能力を今まで以上に生かす取り組みをしていかないと日本の未来は明るくならない
専業主婦がダメみたいな方向には持っていけないでほしい
＜就労について＞ 2 件
女性が結婚や出産で退職した時、改めて働こうとするときには再就職しやすいようにしてほしい
女性が一人でも生活（仕事）していける社会づくりに力を入れてほしい
＜地域活動について＞ 1 件
町内会の役員を男性も女性も偏らず割り当てること
＜子育て・介護＞ 5 件
能力がある女性、社会に参画したいと思う気持ちがある女性に対する支援があればよい
子育てをしながら働くお母さんたちのためにわれわれ世代が何かお手伝いすることがあればいいと思う
女性が出産しやすいような環境づくりが必要
大企業ならともかく、地方の中小企業ができることは少ないと思う
青少年に対する教育（しつけ、マナー、モラル）が必要
＜意識改革・啓発＞ 8 件
男性、女性それぞれ優遇されている環境があるので、そこまで男女平等を意識する必要はない
男女に関わらず相手への思いやりを育む教育や取り組みを強化してほしい
差別と区別の違いを多くの人が認識して同じ見解を持つべき
男性特に年長者の考え方を変えていかない限り、男女平等はできない
40 代、50 代の男性の女性への差別意識がなくならないのでは平等になっていくことは難しい
男性は家族を養っていく覚悟があるが、女性は養っていく覚悟はなかなかみられない
男女平等は心の問題だと思う
個人的には女性の出世をしたいという意識の少なさ等が社会には多くあるように思う
＜情報提供＞ 2 件
色々な施策を用意しても全員に周知させることができれば意味はない
マスコミ等で偏った情報を流さないこと
＜アンケート＞ 1 件
質問が多すぎと思う
＜まちづくり＞ 3 件
多治見市では、働くところ、入る金より出ていく金が多いなど問題が多いと思う
高齢化が進み、多治見市は坂が多く、買い物、交通機関が不便で住みにくい
多治見市は人口 10 万都市の割にすべてがださいと思う
＜その他＞ 1 件
男女平等、少子化、社会保障等を政治家が本音で語っていないこと

VI アンケート調査票

多治見市男女共同参画に関する市民意識調査票

①はじめに、あなた自身についておたずねします。

- (A) あなたの性別はどちらですか。
1. 男性 2. 女性
- (B) あなたの年齢は次のどれですか。
1. 18～29才 2. 30～39才 3. 40～49才
4. 50～59才 5. 60～69才 6. 70才以上
- (C) あなたは現在結婚していますか。
1. 未婚 2. 既婚 3. 離別 4. 死別
- (D) あなたにはお子さんがいますか。
1. 男女ともいる 2. 男の子のみいる
3. 女の子のみいる 4. いない
- (E) 「(D)」において1～3のいずれかに○をつけた方におたずねします。
あなたのお子さんは次のどれにあたりますか。(○はいくつでも)
1. 未就学児 2. 小学生
3. 中学生以上の学生 4. その他（ ）
- (F) あなたの世帯の構成は次のどれですか。
1. 一人世帯 2. 夫婦のみの世帯 3. 夫婦と子どもの世帯
4. 三世代同居世帯 5. その他の世帯（ ）
- (G) あなたのご職業（仕事）は次のどれですか。
1. 自営主（商業、サービス業、製造業等）
2. 自営業の家族従業者（商業、サービス業、製造業等）
3. 自由業者（医師、弁護士、芸術家等）
4. 正規社員・職員（民間会社、団体等）
5. 公務員・教員
6. 派遣・パートタイマー・アルバイト
7. 家事専業者
8. 学生
9. 無職
10. その他（具体的に

(H) 既婚の方におたずねします。

共働きをしていますか。(パートタイマー・アルバイトも含む。)

1. している 2. していない

(I) 経済的にみて、あなたの世帯の生活の程度はどうか。

1. 余裕がある 2. まあまあ余裕がある
3. あまり余裕がない 4. 余裕がない 5. わからない

②男女の地位の平等に対する意識についておたずねします。

【問1】あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(1)～(7)のそれぞれについてお答えください。

	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかとい えば男性 の方が優遇 されている	平等である	どちらかとい えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 非常に優遇 されている	わからない
(1)家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2)職場では	1	2	3	4	5	6
(3)地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
(4)学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場では	1	2	3	4	5	6
(6)法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(7)社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体では	1	2	3	4	5	6

【問2】問1の「(8)社会全体では」において「1 男性の方が非常に優遇されている」「2 どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方におたずねします。

その主な理由は何だと思いませんか。(〇は2つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから
2. 男性が仕事優先、企業中心の考え方が根強いから
3. 男女の差別を人権の問題としてとらえる意識がうすいから
4. 男女の平等について、男性の問題意識がうすいから
5. 男女の平等について、女性の問題意識がうすいから
6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が充分ではないから
7. 能力を発揮している女性を、適正に評価する仕組みが欠けているから
8. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っているから
9. 育児、介護などを男女がともに担うための制度やサービスなどが整備されていないから
10. その他（具体的に

)

今後、男女が社会のあらゆる分野で、もっと平等になるために最も重要と思われることは何だと思えますか。(1つに○)

1. 女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりをあらためること
2. 法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものをあらためること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力の向上をはかること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実をはかること
5. 国や地方自治体、企業等の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. その他（具体的に

あなたは、家庭における男女の役割において「つらい」と感じることはありますか。

1. ある 2. ない → 【問6】へ

それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

1. 男だから頑張れと言われる
2. 妻子を養うのは男の責任だと言われる
3. 仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だと言われる
4. 仕事が忙しく、家庭の時間が作れない
5. 家族とのコミュニケーションがうまくいかない
6. その他（具体的に

【問6】仕事、家庭、介護などについて、さまざまな考え方がありますが、あなたは次の意見についてどのように思いますか。(1)～(9)のそれぞれについてお答えください。

(1)「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(2)女性が職業を持ち続けることについて	1. 好ましい	2. 好ましくない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(3)「男性がもっと地域社会の活動や家庭生活に参加することを進めていく必要がある」という考え方について	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(4)「現在、介護の必要な親の世話をしている人の大部分が女性である」ことについて	1. 主に女性が介護することはやむをえない	2. 男性も女性とともに介護すべきである	3. 男女にかかわらずに実の子どもが介護すべきである	4. その他(具体的に)	5. わからない
(5)「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について(お子さんのいない方等は一般的な意見としてお答えください。)	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(6)「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもよい」という考え方について	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(7)「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活する方がよい」という考え方について	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(8)「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	
(9)「結婚したら、離婚してはいけない」という考え方について	1. そう思う	2. そうは思わない	3. どちらともいえない	4. わからない	

③仕事と家庭等の両立（ワーク・ライフ・バランス《仕事と生活の調和》）についておたずねします。

【問7】あなたのご家庭での男女の役割の現状を、次の(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。

	すべて 女性が 担って いる	主に女性 が担っ ていて、男性 は手伝 う程度	男女同 じぐ らい	主に男性 が担っ ていて、女性 は手伝 う程度	すべて 男性が 担って いる	該当なし
(1) 食料品などの買出し	1	2	3	4	5	6
(2) 食事の用意	1	2	3	4	5	6
(3) 食事の後片付けゴミ出し	1	2	3	4	5	6
(4) 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
(5) 子どものしつけや家庭での教育	1	2	3	4	5	6
(6) 子どもの学校行事、クラブ活動などへの参加	1	2	3	4	5	6
(7) 洗濯、掃除	1	2	3	4	5	6
(8) ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
(9) 家計の管理	1	2	3	4	5	6
(10) 家族の介護	1	2	3	4	5	6

【問8】あなたは、平均的な1日の生活時間をどのように過ごしていますか。次の(1)～(5)のそれぞれの平日と休日の両方についてお答えください。（枠内に「およその合計時間」をご記入ください。該当がない場合は「0時間」とご記入ください。）

	平日（合計時間）	休日（合計時間）
(1)睡眠	時間程度	時間程度
(2)仕事・学業	時間程度	時間程度
(3)家事・子育て・介護・看護	時間程度	時間程度
(4)趣味・娯楽	時間程度	時間程度
(5)ボランティア活動・地域活動	時間程度	時間程度

【問9】勤めている方（パートタイマーの方も含む）におたずねします。

あなたは、次の制度を活用して、育児休業などを取得したことがありますか。(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

	知っていて 取得した	知っているが 取得する必要が なかった	知っているが 取得しなかった	知らない
(1)育児休業 育児のために一定期間休業できる制度	1	2	3	4
(2)子の看護休暇 病気等の子どもの看護のための年5日 程度の休暇	1	2	3	4
(3)介護休業 介護のために一定期間休業できる制度	1	2	3	4
(4)介護休暇 短期の介護のための年5日程度の休暇	1	2	3	4

【問10】それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭を両立」をするためには、どのような条件の整備や機会が必要だと思いますか。(3つに〇)

1. 年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり
2. 柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務）
3. 代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり
4. 出産や介護等で退職した場合の再雇用制度の導入
5. パートタイマーなどの労働条件の改善
6. 育児・介護休業中の賃金、その他の経済的給付の充実
7. 保育や介護の施設・サービスの拡充
8. 企業経営者の意識改革
9. 働き続けることに対する家族や周囲の理解と協力
10. 地域活動や家庭生活等の情報提供や学習機会を増やす
11. その他（具体的に

）

④「職業」についておたずねします。

【問１１】勤めている方（パートタイマーの方も含む）におたずねします。

あなたの職場では、次のことについて男女平等になっていますか。次の(1)～(7)のそれぞれについてお答えください。

	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらか といえば男性 の方が優遇 されている	平等である	どちらか といえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 非常に優遇 されている	わからない
(1) 募集や採用の条件	1	2	3	4	5	6
(2) 人事配置や昇進	1	2	3	4	5	6
(3) 教育や研修制度	1	2	3	4	5	6
(4) 福利厚生	1	2	3	4	5	6
(5) 定年・退職	1	2	3	4	5	6
(6) 賃金	1	2	3	4	5	6
(7) 仕事の内容	1	2	3	4	5	6

⑤「地域活動」についておたずねします。

【問１２】女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いませんか。（3つに〇）

1. 男性優位の組織運営
2. 家族の支援・協力が得られない
3. 女性の能力開発の機会が不十分
4. 女性活動を支援する人的ネットワーク不足
5. 家庭・職場・地域における性別役割分担や性差別の意識
6. 女性側の積極性が十分でない
7. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない
8. 制度や税制などの社会のしくみが女性に不利にできている
9. その他（具体的に

）

【問1 3】女性の社会進出があまり進んでいない分野へ女性の進出を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つに〇)

1. 政党が、選挙の候補者に一定の割合で女性を含めるようにする
2. 企業が自主的に、女性社員の採用や管理職への登用、教育訓練などに目標を設けて取組を進める
3. 国や地方公共団体が、女性を積極的に活用する企業などに助成を行ったり、税を軽減したりする
4. 理工系学部など女性の進学が少ない大学の学部への進学を促すための取組を進める
5. あらゆる専門分野において女性の研究者が増える取組を進める
6. その他(具体的に)

⑥DV（ドメスティック・バイオレンス）等「女性の人権」について おたずねします。

【問1 4】あなたが、女性の人権が尊重されていない（女性に対する差別）と感じることは何ですか。
(〇はいくつでも)

1. 「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担
2. 職場での賃金格差や昇格の差など
3. 政策決定の場へ参加する機会が少ないこと
4. 職場におけるセクシャル・ハラスメント
5. 女性を商品化した経済活動のあり方（ヌード写真、風俗営業など）
6. 家庭内での夫の暴力など従属的な関係
7. 婚姻・戸籍など民法上の制度
8. 女性の容姿に価値をおく社会のあり方（ミス・コンテスト、マスコミの報道など）
9. 地域活動などにおける肩書きは男性、仕事は女性というあり方
10. その他(具体的に)
11. 特にない
12. わからない

【問15】あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされたこと、あるいはしたことがありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについてお答えください。

	されたことがある	したことがある	経験はない
(1) 大声で怒鳴る	1	2	3
(2) 何を言っても無視する	1	2	3
(3) 「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を言う	1	2	3
(4) 交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりする	1	2	3
(5) 大事にしているものを、壊したり捨てたりする	1	2	3
(6) なぐるふりをして脅したり、押したりする	1	2	3
(7) 平手でたたいたり、蹴ったりする	1	2	3
(8) 立ち上がれなくなるまで、ひどい暴力をふるう	1	2	3
(9) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
(10) 金銭管理を独占し、生活費を渡さない	1	2	3
(11) 10代20代のときに上記(1)～(9)のようなことをする(※注1)	1	2	3
(12) その他〈具体的に〉	1	2	3

(※注1 交際中のカップルの間で起こるドメスティック・バイオレンス(DV)を「デートDV」と言う。)

【問16】問15の項目の中で、「1. されたことがある」または「2. したことがある」のところに、1つでも○をつけた方におたずねします。(1)～(12)のすべてが、「3.経験はない」という方は【問19】にお進みください。)

あなたが問15のような状況に置かれたとき、誰かに相談しましたか。

1. 相談した
2. 相談したかったが、相談しなかった
3. 相談しようと思わなかった

【問17】問16で、「1. 相談した」と答えた方におたずねします。

あなたは、誰に相談しましたか。(○はいくつでも)

1. 家族や親戚に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 市役所に相談した
4. 警察に連絡相談した
5. 学校関係者(教員・養護教員・スクールカウンセラーなど)に相談した
6. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関、民間シェルターなど)に相談した
7. その他(具体的に

)

【問18】問16で、「2. 相談したかったが、相談しなかった」または「3. 相談しようと思わなかった」
に○をつけた方におたずねします。
 どこにも相談しなかったのはなぜですか。(○は2つまで)

1. 誰に（どこに）相談してよいかわからなかった
2. 相談しても無駄だと思った
3. 相談したことが相手に知られると、もっとひどい暴力を受けたり、子どもに危害が及ぶと思った
4. 自分さえ我慢すればすむと思った
5. 他人に知られたくなかった
6. 本当の姿ではないと思った
7. 自分にも非があると思った
8. 相談するほどのことではないと思った
9. その他（具体的に

【問19】男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
 (○はいくつでも)

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる
9. 人権教育についての授業を行う
10. 加害者への罰則を強化する
11. その他（具体的に

⑦「子ども・子育て」についておたずねします。

【問20】あなたに男女両方の子どもがいたとして、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。
 男女別に2つまで選んでください。(お子さんのいない方等は一般的な意見としてお答えくだ
 さい。)

- | | 男の子 | 女の子 |
|---------------------------------|-----|-----|
| 1. 社会的な信用や信頼を得る・・・・・・・・・・・・・・・・ | 1 | 1 |
| 2. 経済的に豊かな生活をする・・・・・・・・・・・・・・・・ | 2 | 2 |
| 3. 心豊かな生活をする・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 | 3 |
| 4. 家族やまわりの人たちと円満に明るく暮らす・・・・・・ | 4 | 4 |
| 5. 社会に貢献する・・・・・・・・・・・・・・・・ | 5 | 5 |
| 6. 本人の個性や趣味を活かした生活をする・・・・・・・・ | 6 | 6 |
| 7. 本人の意思に任せる・・・・・・・・・・・・・・・・ | 7 | 7 |
| 8. その他（具体的に | 8 | 8 |

【問21】安心して子どもを生み育てるために必要なことについて、あなたはどのように思いますか。

(○は3つまで)

1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充
2. 子育て中の柔軟な勤務形態の充実
3. 父親が子育てに十分かわることができる職場環境の整備
4. 子育ての悩み相談窓口などの充実
5. 保育サービスの充実
6. ファミリーサポートセンター事業や学童保育など、地域の子育て支援の充実
7. 子育て中の専業主婦のリフレッシュ支援
8. 母子家庭、父子家庭への支援
9. 子育て中の仲間づくり
10. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
11. その他(具体的に)

【問22】男女平等意識を育てるために、学校教育の場でどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 生活指導や進路指導において男女の差をなくす配慮をする
3. 男女にとらわれない教育を実施し、合わせて保護者に対する啓発をする
4. 教員自身の固定観念をとりのぞく研修を行う
5. 校長や教頭の男女の比率が同等になるようにする
6. 学校に対して、男女共同参画に関する専門家等を招いての講座を実施する
7. 男女が互いの心と体を尊重できる性のあり方を学ぶ性教育を充実させる
8. 力を入れる必要はない
9. その他(具体的に)

⑧男女平等の施策についておたずねします。

【問23】次にあげる言葉のうち、あなたが知っているもの・言葉を聞いたことがあるものはどれですか。

次の(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。

	おおよその内容を見たり聞いたりしたことがある	どんな内容か少しは知っている	内容は知らないが、言葉だけは聞いたことがある	まったく聞いたことがない
(1) 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
(2) 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
(3) ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
(4) 女性活躍推進法	1	2	3	4
(5) DV防止法	1	2	3	4
(6) 次世代育成支援対策推進法	1	2	3	4
(7) 多治見市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
(8) たじみ男女共同参画プラン	1	2	3	4
(9) 男女共同参画サロン「ほっと」	1	2	3	4
(10) 同性パートナー証明	1	2	3	4

【問24】あなたは、男女平等実現のための市の施策として、今後どのようなことを望みますか。

(〇は2つまで)

1. 学校で男女平等教育をすすめる
2. 成人を対象としたセミナー・講演会などにより啓発する
3. 経営者・企業主を対象に啓発する
4. 広報誌やパンフレット等により、広く市民に啓発する
5. 保育制度を充実する(具体的に)
6. 介護制度を充実する(具体的に)
7. 女性が職業につくための職業訓練の場や相談窓口を増やす
8. 情報交換等のため市民団体・女性団体等を結ぶネットワークづくり支援を充実する
9. 各種審議会など、女性を政策決定の場に積極的に参画させる
10. その他(具体的に)

【問25】最後に、男女平等に関しての問題や行政に対するご意見・ご要望がございましたら、記入してください。

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒で8月31日までにご投函ください。

(切手は不要です)

多治見市
男女共同参画に関する市民意識調査
【結果報告書】

発行年月：平成 28 年 12 月

発行：多治見市

編集：環境文化部 くらし人権課

〒507-8703

岐阜県多治見市日ノ出町 2 丁目 15 番地

TEL：0572-22-1128（直通）

FAX：0572-25-7233

E-mail kurashi-jinken@city.tajimi.lg.jp

調査委託先：（株）サーベイリサーチセンター

〒450-0003

愛知県名古屋市中村区名駅南 1 丁目 12 番地 9 号

グランスクエア名駅南 2 階

この報告書及びダイジェスト版は、アンケート調査から印刷までを委託して作成
しています。（報告書 150 部・ダイジェスト版 2,000 部作成、委託料 1,512 千円）